福井県埋蔵文化財調査報告　第183集

上河北江原町遺跡

かみこぎたえはらまち

― 一般県道徳光福井線道路改良工事に伴う調査　２―

２０２３

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

序　　文

このたび、一般県道徳光福井線道路改良工事に伴って、福井市上河北町地係において、令和元年度・令和２年度に発掘調査を実施しました上河北江原町遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

上河北江原町遺跡は、足羽川左岸の微高地上に立地する弥生時代から中世にわたる遺跡です。今回の発掘調査では、住居跡、掘立柱建物、方形周溝墓、溝、土坑などの遺構を確認しました。遺構の分布から自然流路に区切られて２つの集落が存在していたと考えられます。遺物は、溝を始め多くの遺構から弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけての土器とともに玉作り関連遺物、銅鏃が出土しています。福井平野で複数の住居跡や掘立柱建物が重複した調査例は少数で、本遺跡は貴重な事例になると思われます。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書刊行に至るまで、関係諸機関をはじめ、多くの皆様から多大な御支援と御配慮を頂きましたこと、深く感謝申し上げます。

令和５年３月

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
所　長　　中　川　佳　三

例　　言

1　本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが一般県道徳光福井線道路改良工事に伴い、令和元・２年度に実施した上河北江原町遺跡（福井県福井市上河北町所在）の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、福井県土木部福井土木事務所の依頼を受けて、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施し、令和元年度は白川綾・吉田悠歩・西村謙太が、令和２年度は白川綾・西村謙太が担当した。

3　発掘調査は、令和元年７月１日から令和元年12月27日までと令和２年５月１日から令和２年９月30日まで実施した。出土遺物の整理は、令和３年度から令和４年度まで福井県教育庁埋蔵文化財調査センターにて実施した。

4　令和２年度の発掘調査の支援業務は、(株)キミコンに委託した。

5　本書の編集は青木隆佳が行い、白川・吉田・西村・赤澤徳明が分担して執筆し、一部青木が加筆した。また、第５章は自然科学分析を依頼した（株)吉田生物研究所から提出された成果報告に青木が編集して掲載した。執筆分担は、以下のとおりである。

白川　第６章第１節

吉田　第１章、第２章、第３章第１節

西村　第３章第２・３節　第４章第１節

赤澤　第４章第２節　第６章第２節

(株)吉田生物研究所　第５章

6　遺構・遺物の図版作成は、白川・西村・赤澤が行った。遺構の写真撮影は白川・西村が、遺物撮影は埋蔵文化財調査センター職員行い、写真図版作成は、白川・西村・青木・赤澤が行なった。

7　上河北江原町遺跡に関するこれまでの成果の発表のうち、本書と齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。

8　本書に掲載した遺物と調査に際して作成した図面・写真は、一括して福井県教育庁埋蔵文化財調査センターに保管してある。

9　本書に掲載した遺構図は、(株)ジビル調査設計および(株)キミコンに委託し作成したものを編集し、(株)ホクセイテック株式会社に委託して作成した。

10　銅製品の保存処理は、(株)吉田生物研究所に委託した。

11　本書における水平レベルの表示は海抜高（m）を示し、方位は真北と座標北の両者を併用した。

12　発掘調査には、地元の方々のご協力を得た。遺物整理は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの整理・普及グループ職員および会計年度任用職員があたった。また、本書の作成にあたり、多くの方々からご助言・ご指導をいただいた。

凡　　例

表の胎土の項目は便宜上、次の７つに分類している。①径１㎜以下の砂粒を少量含む、②径１㎜以下の砂粒を多量含む、③径１㎜以下と径１～２㎜の砂粒を少量含む、④径１～２㎜の砂粒を少量含む、⑤径１～２㎜の砂粒を多量含む、⑥径２㎜以上の小石を含む、⑦径１～２㎜の砂粒と径２㎜以上の小石を含む。また、蓋については、天井径を底径の欄に記載した。

目　　次

第１章　調査の経緯 …… 1
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の経過 …… 1

第２章　遺跡の位置と周辺の地理的・歴史的環境 …… 2
第１節　地理的環境 …… 2
第２節　歴史的環境 …… 2

第３章　遺跡の概要 …… 5
第１節　層序 …… 5
第２節　遺構分布 …… 6
第３節　遺物出土状況 …… 6

第４章　遺構と遺物 …… 9
第１節　遺構 …… 9
第２節　遺物 …… 37

第５章　自然科学分析 …… 103

第６章　まとめ …… 105
第１節　遺構について …… 105
第２節　遺物について …… 105

写真図版目次

図版第１　遺跡
（１）遺跡遠景（北東より）
（２）遺跡遠景（南より）
図版第２　遺構
（１）Ａ・Ｂ１～６区俯瞰
（２）Ａ・Ｂ６～11区俯瞰
（３）Ａ・Ｂ 12 ～ 18区俯瞰
（４）Ａ・Ｂ 19 ～ 25区俯瞰
図版第３　遺構
（１）Ａ・Ｂ４～６区遺構検出状況（北西より）
（２）SB ３・５・25～27(西より)
（３）Ａ・Ｂ６区遺構検出状況（北より）
（４）SB10～12(東より)
（５）SB14～23(上空より)
（６）SD33～36・49・51・61・71遺物出土状況（北東より）
（７）SD93・94遺物出土状（西より）
（８）SD93・94遺物出土状（西より）
図版第４　遺構
（１）Ａ・Ｂ 23～25区遺構検出状況（西より）
（２）ST１（西より）
（３）SP372・432遺物出土状況（北より）
（４）SP390・391遺物出土状況（南より）
（５）SP278礎板出土状況（北より）
（６）SP619柱根・礎板出土状況（東より）
（７）ST１南溝遺物出土状況（西より）
（８）SD91遺物出土状況（北より）
図版第５　遺物
図版第６　遺物
図版第７　遺物
図版第８　遺物
図版第９　遺物
図版第10　遺物
図版第11　遺物
図版第12　遺物
図版第13　遺物
図版第14　遺物

挿　図　目　次

第１図　調査区位置図 …… 1
第２図　福井県の地形区分図 …… 2
第３図　遺跡の立地図 …… 3
第４図　周辺の遺跡分布図 …… 4
第５図　基本層序 …… 5
第６図　遺構配置図 …… ７－８
第７図　SI１実測図 ……10
第８図　SI２実測図 ……11
第９図　SI３実測図 ……12
第10図　SB３実測図 ……13
第11図　SB４実測図 ……14
第12図　SB５実測図 ……15
第13図　SB６実測図 ……16
第14図　SB７実測図 ……17
第15図　SB９実測図 ……18
第16図　SB10実測図 ……19
第17図　SB11・12実測図１ ……20
第18図　SB11・12実測図２ ……21
第19図　SB11実測図 ……22
第20図　SB12実測図 ……23
第21図　SB13実測図 ……24
第22図　SB14～17実測図 ……25
第23図　SB18～21実測図 ……26
第24図　SB22～24実測図 ……27
第25図　SB25～27実測図 ……28
第26図　ST１実測図１ ……29
第27図　ST１実測図２ ……30
第28図　ST2・SD89 ～ 91・98実測図 ……31
第29図　SD33～36・71実測図 ……32
第30図　SD33～36･50･51･53･54･61実測図 ……33
第31図　SD35･50～53･61･62･66･68･69実測図 ……34
第32図　SD84～SD86実測図 ……35
第33図　SD93～SD95実測図 ……36
第34図　SP278・305・338・372・383・390実測図 …37
第35図　NR１・２実測図 ……37
第36図　ST１出土土器実測図 ……38
第37図　SI・SK出土土器土器実測図 ……39
第38図　SB１～９の柱穴出土土器実測図 ……40
第39図　SB6-SP372出土土器実測図１ ……42
第40図　SB6-SP372出土土器実測図２ ……43
第41図　SB10～12の柱穴出土土器実測図 ……44
第42図　SB14～24の柱穴出土土器実測図 ……45
第43図　SI１・２、SB１～６柱穴出土状況図 ……46
第44図　SB７～24柱穴出土状況図 ……47
第45図　その他のピット出土土器実測図１ ……49
第46図　その他のピット出土土器土器実測図 ……50
第47図　SD33出土土器実測図１ ……52
第48図　SD33出土土器土器実測図２ ……53
第49図　SD33出土土器土器実測図３ ……54
第50図　SD93・94出土土器実測図１ ……55
第51図　SD93・94出土土器実測図２ ……56
第52図　SD93・94出土土器実測図３ ……57
第53図　SD93・94出土土器実測図４ ……60
第54図　SD93・94出土土器実測図５ ……61
第55図　SD93・94出土土器実測図６ ……62
第56図　SD93・94出土土器実測図７ ……64
第57図　SD93・94出土土器実測図８ ……65
第58図　SD93・94出土土器実測図９ ……66
第59図　SD93・94出土土器実測図10 ……67
第60図　SD33・93・94以外の溝出土土器実測図１ …68
第61図　SD33・93・94以外の溝出土土器実測図２ …69
第62図　SD33・93・94以外の溝出土土器実測図３ …70
第63図　NR１出土土器実測図１ ……71
第64図　NR１出土土器実測図２ ……72
第65図　NR１出土土器実測図３ ……73
第66図　NR１出土土器実測図４ ……74
第67図　NR１出土土器実測図５ ……75
第68図　NR１出土土器実測図６ ……76
第69図　NR１出土土器実測図７ ……78
第70図　NR１出土土器実測図８ ……79
第71図　NR１出土土器実測図９ ……80
第72図　NR２出土土器実測図 ……81
第73図　包含層出土土器実測図１ ……82
第74図　包含層出土土器実測図２ ……83
第75図　弥生土器実測図 ……83
第76図　古代・中世の土器実測図 ……95
第77図　縄文土器実測図 ……96
第78図　石器・石製品実測図 ……97
第79図　金属器･玉作り関係遺物実測図 ……97
第80図　木製品実測図１ ……98
第81図　木製品実測図２ ……99
第82図　木製品実測図３ ……100
第83図　木製品実測図４ ……102
第84図　上河北江原町出土銅鏃の鉛同位体比分布図 …103
第85図　弥生時代後期の銅鏃が分布する領域 ……104
第86図　古墳時代の銅鏃が分布する領域 ……104

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 4
第２表　掘立柱建物観察表 ……22
第３表　弥生土器・古式土師器観察表 ……84
第４表　古代・中世の土器観察表 ……95
第５表　石器･石製品･玉類等観察表 ……98
第６表　木製品観察表 ……102
第７表　上河北江原町出土銅鏃の鉛同位体比値 ……103

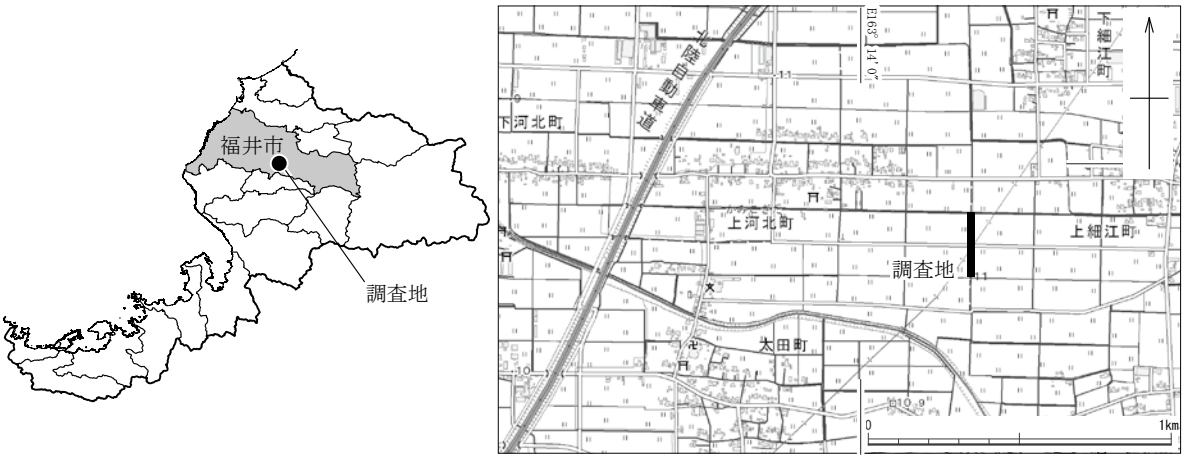
第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯（第１図）

上河北江原町遺跡は、福井県福井市上河北町に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地であり、福井県遺跡地図に遺跡番号01189として登録されている。

包蔵地内において一般県道徳光福井線道路改良工事が計画されたため、福井県土木部福井土木事務所より平成29年10月５日付で試掘依頼があった。これに基づき平成29年12月15日に試掘調査を行い、溝などの遺構や弥生時代の土器を検出し、工事予定範囲の3,080㎡が発掘調査の対象となった。

試掘調査の結果を受け、福井県土木部福井土木事務所・福井県教育庁生涯学習文化財課・福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの３者が協議し、工事の工程から令和元・２年度に発掘調査を実施することとなった。



第１図　調査区位置図（縮尺 1/25,000）

第２節　調査の経過

１　現地調査

発掘調査は令和元年度が７月～12月、令和２年度が５月～９月に実施した。

令和元年度の調査面積は1,380㎡である。調査は調査区を２分割し、南半部から着手した。７月に表土掘削と側溝掘削を行い、その後、遺構検出および遺構掘削を行った。８月に全景写真を撮影したのち、補足調査のとしてトレンチを掘削した。北半部の調査は、９月に表土掘削と側溝掘削を行い、その後、遺構検出および遺構掘削を行った。11月に全景写真を撮影したのち、12月に補足調査としてトレンチを掘削し、調査を終えた。

令和２年度の調査面積1,700㎡である。令和２年度の調査においても、調査区を２分割した。調査区北半部については、６月に調査を終了した。調査区南半部は７月から開始し、９月に空中写真測量を行い、調査を終了した。

２　遺物整理

令和３年度に洗浄～注記・接合・復元作業、令和４年度に実測・トレース作業および遺物の写真撮影と原稿執筆をし、報告書を作成・刊行した。なお、令和３年度に銅鏃の保存処理、遺構図のトレースを外部に委託し行った。

第２章　遺跡の位置と周辺の地理的・歴史的環境

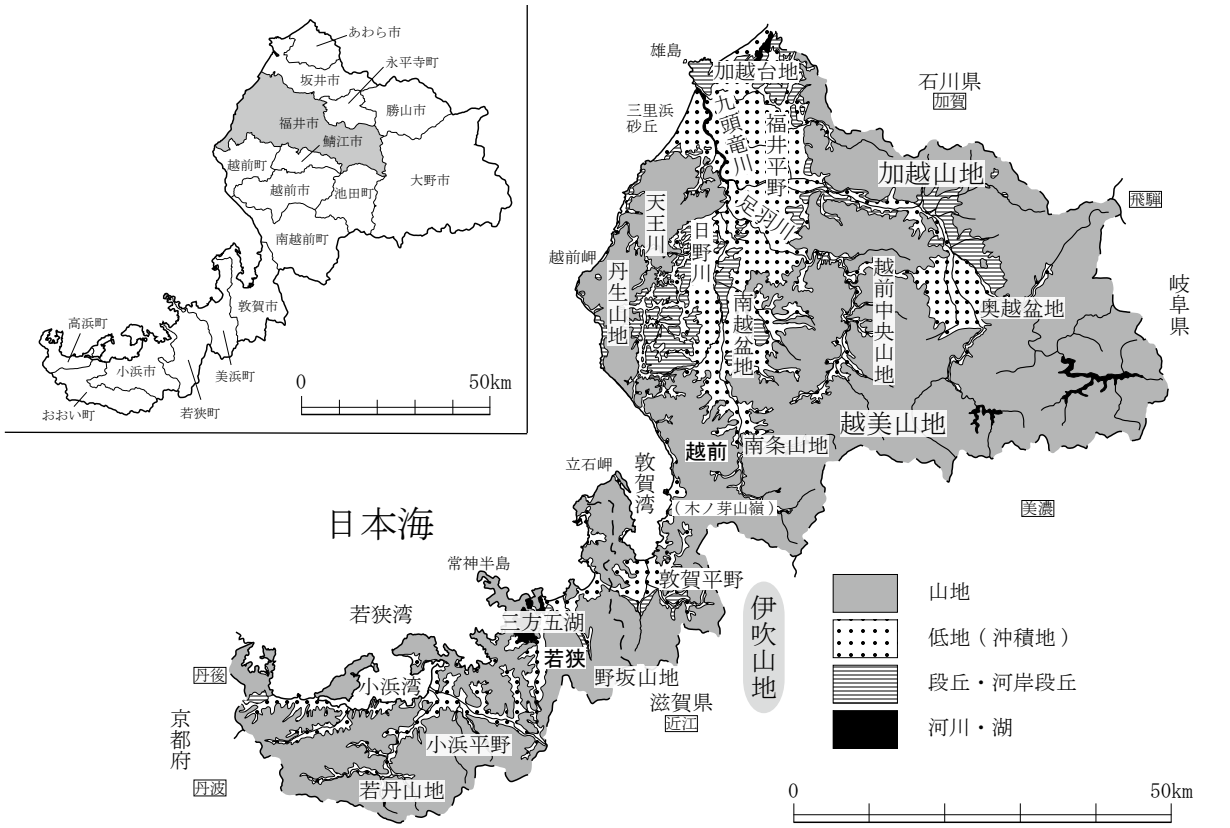
第１節　地理的環境（第２・３図）

福井県は、敦賀市北東の木ノ芽山嶺を境として、行政的には嶺北と嶺南の各地方に区分されている。嶺北地方は、北を加越山地で石川県、東を越美山地で岐阜県と接し、西に丹生山地があり三方を囲まれ、中央に越前中央山地が南北にのびる。各山地に源をもつ九頭竜川、足羽川、日野川等の主要河川は北西へ向け集まり日本海に流出しており、福井平野はこれらの堆積作用により形成された沖積平野である。

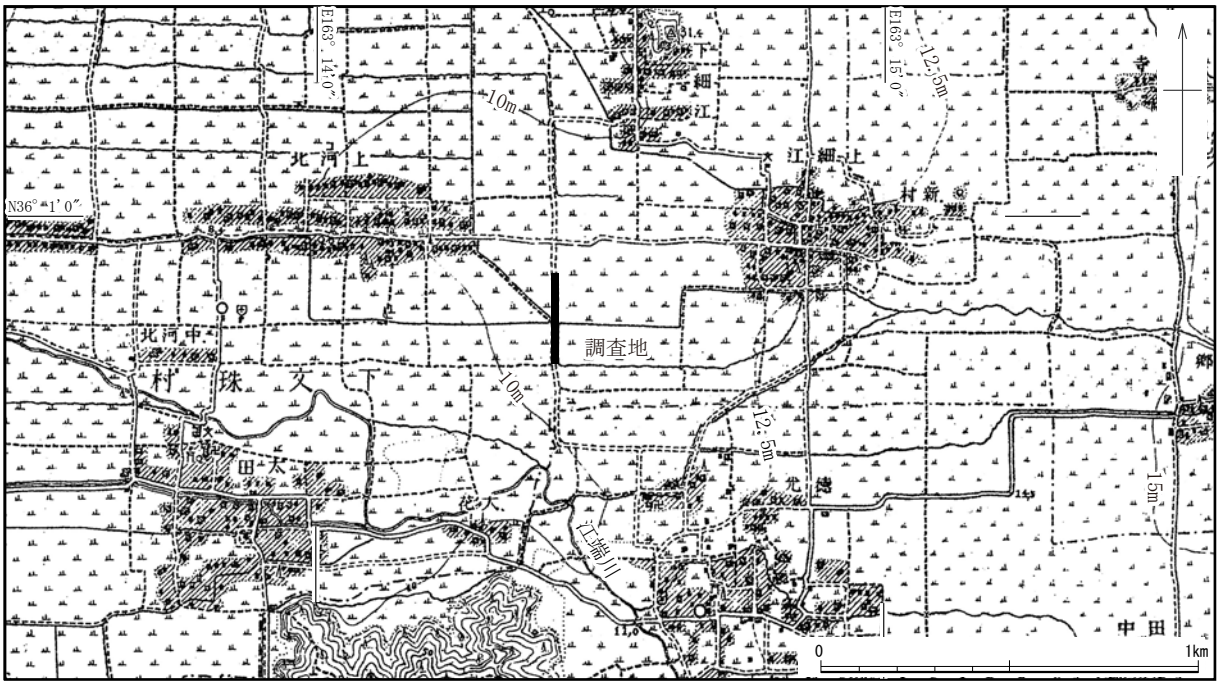
福井平野は、南北長約40㎞及び東西幅約10～15㎞と南北に長く、九頭竜川以北で竹田川や兵庫川等により形成された坂井平野、九頭竜川以南で日野川や足羽川等により形成された狭義の福井平野、文珠山や城山等による狭隘部以南を武生盆地に区分されている。狭義の福井平野は、日野川や足羽川等の諸河川が九頭竜川へ合流して北西の日本海へ流出する間、平野流入部の東縁一帯に小規模な複合扇状地帯、下流側に氾濫原や三角州等が形成されている。

上河北江原町遺跡は、福井平野の東南部、上河北集落とその東方に立地する弥生時代～中世の遺跡である。平野を北西に流れる江端川の北岸に位置し、遺跡の南方には江端川を挟んで文殊山と二上山が聳える。北方には足羽川が平野を西流し、東方には足羽川の扇状地とその上流の越前中央山地の山々が広がる。

本遺跡が立地する場所は、『日本地誌』では扇状地の扇端部に、国土地理院発行の『土地条件図　福井』



第２図　福井県の地形区分図（縮尺 1/2,000,000）



第３図　遺跡の立地面（縮尺 1/20,000）（大日本帝国陸地測量部 1910『二千分一地形図福井』に加筆。座標は現代の地形図を合成して得た日本測地系 2011 の値）

では氾濫平野と三角州の境界付近にあたる。明治時代の地形図（第３図）をみると、10ｍの等高線が上河北の集落付近で北西に突出しており、上細江町から上河北町まで尾根状に微高地が延びていることがわかる。調査地は、この微高地を横断するように位置する。調査地付近の標高は、水田面で約 T.P10.6ｍ、道路面で約 T.P11.5ｍを測る。

第２節　歴史的環境（第４図）

上河北江原町遺跡周辺の歴史は、平野部の通例にもれず、縄文海進以前の状況は明確ではない。福井平野周辺の山間部や丘陵上などでは縄文時代中期以前の遺跡もみられるが、現在の平野部で人間の活動の痕跡が確認できているのは、おおむね縄文時代後・晩期からである。

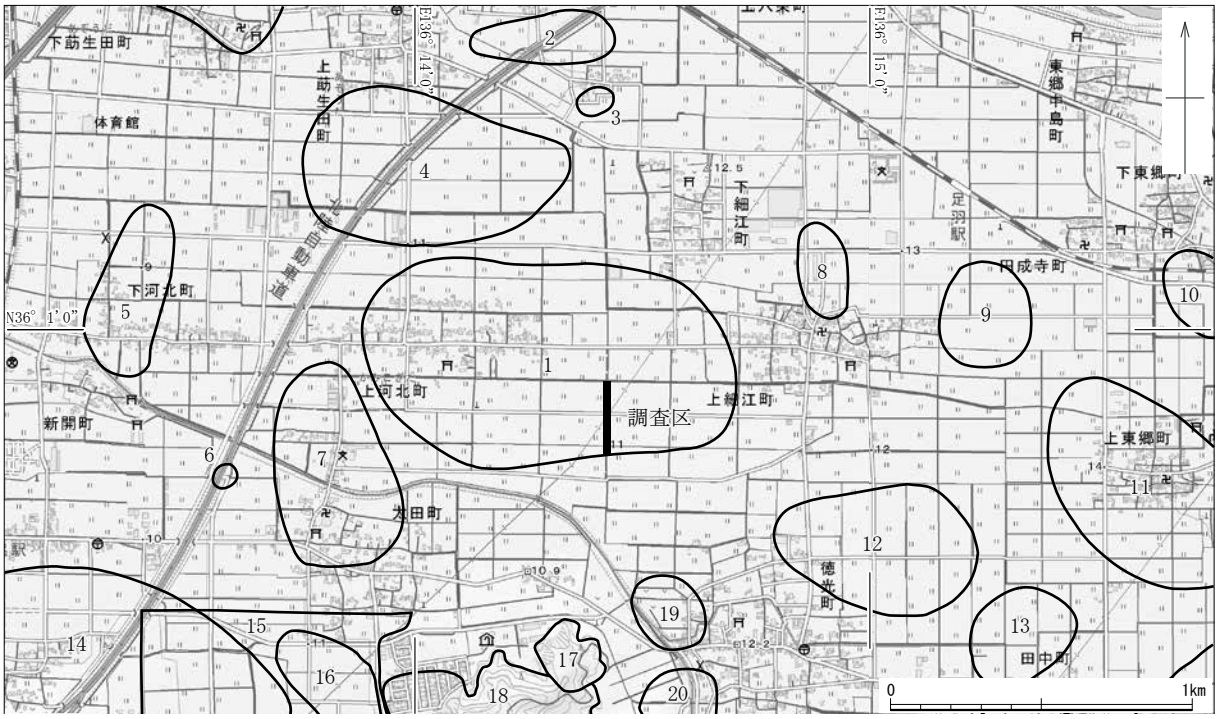
縄文時代では、上莇生田遺跡（第４図４、以下番号のみ）で縄文時代後期の包含層が確認され、同時期の土器が多量に出土している。糞置遺跡（14）では過去に数回の発掘調査が実施され、縄文時代晩期の遺構や土器などを数多く検出している

弥生時代の遺跡は、平野部にも広く分布が確認できる。上河北遺跡の名称で調査し弥生時代後期の方形周溝墓などを検出した上莇生田遺跡（４）、弥生時代前・中期の墓壙や後期の河川跡などを検出した糞置遺跡（14）が知られる。また、文殊山北麓の丘陵上に位置する太田山古墳群（18）では、弥生時代中期から古墳時代にかけての方形周溝墓や方形台状墓・前方後円墳を検出した。

古墳時代には、文殊山や二上山の山麓に古墳が築かれ、上莇生田遺跡（４）でもこの時期の溝を検出している。

奈良時代になると文殊山の麓に東大寺領糞置荘（15）が置かれていた。糞置遺跡（14）では、奈良から平安時代の遺物が出土しており、荘園に関わる施設の存在も考えられる。

中世では、文殊山に山城が築かれるなど調査地周辺の開発が進んでいたことがうかがえる。



第４図　周辺の遺跡分布図（縮尺 1/25,000）

第１表　周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡番号	遺 跡 名	所 在 地	種　別	時　代	調　査　歴
1	01189	上河北江原町遺跡	福井市上河北町	集落跡	弥生～中世	
2	01199	上六条遺跡	福井市上六条町	散布地	奈良～平安	1973年県教委
3	01200	天王遺跡	福井市天王町	散布地	縄文	
4	01191	上莇生田遺跡	福井市上莇生田町	集落跡	縄文～平安	1973･80年県教委
5	01188	下河北遺跡	福井市下河北町	散布地	奈良・平安・中世	
6	01190	下河北藤之木遺跡	福井市下河北町	散布地		
7	01187	太田遺跡	福井市太田町	散布地	奈良～平安	
8	01261	上細江遺跡	福井市上細江町	散布地	弥生～平安・中世	
9	01262	上細江御坊遺跡	福井市上細江町	散布地		
10	01260	下東郷遺跡	福井市下東郷町	集落跡	奈良・平安	1996年市教委
11	01263	上東郷遺跡	福井市上東郷町	散布地	古墳～中世	
12	01267	徳光遺跡	福井市徳光町	散布地	弥生・平安・中世	
13	01268	田中遺跡	福井市田中町	散布地	弥生・平安・中世	
14	01181	糞置遺跡	福井市二上町	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安・近世	1973･74年県教委、1999･2002～2004･2009･2016･17年県埋文
15	01182	東大寺領糞置荘跡	福井市二上町・帆谷町	荘園跡	奈良	
16	01183	帆谷遺跡	福井市帆谷町	散布地	奈良～中世	
17	01186	牛若城跡	福井市北山新保町	城跡	中世	
18	01184	太田山古墳群	福井市帆谷町	古墳・墳墓	弥生・古墳	1974年県教委
19	01329	徳光大島遺跡	福井市徳光町	集落跡	弥生・古墳	2019年県埋文
20	01185	北山入道町遺跡	福井市北山町	散布地	奈良～中世	

参考文献

1　国土地理院　2004『土地条件図　福井』
2　日本地誌研究所　1970『日本地誌』第 10 巻

第３章　遺跡の概要

第１節　層序（第５図）

現代の層である第１・２層の下位に、基盤層である第３～11層がみられる。第３層の上面で弥生時代後期末から古墳時代初頭の遺構面を確認した。なお、第３層中から縄文時代晩期後葉の土器が出土した。

第１層　耕作土であり、層厚は約20cmである。

第２層　Ｂ１～Ｂ５グリッドとその周辺に分布する層で、性格は明確にしがたいが、ビニールなどが混じることから、現代に形成された層である。下面に顕著な荷重痕がみられる。層厚は40cm前後である。

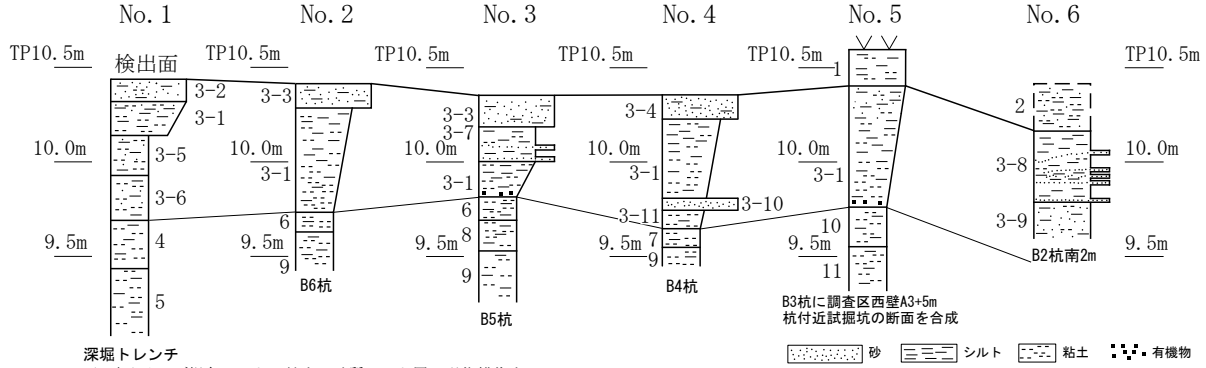
第３層　層厚140cm 前後、擾乱を受けているものの、おおむね下部のシルト質粘土から上部の粘土質シルト・シルト質細粒砂へ逆級化する層である。また、部分的に砂層や泥－砂互層を挟む。広い範囲で確認できる逆級化する層を第３－１層、その中に部分的にみられる層を第３－２～11層とした。

第３層上面は現代耕作土のため、ある程度削平されたものとみられるが、弥生時代後期末から古墳時代初頭の遺構面を残す。また、

第４層　層厚24cm前後の粘土層である。有機物に由来するとみられる暗色を呈する。分級が良いことから水成堆積と判断できる。

第５層　層厚36cm以上の粘土層である。分級が良いことから水成堆積と判断できる。

第６層　層厚12cm前後の粘土層である。有機物に由来するとみられる暗色を呈する。分級が良いことから水成堆積と判断できる。



1　2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト　粘土～砂質シルト層。現代耕作土。
2　2.5Y4/4 暗灰黄色シルト　2.5Y4/4 オリーブ褐色シルトブロックを含む。下面は荷重痕顕著。粘土～砂質シルト層。
3-1　2.5Y5/3 黄褐色シルト　シルト質粘土から粘土質シルト・シルト質細粒砂に上方粗粒化する。第 3-2～11層はこの層の形成期間中の堆積。
3-2　2.5Y5/2 暗灰色砂質土　分級悪い。生物擾乱か？シルト～粘土質中粒砂層。
3-3　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土　擾乱を受ける。第 3-2 層と同一の可能性あり。シルト質細粒砂層。
3-4　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土　擾乱を受ける。第 3-2・8 層と同一の可能性あり。シルト質細粒砂層。
3-5　5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質土　シルト～砂質粘土層。
3-6　10Y3/1 オリーブ黒色粘質土　シルト～砂質粘土層。
3-7　2.5Y5/1 黄灰色シルト　北に傾斜するシルトと極細粒砂の互層。シルトと砂のセットが３セット以上みられる。上部は擾乱のため砂～粘土質シルトとなる。
3-8　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土　砂～粘土質シルトと細粒砂ないし極細粒砂の互層。砂－泥のセットが４層以上認められる。 第 3-9 層で埋積した窪地を埋める堆積。
3-9　2.5Y3/2 黒褐色シルト　部分的にシルトないし極細粒砂のラミナがみられる。湿地の堆積か？砂～粘土質シルト層。
3-10　2.5Y4/1 黄灰色砂質土　第３層下部の広い範囲に分布する砂層。シルト質極細粒砂層。
3-11　5Y4/1 灰色粘質土　底部に有機物を僅かに含む。第 3-10層に覆われた粘土層。シルト質粘土層。
4　2.5Y3/2 黒褐色粘質土　シルト質粘土層。
5　2.5Y4/1 黄灰色粘質土　シルト質粘土層。
6　5Y5/1 灰色粘質土　シルト質粘土層。
7　7.5Y5/1 灰色粘質土　擾乱を受ける。シルト質粘土層。
8　2.5Y4/1 黄灰色粘質土　擾乱を受ける。粘土層。
9　5Y5/1 灰色粘質土　シルト質粘土層。
10　5Y5/1 灰色粘質土　シルト質粘土層。
11　10Y4/1 灰色粘質土　シルト質粘土層。

第５図　基本層序

第７層　層厚12㎝前後の粘土層である。有機物に由来するとみられる暗色を呈する。分級が良いことから水成堆積と判断できる。

第８層　層厚16㎝前後の粘土層である。分級が良いことから水成堆積と判断できる。

第９層　層厚28㎝以上の粘土層である。有機物に由来するとみられる暗色を呈する。分級が良いことから水成堆積と判断できる。

第10層　層厚20㎝前後の粘土層である。有機物に由来するとみられる暗色を呈する。分級が良いことから水成堆積と判断できる。

第11層　層厚24㎝以上の粘土層である。有機物に由来するとみられる暗色を呈する。分級が良いことから水成堆積と判断できる。

調査地では、堆積物から、第４～11層の粘土が堆積する環境から第３層の粘土・シルトや砂が堆積する環境へ徐々に変化したことがわかる。第３層から土器片が出土したことや第３層上面に遺構面がみられることから、この堆積環境の変化が人間が活動を始める前提になったと推測できる。この変化は、出土遺物から判断して縄文時代晩期末には始まっていたものであろう。

また、第３層をみると、№５以北で下面が傾斜し、３－７層も北に傾斜する。調査地北方に窪地のあった可能性もあるが、第２章第１節で述べたように、調査地は、南東から北西へ延びる尾根状の微高地を南北に横断するように位置し、現在の地形も北で傾斜することを加味するなら、遺跡が機能していた時期においても北に下がる地形であった可能性が考えられる。

第２節　遺構分布（第６図）

調査区は幅約12m、延長約 250mと南北に細長い形を呈し、地形的に南北両端へ緩やかに傾斜する微高地上に立地している。この間のＡ・Ｂ 10～14 とＡ・Ｂ 21～23 に東西方向の自然流路２条 NR１・NR２がある。集落は２条の自然流路に区切られた形で営まれ、NR２以北は居住域、同以南は墓域と推測される。

集落域の NR１以北では平地式住居２棟、竪穴式住居１棟、掘立柱建物10棟、溝・柱穴多数、同以南では掘立柱建物14棟、方形周溝墓１基、柱穴多数を検出している。墓域の NR２以南では方形周溝墓１基と溝５条を検出している。これらの遺構は弥生時代後期末～古墳時代初頭の時期で、方形周溝墓１のみ弥生時代中期の遺構である。

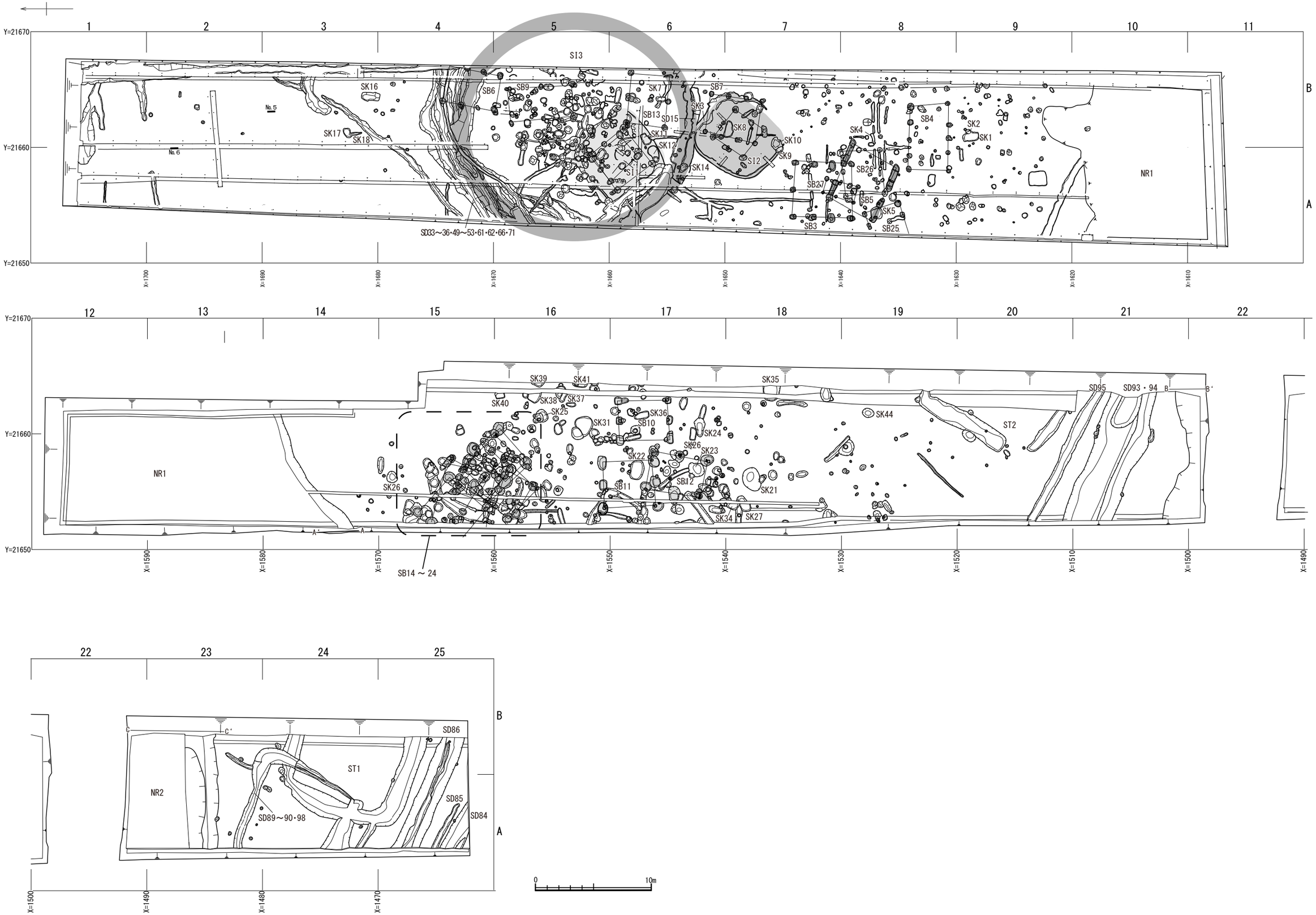
第３節　遺物出土状況

耕作土直下で遺構確認ができるが、遺構確認のための精査時に出土したものを包含層出土遺物とした。包含層遺物は、主にＡ・Ｂ６～９区、Ａ・Ｂ 15～19区から出土おり、概ね遺構の分布する区域と重なる。

出土した遺物は古式土師器が主で弥生土器および須恵器・土師器と中世陶磁器が含まれている。

古式土師器は、土抗、溝、掘建柱建物、自然流路から出土している。特にSD93･94や NR１からはまとまって出土し、掘立柱建物の柱穴には意図的に廃棄したと考えられるものがある。

古式土師器以外では、方形周溝墓１南溝からは弥生時代中期の土器が出土している。また、玉作り関係の遺物は平地式住居近辺から 、銅鏃が SD15 から出土している。



第６図　遺構配置図（縮尺 1/300）

第４章　遺構と遺物

第１節　遺構（第７～35図）

検出した遺構は、竪穴式住居１棟・平地式住居２棟・掘立柱建物24棟・方形周溝墓２基・溝多数・土坑多数・ピット多数である。

遺構の大半は出土遺物などから弥生時代後期末から古墳時代初頭であり、古代に属する遺構も存在する。ここでは時期を問わず遺構種別ごとに報告を行う。

１　竪穴式住居（第７図）

SI１（第７図）Ａ・Ｂ５・６に位置する。南西でSD62に切られているが、一辺約6.8mの方形で深さ約0.1mを測る。貼り床があったかは不明である。SP240・338・404・426の柱穴４本が構築時で、後にSP216・315・387・404の柱穴４本へと拡張したと推測する。これらの柱穴のうちSP338に礎板が遺存していた。出土した遺物から弥生時代後期末から古墳時代と考えられる

２　平地式住居（第８・９図）

溝がめぐり、その範囲の内側に柱穴が存在するものを平地式住居とした。しかし、削平を受けているため竪穴式住居の可能性もある。

SI２（第８図）Ａ・Ｂ６・７に位置し、幅約0.3mの周溝が隅丸方形状にめぐる平地式住居である。一辺約6.5mの規模でSP149～154の６本が主柱穴と考えられる。周溝は然程深くなく南側は途切れ、北側はSD15に接している。接するSD15との前後関係は不明である。出土した遺物から、時期は弥生時代後期末から古墳時代初頭と考えられる。

SI３（第９図）Ａ・Ｂ４～６に位置し、SD14・15・28・36・53が周溝である。南側のSD14･15･28は弧状にめぐるが北側のSD36・53はSD33～35に切られているためうまく捉えることができなかった。周溝内側の最大幅は17.5ｍを測る。各周溝の規模はSD14が幅0.5m、SD15が幅0.6m前後､SD28が幅1.1m､SD36が幅0.9m、SD53は幅0.6m以上で深さは約0.1mと浅い。これら溝の内側に多数の柱穴が確認できたため建物と判断した。ただし、主柱穴の配列は明確でない。SD33～35で出土した遺物が古墳時代初頭であることから、この時期以前に構築されたと考えられる。

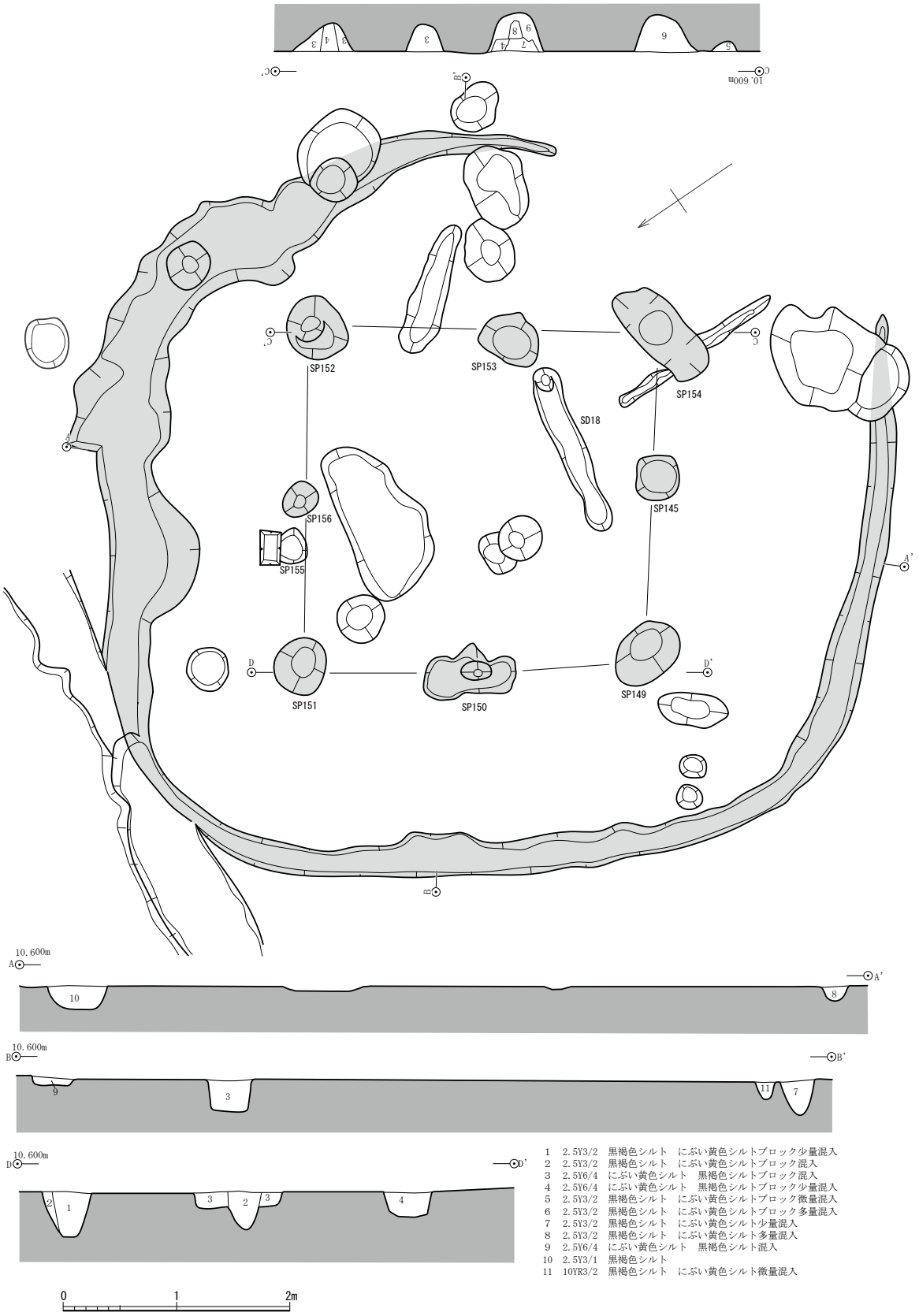
３　掘立柱建物（第10～24図）

ピットの配列に規則性が見られるものを掘立柱建物とし計24棟検出しうち１棟は布掘建物である。掘立柱建物はＡ・Ｂ４～８とＡ・Ｂ14～17の２カ所に分布している。時期はいずれも弥生時代後期末から古墳時代初頭の範疇と考えられる。

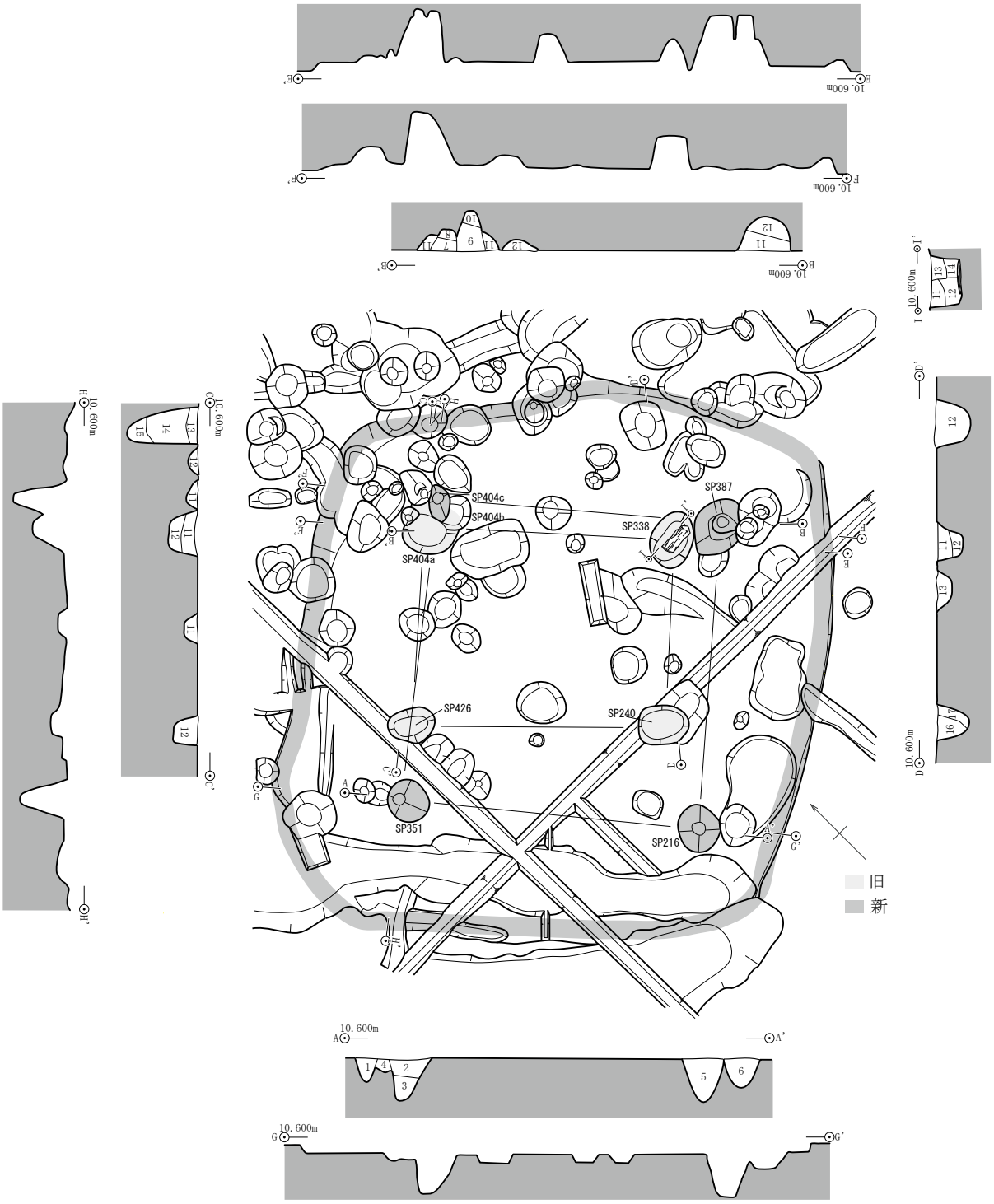
以下、個別に説明する。

SB３（第10図）Ａ７・８に位置し、一部SB５に重複する。SP118～125・128～129の10本で構成された南北方向の側柱建物で正方形に近い平面形を呈す。桁行方向はＮ３°Ｗを測る。柱間隔は西側桁行３間5.1ｍ､東側桁行３間4.9ｍ､梁行２間4.6ｍである。SP126は建て替えに伴う柱穴の可能性がある。

SB４（第11図）Ａ・Ｂ８に位置する。SP37・39～42・45・47～50の10本で構成された東西方向の側柱建物で平面形が不整な長方形を呈す。桁行方向はN90°Eを測る。柱間隔は北側桁行４間5.2m、南側桁行４間5.5m、東側梁行１間3.0m、西側梁行１間3.2mである。SP38・SP46は建て替えに伴う柱穴の可能性がある。

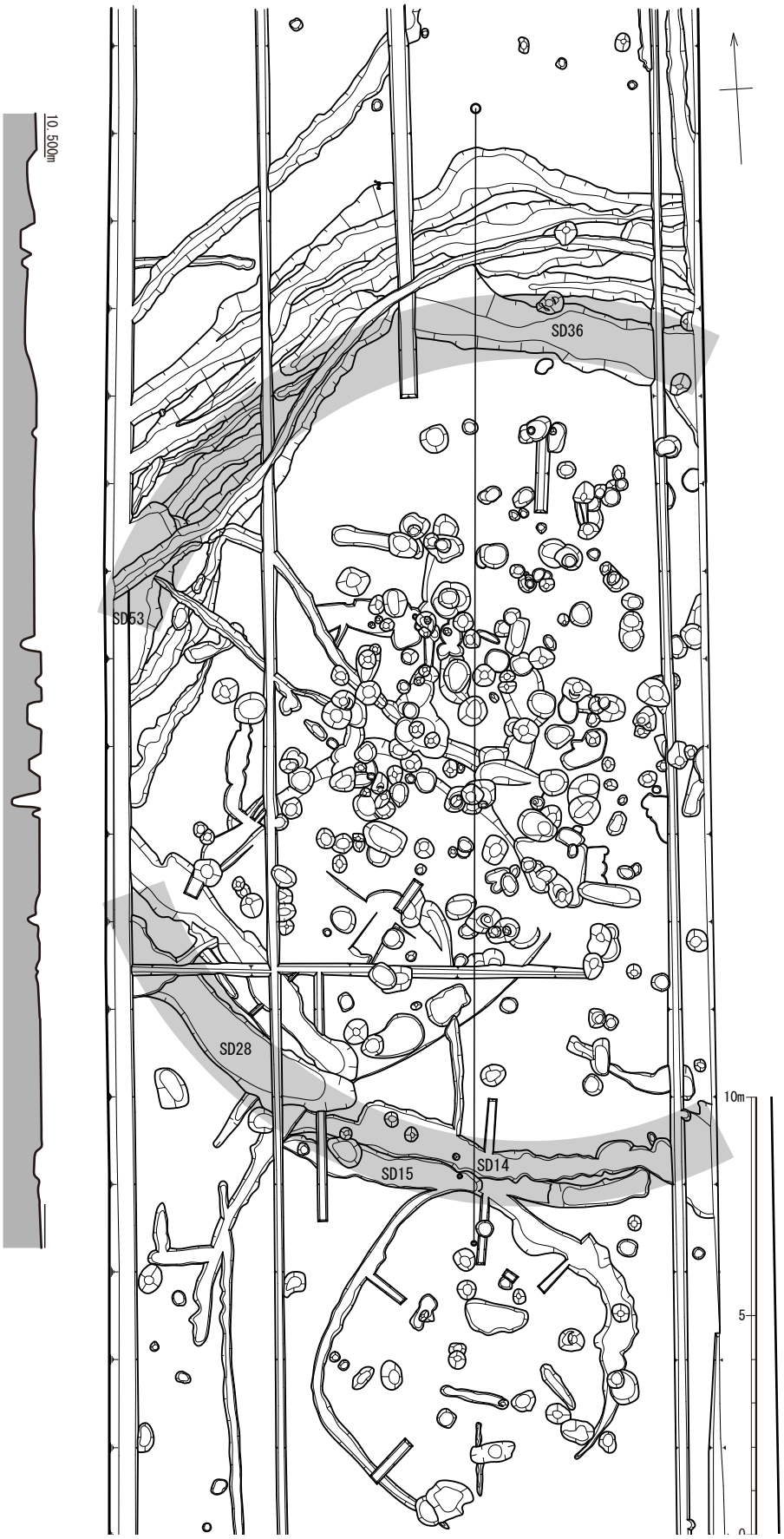


第７図　SI１実測図（縮尺 1/50）

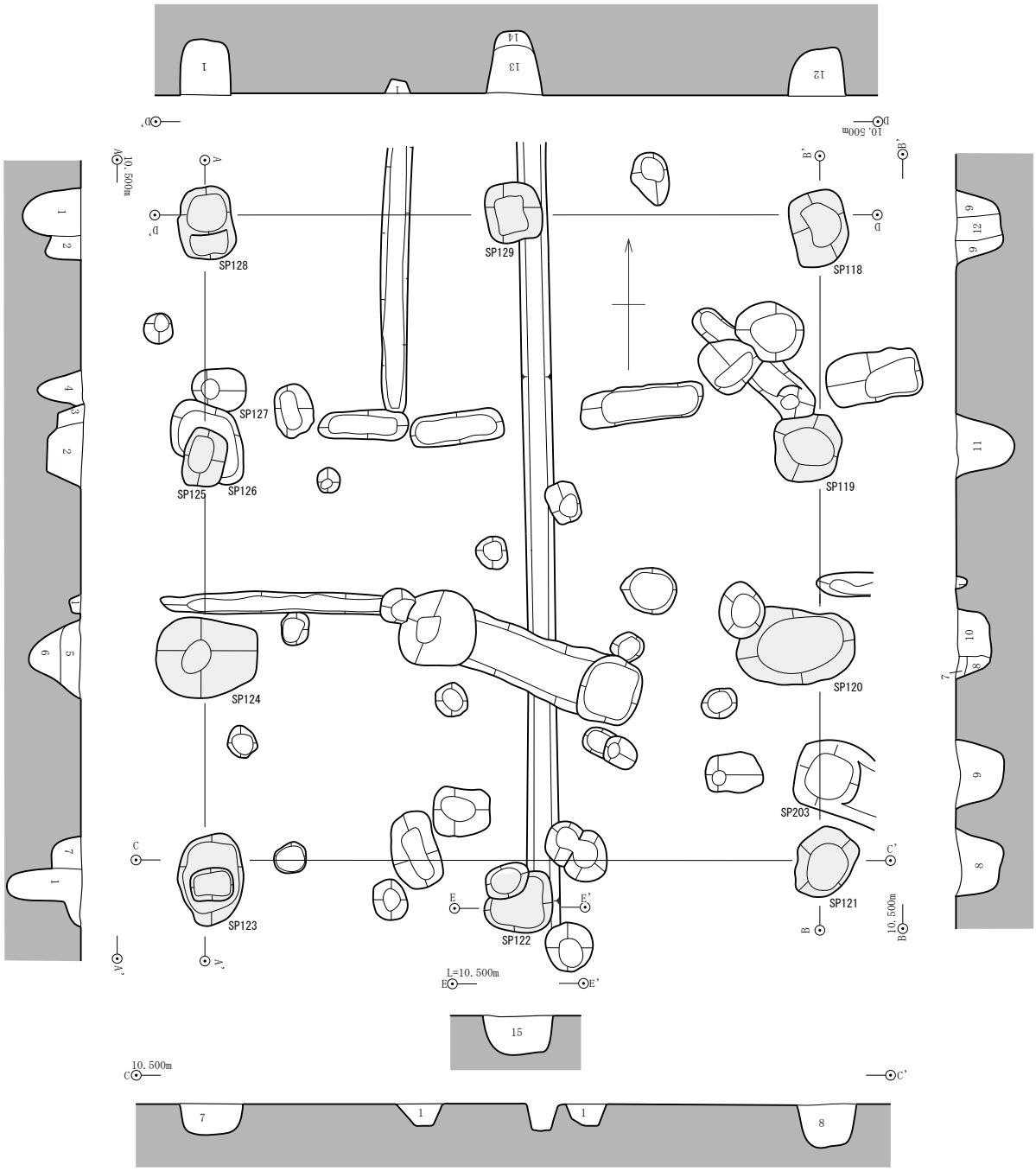


第８図　SI２実測図（縮尺 1/80）

SB５（第12図）Ａ７・８、Ｂ８に位置し、SD203・234で構築される東西方向の布堀建物で、桁行方向はN70°Wを測る。SD203・234ともに中央部で途切れている。SD203はSP202・310とSP222・224、SD234はSP241・245とSP139・244の柱穴２本一組で布掘り構を構成している。柱間隔はSD203の桁



第９図　SI３実測図（縮尺 1/150）



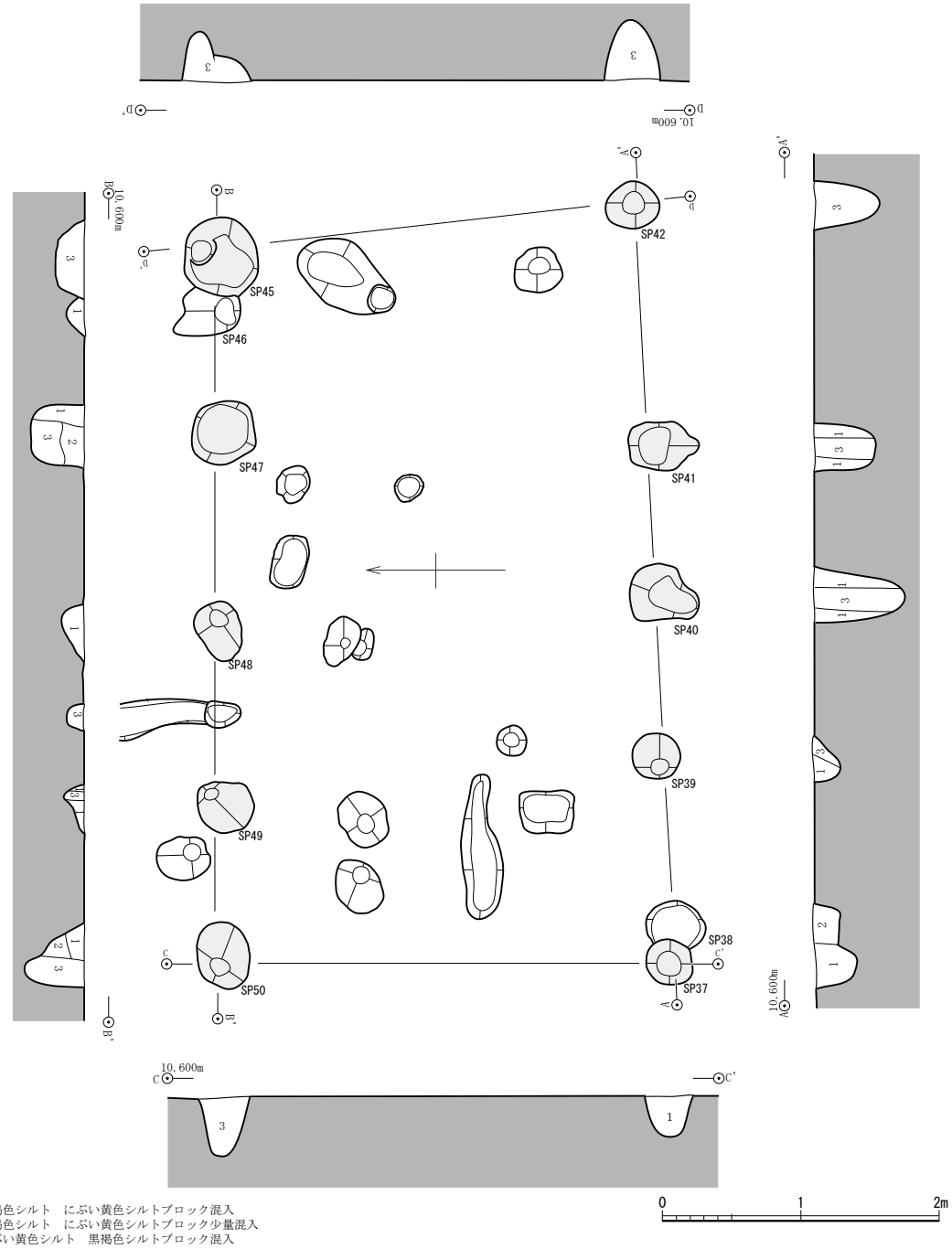
1　2.5Y3/1　黒褐色シル
2　2.5Y3/1　黒褐色シルト　淡黄色シルトブロック多量混入
3　5Y6/1　灰色シルト　淡黄色シルトブロック多量混入
4　2.5Y8/3　淡黄色シルト　黒褐色シルトブロック混入
5　5Y6/1　灰色シルト　淡黄色シルトブロック微量混入
6　2.5Y3/1　黒褐色シルト　淡黄色シルトブロック若干混入
7　2.5Y3/1　黒褐色シルト　淡黄色シルト微量混入
8　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック混入
9　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルト微量混入
10　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルト若干混入
11　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルト少量混入
12　10YR6/1　褐灰色シルト　淡黄褐色シルト混入
13　2.5Y3/1　黒褐色シルトブロック
14　2.5Y3/1　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック少量混入
15　2.5Y8/3　淡黄色シルト

第10図　SB３実測図（縮尺 1/50）

行３間 4.1m、SD234の桁行３間4.1m、梁行１間3.5mである。

SB６（第13図）Ｂ４に位置し、SP362・372・376・377・421・425・429の７本で構成され、北東隅の１本が調査区外となる。南北方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN ８°Eを測る。柱間隔は西側桁行３間 4.7m、東側桁行 3.0m、南側梁行１間3.0mである。SP372から弥生時代後期末に属する遺物がまとまって出土した。

北側で SD33～36・49～54・61・62・66・71と重複するが先後関係は明らかにできなかった。



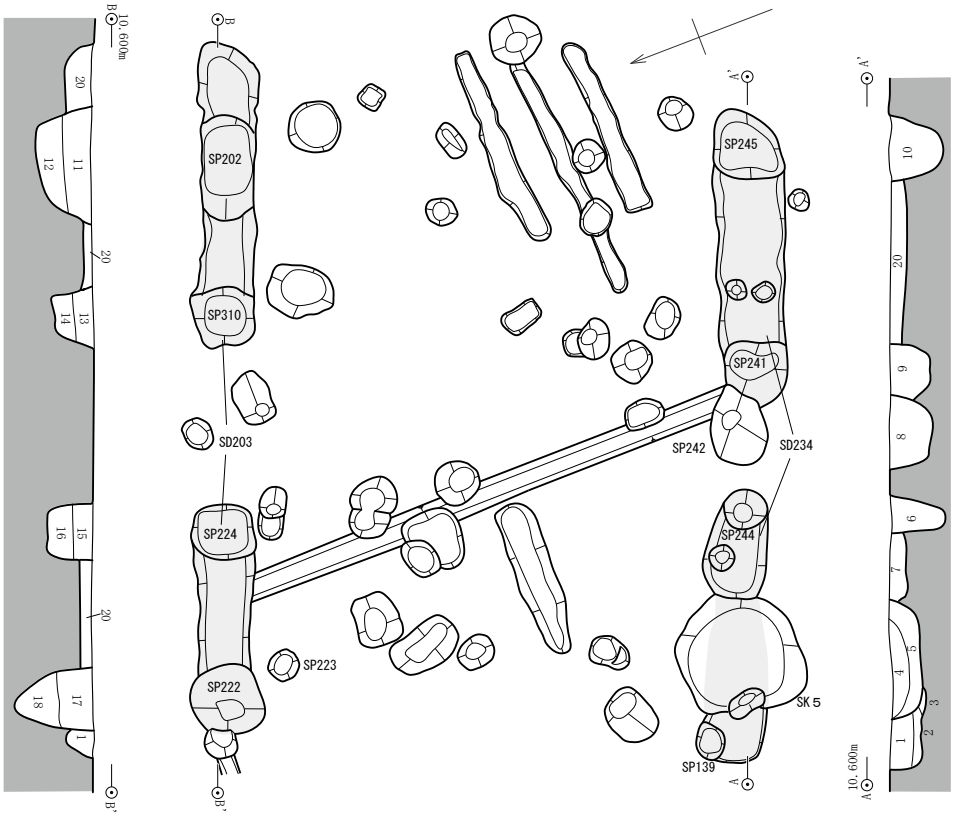
第11図　SB４実測図（縮尺）1/50

SB７（第14図）Ａ・Ｂ６・７に位置し、SP145～148・171・176・177・218・237の９本で構成された南北方向の側柱建物で長方形に近い平面形を呈す。桁行方向はN10°Eを測る。柱間隔は桁行３間4.3m、梁行１間3.2mである。SP147は建て替えに伴う柱穴の可能性がある。

SP218・237はSB１の周溝に切られることから、SB７はSI１に先出するものと判断できる。

SB９（第15図）Ｂ５に位置する。SP296・311・323・332・380・390の６本で構成された南北方向の側柱建物で長方形に近い平面形を呈す。桁行方向はN６°Wを測る。柱間隔は東側桁行5.6m、西側桁行5.4m、梁行１間2.8～3.0mである。SP380に柱根、SP309・420に礎板が遺存していた。

SB10（第16図）Ｂ17に位置する。SP440～445の６本で構成された東西方向の側柱建物で正方形に



1　2.5Y3/2　黒褐色シルト
2　2.5Y3/2　黒褐色シルト　淡黄色シルトブロック多量混入
3　2.5Y8/3　淡黄色シルト
4　2.5Y3/1　黒褐色シルト　淡黄色シルトブロック若干混入
5　2.5Y8/3　淡黄色シルト　黒褐色シルトブロック若干混入
6　2.5Y3/1　黒褐色シルト　淡黄色シルトブロック微量混入
7　2.5Y3/2　黒褐色シルトブロック
8　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック混入
9　2.5Y8/3　淡黄色シルト　黒褐色シルトブロック混入
10　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック少量混入
11　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルト混入
12　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック極少量混入
13　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック微量混入
14　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック多量混入
15　2.5Y3/2　黒褐色シルト　淡黄色シルト多量混入
16　2.5Y3/2　黒褐色シルト　淡黄色シルト微量混入
17　2.5Y8/3　淡黄色シルト　黒褐色シルト多量混入
18　2.5Y3/1　黒褐色シルト　淡黄色シルト混入
19　2.5Y8/3　淡黄色シルト　黒褐色シルトブロック微量混入
20　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色砂質土少量混入

第12図　SB５実測図（縮尺 1/50）

近い平面形を呈す。桁行方向はN47°E を測る。柱間隔は桁行２間3.4m、梁行１間4.3mである。SP468～470は建て替えに伴う柱穴の可能性がある。SP443からは弥生時代後期末の遺物がまとまって出土した。

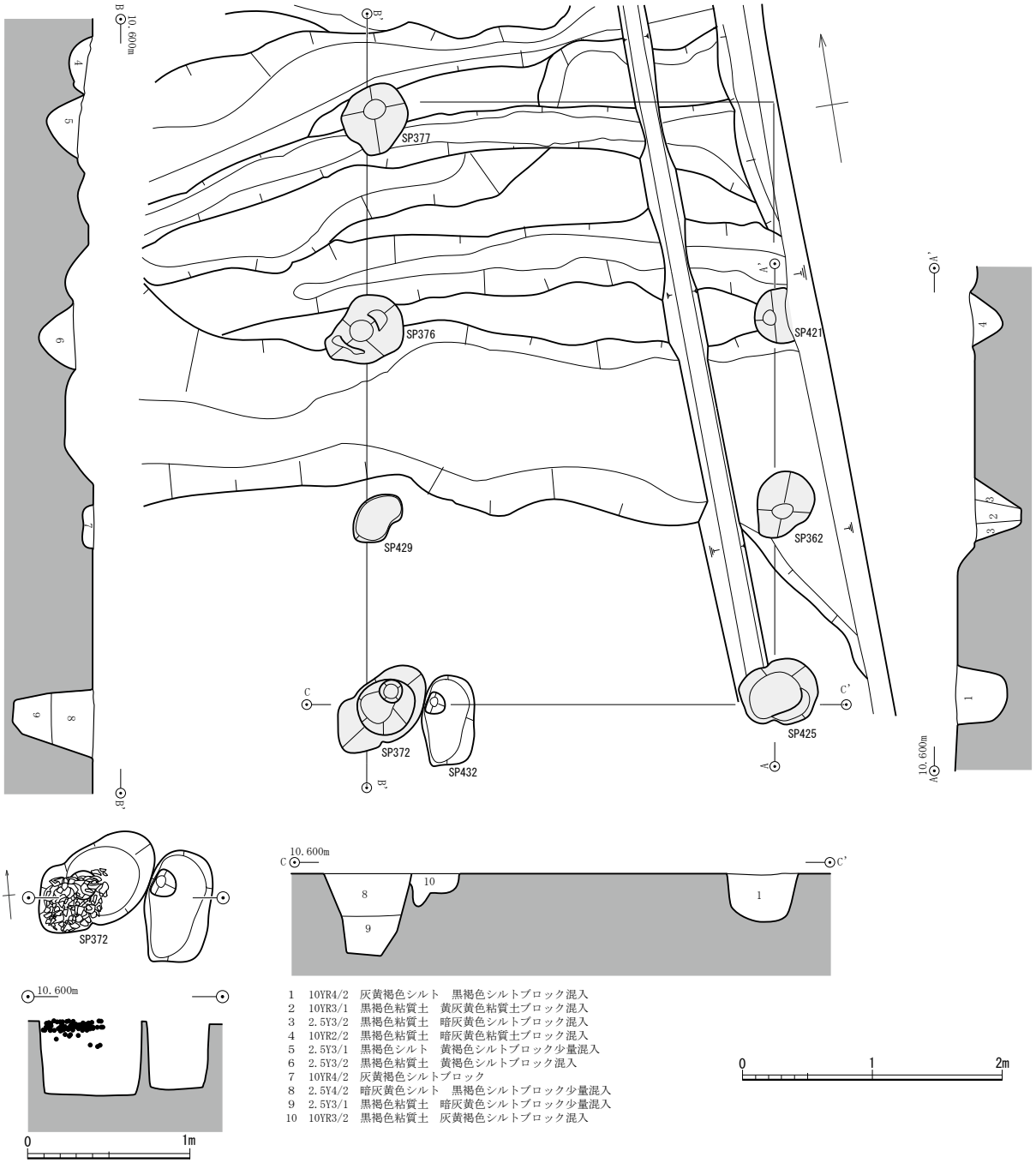
SB11（第17～19図）Ａ16・17、SB10の西側に位置し、SB11南側でSB12と重複する。SP499・507・523・529・564・579の６本で構成された東西方向の側柱建物で正方形に近い平面形を呈す。桁行方向はN50°Wを測る。柱間隔は桁行２間3.9m、梁行１間4.5mである。

SB12（第17・18・20図）Ａ16・17に位置し、北側でSB11と重複する。SP485・511・548・580・587・619の６本で構成された南北方向の側柱建物で長方形に近い平面形を呈す。桁行方向はＮ５°Eを測る。柱間隔は東側桁行２間5.0m、西側桁行２間4.8m、梁行１間3.2mである。SP485とSP619には礎板に据えられて柱根が良好に遺存する。

SB11・12の先後関係は重複する土層断面から、SB11のSP579とSB12のSP580およびSB11のSP507とSB12のSP511との切り合いから先後関係はSB12 → SB11 といえる。

SB13（第21図）Ｂ６に位置し、SP164・165・282・385・389とSD17の東端にある柱穴で構成される東西方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN95°Eを測る。柱間は桁行２間4.5m、梁行１間3.3mである。

SB14（第22図）Ａ15・16に位置しSP532・542・545の３本で構成され、西隅の１本は調査区外と

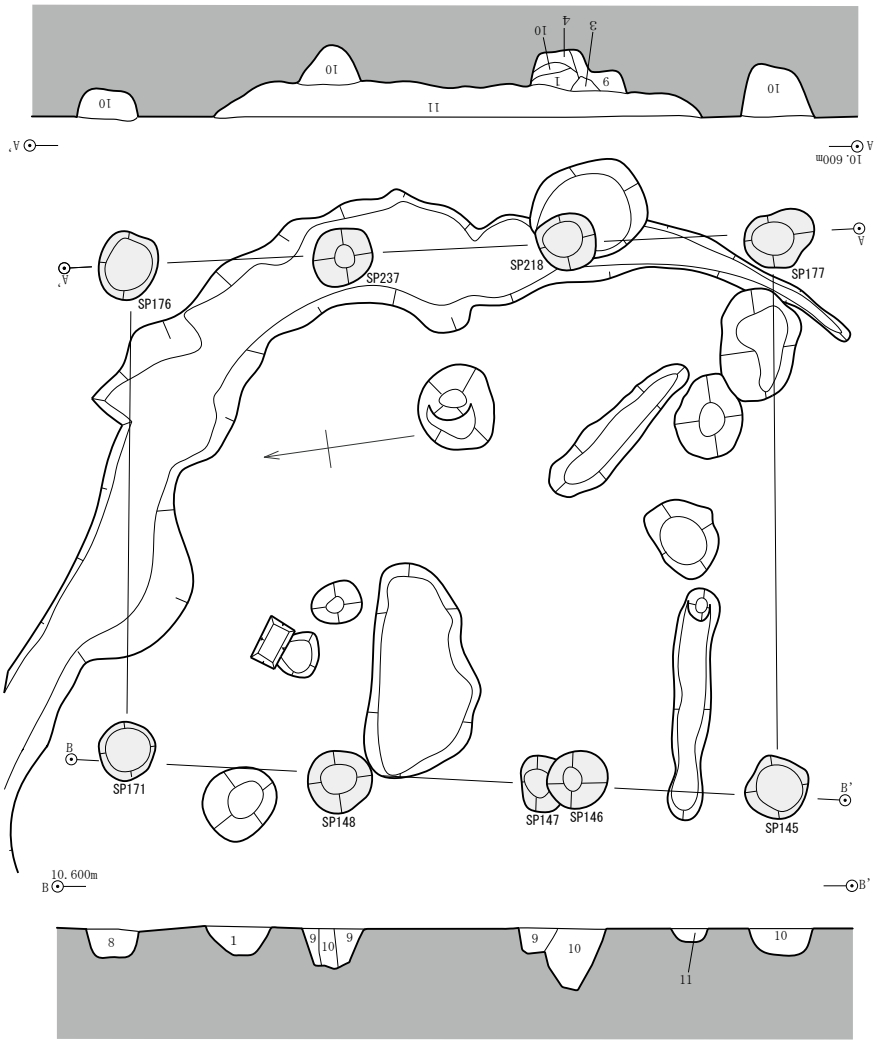


第13図　SB６実測図（縮尺 1/40・1/50）

なる。南北方向の側柱建物で平面形は方形を呈す。桁行方向は N41°E を測る。柱間隔は桁行１間4.3m、梁行１間4.0mである。

SB15（第22図）Ａ 15・16に位置しSP553・576・595の３本で構成され、南西部分が調査区外となる。南北方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN12°Eを測る。柱間隔は桁行１間4.35m、梁行１間5.3mである。

SB16（第22図）Ａ 15に位置しSP530・578・627・633の４本で構成される、東西方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向は N61°W を測る。柱間隔は北側桁行１間 3.6 m・南側桁行１間 3.4 m、西側梁行１間 3.2 m・東側梁行 3.0 mである。



1　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック少量混入
2　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック混入
3　2.5Y6/4　にぶい黄色シルト　黒褐色シルトブロック混入
4　2.5Y6/4　にぶい黄色シルト　黒褐色シルトブロック少量混入
5　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック微量混入
6　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルトブロック多量混入
7　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルト少量混入
8　2.5Y3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルト多量混入
9　2.5Y6/4　にぶい黄色シルト　黒褐色シルト混入
10　2.5Y3/1　黒褐色シルト
11　10YR3/2　黒褐色シルト　にぶい黄色シルト微量混入

0　1　2m

第14図　SB７実測図（縮尺 1/50）

SB17（第22図）Ａ15・16に位置しSP518・526・658・687の４本で構成さる、南北方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN27°E を測る。柱間隔は桁行１間3.6m、梁行１間3.0mである。

SB18（第23図）Ａ15・16に位置しSP539・589・592・600・688・691の６本で構成される、東西方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN69°W を測る。柱間隔は桁行１間3.8m、梁行２間2.8mである。

SB19（第23図）Ａ15・16に位置しSP540・608・685・690の４本で構成される、東西方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN65°Wを測る。柱間隔は桁行１間4.3m、梁行１間3.1mである。

SB20（第23図）Ａ15・16に位置しSP591・594・599・605の４本で構成される、南北方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN53°Eを測る。柱間隔は桁行１間3.8m、梁行１間2.7mである。

SB21（第23図）Ａ15・16に位置しSP517・528・613・635の４本で構成される、東西方向の側柱建物で平面形は方形を呈す。桁行方向はN51°Wを測る。柱間隔は桁行１間3.8m、梁行１間3.8mである。

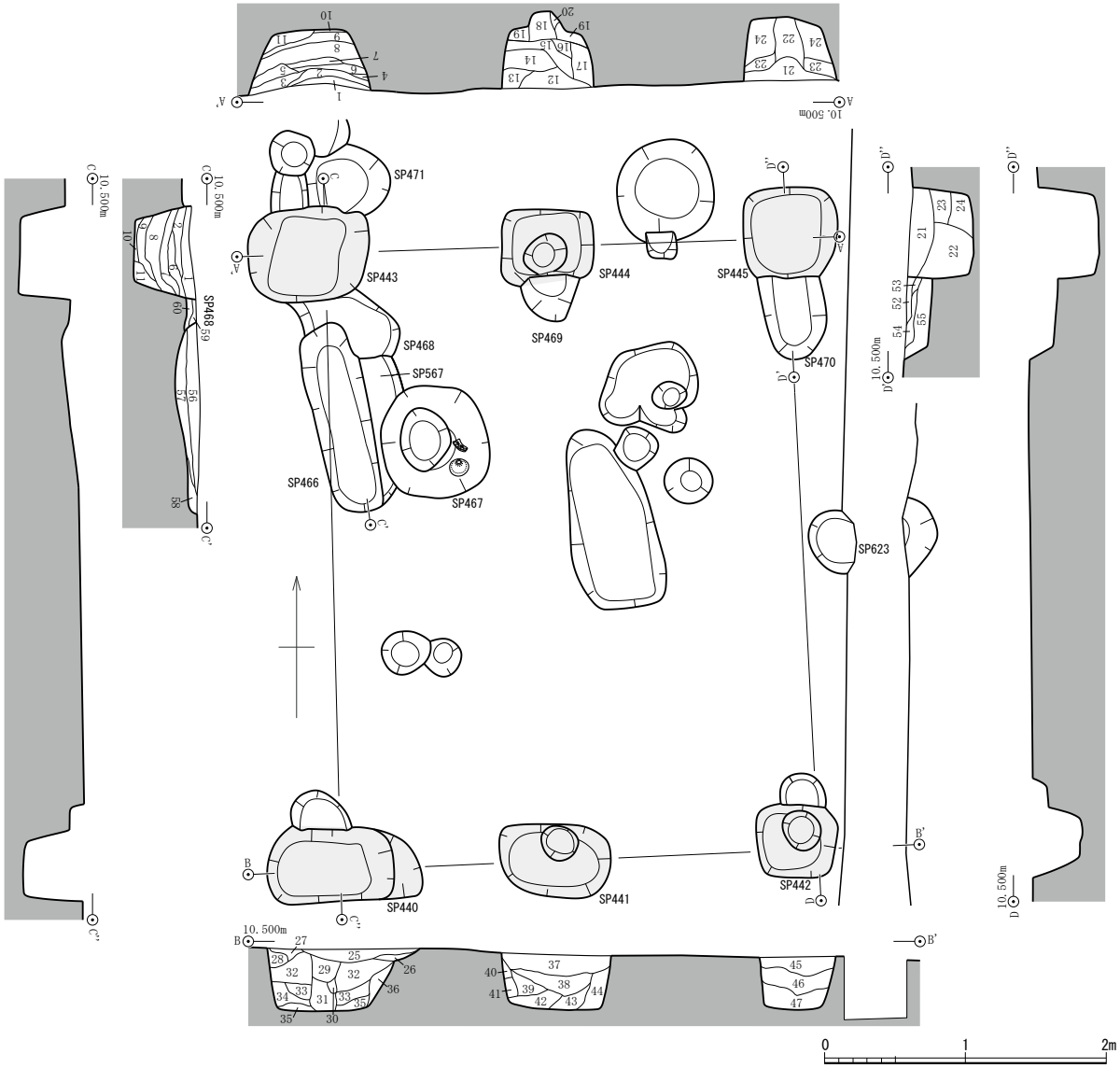
SB22（第24図）Ａ15・16に位置しSP494・571・593・689の４本で構成される、東西方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN46°Wを測る。柱間隔は桁行１間3.6m、梁行１間2.8mである。

1　10YR5/1　褐灰色粘質土　にぶい黄褐色シルトブロック少量混入
2　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　暗褐色砂質土ブロックを少量混入
3　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　暗灰黄色シルトブロック少量混入
4　2.5Y4/3　オリーブ褐色シルト　黒褐色シルトブロック少量混入
5　10YR3/2　黒褐色シルト
6　10YR3/2　黒褐色シルト　にぶい黄褐色シルト少量混入
7　10YR3/2　黒褐色シルト　灰黄褐色シルト少量混入
8　10YR3/1　黒褐色粘質土　灰黄褐色シルトブロック少量混入
9　10YR4/2　灰黄褐色砂質土ブロック
10　10YR4/1　褐灰色粘質土　黒褐色砂質土少量混入
11　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルトブロック少量混入
12　10YR3/2　黒褐色粘質土
13　10YR3/1　黒褐色砂質土　灰黄褐色シルトブロック少量混入
14　10YR3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色シルトブロック少量混入
15　10YR4/1　褐灰色粘質土　黒褐色粘質土ブロック少量混入
16　10YR3/1　黒褐色粘質土　褐灰色粘質土ブロック少量混入
17　10YR3/3　暗褐色粘質土　黒褐色粘質土ブロック少量混入
18　10YR3/3　暗褐色粘質土　黄褐色シルトブロック少量混入
19　2.5Y5/1　黄灰色粘質土　にぶい黄褐色粘質土ブロック少量混入
20　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黄褐色シルトブロック微量混入
21　10YR3/2　黒褐色シルト　褐灰色シルトブロック少量混入
22　10YR4/1　褐灰色シルト　灰黄褐色シルトブロック微量混入
23　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　オリーブ褐色シルトブロック少量混入
24　2.5Y4/1　黄灰色粘質土　暗灰黄色粘質土ブロック少量混入
25　2.5Y4/1　黄灰色粘質土　暗褐色粘質土ブロック微量混入

0　1　2m

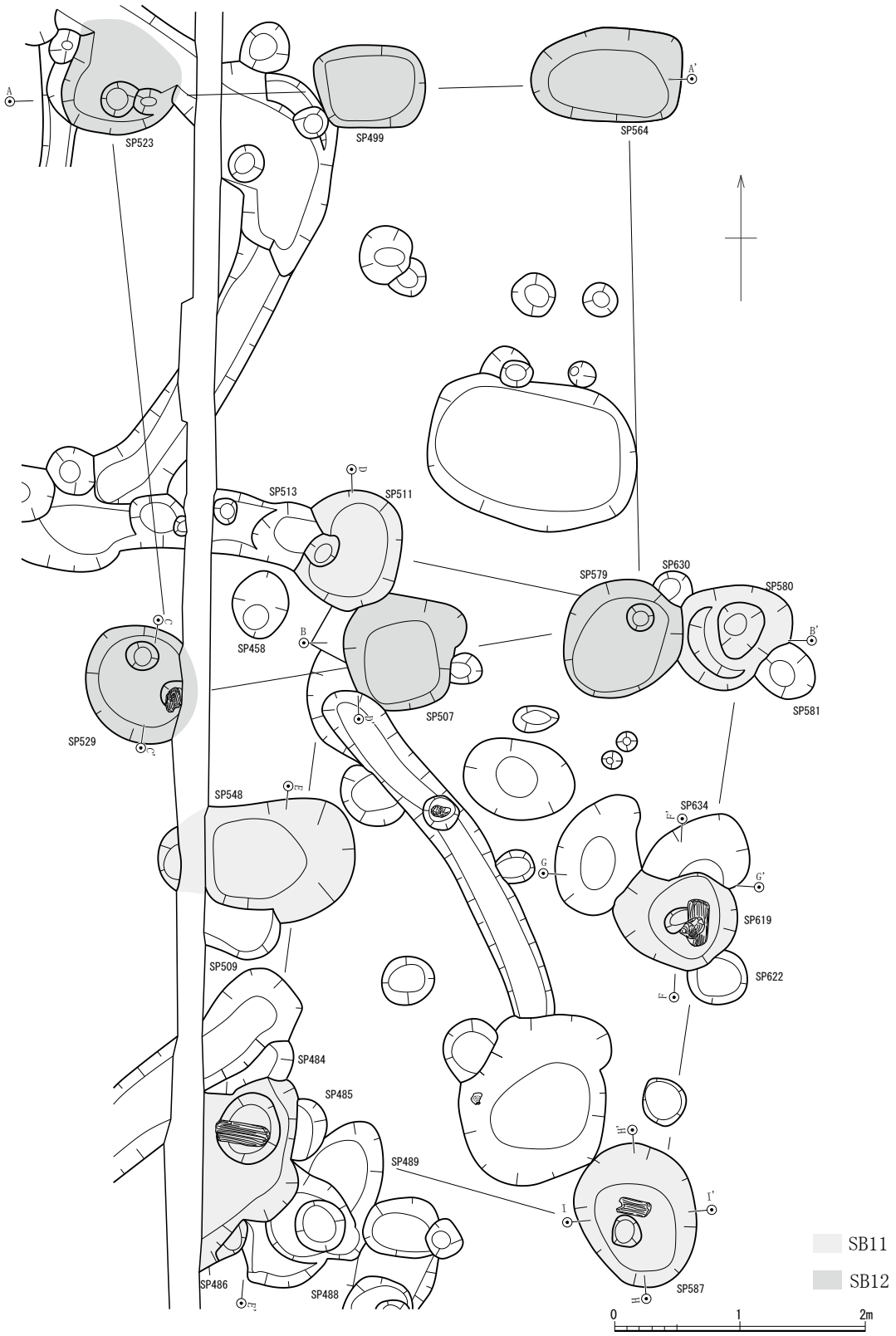
第15図　SB９実測図（縮尺 1/50）

SB23（第24図）Ａ 15･16に位置しSP522･527･629の３本で構成され、西隅の１本は調査区外となる。東西方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN63°Wを測る。柱間隔は桁行１間3.7m、梁行１間3.4mである。



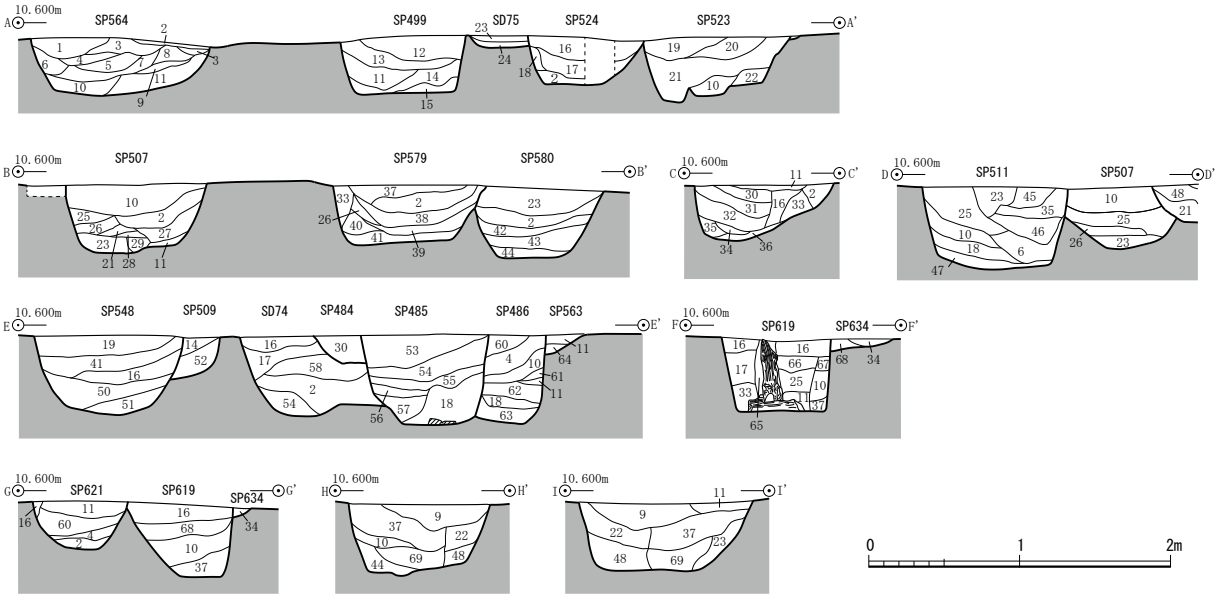
1　10YR5/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト多量混入
2　10YR3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色シルトブロック少量混入
3　10YR3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色シルト微量混入　φ5mm程度の炭微量混入
4　10YR3/1　黒褐色シルト　黒色粘質土若干混入　灰黄褐色シルト少量混入
5　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルトブロック多量混入
6　10YR4/2　灰黄褐色シルト　暗褐色シルト少量混入
7　10YR5/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト若干混入
8　10YR2/1　黒褐色粘質土　暗灰黄色シルト少量混入
9　2.5Y5/1　黄灰色粘質土　黒褐色粘質土多量混入
10　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黒褐色シルト微量混入
11　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黒褐色シルト少量混入
12　10YR3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色シルト多量混入
13　10YR2/1　黒褐色シルト　灰黄褐色粘質土ブロック少量混入
14　10YR4/1　褐灰シルト　黒褐色シルト多量混入　褐色シルト若干混入
15　2.5Y2/1　黒色シルト　褐灰色シルト・黒褐色シルト少量混入　灰黄褐色砂質土微量混入
16　10YR5/2　灰黄褐色シルト　黒褐色粘質土多量混入
17　10YR5/2　灰黄褐色粘質土　黒褐色シルトブロック多量混入
18　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黒色粘質土粘質土多量混入　灰色粘質土少量混入
19　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黒色シルトブロック多量混入
20　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黒褐色シルトブロック多量混入
21　2.5Y5/1　黄灰色シルト　黒褐色シルト多量混入　灰色砂質土シルト　ブロック少量混入
22　5Y4/1　灰色粘質土　黒褐色シルトブロック少量混入
23　10YR3/2　黒褐色シルト　灰黄褐色シルト多量混入
24　5Y4/1　灰色粘質土　黒褐色シルト微量混入
25　10YR3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色砂質土多量混入
26　10YR3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色砂質土少量混入
27　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　黒褐色シルトブロック若干混入
28　10YR5/2　灰黄褐色シルト　にぶい黄色シルト若干混入　黒褐色砂質土若干混入
29　10YR5/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト多量混入
30　2.5Y4/2　黄灰色シルト　黒褐色シルトブロック若干混入
31　2.5Y5/3　黄褐色シルト
32　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黄灰色粘質土若干混入　黒褐色シルトブロック多量混入
33　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黄灰色粘質土　黒褐色粘質土多量混入
34　10YR5/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルトブロック若干混入　褐色シルト若干混入
35　2.5Y5/1　黄灰色粘質土　黒褐色粘質土少量混入
36　10YR3/3　暗褐色シルトブロック　灰黄褐色シルト少量混入
37　2.5Y5/2　暗灰黄色シルト　黒褐色シルト多量混入
38　2.5Y5/2　暗灰黄色シルト　褐色シルト少量混入　褐灰色シルト若干混入
39　2.5Y4/2　暗灰黄色シルト　黒褐色粘質土多量混入
40　2.5Y5/3　黄褐色粘質土
41　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黒褐色シルト、褐色シルト少量混入
42　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　灰色シルト若干混入
43　5Y5/1　灰色粘質土　褐色シルト少量混入
44　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　褐色シルト微量混入
45　2.5Y5/2　暗灰黄色シルト　黒褐色シルトブロック少量混入
46　5Y5/2　灰オリーブ色シルト　オリーブ黒色シルト少量混入
47　2.5Y5/1　黄灰色粘質土　褐灰色粘質土若干混入
48　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黒色粘質土粘質土多量混入　灰色粘質土少量混入
49　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黒色シルトブロック多量
50　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土
51　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルトブロック少量混入
52　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト多量混入　暗褐色シルト微量混入
53　10YR3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色シルトブロック微量混入
54　10YR5/2　灰黄褐色シルト　黒褐色粘質土多量混入
55　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黒色粘質土多量混入　灰色粘質土少量混入
56　10YR3/3　暗褐色シルト　黒褐色シルト少量混入
57　2.5Y5/2　暗灰黄色シルト
58　10YR5/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト多量混入
59　10YR3/3　暗褐色シルト　黒褐色シルト少量混入
60　2.5Y4/1　黄灰色シルト　黒褐色シルトブロック多量混入

第16図　SB10 実測図（縮尺 1/50）



第17図　SB11・12 実測図１（縮尺 1/50）

SB24（第24図）Ａ 15・16に位置しSP498・531・601・686の４本で構成さる、東西方向の側柱建物で平面形は方形を呈す。桁行方向はN44°Wを測る。柱間隔は桁行１間4.0m、梁行１間3.6mである。SP498の底には礎板が遺存していた。



1　10YR3/2　黒褐色シルト　オリーブ褐色シルト多量混入
2　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　黒褐色シルト少量混入
3　10YR5/2　灰黄褐色シルト　にぶい黄褐色砂質土少量混入　φ1mm程度の炭微量混入
4　10YR2/2　黒褐色シルト　灰黄褐色シルト少量混入　φ2mmの炭微量混入
5　10YR4/1　褐灰色シルト　暗褐色砂質土微量混入　φ1mm程度の炭微量混入
6　10YR5/2　灰黄褐色シルト　褐色シルト微量混入
7　10YR2/1　黒色シルト　にぶい黄褐色シルト少量混入
8　2.5Y5/3　黄褐色シルト　黒褐色砂質土微量混入
9　10YR5/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルトブロック少量混入
10　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト多量混入
11　10YR3/2　黒褐色シルト　灰黄褐色シルト少量混入
12　10YR5/2　灰黄褐色シルト　褐色シルト少量混入
13　2.5Y5/2　暗灰黄色砂質土　褐灰色シルト多量混入
14　10YR3/1　黒褐色砂質土　褐色砂質土少量混入
15　10YR5/2　灰黄褐色シルト　褐色砂質土微量混入
16　10YR3/1　黒褐色砂質土　にぶい黄褐色砂質土多量混入
17　10YR3/1　黒褐色シルト　褐色シルト少量混入
18　10YR5/2　灰黄褐色粘質土　黒褐色シルト少量混入
19　10YR5/2　灰黄褐色砂質土　黒褐色砂質土多量混入
20　10YR4/2　灰黄褐色砂質土　にぶい黄褐色砂質土少量混入
21　10YR3/1　黒褐色シルト　暗灰黄色シルト少量混入
22　10YR5/2　灰黄褐色粘質土
23　10YR3/2　黒褐色砂質土　褐色砂質土少量混入
24　10YR5/2　灰黄褐色シルト　褐色砂質土少量混入
25　10YR5/2　灰黄褐色シルト少量混入　褐灰色シルト多量混入
26　10YR5/3　にぶい黄褐色粘質土　褐色シルト少量混入
27　10YR5/2　灰黄褐色粘質土
28　10YR5/3　にぶい黄褐色粘質土
29　10YR4/3　にぶい黄褐色粘質土　黒色シルト少量混入
30　10YR5/1　褐灰色シルト　灰黄褐色砂質土多量混入
31　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　褐灰色シルト多量混入
32　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト少量混入
33　10Y5/3　にぶい黄褐色シルト　灰黄褐色シルト少量混入
34　10YR5/3　にぶい黄褐色砂質土　褐灰色砂質土少量混入
35　10YR5/2　にぶい黄褐色シルト　黒褐色砂質土少量混入
36　10YR4/2　灰黄褐色シルト　にぶい黄褐色シルト多量混入
37　2.5Y5/3　黄褐色シルト　黒褐色シルトブロック少量混入　φ1mm程度の炭微量混入
38　10YR4/2　灰黄褐色シルト　褐色砂質土少量混入　φ2mm程度の炭微量混入
39　10YR6/3　にぶい黄橙色粘質土　1黒褐色シルト少量混入
40　10YR6/2　灰黄褐色シルト　褐色粘質土少量混入
41　10YR5/2　灰黄褐色シルト　にぶい黄橙色シルト多量混入
42　10YR4/1　褐灰色シルト　にぶい黄褐色シルト多量混入
43　2.5Y5/1　黄灰色粘質土　褐灰色シルト少量混入
44　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　褐灰色粘質土少量混入
45　10YR5/3　にぶい黄褐色砂質土　褐色砂質土多量混入　φ2mmの炭少量混入
46　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
47　10YR5/1　褐灰色粘質土　灰黄褐色シルト少量混入
48　10YR4/2　灰黄褐色シルト　暗褐色シルト多量混入　φ1mm程度の炭微量混入
49　10YR3/3　暗褐色シルト　灰黄褐色シルト少量混入
50　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　黒褐色シルト多量混入　φ3mm程度の炭微量混入
51　10YR3/1　黒褐色シルト　にぶい黄褐色粘質土ブロック少量混入
52　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　褐色シルト微量混入
53　2.5Y5/2　暗灰黄色砂質土　黒褐色砂質土少量混入
54　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　褐色シルト少量混入　φ1mm程度の炭微量混入
55　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　黒褐色シルト多量混入　φ2mmの炭微量混入
56　10YR3/1　黒褐色粘質土　暗灰黄色シルト少量混入
57　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　灰黄褐色シルト多量混入　φ1mm程度の炭若干混入
58　2.5Y5/2　暗灰黄色シルト　黄灰色シルト多量混入
59　2.5Y4/3　オリーブ褐色粘質土　暗褐色シルト少量混入
60　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　灰黄褐色砂質土少量混入
61　10YR2/1　黒色シルト　灰黄褐色シルト少量混入　φ2mm程度の炭微量混入
62　10YR5/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト微量混入
63　2.5Y4/2　暗灰黄色粘質土　黒褐色粘質土多量混入　褐色シルト少量混入
64　2.5Y3/2　黒褐色シルト　褐灰色シルト多量混入　φ3mm程度の炭微量混入
65　2.5Y5/3　にぶい黄褐色砂質土　灰黄褐色砂質土多量混入　柱痕あり
66　10YR3/3　暗褐色シルト　にぶい黄褐色粘質土ブロック少量混入
67　10YR3/3　暗褐色シルト　褐色砂質土多量混入
68　10YR4/4　褐色シルト　灰黄褐色シルト少量混入
69　10YR3/1　黒褐色シルト　黄褐色砂質土多量混入　φ1mm程度の炭微量混入

第18図　SB11・12 実測図２（縮尺 1/50）

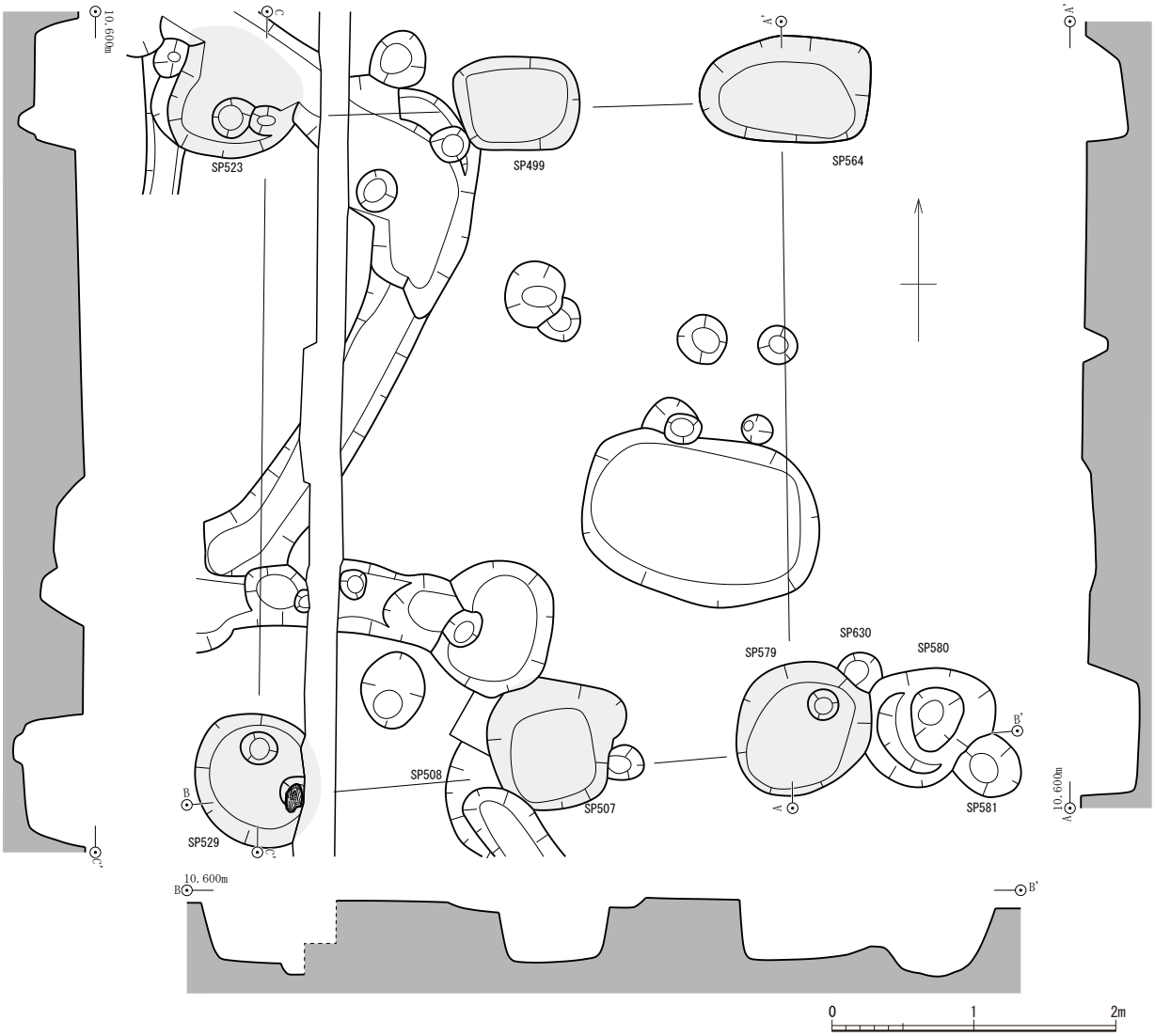
SB25（第25図）Ａ８に位置しSP130・142・143・261の４本を確認し、東西方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN65°Eを測る。桁行１間1.4m以上、梁行１間3.0mで西側調査区外へ１間以上延びていると考えられる。

SB26（第25図）Ａ８に位置しSP68・77・138・232・242・248・251の７本で構成される。東西方向の側柱建物で平面形は方形を呈す。桁行方向はN81°Eを測る。柱間隔は桁行２間3.6～4.0m、梁行東側２間 3.5m、西側１間3.2mである

SB27（第25図）Ａ７・８に位置しSP157・184・213・221・225・226の６本で構成される南北方向の側柱建物で平面形は長方形を呈す。桁行方向はN15°Eを測る。柱間隔は桁行２間2.8m、梁行１間1.4mである。

３　方形周溝墓（第26～28図）

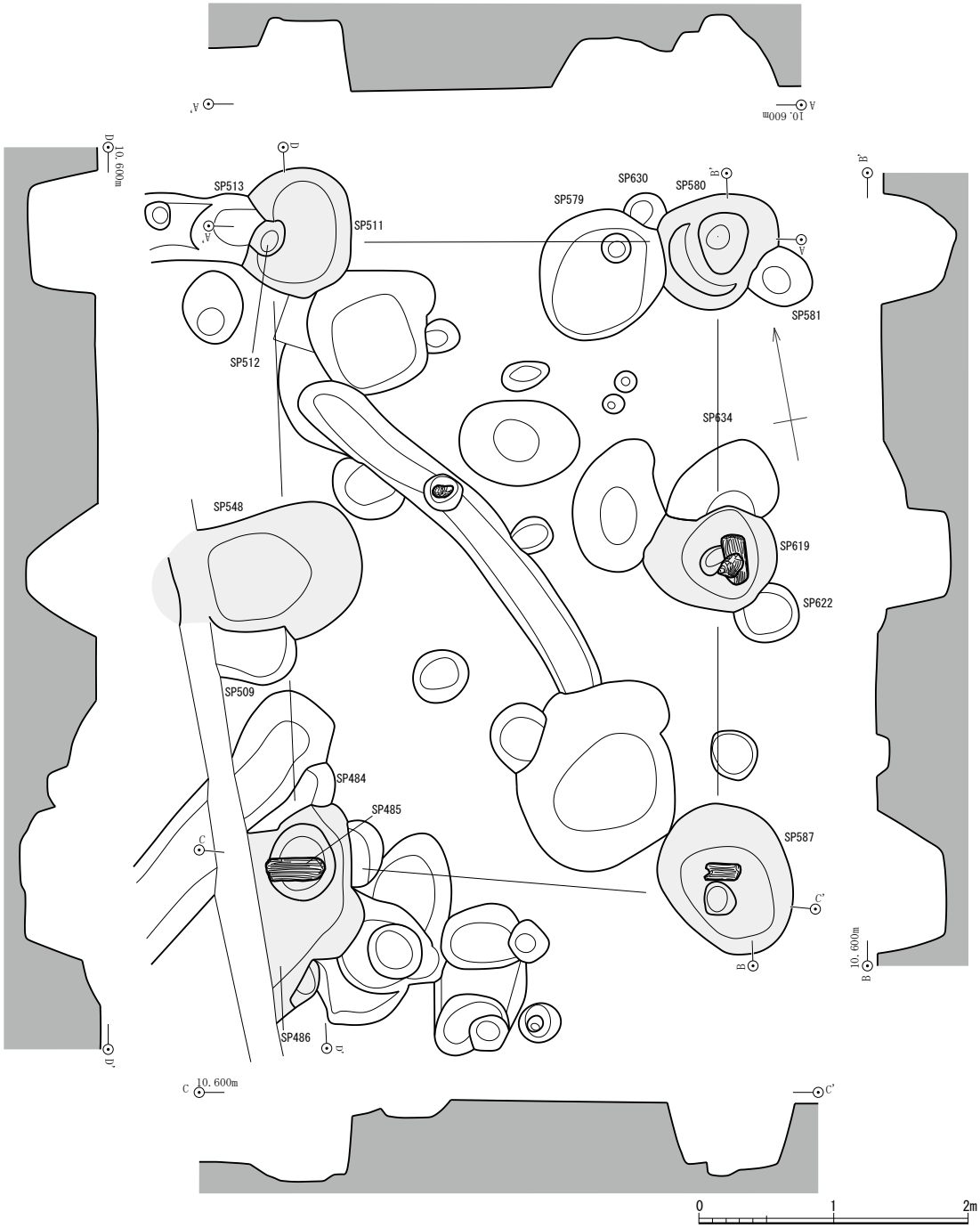
方形周溝墓として報告するのはST１・ST２の２基である。ともに墳丘盛土は検出できなかった。周溝の形状については２基とも調査区外に延びており不明である。



第19図　SB11 実測図（縮尺 1/50）

第２表　掘立柱建物観察表

建物番号	桁×梁	構造	桁行(m)	梁行(m)	面積(㎡)	主軸方向	備　　考
SB03	3 × 2	側柱	4.9 ～ 5.1	4.6	23.00	N-0°	
SB04	4 × 1	側柱	5.2 ～ 5.5	3.0 ～ 3.2	17.60	N-90°	
SB05	3 ? × 1	側柱	4.1	3.5	14.35	N-70° -W	
SB06	3 ? × 1	側柱	3.0 ～ 4.7	3.0	14.10	N-8° -E	
SB07	3 × 1	側柱	4.3	3.2	13.76	N-10° -E	SB1 に後行
SB09	2 × 1	側柱	5.4 ～ 5.6	2.8 ～ 3.0	16.80	N-6° -W	SI3 に先行か
SB10	2 × 1	側柱	3.4	4.3	14.62	N-1° -W	
SB11	2 × 1	側柱	3.9	4.5	17.55	N-10° -W	SB12 に後行
SB12	2 × 1	側柱	4.8 ～ 5.0	3.2	16.00	N-11° -W	SB11 に先行
SB13	2 × 1	側柱	4.5	3.3	14.85	N-84° -W	
SB14	1 × 1 ?	側柱	4.3	4.0	17.20	N-41° -E	
SB15	1 ? × 1	側柱	4.35	5.3	23.06	N-12° -W	
SB16	1 × 1	側柱	3.4 ～ 3.6	3.0 ～ 3.2	11.52	N-61° -W	
SB17	1 × 1	側柱	3.6	3.0	10.80	N-27° -E	
SB18	2 × 1	側柱	3.5 ～ 3.6	2.8	10.08	N-69° -W	
SB19	2 × 1	側柱	4.2 ～ 4.3	3.1	13.33	N-65° -W	
SB20	1 × 1	側柱	3.8	2.7	10.26	N-53° -W	
SB21	1 × 1	側柱	3.8	3.6 ～ 3.8	14.44	N-51° -W	
SB22	1 × 1	側柱	3.4 ～ 3.6	2.8	10.08	N-46° -W	
SB23	1 × 1	側柱	3.7	3.4	12.58	N-63° -W	
SB24	1 × 1	側柱	4.0	3.6 ～ 3.8	15.20	N-44° -W	
SB25	1 ? × 1	側柱	1.4	3.0	4.20	N-65° -E	
SB26	2 × 2	側柱	3.6 ～ 4.0	3.2 ～ 3.5	14.00	N-81° -E	
SB27	2 × 1	側柱	2.8	1.4	3.92	N-15° -E	

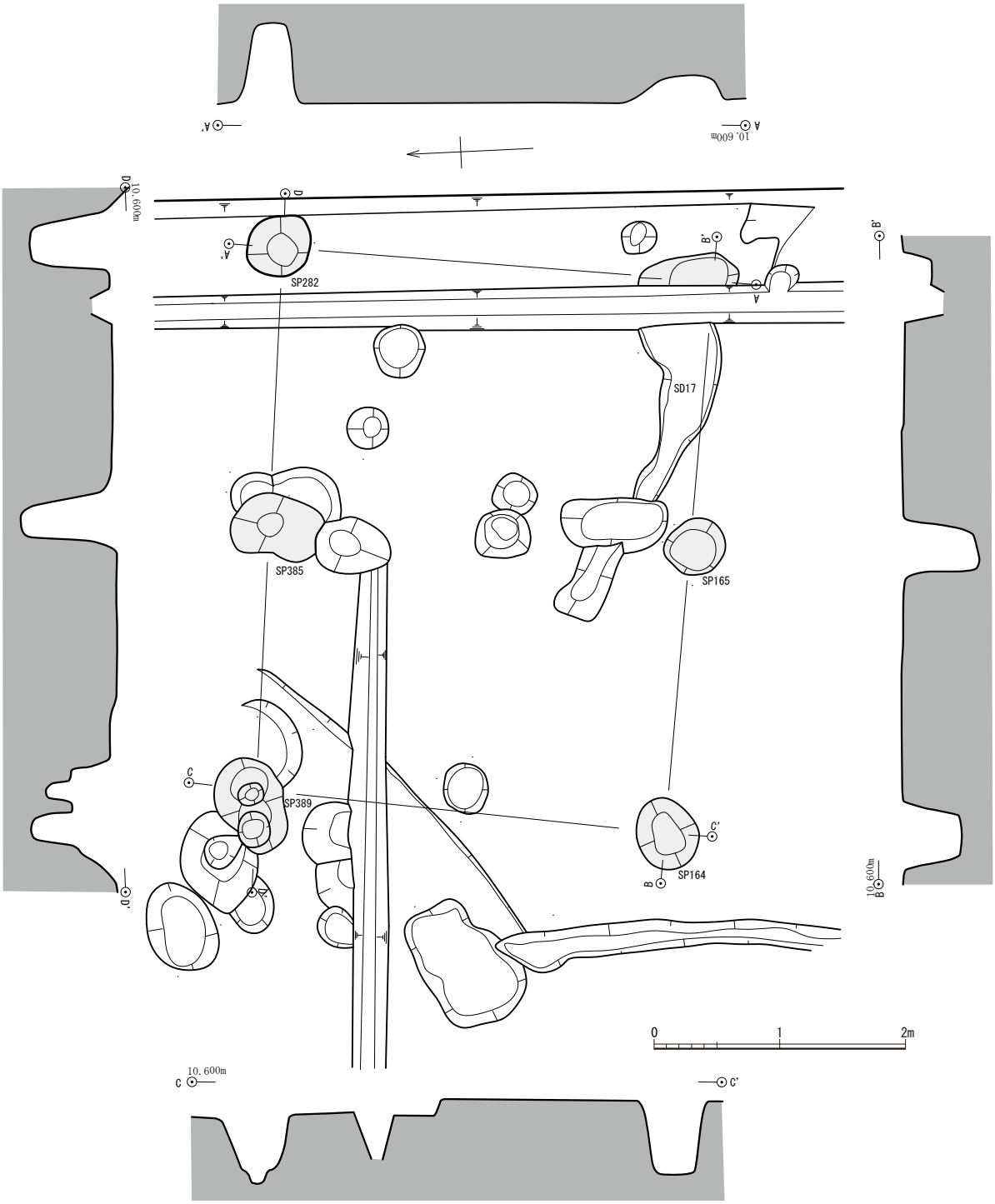


第20図　SB12 実測図（縮尺 1/50）

以下個別に説明する。

ST１（第26･27図）A・B 24･25に位置し調査区外に延びる。周溝は南溝、西溝と北溝の一部を検出した。南溝から弥生時代中期に属する土器が出土した。造営時期は周溝出土遺物から弥生時代中期と考える。埋葬施設は確認できなかった。

ST２（第28図）B 19・20に位置し調査区外に延びる。周溝は西溝、南溝の一部を検出した。西溝、南溝間で途切れる、陸橋状になっている。この箇所は溝の深さが浅く、削平を受けて陸橋状になっている可能性も考えられる。埋葬施設は確認できなかった。出土遺物はなく、造営時期については不明である。



第21図　SB13 実測図（縮尺 1/50）

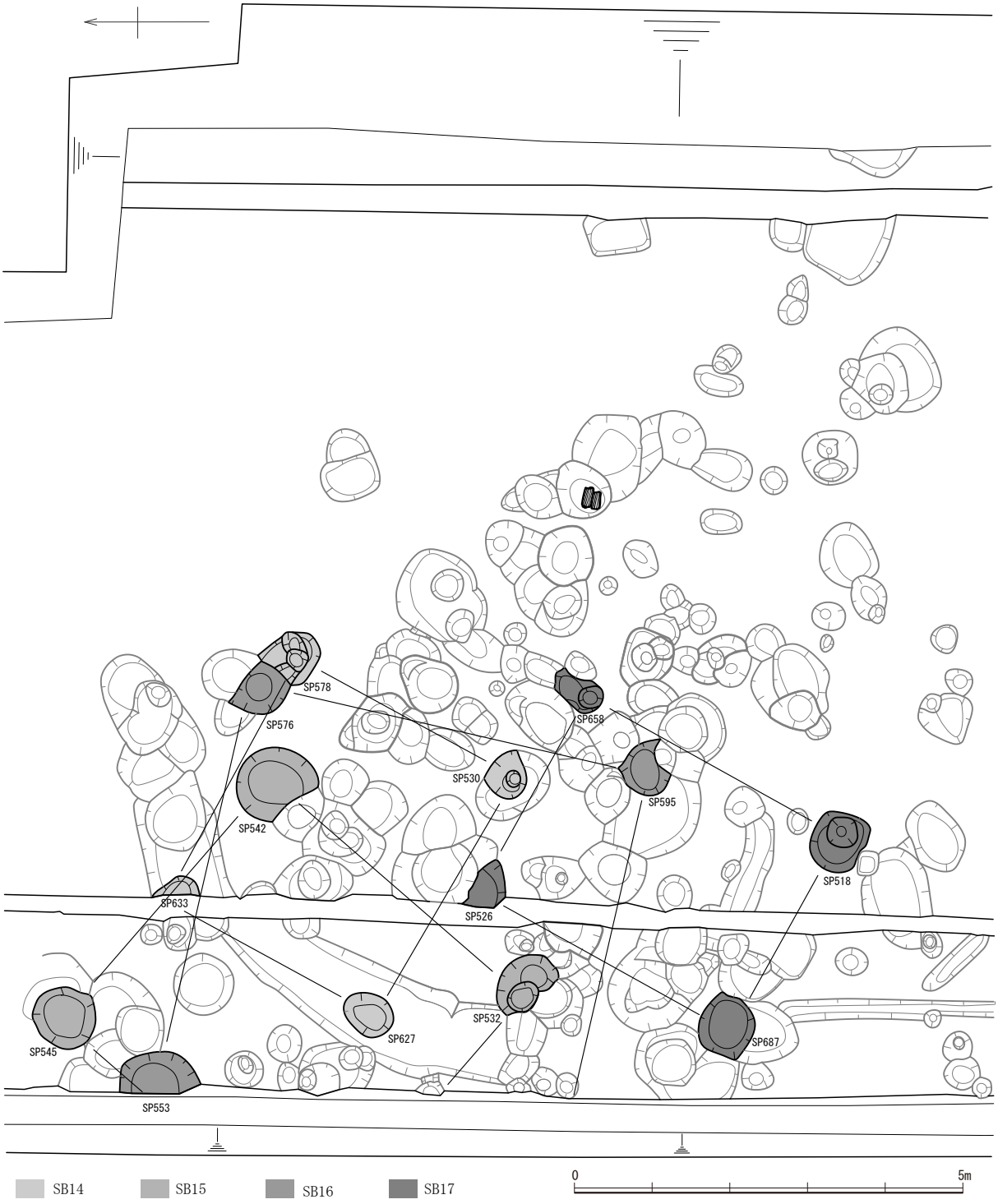
４　土坑

土坑は計 43 基検出した。ここでは遺物が出土した土坑について説明する。

SK５　Ａ８に位置し、長軸2.3m、短軸2.0mの平面形が方形を呈し、深さ0.20mを測る。SB５の北側布掘り溝を切って構築されている。古式土師器の小片が出土している。

SK10　Ａ・Ｂ７に位置し、0.94×0.94mの平面形が不整な方形を呈し、深さ0.25mを測る。南西側でSK９を切っている。古式土師器の鉢片が出土している。

SK17　Ｂ３に位置し長軸0.94m、短軸0.60mの平面形が楕円形を呈し、深さ0.19mを測る。南側で



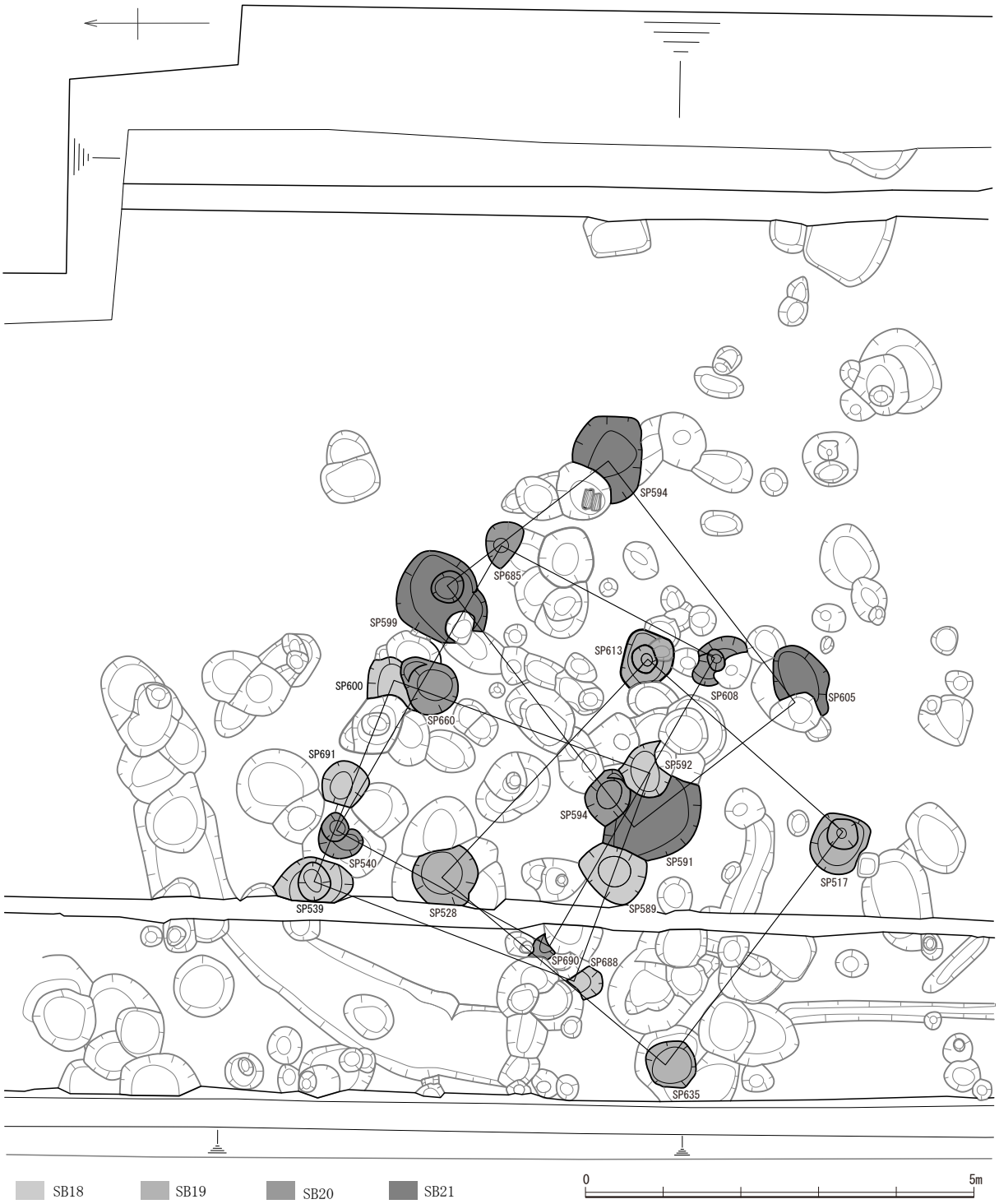
第22図　SB14～ 17 実測図（縮尺 1/80）

SK18 を切っている。古式土師器の鉢片が出土している。

SK23　A17に位置し長軸1.50m、短軸1.32mの平面形が不整円形を呈し、深さ0.45mを測る。古式土師器の鉢と蓋片が出土している。

SK31　A・B 16に位置し長軸1.90m、短軸1.60mの平面形が円形を呈し、深さ0.19mを測る。北西で別遺構に切られている。古式土師器の鉢片が出土している。

SK35　B 18に位置し、長軸1.50m、短軸1.30m以上の平面形が楕円形を呈し。深さ0.27mを測る。



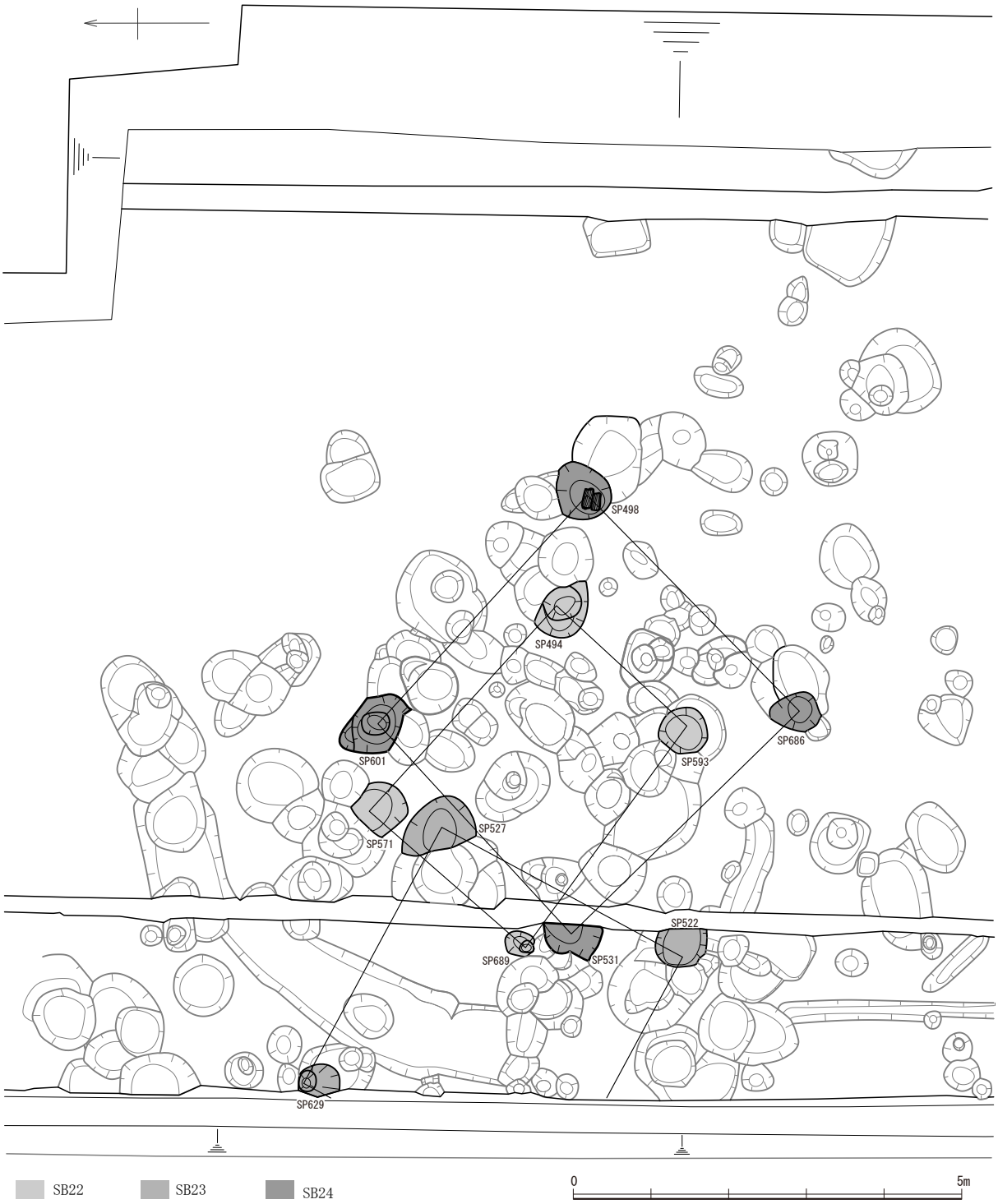
第23図　SB18～ 21 実測図（縮尺 1/80）

古式土師器の器台片が出土している。

SK38　Ｂ 16に位置し、一辺1.10ｍ四方の平面形が方形を呈し、深さ0.10ｍを測る。古式土師器の器台片が出土している。

５　溝（第28～33図）

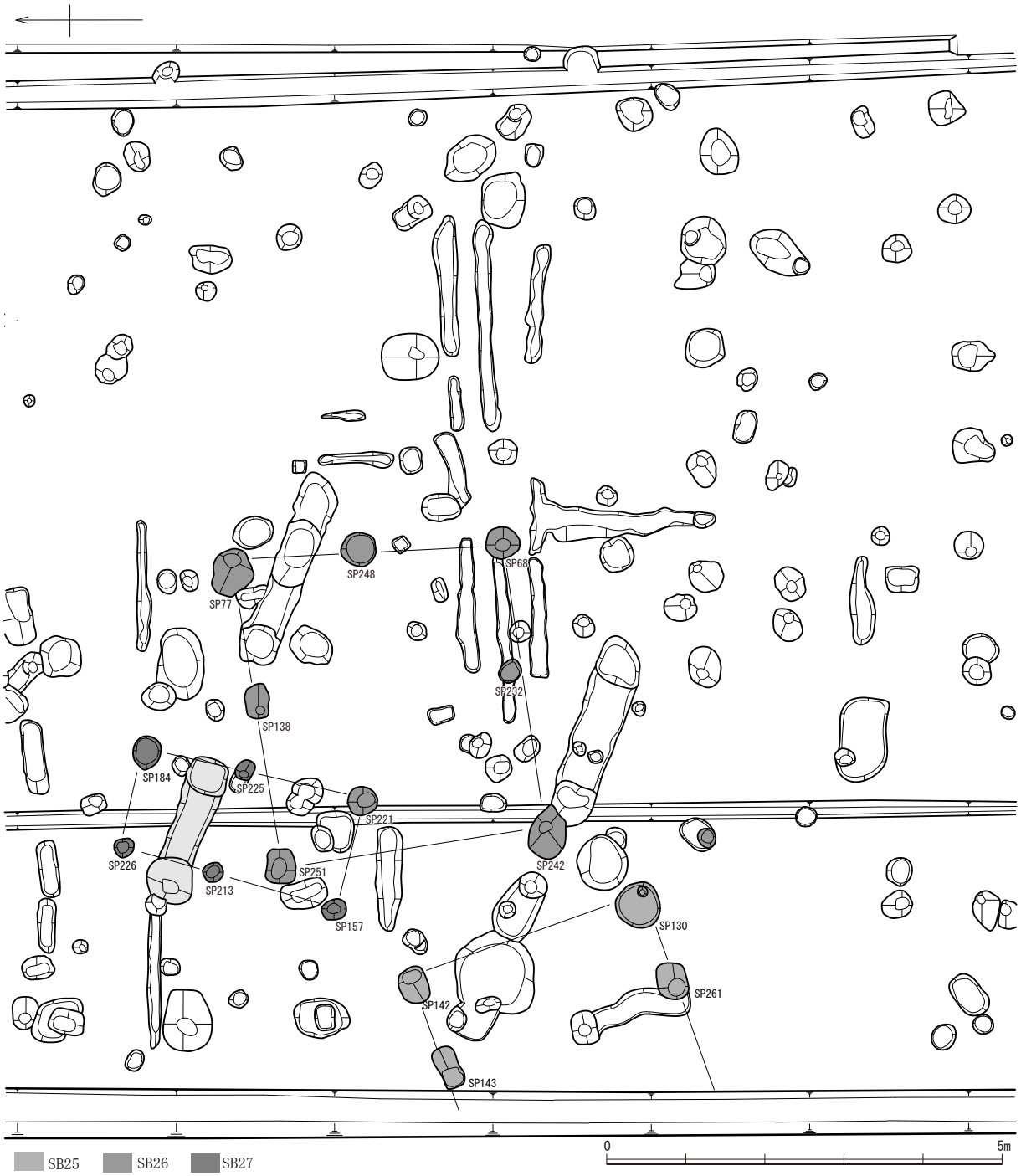
溝は 98条を検出した。ここでは住居域、墓域を区画したと考えられる溝や遺物が出土した溝について記述する。



第24図　SB22～ 24 実測図（縮尺 1/80）

SD33～36・49～53・61・62・66・71（第29～31図）Ａ４・５、Ｂ４で検出した東西方向に延びる溝群である。位置関係が重複する住居跡のすぐ傍にみられ、また溝群を境に北側では遺構が減少する傾向から集落の北端を画するものと推測できる。出土遺物は埋土上部に集中しており、廃棄は遺構の堆積が進み窪地状の段階で行われたと推測できる。先後関係は明らかにできなかった。出土した土器の多くは弥生時代末から古墳時代初頭である。

SD84（第32図）Ａ 25に位置し、東西方向に延びる溝である。長さは4.5m、幅は1.6m、深さは0.3m



第25図　SB25～ 27 実測図（縮尺 1/80）

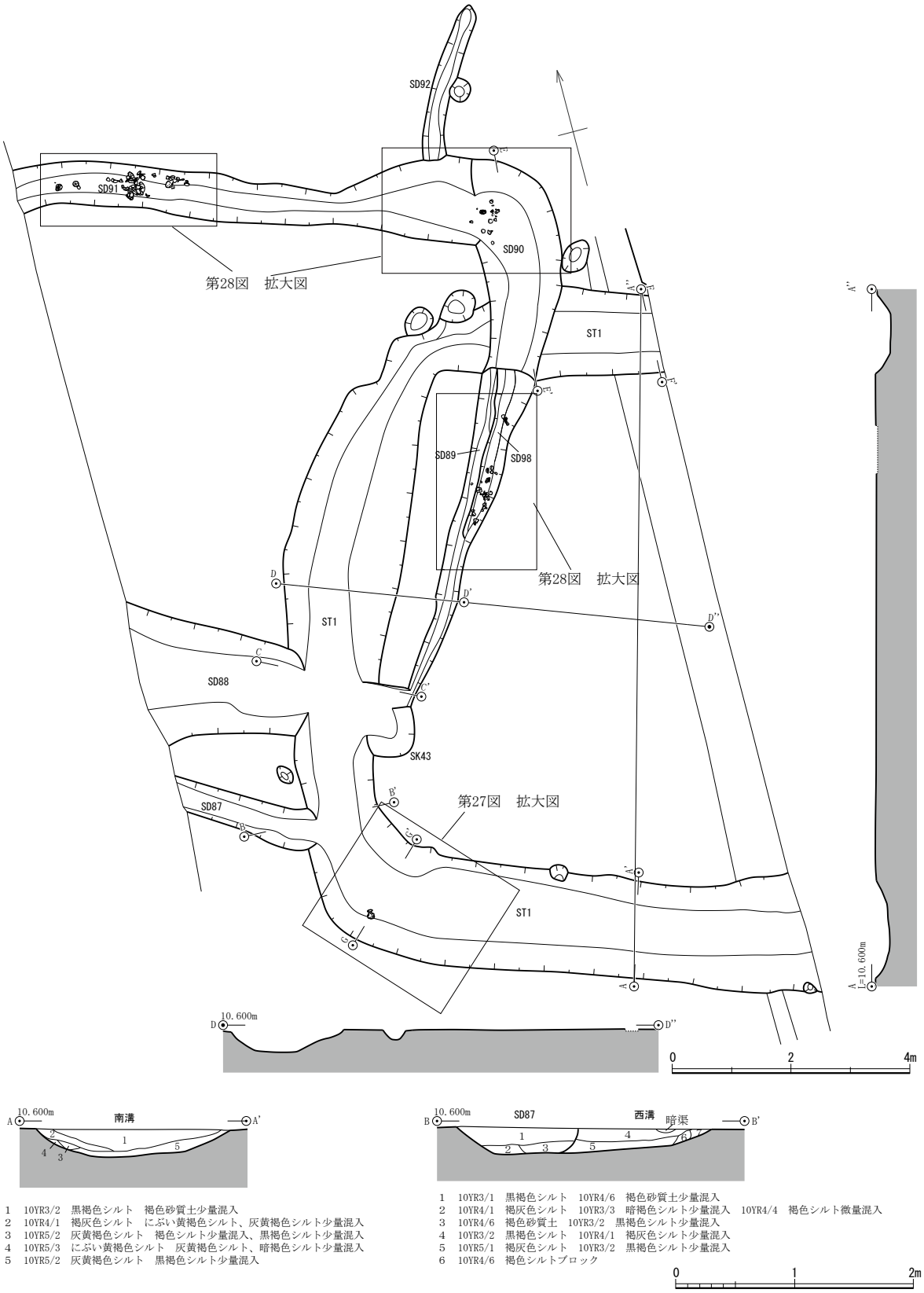
を測る。出土遺物はなく、時期は不明である。

SD85（第32図）Ａ 25に位置する。SD84に平行する溝である。長さは4.4m、幅は0.5m、深さは0.1mを測る。出土遺物はなく、時期は不明である。

SD86（第32図）Ａ・Ｂ 25に位置し、東西方向に延びる溝で、ST１にほぼ平行する。長さは10.5m、幅は2.1m、深さは0.48mを測る。墓域の南端を画する溝と考えられる。出土遺物から古墳時代初頭に位置付けられる。

SD89（第28図）Ａ・Ｂ 24・25に位置する溝である。長さは5.5m、幅は0.5m、深さは0.5mを測る。

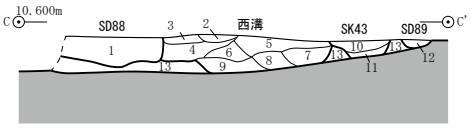
SD90（第28図）Ｂ 23に位置する。長さ3.4m、幅は1.5m、深さは0.2mを測る。ST１と重複が見られ、



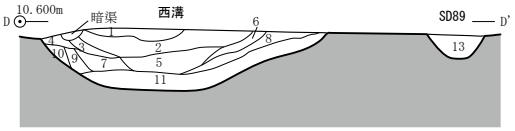
第26図　ST１実測図１（縮尺 1/50・1/100）

その先後関係は出土遺物及び断面からST１→SD90と判断できる。

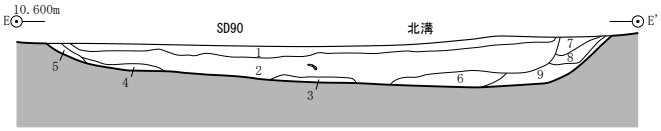
SD91（第28図）Ａ・Ｂ 23に位置し東西方向に延びる。長さ7.5m、幅は0.7m、深さは0.28mを測る。東側でSD90に当たるが先後関係は明らかにできなかった。



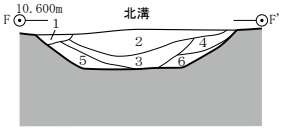
1　10YR3/1　黒褐色シルト　褐色砂質土少量混入
2　10YR4/1　褐灰色シルト　暗褐色シルト少量混入　10YR4/4　褐色シルト微量混入
3　10YR4/6　褐色砂質土　黒褐色シルト少量混入
4　10YR3/2　黒褐色シルト　褐灰色シルト少量混入
5　10YR5/1　褐灰色シルト　黒褐色シルト少量混入
6　10YR4/6　褐色シルトブロック
7　10YR6/1　褐灰色粘質土　暗褐色シルト少量混入
8　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　褐灰色シルト少量混入
9　10YR5/2　灰黄褐色シルト　暗灰黄色シルト、暗褐色砂質土少量混入　鉄分少量混入
10　10YR5/2　灰黄褐色シルト　暗灰黄色シルト、褐色砂質土少量混入
11　2.5Y6/2　灰黄色粘質土　褐色シルト少量混入
12　10YR5/1　褐灰色シルト　黒褐色砂質土微量混入
13　地山



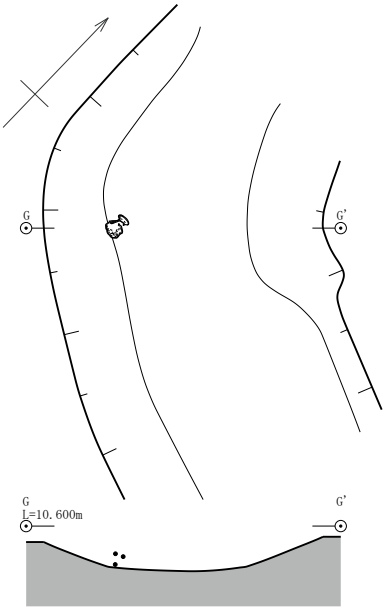
1　10YR3/2　黒褐色シルト　灰黄褐色シルト、褐色砂質土少量混入
2　10YR6/1　褐灰色砂質土ブロック
3　10YR3/3　暗褐色砂質土　灰黄褐色シルト少量混入
4　10YR3/2　黒褐色シルト　褐色砂質土、にぶい黄褐色シルト少量混入
5　10YR4/2　灰黄褐色シルト　暗褐色シルト少量混入
6　10YR3/3　暗褐色シルト　灰黄褐色シルト少量混入
7　10YR6/1　褐灰色粘質土　暗褐色シルト少量混入
8　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　褐灰色シルト少量混入
9　10YR5/2　灰黄褐色シルト　暗灰黄色砂質土、暗褐色シルト少量混入
10　10YR5/2　灰黄褐色シルト　暗灰黄色シルト、褐色砂質土少量混入
11　2.5Y6/2　灰黄色粘質土　褐色砂質土微量混入
12　10YR5/1　褐灰色シルト　褐色砂質土微量混入

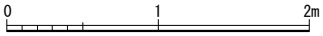


1　10YR3/1　黒褐色砂質土　暗褐色シルト少量混入　鉄分少量混入
2　10YR4/1　褐灰色シルト　黒褐色シルト少量混入　褐色砂質土少量混入
3　2.5Y5/2　暗灰黄色砂質土　灰オリーブ色シルト少量混入
4　10YR4/2　灰黄褐色砂質土　暗褐色シルト少量混入
5　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト少量混入　褐色砂質土
6　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト少量混入
7　2.5Y3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色シルト、褐色砂質土少量混入
8　2.5Y5/2　暗灰黄色シルト　暗褐色シルト、灰黄褐色シルト少量混入
9　2.5Y4/2　暗灰黄色シルト　黒褐色シルト、褐色砂質土少量混入



1　10YR3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色砂質土、鉄分少量混入
2　2.5Y3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色シルト、褐色砂質土少量混入
3　2.5Y5/2　暗灰黄色シルト　暗褐色シルト、灰黄褐色シルト少量混入
4　2.5Y4/2　暗灰黄色シルト　黒褐色シルト少量混入　鉄分少量混入
5　2.5Y4/1　黄灰色シルト　暗褐色シルト少量混入　鉄分微量混入
6　2.5Y4/2　暗灰黄色シルト　黒褐色シルト、褐色砂質土少量混入





第27図　ST2 実測図２（縮尺 1/50）

SD93・94（第 33 図）Ａ 20・21、Ｂ 21に位置し東西方向に延びる。長さは0.4m、幅は4.8m、深さは0.68mを測る。土層断面からSD93→94の先後関係が捉えられる。出土遺物は西側端の遺構面上部に集中しており、東側に見られないことから西側調査区に延びるとともに、廃棄は堆積が進み窪地状の段階で行われたと推測できる。時期は弥生時代後期末から古墳時代初頭時代に位置付けられる。

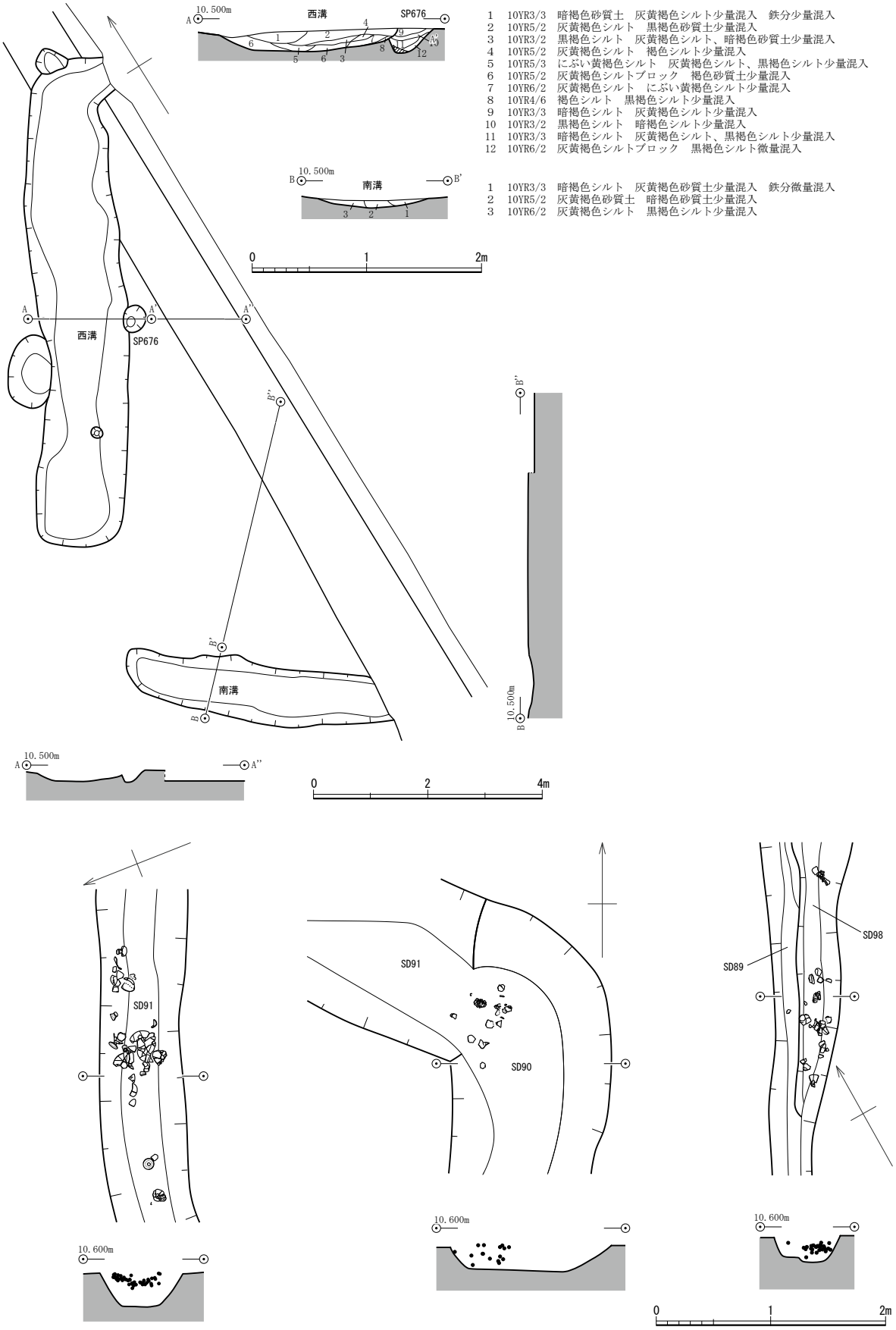
SD95（第33図）Ａ 20、Ｂ 21に位置し、東西方向に延びる。ST２・SD93・94に近接し、ほぼ平行する。長さは12.5m、幅は1.0m、深さは0.3mを測る。時期は出土遺物から古墳時代初頭に位置付けられる。そのため SD93・94の堆積が進む段階に応じて区画溝として掘られたものと推測できる。

SD98（第28図）Ａ・Ｂ 24に位置する。長さは3.0m、幅は0.5m、深さは0.5mを測る。SD89重複するが先後関係は不明である。

５　ピット（第34図）

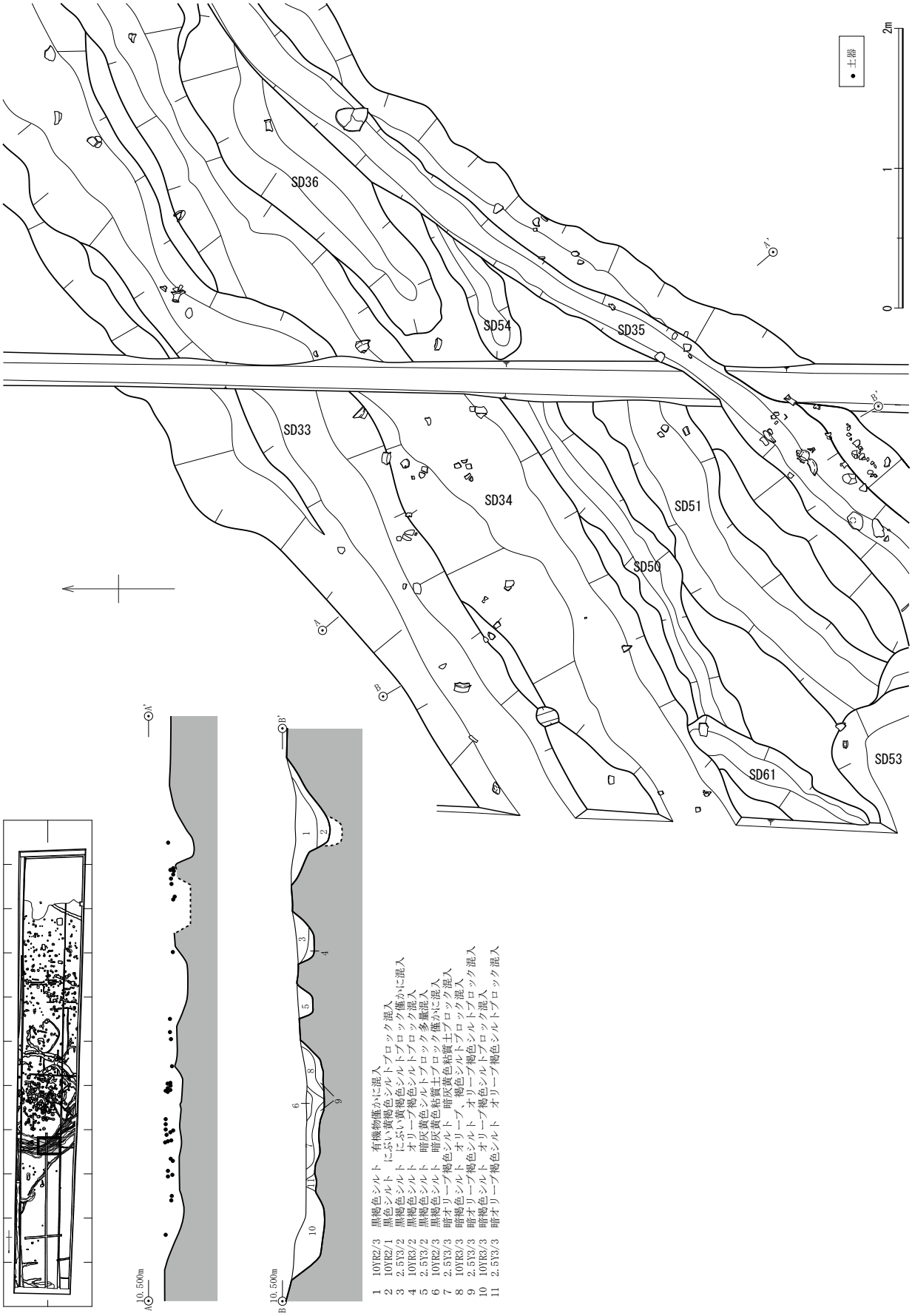
今回の調査では６８２基を検出した。以下には、遺物が良好に遺存したものや礎板が遺存するピットについて記述する。

SP278（第34図）Ｂ５に位置する。径は0.9m、深さ0.5mを測る。礎板が遺存していた。礎板表面に円形状柱痕と思われる痕跡が２重にみられる。

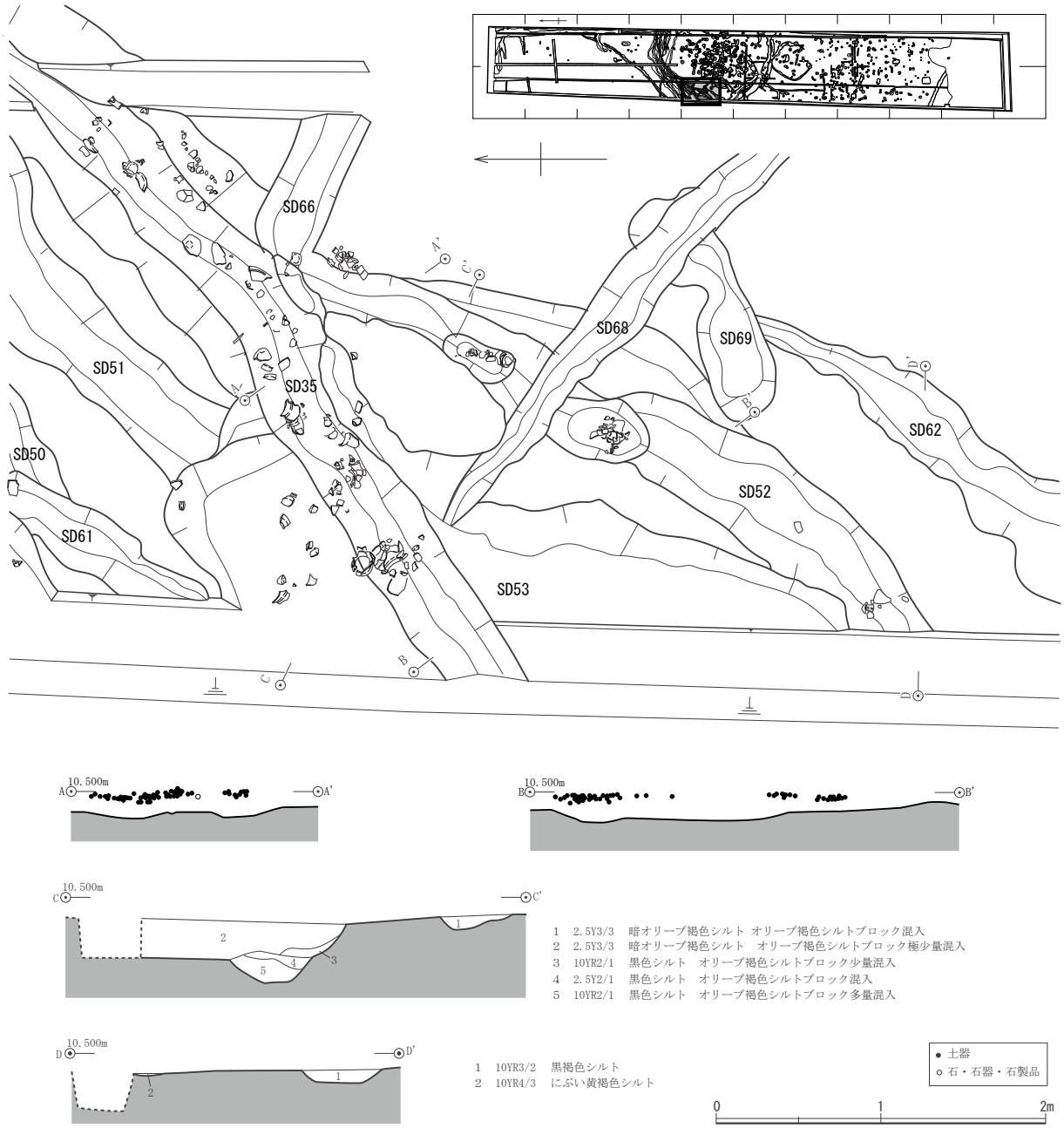


第28図　ST２・SD89～91・98 実測図（縮尺 1/50・1/100）

第29図　SD33～ 36・71 実測図（縮尺 1/40）



第30図　SD33～ 36・50・51・53・54・61 実測図（縮尺 1/40）



第31図　SD35・50～53・61・62・66・68・69 実測図（縮尺 1/40）

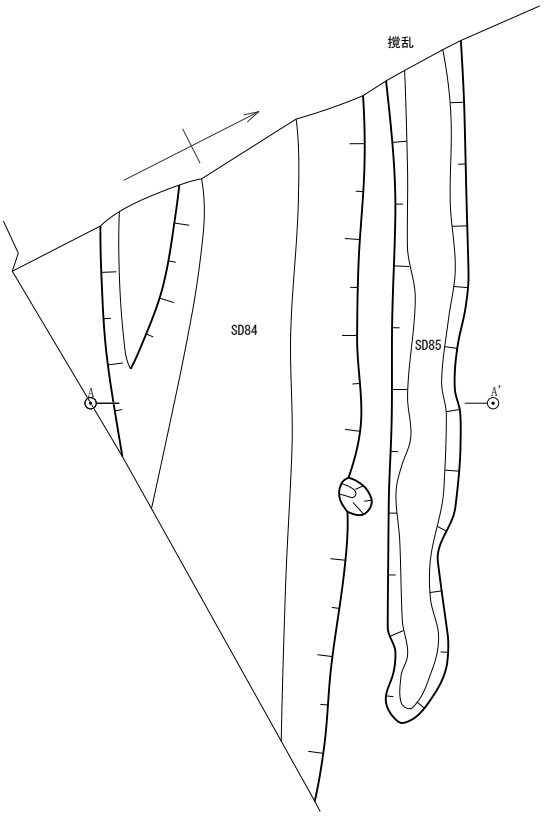
SP305・383（第34図）Ｂ５に位置する。SP305がSP383を切る。SP305の径は0.64m、深さ0.42mを測る。SP383の径は0.48m、深さ0.46mを測る。礎板が遺存し建物を構成する柱穴と推測される。

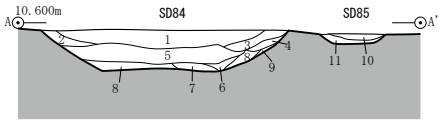
SP390・391（第34図）Ｂ５に位置する。径は0.9m、深さ0.3mを測る。出土遺物はほぼ完形に近い状態で出土しており、意図的に埋設されたと推測される。

６　自然流路（第５図・第35図）

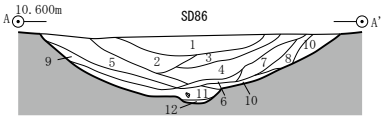
NR１（第５図・第35図）Ａ・Ｂ 10～14に位置し、東西方向へ流れる河川である。北岸はカクランを受けており不明であるが、推定幅約45m、深さ0.95mを測る。南岸の西端部の覆土上層に古墳時代初頭の土器がまとまって出土した。出土状況から、NR１が埋没し窪地の段階に廃棄されたと推測する。

NR２（第５図・第35図）Ａ・Ｂ 21～23に位置し、東西方向に流れる河川である。幅約18m、深さ0.8mを測る。

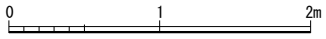


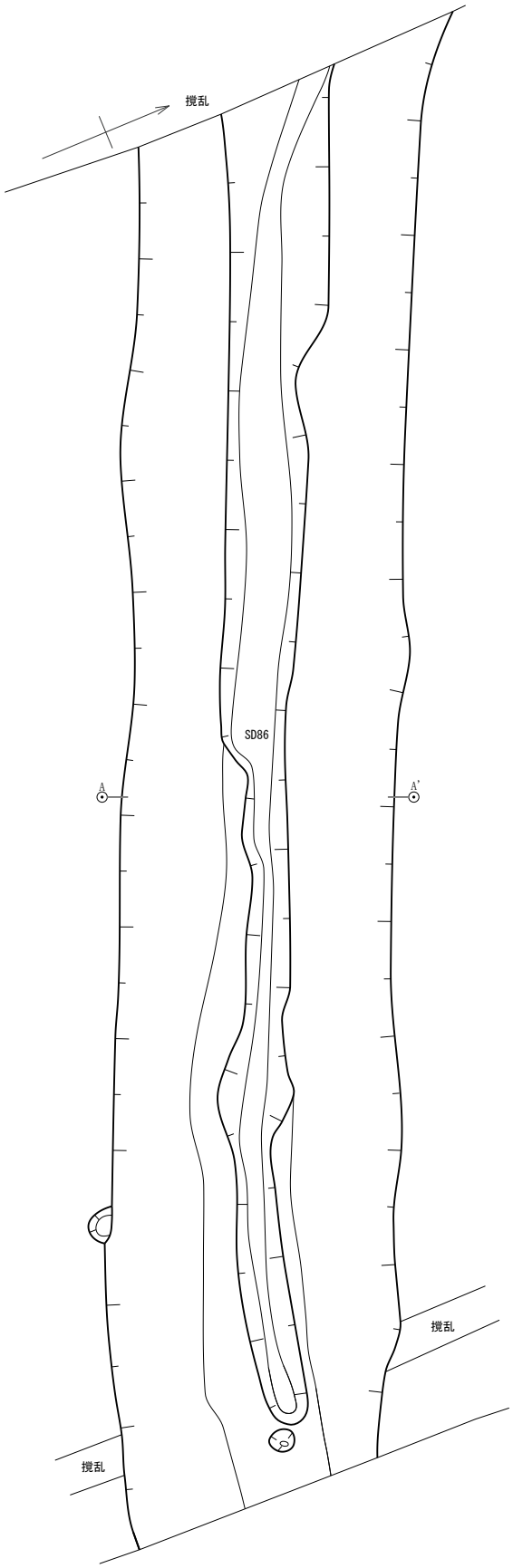


1　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　灰黄褐色シルト、褐色砂質土少量混入
2　10YR4/2　灰黄褐色シルト　暗褐色シルト少量混入　鉄分微量混入
3　10YR3/2　黒褐色シルト　褐灰色シルト、褐色砂質土少量混入
4　10YR5/2　灰黄褐色粘質土　黒色シルト少量混入
5　10YR5/2　灰黄褐色シルトブロック
6　10YR4/1　褐灰色シルト　にぶい黄褐色シルト少量混入
7　10YR5/2　灰黄褐色粘質土　褐色シルト少量混入
8　10YR5/3　にぶい黄褐色粘質土　暗褐色シルト少量混入
9　10YR4/1　褐灰色シルト　灰黄褐色シルト少量混入、にぶい黄褐色シルト少量混入
10　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色砂質土少量混入
11　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　暗褐色シルト少量混入

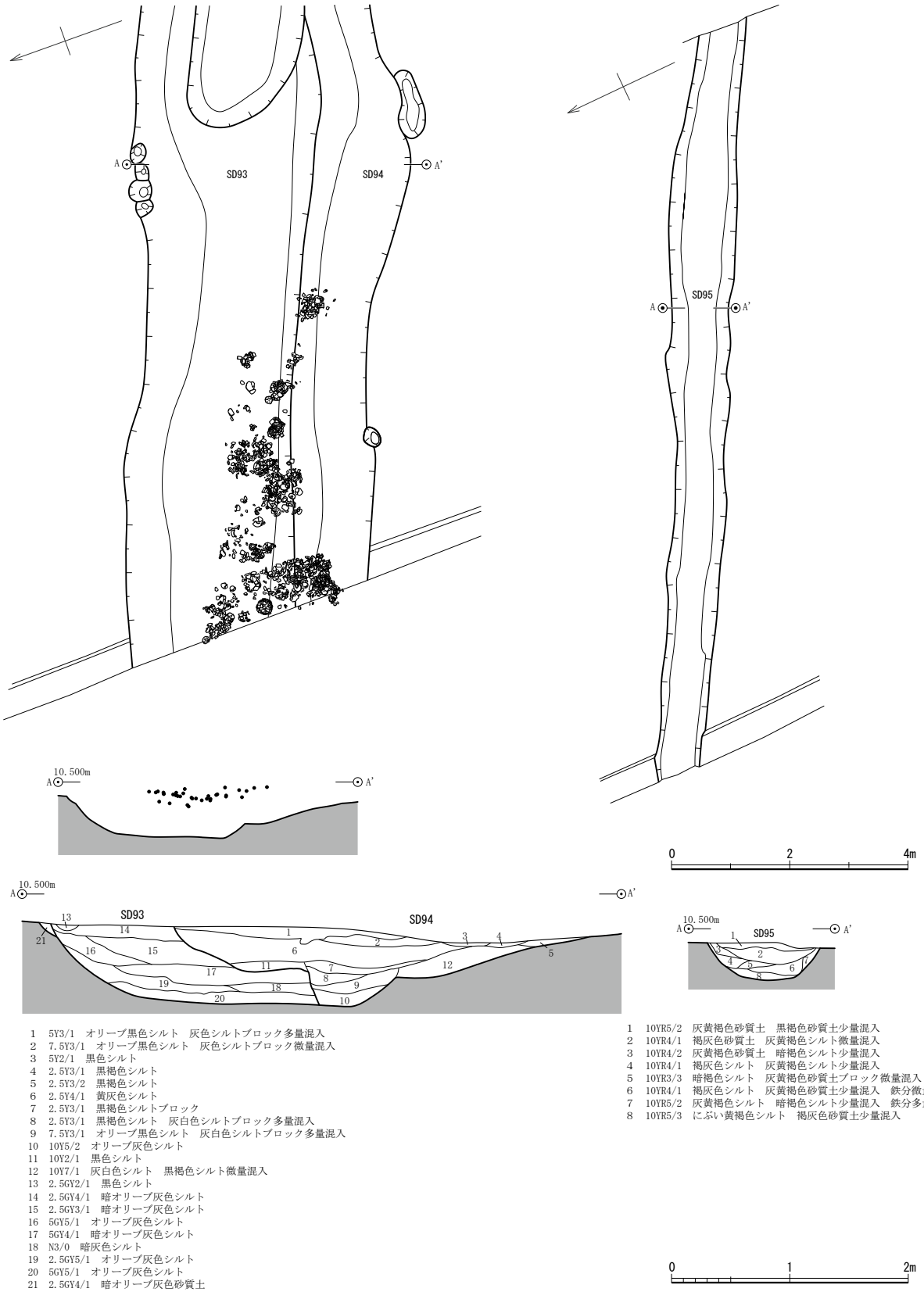


1　10YR4/1　褐灰色シルト　褐色砂質土少量混入　鉄分少量混入
2　10YR5/1　褐灰色シルト　黒褐色シルト、褐色シルト少量混入
3　2.5Y5/1　黄灰色シルト　にぶい黄褐色シルト少量混入　鉄分少量混入
4　10YR4/2　灰黄褐色シルト　暗褐色シルト少量混入　鉄分多量混入
5　10YR5/1　褐灰色粘質土　灰黄褐色シルト、褐色シルト少量混入
6　10YR4/2　灰黄褐色シルト　暗灰黄色シルト少量混入
7　10YR4/2　灰黄褐色粘質土　にぶい黄褐色シルト少量混入　鉄分少量混入
8　10YR5/1　褐灰色粘質土　褐色シルト、灰黄褐色粘質土少量混入　鉄分少量混入
9　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　灰黄褐色シルト少量混入　鉄分少量混入
10　2.5Y5/1　黄灰色粘質土　黒褐色シルト少量混入
11　2.5Y4/1　黄灰色シルト　黒褐色シルト、灰黄褐色粘質土少量混入　鉄分少量混入
12　10YR4/2　灰黄褐色シルト　暗褐色シルト少量混入　鉄分少量混入





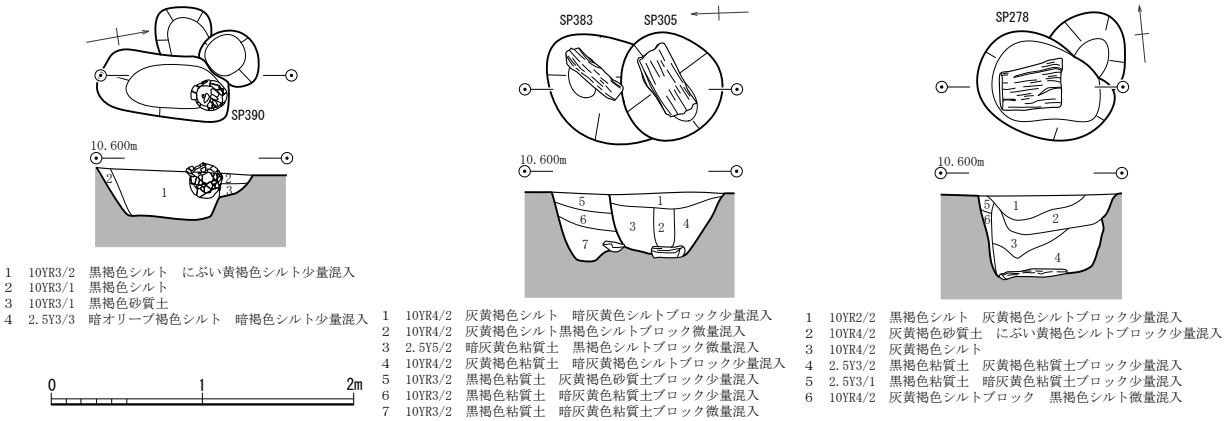
第32図　SD84～86 実測図（縮尺 1/50）



1　5Y3/1　オリーブ黒色シルト　灰色シルトブロック多量混入
2　7.5Y3/1　オリーブ黒色シルト　灰色シルトブロック微量混入
3　5Y2/1　黒色シルト
4　2.5Y3/1　黒褐色シルト
5　2.5Y3/2　黒褐色シルト
6　2.5Y4/1　黄灰色シルト
7　2.5Y3/1　黒褐色シルトブロック
8　2.5Y3/1　黒褐色シルト　灰白色シルトブロック多量混入
9　7.5Y3/1　オリーブ黒色シルト　灰白色シルトブロック多量混入
10　10Y5/2　オリーブ灰色シルト
11　10Y2/1　黒色シルト
12　10Y7/1　灰白色シルト　黒褐色シルト微量混入
13　2.5GY2/1　黒色シルト
14　2.5GY4/1　暗オリーブ灰色シルト
15　2.5GY3/1　暗オリーブ灰色シルト
16　5GY5/1　オリーブ灰色シルト
17　5GY4/1　暗オリーブ灰色シルト
18　N3/0　暗灰色シルト
19　2.5GY5/1　オリーブ灰色シルト
20　5GY5/1　オリーブ灰色シルト
21　2.5GY4/1　暗オリーブ灰色砂質土

1　10YR5/2　灰黄褐色砂質土　黒褐色砂質土少量混入
2　10YR4/1　褐灰色砂質土　灰黄褐色シルト微量混入
3　10YR4/2　灰黄褐色砂質土　暗褐色シルト少量混入
4　10YR4/1　褐灰色シルト　灰黄褐色シルト少量混入
5　10YR3/3　暗褐色シルト　灰黄褐色砂質土ブロック微量混入
6　10YR4/1　褐灰色シルト　灰黄褐色砂質土少量混入　鉄分微量混入
7　10YR5/2　灰黄褐色シルト　暗褐色シルト少量混入　鉄分多量混入
8　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　褐灰色砂質土少量混入

第33図　SD93～ 95 実測図（縮尺 1/50・1/100）

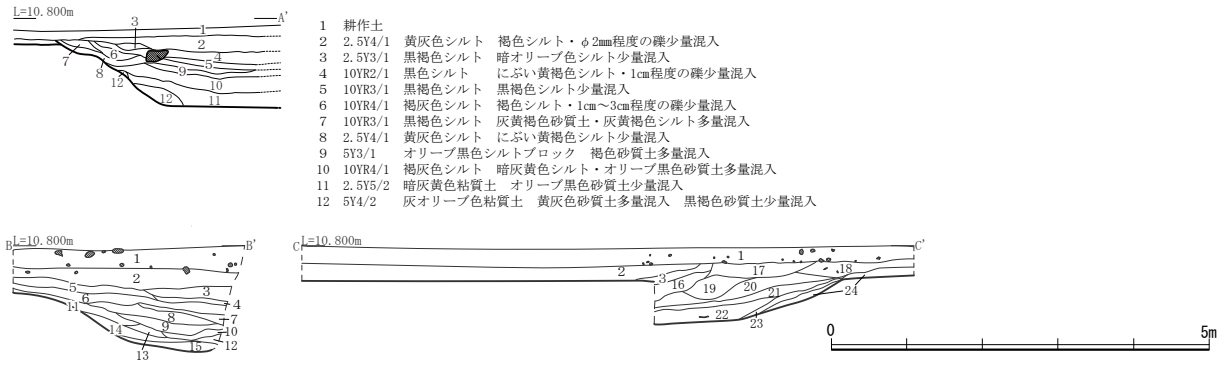


1　10YR3/2　黒褐色シルト　にぶい黄褐色シルト少量混入
2　10YR3/1　黒褐色シルト
3　10YR3/1　黒褐色砂質土
4　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色シルト　暗褐色シルト少量混入

1　10YR4/2　灰黄褐色シルト　暗灰黄色シルトブロック少量混入
2　10YR4/2　灰黄褐色シルト黒褐色シルトブロック微量混入
3　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　黒褐色シルトブロック微量混入
4　10YR4/2　灰黄褐色粘質土　暗灰黄褐色シルトブロック少量混入
5　10YR3/2　黒褐色粘質土　灰黄褐色砂質土ブロック少量混入
6　10YR3/2　黒褐色粘質土　暗灰黄色粘質土ブロック少量混入
7　10YR3/2　黒褐色粘質土　暗灰黄色粘質土ブロック微量混入

1　10YR2/2　黒褐色シルト　灰黄褐色シルトブロック少量混入
2　10YR4/2　灰黄褐色砂質土　にぶい黄褐色シルトブロック少量混入
3　10YR4/2　灰黄褐色シルト
4　2.5Y3/2　黒褐色粘質土　灰黄褐色粘質土ブロック少量混入
5　2.5Y3/1　黒褐色粘質土　暗灰黄色粘質土ブロック少量混入
6　10YR4/2　灰黄褐色シルトブロック　黒褐色シルト微量混入

第34図　SP278・305・338・372・383・390 実測図（縮尺 1/50）



1　耕作土
2　2.5Y4/1　黄灰色シルト　褐色シルト・φ2mm程度の礫少量混入
3　2.5Y3/1　黒褐色シルト　暗オリーブ色シルト少量混入
4　10YR2/1　黒色シルト　にぶい黄褐色シルト・1cm程度の礫少量混入
5　10YR3/1　黒褐色シルト　黒褐色シルト少量混入
6　10YR4/1　褐灰色シルト　褐色シルト・1cm～3cm程度の礫少量混入
7　10YR3/1　黒褐色シルト　灰黄褐色砂質土・灰黄褐色シルト多量混入
8　2.5Y4/1　黄灰色シルト　にぶい黄褐色シルト少量混入
9　5Y3/1　オリーブ黒色シルトブロック　褐色砂質土多量混入
10　10YR4/1　褐灰色シルト　暗灰黄色シルト・オリーブ黒色砂質土多量混入
11　2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土　オリーブ黒色砂質土少量混入
12　5Y4/2　灰オリーブ色粘質土　黄灰色砂質土多量混入　黒褐色砂質土少量混入

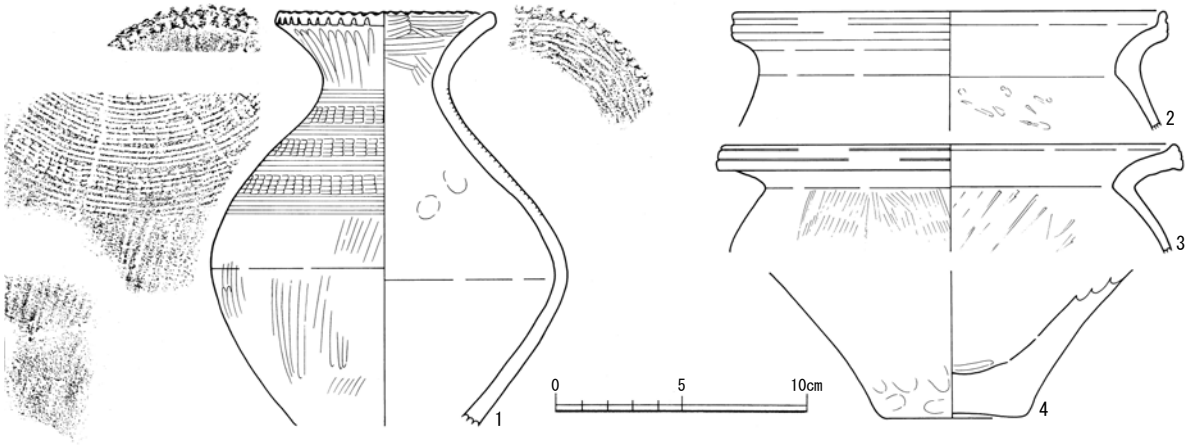
1　耕作土
2　10YR3/2　黒褐色シルト　褐色砂質土少量混入　鉄分微量混入
3　2.5Y4/1　黄灰色砂質土ブロック　黒褐色シルト少量混入
4　10YR3/2　黒褐色砂質土ブロック　φ1mm程度の炭微量混入
5　2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土　黒褐色砂質土・灰黄褐色砂質土少量混入
6　2.5Y4/2　暗灰黄色シルトブロック
7　2.5Y5/2　暗灰黄色砂質土　黒褐色シルトブロック少量混入
8　2.5Y4/2　暗灰黄色シルト　灰黄褐色砂質土少量混入
9　10YR5/2　灰黄褐色シルトブロック　黒褐色シルト少量混入
10　10YR3/2　黒褐色シルト　灰黄褐色シルトブロック少量混入
11　2.5Y5/2　暗灰黄色砂質土ブロック　暗褐色シルト少量混入
12　2.5Y4/1　黄灰色シルトブロック
13　10YR3/3　暗褐色シルト　褐灰色シルト少量混入
14　2.5Y4/2　暗灰黄色シルト　黒褐色シルト少量混入
15　5Y5/1　灰色粘質土ブロック
16　2.5Y5/1　黄灰色シルトブロック　灰オリーブ色砂質土多量混入
17　10YR3/3　暗褐色シルトブロック
18　10YR3/2　黒褐色シルト　灰黄褐色砂質土少量混入
19　10YR3/2　黒褐色シルト　にぶい黄褐色シルト少量混入
20　10YR3/2　黒褐色砂質土ブロック　φ1mm程度の炭微量混入
21　2.5Y4/2　暗灰黄色シルトブロック
22　2.5Y5/2　暗灰黄色砂質土　黒褐色シルトブロック少量混入
23　5Y4/2　灰オリーブ色砂質土　黒褐色シルト少量混入　灰黄褐色砂質土微量混入
24　10YR4/2　灰黄褐色シルト　黒褐色シルト少量混入

第35図　NR１・２実測図（縮尺 1/100）

第２節　遺物（第36～83図）

上河北江原町遺跡の今回の調査で出土した遺物の大半は土器で、そのほかは若干数の石器と玉類・玉作関連遺物および柱穴に残された柱痕などの木製品である。土器の時期は弥生時代後期末から古墳時代前期までの土器が大半を占め、口縁の内面肥厚が特徴の布留式の甕は数点と少ない。糞置遺跡や下莇生田遺跡など周辺の遺跡を初め福井市周辺では弥生時代後期の集落と古墳時代前期である布留式の甕を出土する集落が重なる場合が多いが、今回の調査では布留式まで降ると考えられる土器は少なく、調査区付近の遺跡内に展開する可能性がある。弥生時代後期でも擬凹線を施文する有段口縁甕の最盛期である月影式とされる最終末と、古墳時代初頭の白江式そして布留式の時期は若干の粗密はあるものの集落が継続することが多く、弥生時代と古墳時代の境界が明瞭ではない。つまり弥生土器と古式土師器に区別することが困難であることから、あえて時期の区分を示さない。

本遺跡から出土した土器のほとんどが溝からの出土で、これはこの時期の沖積地の集落では溝で柱穴群を囲む平地式住居が住居と考えられ建物が多く、今回の調査で確実なものは２棟検出されている。しかし周辺の遺跡で確認されている井戸と想定されるものは検出されていない。一方ではほとんど図化できるような土器を伴わない事例の多い掘立柱建物で、今回は24棟復元できた掘立柱建物のうち20棟の柱



第36図　ST１出土土器実測図（縮尺 1/3）

穴から時期を示す土器が出土した。この土器が建物の時期を確実に示すとは言えないこともあるが、ここでは極力図化することとした（第38～44図）。またSB６のSP372で23点、SB10のSP443で９点もの土器を図化できたのはかなり特殊な事例である。

１　土器（第36～77図）

ST１（方形周溝墓）出土の土器（第36図）

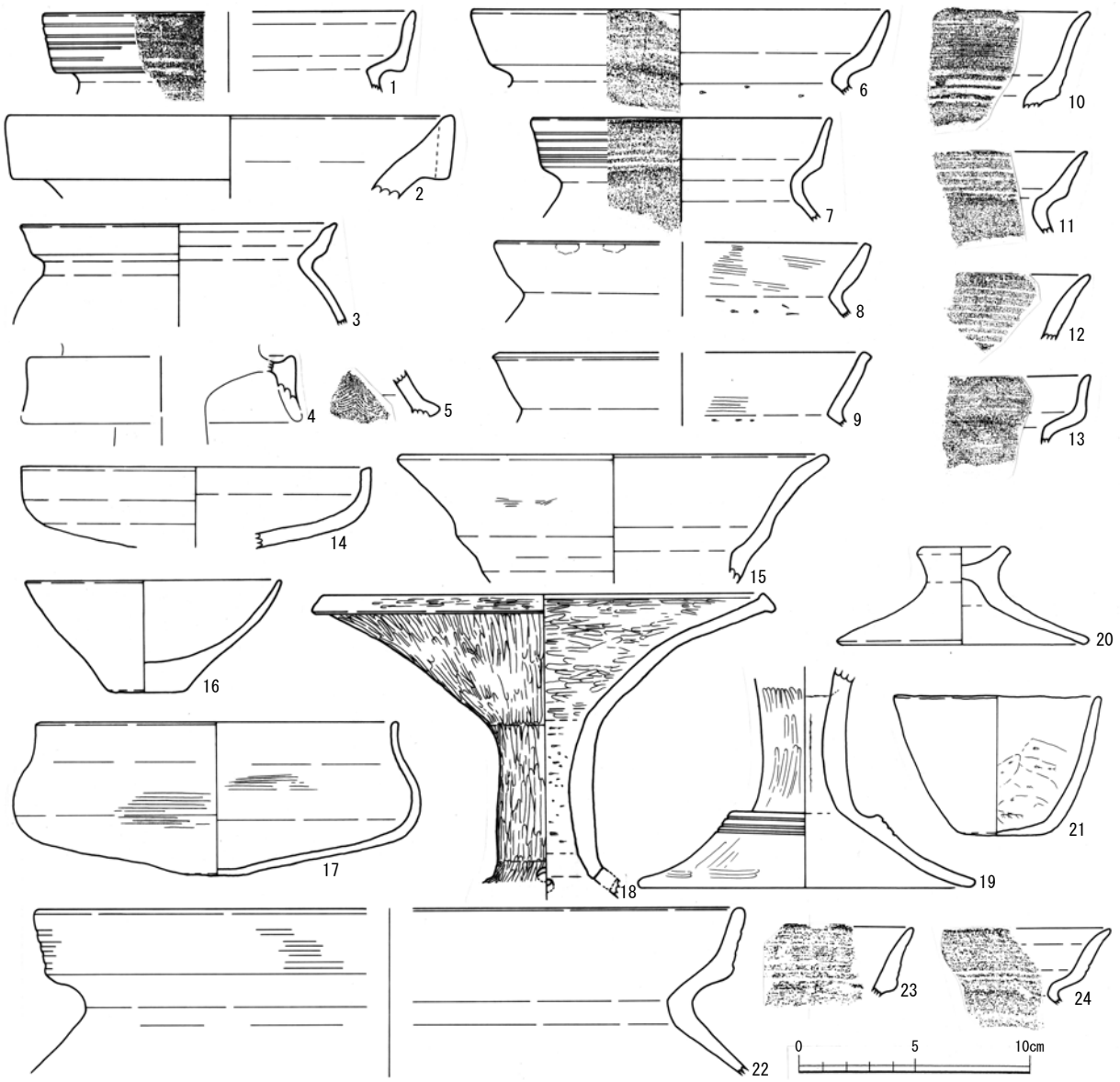
ST１（方形周溝墓）からは供献土器と考えられる小型の壺（第36図１）が出土している。底部と胴部の一部を欠くが、全体が分かるまで図化できた。やや長胴で丸みのある胴部から屈曲して口縁部が外反する。口縁端部は上下交互に刺突を加える。頸部から胴部上半に４本を基本とする櫛描直線文と簾状文を３段施文しさらに最下段に櫛描直線文を巡らす。外面の頸部と胴部下半には縦方向のミガキ調整を、口縁内面にはヨコハケを行う。ST１からはこの他に擬凹線文の甕の口縁部２点と、中型の壺底部（第36図４）が出土している。甕の口縁部は口縁端部が僅かに立ち上がるもの（第36図２）と口縁端部内面が肥厚する程度に摘まみ上げるもの（第36図３）でどちらも口縁部に２条の擬凹線を施文する。内面は頸部までケズリが及ぶ。

SI・SK 出土の土器（第37・38図）

SI１からは口縁部に６条の擬凹線を施文する有段口縁（第37図１）、SP404から擬凹線文の有段口縁甕口縁部片（第38図８）とヨコナデ調整の有段口縁甕口縁部片（第38図11）、SP240 から受口状口縁壺の口縁部片（第38図12）と壺の底部（第38図10）、SP351から擬凹線文の有段口縁甕口縁部（第38図９）、SP426から擬凹線文の有段口縁甕口縁部（第38図13）が出土している（第43図）。

SI２からは20点の土器が図化できた。甕は有段口縁で擬凹線文があるもの５点（第 37 図７・10～13）と擬凹線文がないヨコナデのもの２点（第37図３・６）に「く」の字甕の口縁２点（第37図８・９）である。有段口縁はいずれも口縁帯の立ち上がりから外傾する。壺は複合口縁のもの（第37図２）だけである。この他に装飾器台の擬凹線などが施文されない垂下帯（第37図４）と波状文が施文される高坏か器台の一部と考えられるもの（第37図５）である。SP151 から器台の有段になる受部（第38図７）、SP153 から小型器台の受部（第38図２）、SP154から擬凹線文の有段口縁甕口縁部片（第38図１・３）と脚部が有段となる器台の筒部（第38図６）と甕の底部（第38図４・５）が出土している（第43図）。

SK10からは口縁部が垂直に立ち上がる須恵器坏のような鉢（第37図14）が出土している。SK17からは有段の口縁部をヨコナデする鉢（第37図15）が出土している。SK23 からは口径が10㎝強の蓋（第37図20）



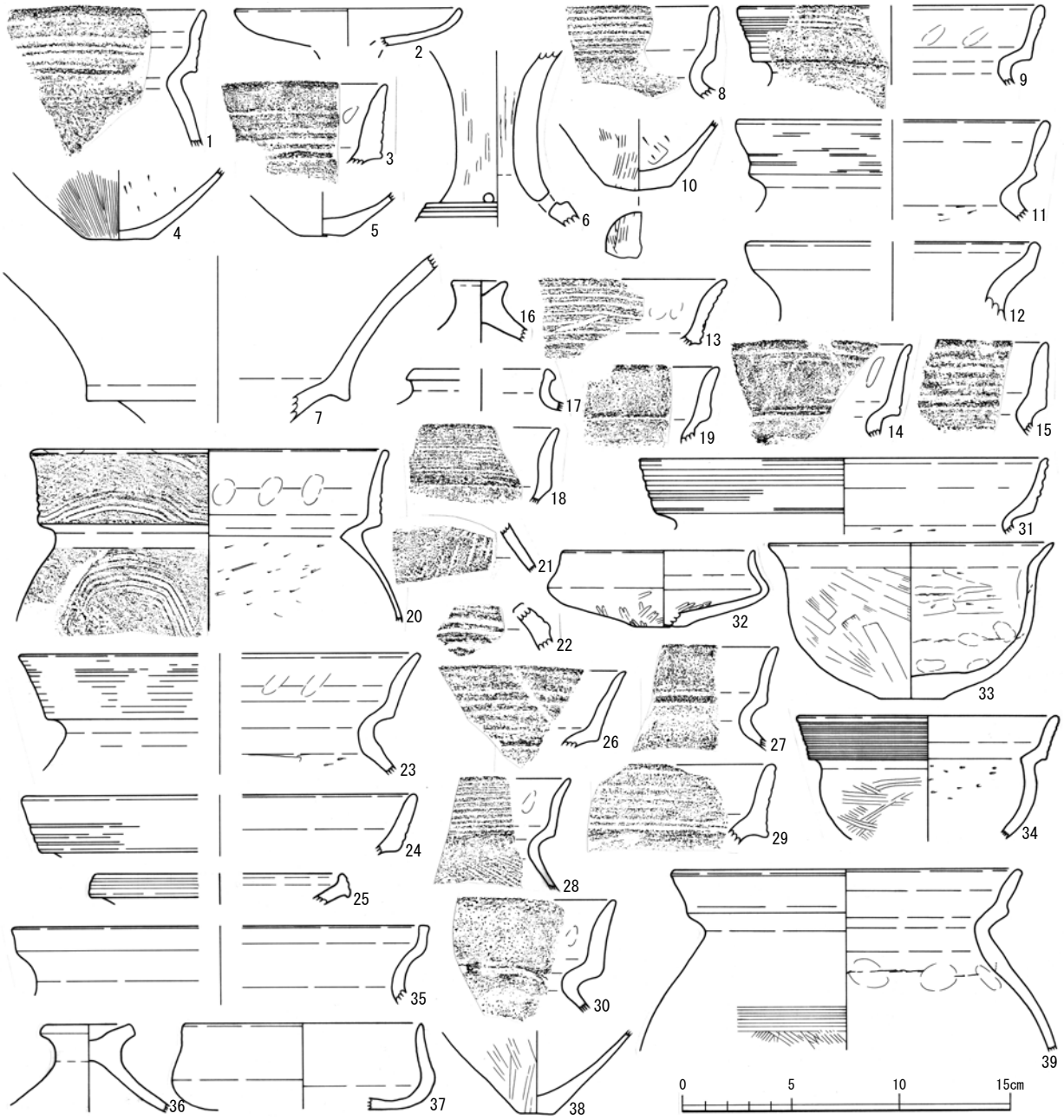
第37図　SI・SK 出土土器実測図（縮尺 1/3）

と平底の鉢（第37図21）が出土している。SK31からは平底から大きく開く口縁の鉢（第37図16）と口縁が内湾する浅く平たい鉢（第37図17）が出土している。SK35からは器台の有段脚（第37図19）が出土している。柱状部から脚へ屈曲する有段部に通常は見られる孔は確認されない。SK38から出土した器台は一見すると棒状の脚部に見えるが、屈曲部に孔が確認されることから器台の受部（第37図18）と判断した。内面もヨコミガキであり、脚部とするには問題が大きい。SK44 からは甕の有段口縁部３点が出土している。大型のもの（第37図22）は擬凹線文が摩滅して条線は不明である。他の２点（第37図23・24）は口縁先端が先細りし、条線の明瞭な擬凹線文が残る。

SB（掘立柱建物）想定の SP（柱穴）出土の土器（第38～44図）

SB３のSP122から短頸壷の口縁部片（第38図17）が、SP123からヨコナデ調整の有段口縁甕口縁部片（第38図19）と小型の蓋のつまみ部分（第38図16）が、SP126 からハケ状工具による擬凹線文の有段口縁甕口縁部片（第38図18）が出土している。

SB４のSP48から擬凹線文の有段口縁甕口縁部片（第38図15）が、SP42からも摩滅して擬凹線文は不明



第38図　SB１～９の柱穴出土土器実測図（縮尺 1/3）

瞭な有段口縁甕口縁部片（第38図14）が出土している。

SB５のSP139から擬凹線文の有段口縁甕口縁部片（第38図24）、SP202から擬凹線文の有段口縁甕口縁部片（第38図23・26）とヨコナデ調整の有段口縁甕口縁部片（第38図27）、SP224から擬凹線文の有段口縁甕口縁部片（第38図28）とヨコナデ調整の有段口縁甕口縁部片（第38図30）、SP241から壺の口縁部片（第38図25）と櫛描直線文の下に櫛状工具による列点文を加える胴部上半部片（第38図21）、SP234 から摩滅して擬凹線文は不明瞭ながら有段口縁甕口縁部片（第38図29）と２条の沈線がある小片（第38図22）が出土し、後者は縄文時代晩期の可能性がある。SP245から出土した有段口縁甕の口縁部（第38図20）には擬凹線文ではなく櫛描波状文を巡らせ、さらに同様な波状文を胴肩部にも施文する。

SB６の柱穴と想定した SP372 は直径約40㎝と小さいながら、充填されるように大量の土器が出土し（第43図）、23点の土器を図化した。甕は有段口縁12点（第39図１～９・11・13・17）、またはその胴部・底

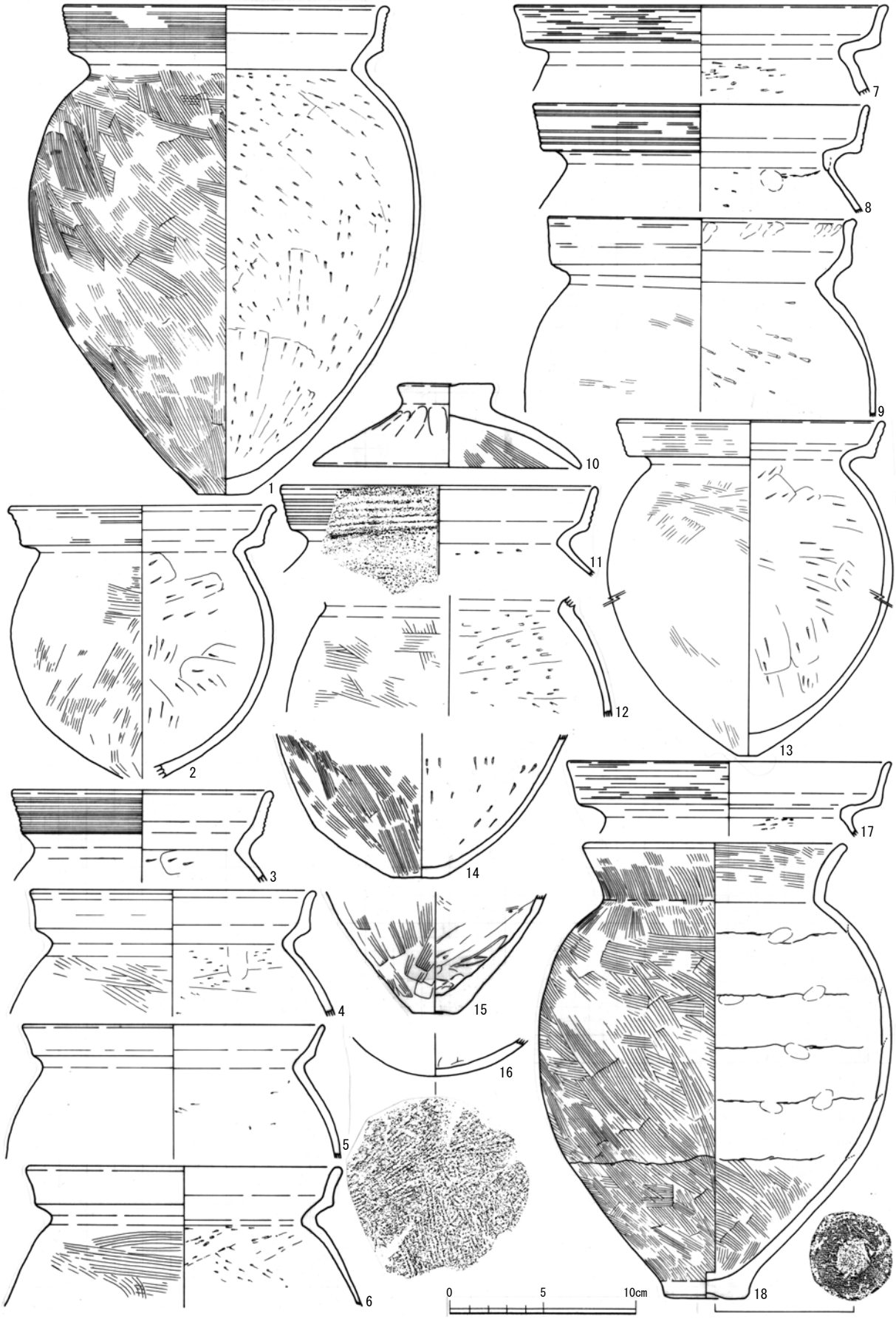
部と考えられるもの４点（第39図12・14・15、第 40 図４）、「く」の字甕１点（第39図18）、壺１点（第40図２）、鉢１点（第40図１）、蓋１点（第39図10）、器台２点（第40図３・５）と23点になる。丸底の底部が１点（第39図16）あるが、他の土器より明らかに新しい布留式の甕のものと考えられ、降った時期からの混入と判断した。さらに同じ SB06 の柱穴と考えられるSP425から有段口縁甕１点（第38図31）、鉢２点（第38図32・34）、SP376からも鉢１点（第38図33）が出土している（第43図）。甕の有段口縁には擬凹線が施文される有文が10点（第38図31、第39図１～３、７～９、11・13・17）、擬凹線が施文されない無文が３点（第39図４～６）である。擬凹線文の多くは個々の条線の幅が広いもの６点（第38図31、第39図１・８・９・11・17）、幅が狭く櫛状のもの４点（第39図２・３・７・13）である。頸部の屈曲が「く」の字のもの９点（第38図31、第39図１～５・９・11・13）、幅は狭いながらも平坦面が明確なもの４点（第39図６～８・17）で、若干前者が多い。後者の平坦面にはヨコハケなどの調整は見られない。口縁の立ち上がりは有文・無文ともにほぼ直立するものは１点（第39図９）と少ないが、その他はやや外傾するもののさほど大きくはなく、いずれも端部を丸く収める。先細りするものはない。無文の有段口縁は口縁帯の中ほどを強く押さえてヨコナデしたためか先が丸いのが目立つ。口縁内面の段が水平近くなるものが４点（第39図７・８・13・17）あり、残る10点のうち８点（第39図１～５・９・11・13）は段が明瞭で、これら以外の１点（第38図31）は頸部以下を欠くため不確定である。自立できる程度の小さな平底のうち底部まで略完形に図化できたもの（第39図１・13）と、底部のみのもの（第39図14・15、第40図４）である。甕にはこれら有段口縁のほかに「く」の字甕が１点（第39図18）を略完形に図化できた。口径よりも大きな胴部の最大径はその中位にあり、底部は上げ底である。頸部は明瞭な「く」の字であるが、口縁をあまり外反させることなる大きく伸びる。外面の調整は口縁から底部までタテハケを基本とするが、胴部上半には部分的にヨコハケを加える。内面は底部付近をナナメハケ、口縁部をヨコナデとするが、胴部中位から頸部までは輪積み痕を残す指ナデ、もしくは指押さえである。

蓋（第39図10）は口径から甕に伴うものと考えられる。つまみ部は開かない中実である。壺は有段口縁が１点（第40図２）を略完形に図化できた。頸部での接合点はないものの、色調や頸部の法量などがほぼ同じで、同一個体と判断した。口縁部は強いヨコナデで擬凹線を施文しない。丸い胴部に突出した底部である。高坏は図化できたものがないが、器台は２点図化できた。受部がラッパ状に開き、脚端部を欠くもの（第40図３）と、受部上半を欠くもの（第40図５）である。後者は脚有段部の上に径４㎜の孔を３カ所あける一般的なものであるが、前者は径８㎜の孔を５カ所もあけるかなり特殊なものである。口縁が小さく短く外反する「く」の字口縁の鉢（第40図１）は底部を欠き、丸底か平底かは不明である。口縁がやや長く外反する鉢（第38図33）は安定した平底である。有段口縁の鉢（第38図34）には口縁部に擬凹線を施文する。

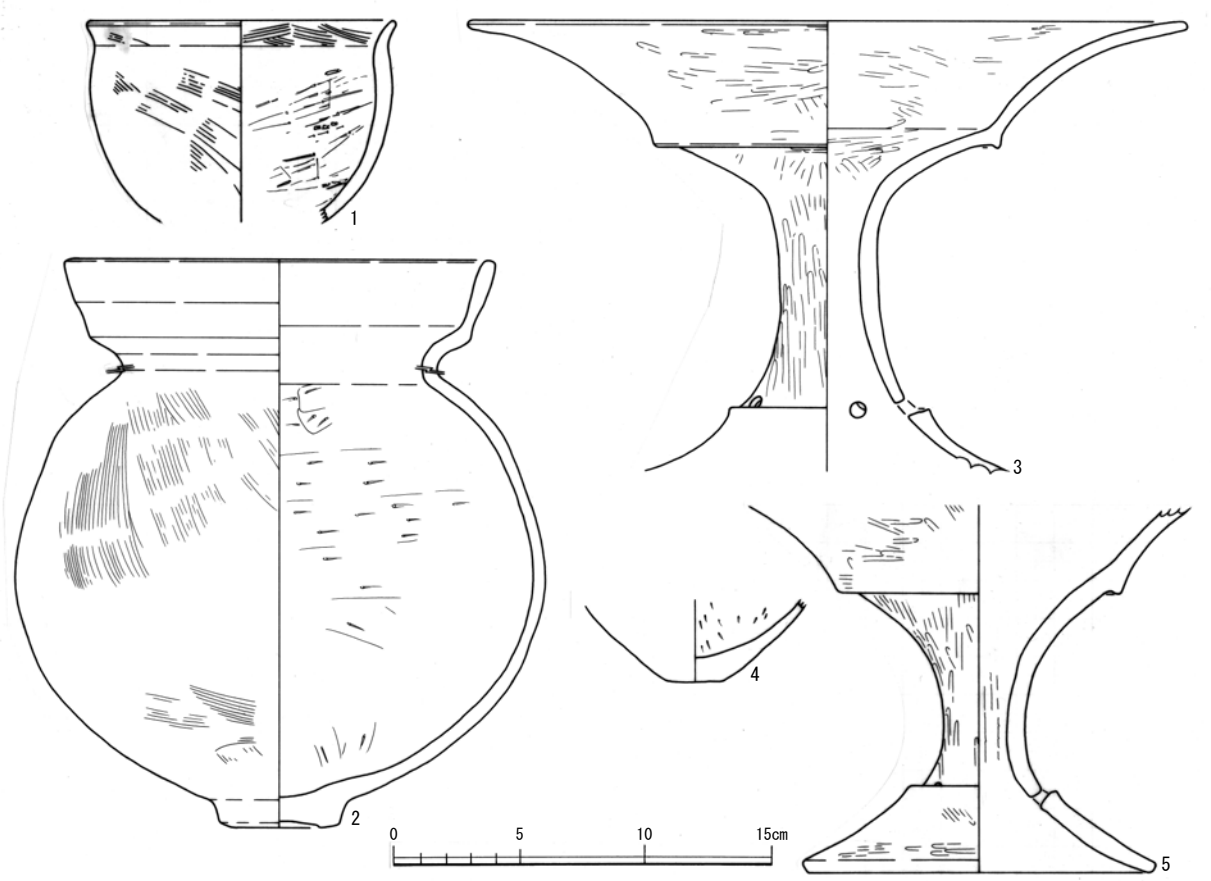
SB７のSP177から蓋のつまみ部分（第38図36）と SP171 から受口状口縁甕の口縁部片（第38図35）が出土している（第44図）。

SB９のSP304から甕の底部（第38図38）、SP380 から器高の低い坏状の鉢（第38図37）、SP390から有段口縁の立ち上がりがやや突出する口縁部ヨコナデ調整の甕（第38図39）が出土している（第44図）。

SB10のSP441から有段口縁の高坏口縁部片（第41図２）、SP469から擬凹線文の有段口縁甕口縁部片（第41図６）、SP567から口縁端部を水平に伸ばす高坏口縁部片（第41図１）と高坏器台などの有段脚部に施文されたＳ字のスタンプ文（第41図５）が出土している（第44図）。このスタンプの文様は一般的にみられるものより小ぶりである。SP443から出土した土器９点（第44図）を図化した。甕の口縁部にはい



第39図　SB６-SP372出土土器実測図１（縮尺 1/3）



第40図　SB６-SP372出土土器実測図２（縮尺 1/3）

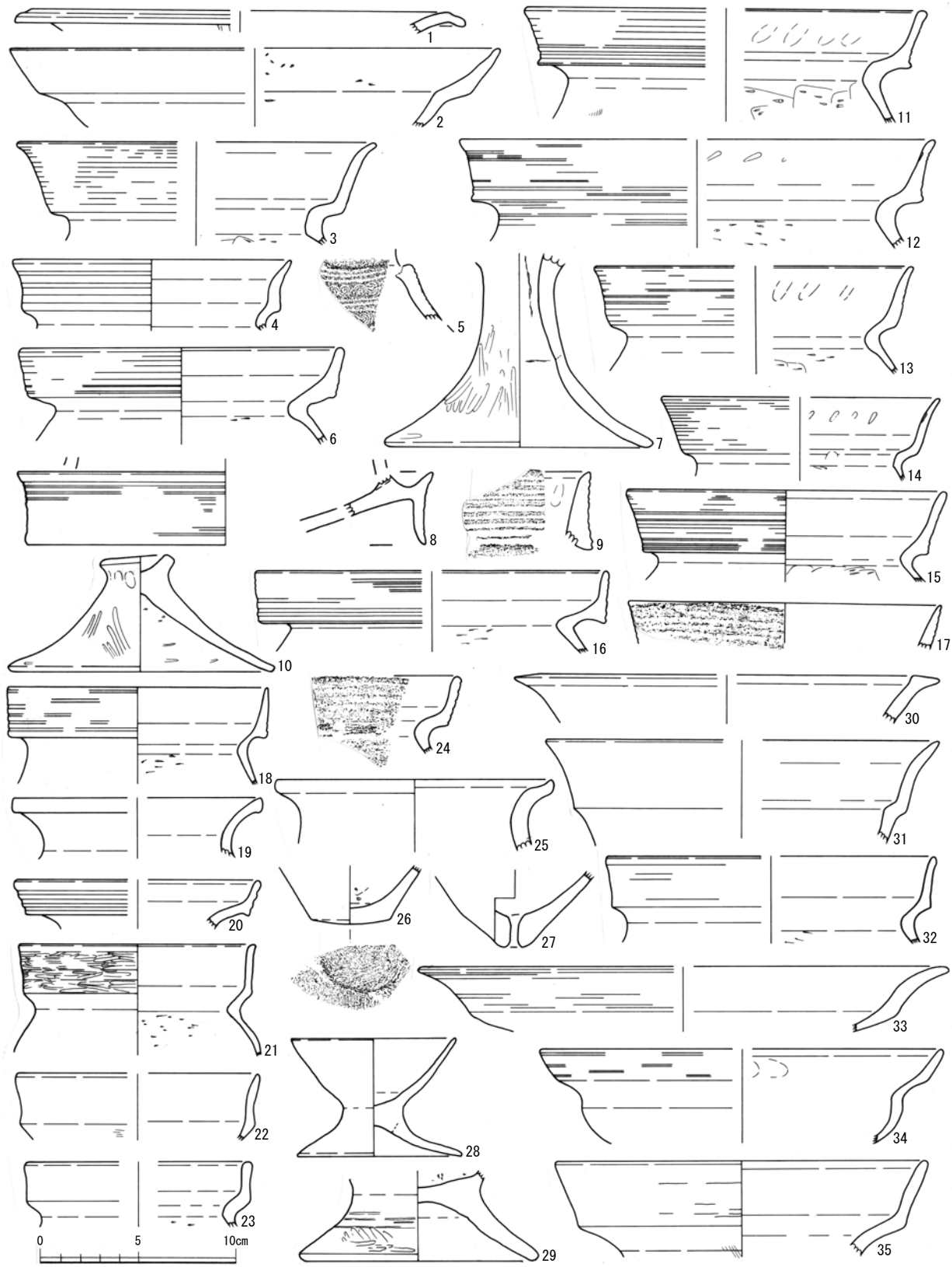
ずれも擬凹線文があるもの６点（第41図４・11～15）で、やや厚手の器壁のもの（第41図９）と大きく伸びた口縁の先端をさらに小さく外反するもの（第41図３）は壺と考えられる。蓋（第41図10）はつまみ部を斜めに立ち上げ、略完形である。SP466から装飾器台の擬凹線を施文した垂下帯部分（第41図８）と「ハ」の字状に開く器台の無段の脚（第41図７）が出土している（第44図）。

SB11のSP507から壺の口縁部片（第41図19）、SP523から擬凹線文の有段口縁甕口縁部片（第41図17・24）と壺の有段口縁片（第41図31）、SP564から口縁端部を水平に伸ばす高坏口縁部片（第41図30）、SP579から擬凹線文の有段口縁甕口縁部片（第41図16･18）と壺の口縁部片（第41図25）が出土している（第44図）。

SB12のSP485から有孔鉢の底部（第41図27）と高坏の口縁部片（第41図33）、SP548から高坏の擬凹線を施文する有段口縁部片（第41図34）、SP587 から壺の底部（第41図26）が出土している（第44図）。これら柱穴に隣接する周辺の SP484からおそらく台付壺に付く大型の脚台（第41図29）、SP513からヨコナデ調整の有段口縁甕口縁部片（第41図22）、SP620 から台付鉢（第41図28）が略完形で、SP621から有段口縁甕口縁をヨコミガキする壺（第41図21）とヨコナデ調整の有段口縁甕口縁部片（第41図23）と無文の口縁部が大きく伸びた壺の有段口縁部（第41図35）が出土している（第44図）。SP509から摩滅して擬凹線文が不明瞭な有段口縁甕口縁部片（第41図32）、SP580から擬凹線文の有段口縁壺口縁部片（第41図20）が出土している。

SB13のSP385から鉢口縁部片（第42図19）が出土している（第44図）。

SB14のSP542から口縁部をわずかに摘み上げる甕の有段口縁部片（第42図４）、SP545 からも口縁部を



第41図　SB10～12の柱穴出土土器土器（縮尺 1/3）

わずかに摘み上げる甕の有段口縁部片（第42図１）と直線に立ち上がる有段の甕口縁部片（第42図２・３）が出土している（第44図）。甕の有段口縁にはいずれも擬凹線が施文される。

SB15とSB16からは図化できる土器は確認できなかった。

SB17のSP526から直線に立ち上がる有段の甕口縁部片（第42図18）が出土している（第44図）。

SB18からは図化できる土器は確認できなかった。

SB19のSP540から口縁を欠くが器台の受部（第42図５）、SP594から直線に立ち上がる有段の甕口縁部片（第40図６）と装飾器台の垂下帯（第42図７）が出土している（第44図）。垂下帯には擬凹線が施文されず無文である。

SB20のSP591から甕の無文の有段口縁部片（第42図9）が出土している（第44図）。

SB21からは図化できる土器は確認できなかった。

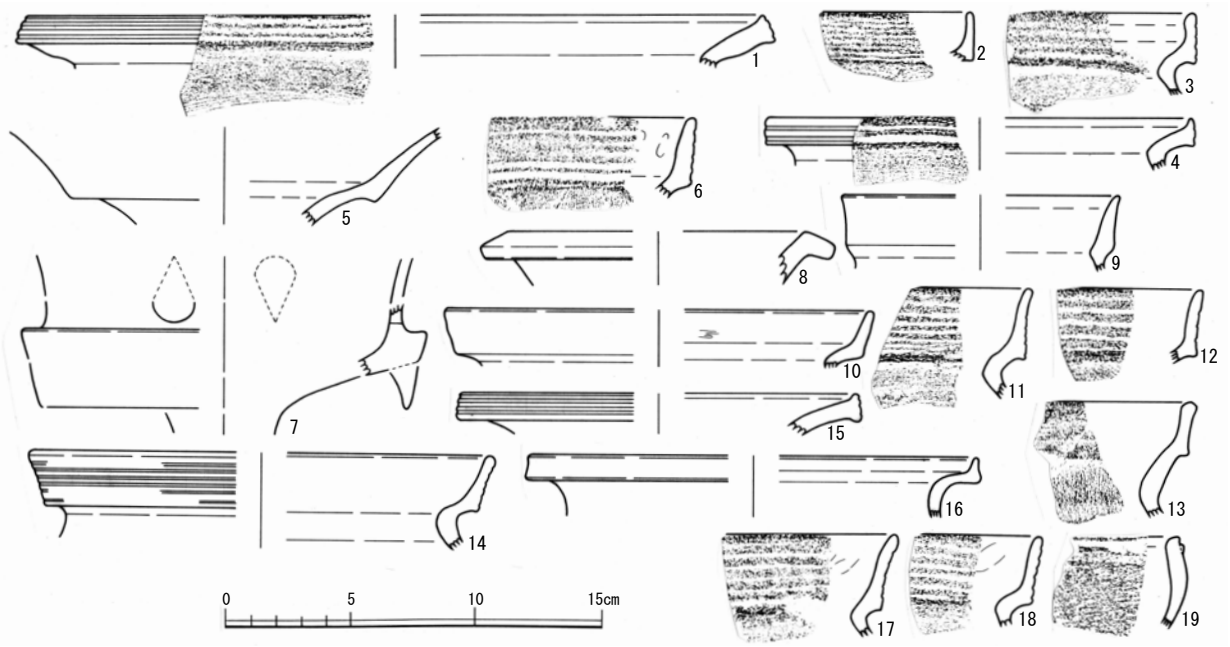
SB22のSP494から屈曲して小さく開く壺の口縁部片（第42図８）が出土している（第44図）。

SB23のSP522から擬凹線を施文した壺の口縁部片（第42図15）と擬凹線を施文した甕の有段口縁部片（第42図17）、SP527から擬凹線を施文した甕の有段口縁部片（第42図14）と甕の受口状口縁部片（第42図16）が出土している（第44図）。

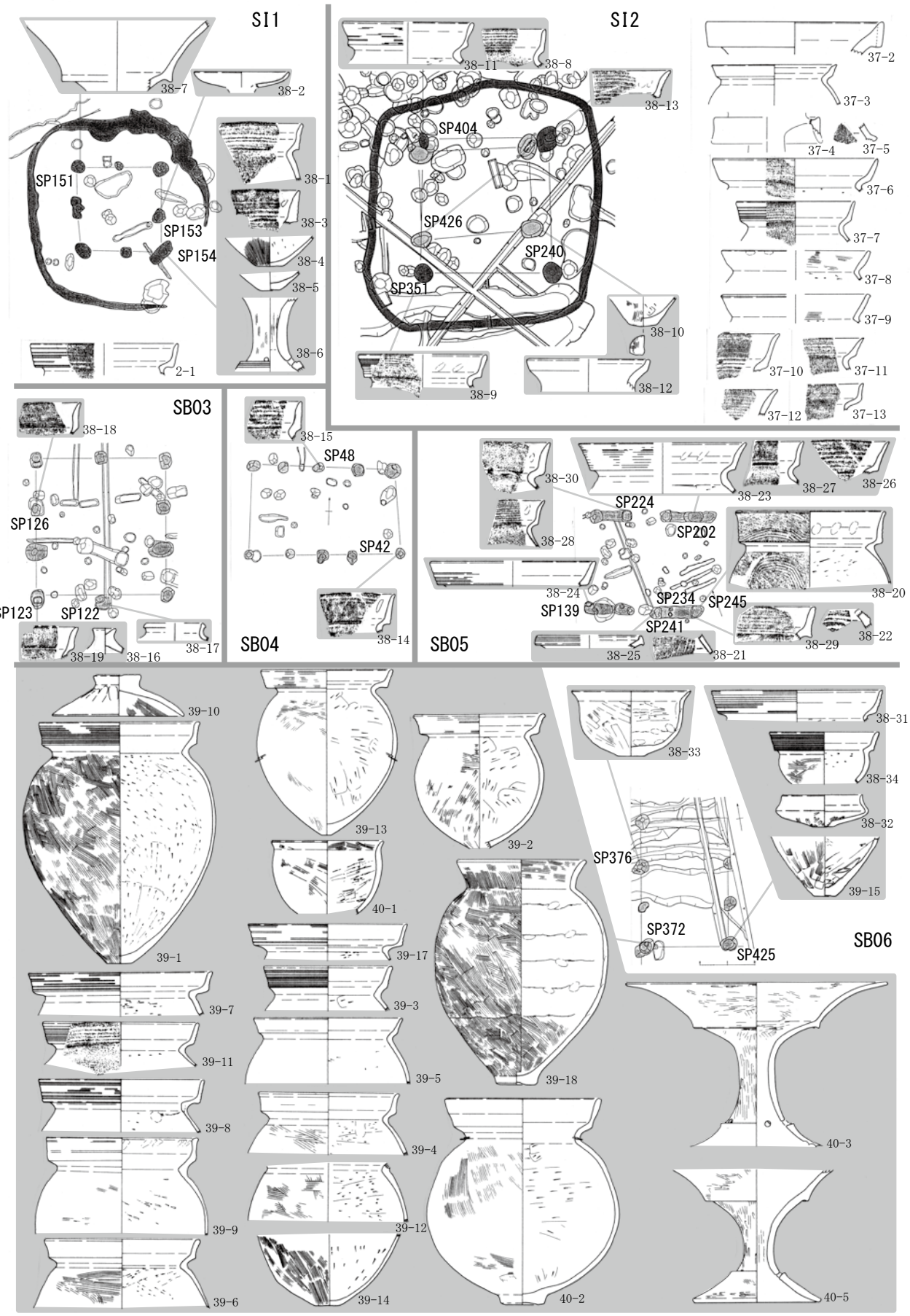
SB24のSP498から無文の甕有段口縁部片（第42図10）と無文の壺有段口縁部片（第42図13）、SP531から擬凹線を施文した甕の有段口縁部片２点（第42図11・12）が出土している（第44図）。

その他のＳＰ出土の土器（第45・46図）

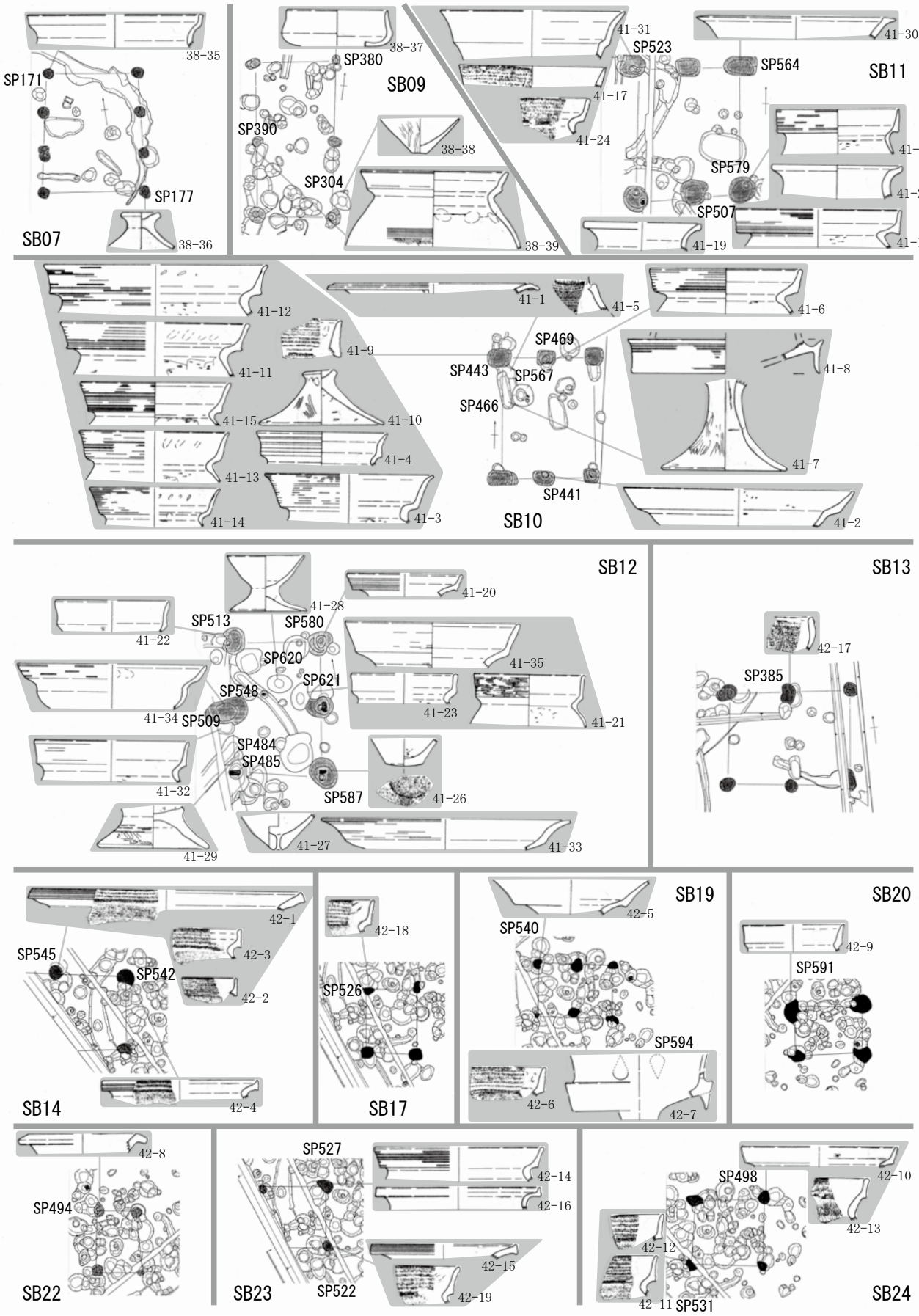
SP82から小型の有段口縁壺（第45図１）が出土している。口縁には擬凹線が施文され、底部は小さい平底である。SP192から突出した壺の底部（第45図５）が出土している。SP201から擬凹線文が摩滅した有段口縁甕の口縁部（第45図２）が出土している。SP230 から無文の有段口縁甕の口縁部（第45図11）が出土している。口縁部の立ち上がりに１条の沈線を巡らせる。SP238から擬凹線文の有段口縁甕口縁（第45図12）が出土している。SP246から立ち上がりに刺突列点を加えた受口状口縁甕の口縁部（第45図３）が出土している。SP272から５条の擬凹線文の甕口縁部（第45図13）と器台（第45図16）の受部の摩滅し



第42図　SB14～24の柱穴出土土器実測図（縮尺 1/3）

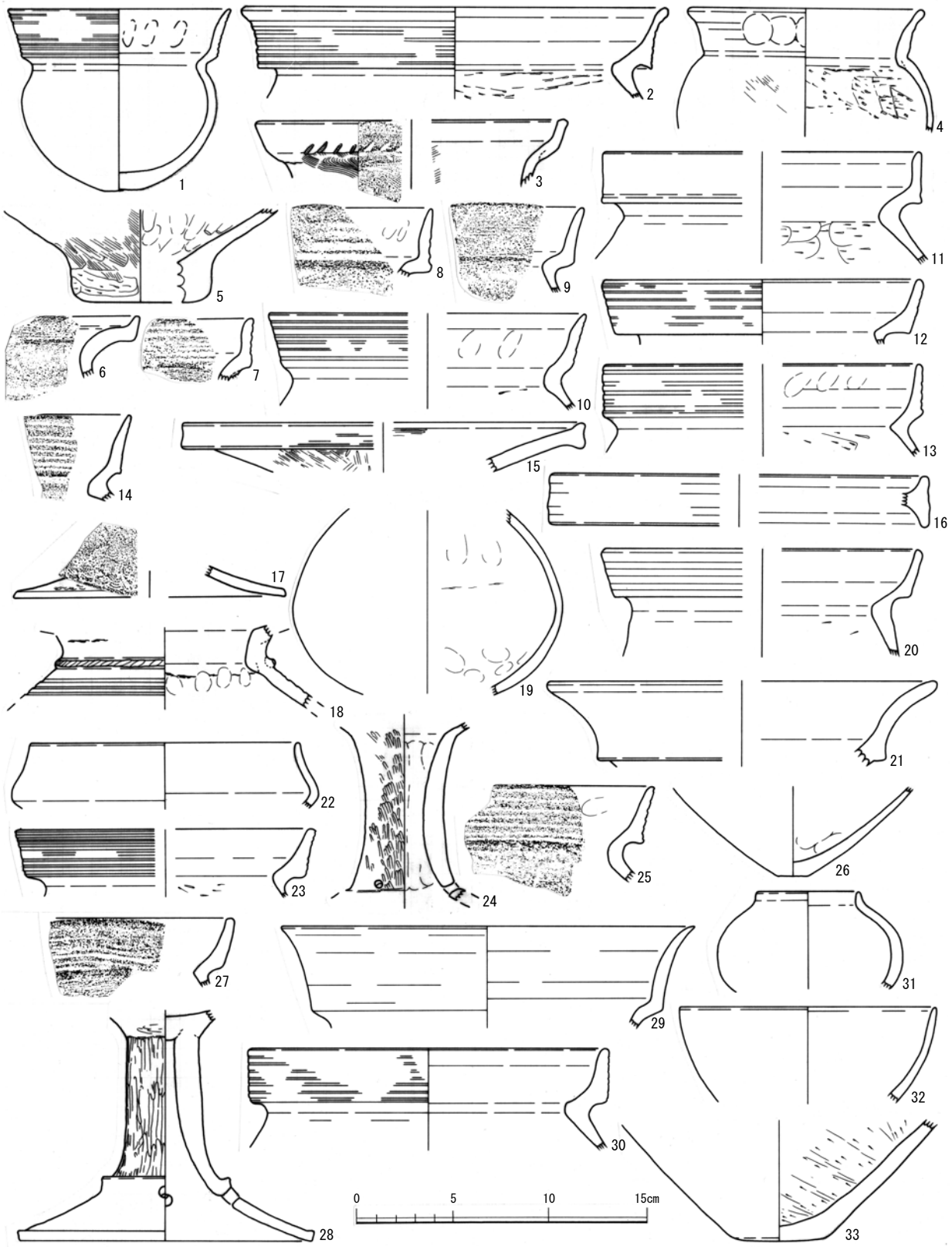


第43図　SI１・２、SB１～６柱穴出土状況図

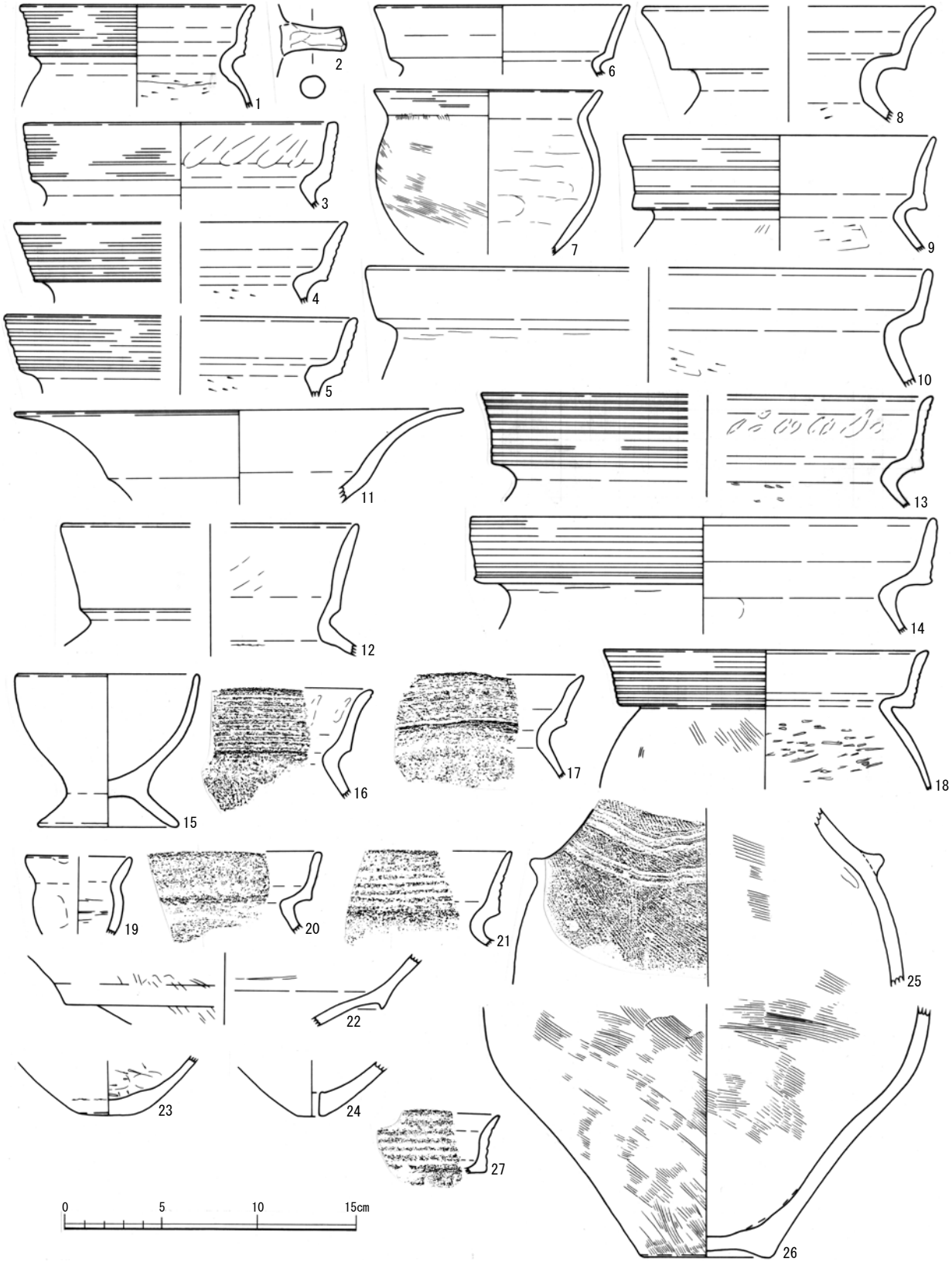


第44図　SB７～24 柱穴出土状況図

て擬凹線文が残る口縁部が出土している。SP276から擬凹線文が摩滅した有段口縁甕の口縁部（第45図９）が出土している。SP278から太い条線の擬凹線文の口縁部（第45図８）と６条の擬凹線文の甕口縁部（第45図10）が出土している。前者は甕の口縁部としては厚手で壺の可能性がある。口縁内面に指頭圧痕が残る。SP281から口縁部が短く立ち上がる有段口縁の壺（第45図６）が出土している。SP292から５条の擬凹線文の甕もしくは鉢の口縁部（第45図20）が出土している。SP320から突帯を巡らした壺の頸部（第45図18）が出土している。突帯には刺突列点を加え、その下に３条の沈線を巡らせる。SP324から擬凹線文が摩滅した有段口縁甕の口縁部（第45図７）が出土している。SP359から二重口縁と思われる口縁部（第45図21）が出土している。SP367から「く」の字口縁の鉢（第45図４）が出土している。胴部はミガキのようなハケ調整で、口縁部はヨコナデののち指押さえとする。SP395から端部に櫛描波状文を施文した脚台（第45図17）が出土している。器壁の剥落が著しく波状文は不明瞭である。SP413から壺の丸い胴部片（第45図19）が出土しているが文様などはない。SP416から口縁が内傾する扁平な鉢（第45図22）が出土している。SP465から施文される擬凹線文が不明瞭な有段口縁甕口縁（第45図30）と小さな平底の甕底部（第45図26）が出土している。SP463から高坏の有段脚（第45図28）が出土している。本来は有段部の上に接した筒状部分の下端に開く孔であるが、この土器はその下の有段部に孔が４つ開く。SP574から７条の擬凹線文の甕口縁部（第45図14）と６条の擬凹線文の甕口縁部（第45図25）が出土している。SP577から施文される擬凹線文が不明瞭な有段口縁甕口縁（第45図27）が出土している。SP593から３点の土器を図化した。立ち上がりの大きい有段の口縁部（第45図29）が出土しているが、壺口縁部か高坏の坏部かどちらとも判断できない。短い口縁が立ち上がる丸い胴部の壺（第45図31）や立ち上がった胴部がそのまま口縁となる埦状の鉢（第45図32）も出土している。前者には部分的に赤彩が残る。SP599から中型の壺の平底（第45図33）が出土している。SP605から小型の鉢などに付く棒状の把手（第46図２）が出土している。SP608から６条の擬凹線文の甕口縁部（第46図１）が出土している。SP612から無文の有段口縁甕（第46図６）が出土している。SP618から無文の有段口縁壺（第46図８）が出土している。SP623から施文される擬凹線文が不明瞭な有段口縁甕口縁（第46図３）が出土している。SP635から６条の擬凹線文の甕口縁部（第46図４）と同じくやや条線が太い６条の擬凹線文の甕口縁部（第46図５）が出土している。SP643から「く」の字口縁の鉢（第46図７）が出土し、口縁部を丁寧にヨコナデする。SP668からは甕口縁部８点、壺２点と高坏に台付鉢、さらに底部をそれぞれ１点ずつの13点もの土器が図化できている。甕は無文の有段口縁２点に擬凹線文を施文する有段口縁６点である。無文の口縁は口径が30㎝を超えやや大きくなるもの（第46図10）と20㎝以下の中型のもの（第46図20）である。擬凹線文の甕は擬凹線が７条（第46図14）、８条（第46図13・17）、９条（第46図16）など、口縁端部に近い上半部が摩滅して不鮮明になり８条以上のもの（第46図18・21）もあり、条線の多条化の傾向が伺える。底部片（第46図23）は内面がケズリで、底部は若干丸みがある３㎝ほどの平底で、甕の底部と考えられる。壺２点はいずれも有段口縁である。甕の有段と同じように内面に明瞭な段を設けるもの（第46図９）は、口縁部に擬凹線文を施文するが不明瞭で条線の本数は不明である。頸部からすぐに有段となり大きく口縁帯が伸びるもの（第46図12）はミガキ調整と考えられるが器壁が摩滅して不明である。高坏は坏の底部が丸くなり、屈曲して大きく開く口縁となるもの（第46図11）でミガキ調整と考えられるが、器壁が摩滅して不明である。台付鉢（第46図15）は立ち上がった胴部がそのまま口縁になるもので「ハ」の字に開く脚台が付く。SP681からミニチュアの鉢（第46図19）と有段の器台（第46図22）が出土している。鉢は大きさの割に器壁は厚いが、丁寧なミガキ調整、もしくはナデ調整で器面は非常に平滑である。口



第45図　その他のピット出土土器実測図１（縮尺 1/3）



第46図　その他のピット出土土器実測図２（縮尺 1/3）

縁部を欠くものの突出した有段部で器台の受部の立ち上がりと考えられる。SP669から有孔鉢の底部（第46図24）が出土している。内面にはケズリを残さず、孔は外面から内側へ開けられている。

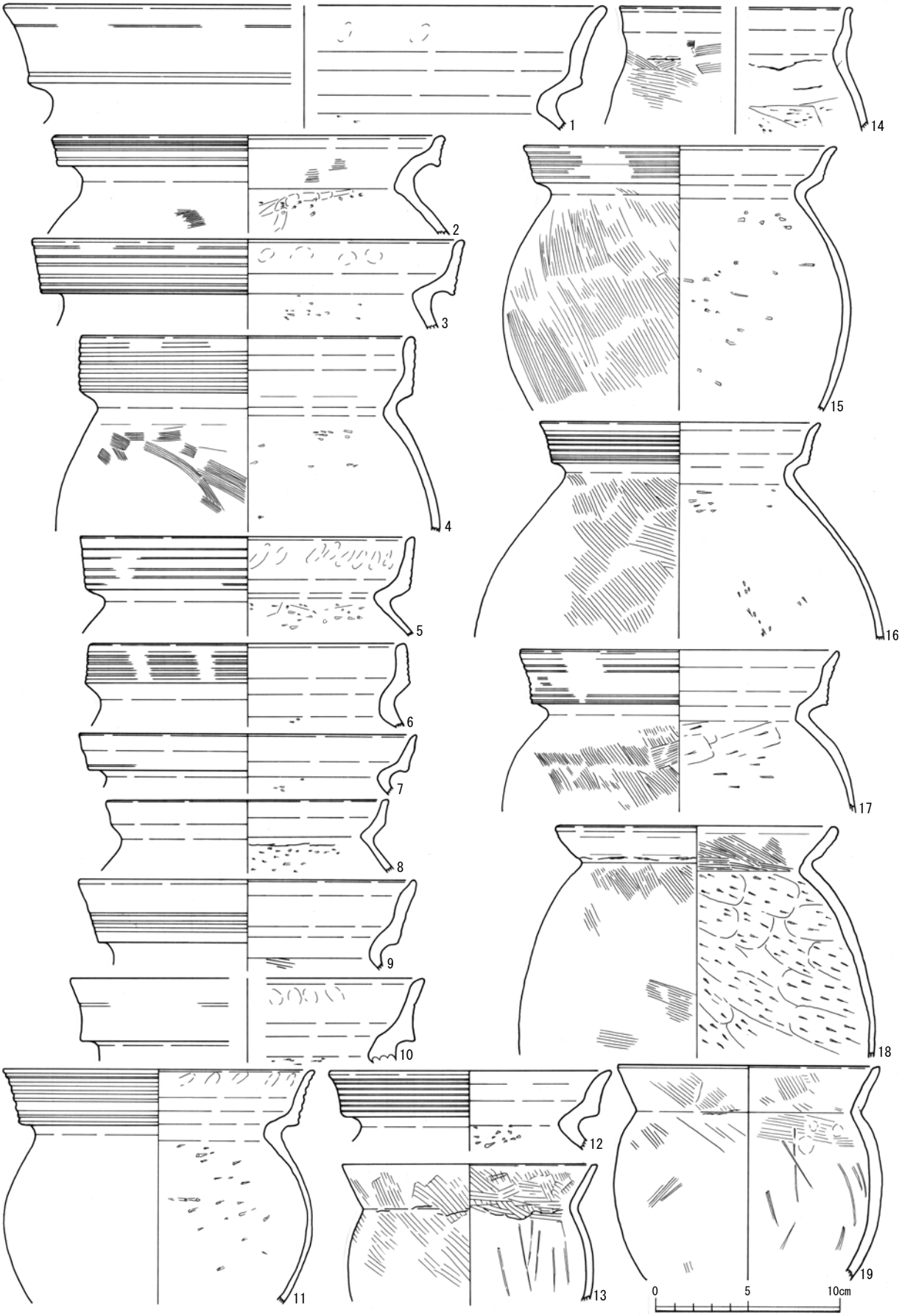
SP675からは胴部上半に小さな角状の突起を貼り付けた壺（第46図25）が出土している。左上がりのハケ調整ののち、突起のすぐ上に原体がハケのようで直線とは言えない波打った「櫛描直線文」が間を空けて２条施文される。突起は１カ所しか残っていないが、その反対側は欠損しているので二個一対と考えられる。同じ SP675から胎土や色調がほぼ同じの壺の底部が出土している。図上の復元では胴部の最大径が異なるが、いずれも内面はナナメのハケ調整で同一個体の可能性が高い。同一個体とすると胴部下半の形状から弥生時代中期の土器であろう。

SP673から口縁部を上下に拡張した器台受け部（第45図15）と８条の擬凹線文の甕口縁部（第45図23）と器台の有段脚上半の筒部（第45図24）が出土している。前者の口縁部には擬凹線文はなくヨコナデ調整である。

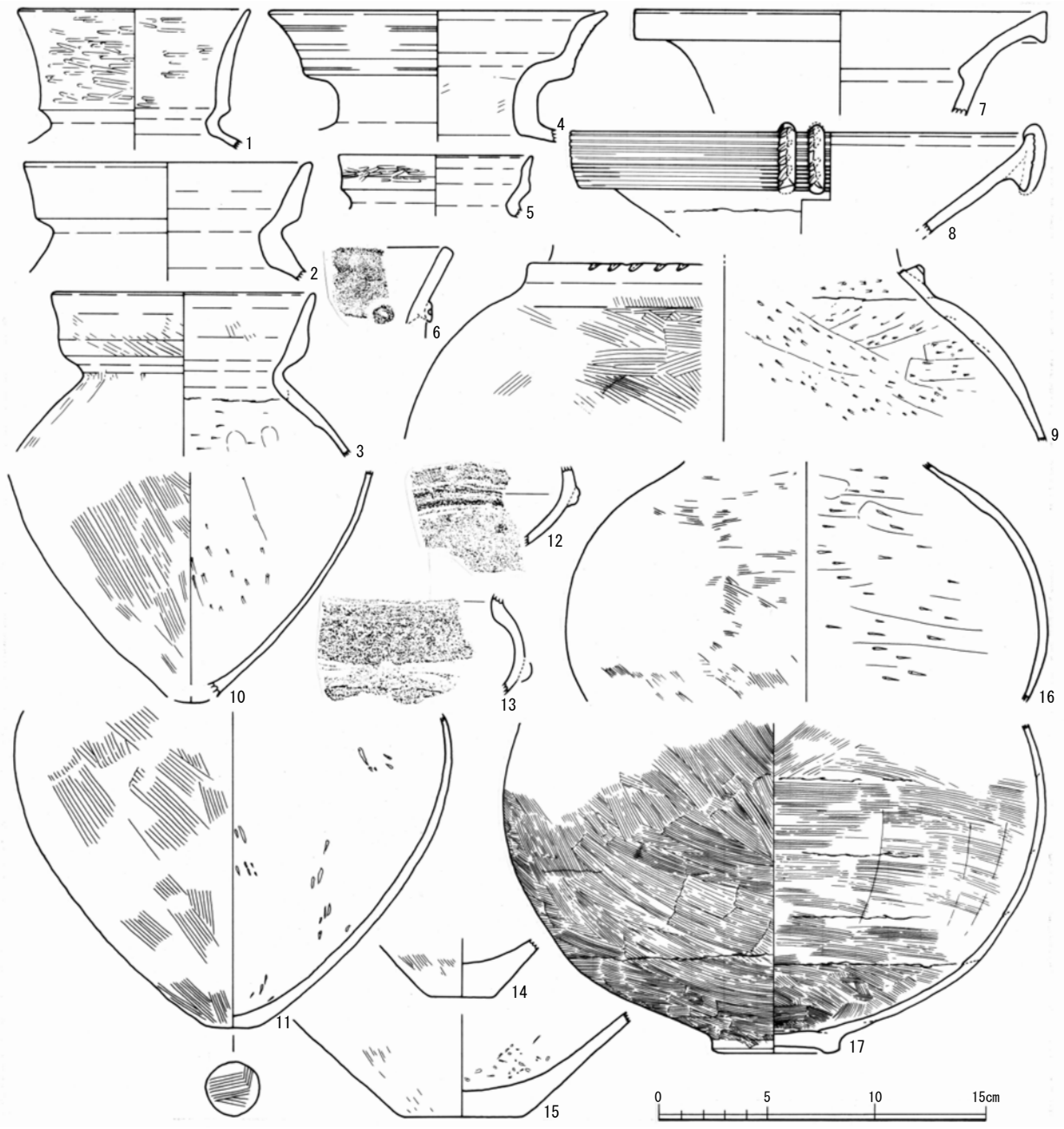
SD出土の土器（第47～62図）

SD33 ～ 36・50・51・54・61 出土の甕は有段口縁が主体で、特にSD93・94やNR１などに多い「く」の字状口縁は少ない。有段口縁には口縁部が若干立ち上がるもの（第47図２）が１点のみで、ほぼ直立して口縁帯が立ち上がるもの（第47図３～６）か若干外傾して立ち上がるもの（第47図９～ 12）が多く、いずれも擬凹線が施文される。擬凹線文がないもの（第47図７・８）は口縁帯の中ほどを強くヨコナデして口縁を伸ばす程度で、立ち上がりが短い。口縁帯がさらに伸びるものは口縁先端がさらに先細りしながら外反するもの（第47図15 ～ 17）でいずれも擬凹線が施文される。施文されている擬凹線文は、個々の条線が太くて明瞭なもの（第47図４）などが多い。「く」の字甕は典型的なものはなく、口径と胴部最大径が同じくらいの鉢にも分類されそうなやや小さめのもの（第47図13・19）である。タタキ甕はないが、口縁端部を丸くし口縁帯外面が明らかに盛り上がる布留式甕に近いもの（第47図18）が１点だけあるが、明らかに布留式まで降ると考えられる甕は見当たらない。甕は図化できたものがいずれも胴部上半までで、頸部直下までケズリを行うが、指押さえを明瞭に残す。甕底部などの下半は図化できたものが少なく、小さいながらも明確な平底（第48図10・11）と考えられる。口縁部を有段状にするが、頸部が屈曲することなくそのまま胴部となるもの（第47図14）は、ここでは甕とした。しかし、類例がなく器種は判断できない。大型の甕（第47図１）は口縁帯の下端が盛り上がるが山陰系のタガ状に突出ものではない。口縁帯には微かに擬凹線が残り、口縁端部も内面に肥厚しないで先端が僅かであるが外反するもので、口縁の両端部を除いた範囲に擬凹線を施文したためにその両側が突出したように残されたものである。

壺は全体を復元できたものはなく、口縁部と胴部に分かれる。口縁部は有段口縁、東海や近江系譜のいわゆる複合口縁の２種類である。北陸在来の有段口縁でも中型となるものには頸部がやや伸びた筒状となるもの（第48図４）と胴部から頸部がそのまま屈曲して口縁となるもの（第48図２・３）があり、前者には擬凹線が施文されることが多い。円形浮文を貼り付けるもの（第48図６）もこのような有段口縁と考えられる。幅広の口縁帯をヨコミガキするもの（第48図１・５）は口径の大きさに対して胴部があまり大きくならないと考えられる。北陸南西部でも越前のこの時期には赤彩される土器は少ないが、有段口縁の外面に赤彩されたもの（第48図５）がある。胴部に突帯を貼り付けるもの（第48図12）や貼付けの痕跡があるもの（第48図13）も北陸在来の小型壺の胴部で、同一個体の可能性が高い。口縁帯を肥厚、または上下に拡張するものは、北陸在来のものではなく東海や近江の影響と考えられる。装飾などはな



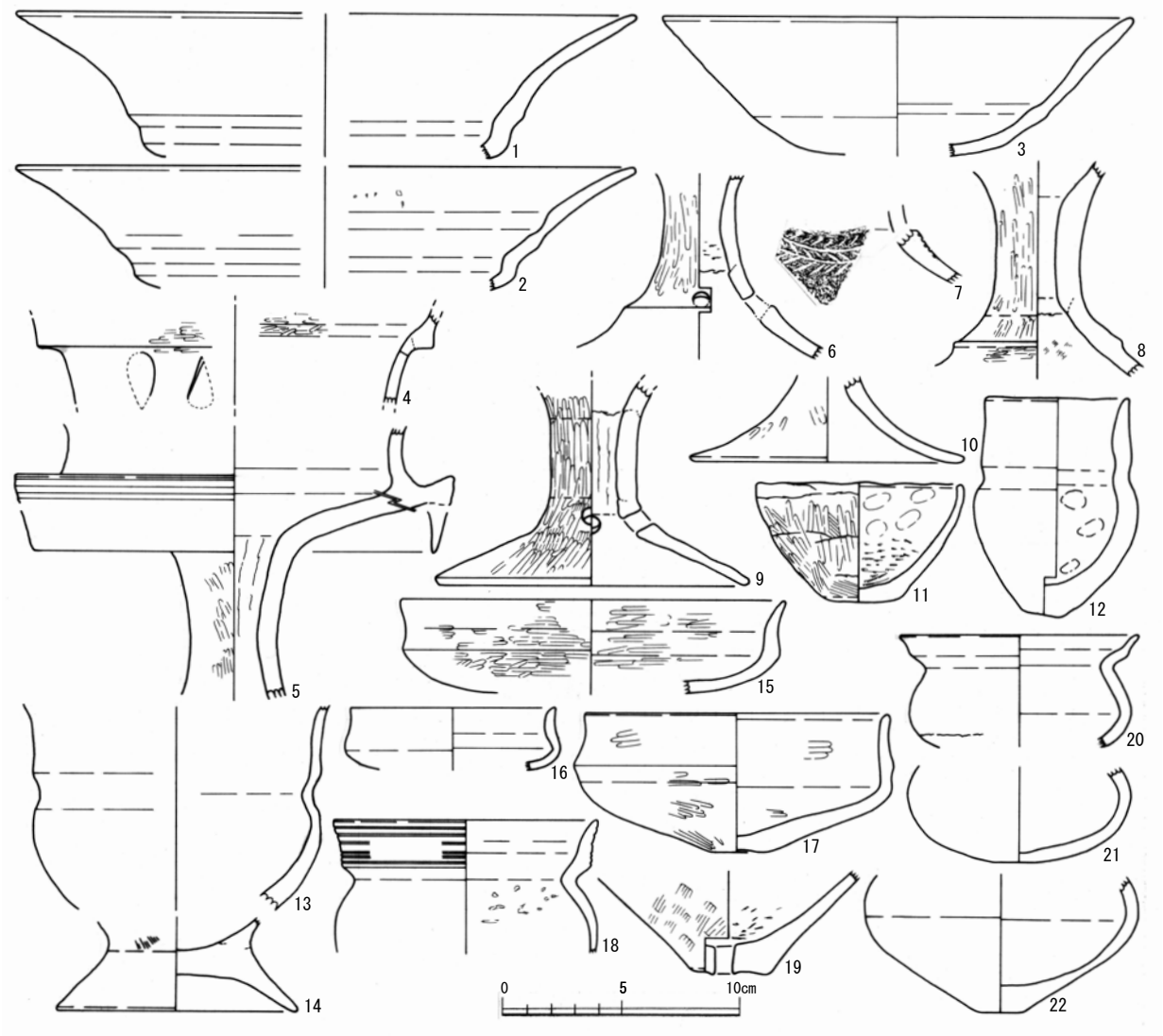
第47図　SD33 出土土器実測図１（縮尺 1/3）



第48図　SD33 出土土器実測図２（縮尺 1/3）

いが、口縁内面に段を設けるもの（第48図７）は東海、棒状浮文を貼り付けるもの（第48図８）は近江の影響と考えられる。有段口縁や他地域の影響を受けた中型の壺いずれにも、頸部にはキザミなどを加えた突帯を貼り付けるもの（第48図９）があり、胴部も球形となるもの（第48図16）が通例である。しかし、底部は有段のものはやや厚手の平底から大きく開くもの（第48図14・15）で、突出する底部を貼り付けるもの（第48図17）は畿内、もしくは東海などの他地域のものと考えられる。

鉢は図化できた個体数に比してバラエティーに富んで個体差が大きい。有段口縁のものには甕の口縁と同じように擬凹線を施文したもの（第49図18）が本来は多いが、ここでは１点だけしか図化できていない。口縁帯が大きく立ち上がるもの（第49図13）は口縁端部を欠くが、この時期に通有のものである。口径に対して器高が倍以上あるもの（第49図12）はほとんど類例がないもので、一般的な鉢ではなく小型の特殊なものと考えられる。また有段口縁が小さく外反して開くもの（第49図20）は、有段の鉢が形

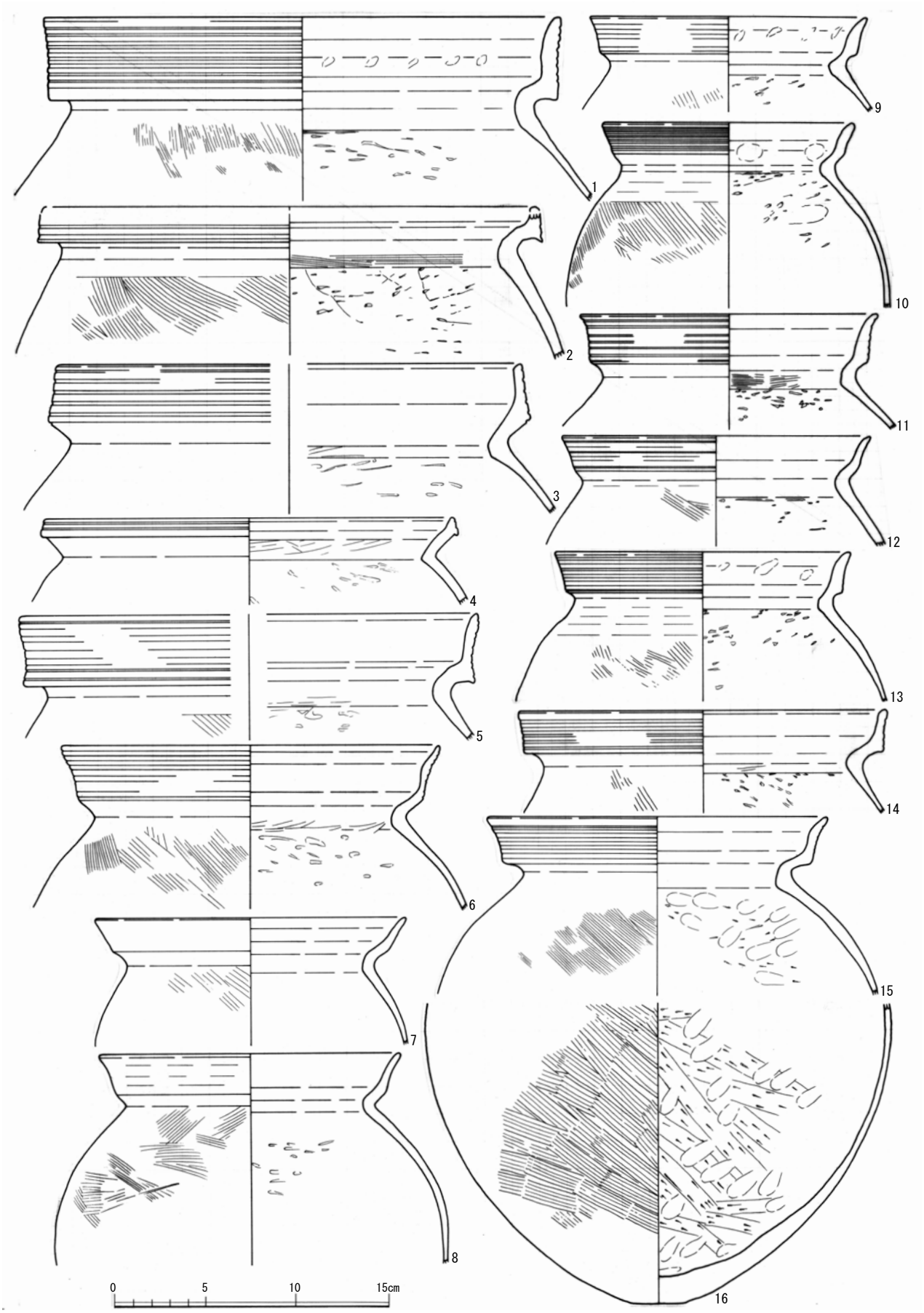


第49図　SD33 出土土器実測図３（縮尺 1/3）

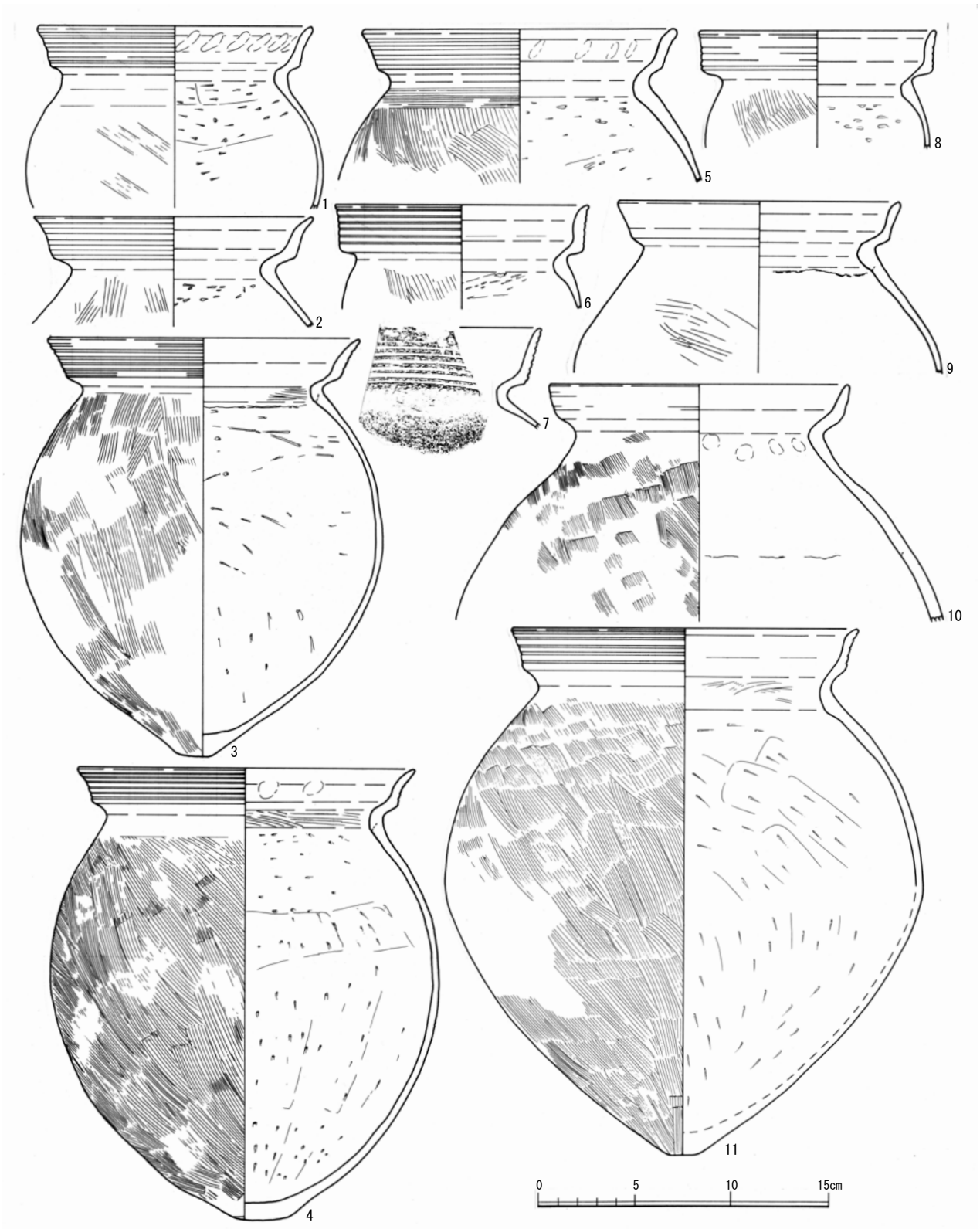
骸化したと考えられる。器高に対して口径が倍以上の坏身に近いものは、丸みのある底部が屈曲して小さく外反するもので、口径が10cmを超えるもの（第49図15・17）と 10cm以下のもの（第49図16）の２種類ある。扁平な丸い胴部のもので丸底のもの（第49図21）や同じような胴部で底部が全体に突出した平底となるもの（第49図22）は鉢と考えられる。埦状の器形の鉢（第49図11）は口縁部を指で押さえる。この時期に通例の有孔鉢は全形が復元できたものはないが、有孔の底部部分のみが１点（第49図19）だけである。

高坏は丸みのある底部から有段に屈曲して口縁部が大きく外反して開くもの（第49図１・２）と屈曲が弱く口縁部もほぼ直線に開くもの（第49図３）の２種類であり、その脚部と考えられるものは図化できなかった。器台の受部で図化できたのは、装飾器台のものだけで、立ち上がりの透かしが交互に水滴となるもの（第49図４）と垂下帯を欠く受部の部分のみのもの（第49図５）の２点である。器台はそれらの脚部が図化でき、有段脚（第49図６・８）は有段そのものが小さい。無段のもの（第49図９）やそこの径がやや小さく、受部がラッパ状に開く器台のものと考えられる。有段脚には沈線を挟んで羽状に刺突を加えるもの（第49図７）が小片である。

脚台は小型の埦や鉢に付くもの（第49図10）と脚は短いが底径が大きいもの（第49図14）があるが、上



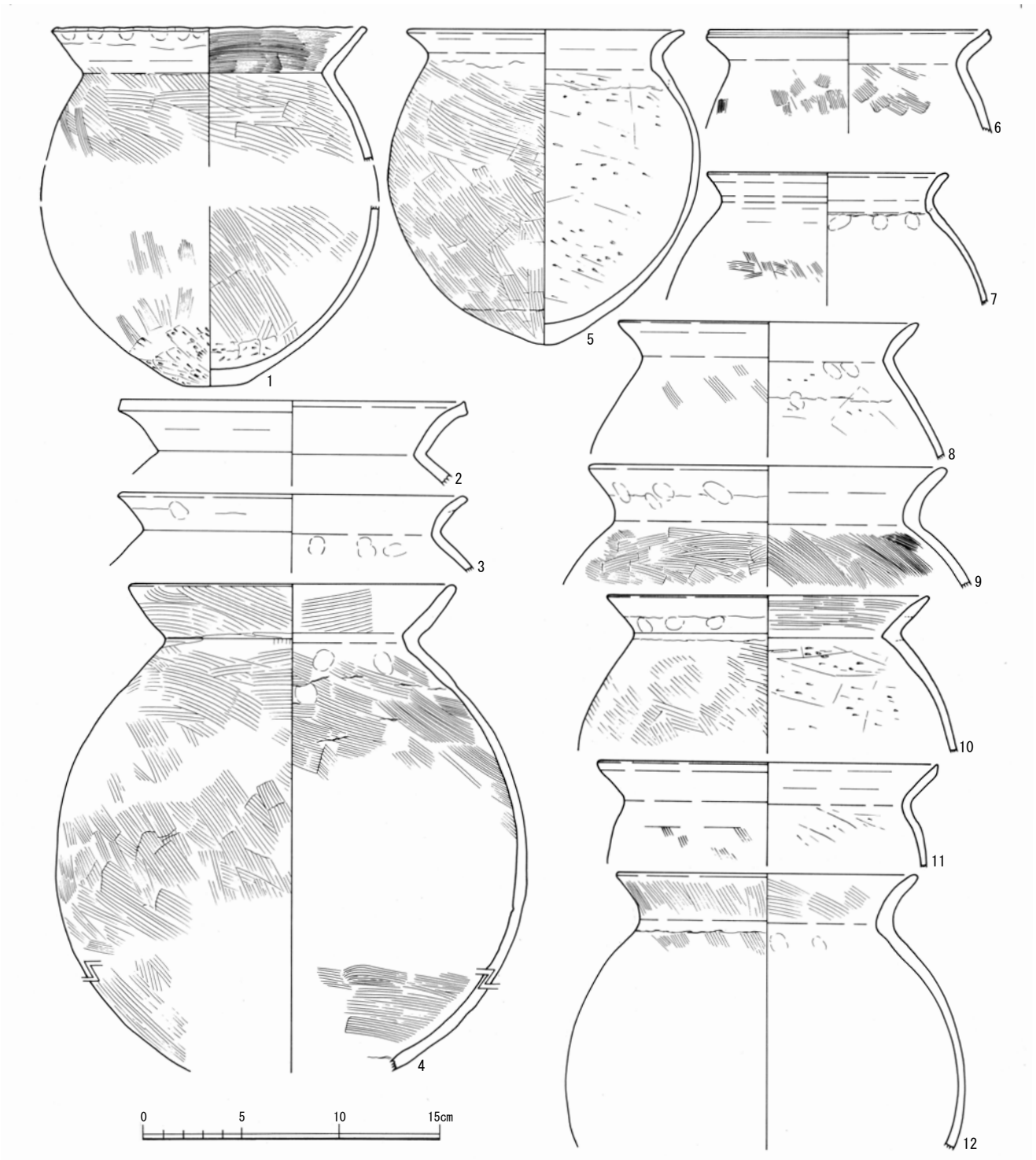
第50図　SD93・94 出土土器実測図１（縮尺 1/3）



第51図　SD93・94 出土土器実測図２（縮尺 1/3）

に付くものは全く不明である。

SD93・94からは、有段口縁と「く」の字状口縁の甕が主体となり多く、これに東海のＳ字状口縁や近江の受口状口縁を数点含む。有段口縁は口縁端部を僅かに上へ摘まみ上げて面をつくるものは２点（第50図２・４）である。ほぼ直立して口縁帯が立ち上がるもの（第50図１・5・14、第51図６・８）か直立



第52図　SD93・94 出土土器実測図３（縮尺 1/3）

して立ち上がってから外反するもの（第50図６・11・13・15）に、若干外傾して立ち上がるもの（第50図９・10・12、第51図１・２～５・７・11）が多い。また内傾するもの（第50図３）も１点あり、いずれも擬凹線が施文される。立ち上がりが直立するか、内傾するものに施文される擬凹線文は太く明瞭なもの（第50図１・３）が多い。外傾して立ち上がるものには、その頸部内面にヨコハケを残すようなものもあるが、口縁部が短くなり全体が薄くなるなど典型的な月影式甕より後出する白江式に多く見られる要素がうかがえるもの（第51図３・４・11）がある。擬凹線文がないもの（第50図７・８、第51図９・10）には、有段部の立ち上がりが緩いものが多い（第50図７・８、第51図10）が、これは擬凹線が施文され

ないでヨコナデ調整で口縁部が仕上げられるためである。有段口縁で底部まであるもの（第50図16、第51図３・４・11）は、いずれも小さくて自立しないまでも明確に底部と認識できる。「く」の字甕はハケ調整のものとタタキ調整のものがあり、図化したものはタタキ調整の甕が多い。これはタタキ調整に様々なものがあり、底部の形状とともにそのバラエティーの多さを提示したためで、ハケ調整の「く」の字甕ほど個体数は多くはない。両者ともに口縁形態には様々なものがあり、形態での分類はできない。頸部の屈曲が「く」の字のように明瞭なもの（第52図１・２・４・10）、緩く屈曲する丸みのあるもの（第52図５～７・12）、その中間的なもの（第52図３・８・９・11）の３つに分類はできる。口縁端部の形状では面を作るもの（第52図２・11）や沈線を加えるもの（第52図６）の他は、丸く収めるもの（第52図１・３・４・12）と先細りさせるもの（第52図５・７・８・10）がある。これら口縁端部の形状が頸部の形状とは連動しない。底部は尖底のもの（第52図５）に口縁が「く」のものとは接合しないものの同一個体と判断されたケズリで平底を意識したもの（第52図１）がある。明確に平底であるのは胴部下半だけ復元できた個体で内外面ともにハケ調整のもの（第53図５）で立ち上がりから底部そのものをケズリで成形する特異なものである。タタキ調整の甕もハケ調整同様に頸部の屈曲が「く」の字のように明瞭なもの（第53図１）と緩く屈曲する丸みのあるもの（第54図１～３）の２種類ある。口縁端部は面を作るもの（第54図２）の他は、先細りさせるもの（第53図１、第54図１・３）である。胴部外面は上半をタタキ目が右上がり（第53図１・８、第54図１～４）が基本で横方向のもの（第53図３）は例外であろう。下半はいずれも縦方向で例外はない。内面は左上がりのケズリが３点（第53図１・10、第54図３）、ハケ調整が３点（第53図３・９、第54図11）、ナデまたは指押さえが３点（第53図８、第54図２・４）と個体によって異なる。通常タタキ調整を施すのが甕であるが、ここでは鉢に分類できるもの（第54図５）がある。本来は甕であったのが、上半部を欠損したため割れ口を丁寧に削って鉢に転用した可能性を考えた。甕であれば外面下半部のタタキ目が縦になるが、ここでは上半部の右上がりとすることや本来は行わない底部付近のケズリなどからタタキ調整の器種としては例外の鉢であると判断した。ここで図化したタタキ調整の甕で特徴的なのは底部の整形方法である。底部はいずれも上げ底で、図化した底部で成形の痕跡を残すものは輪高台である。ここでは土器に残された痕跡からその成形方法について推定する。本遺跡出土のタタキ甕の底部に限ってであるが、胴部下半の底部に近い部分を円錐状にし、その先端を平底などのように塞がないで丸い穴の状態で端までタタキ調整が行う。この穴の内側から蓋をして内部の上から押さえて接合したものと考えられる。平底（第53図２）はタタキ甕として確認されたものは少なく、平底であっても輪高台の痕跡がある（第54図10）。その接合には強弱があり、輪高台と表現できるほど５㎜以上の厚みのあるもの（第53図８は５㎜、第54図９は６㎜）があり、中には押さえ方が弱かったためか後者（第54図９）のように輪高台の底面の部分にタタキ目の一部が残されているものがある。同様に底部の周囲にタタキ目の一部が残るものがさらに１点（第54図11）あることから、偶然によるものとは考えられない。先に取り上げた厚みのある輪高台のもの 21 点のほかは、高台部分が強く押し付けられた結果、不整形に変形したもの（第53図３・４・10、第54図６・８・11）が多い。さらに強く押し付けられたものの粘土が十分ではなかったために、充填された底の輪郭が明瞭に残されたもの（第53図９）や充填された底の粘土が判らなくなるほど押さえられ、丸底に近くなるもの（第53図６）など、その痕跡は多様である。またタタキ調整が施文されたものの例外として、底部に焼成前の穿孔があるもの（第53図７、第54図７）もある。

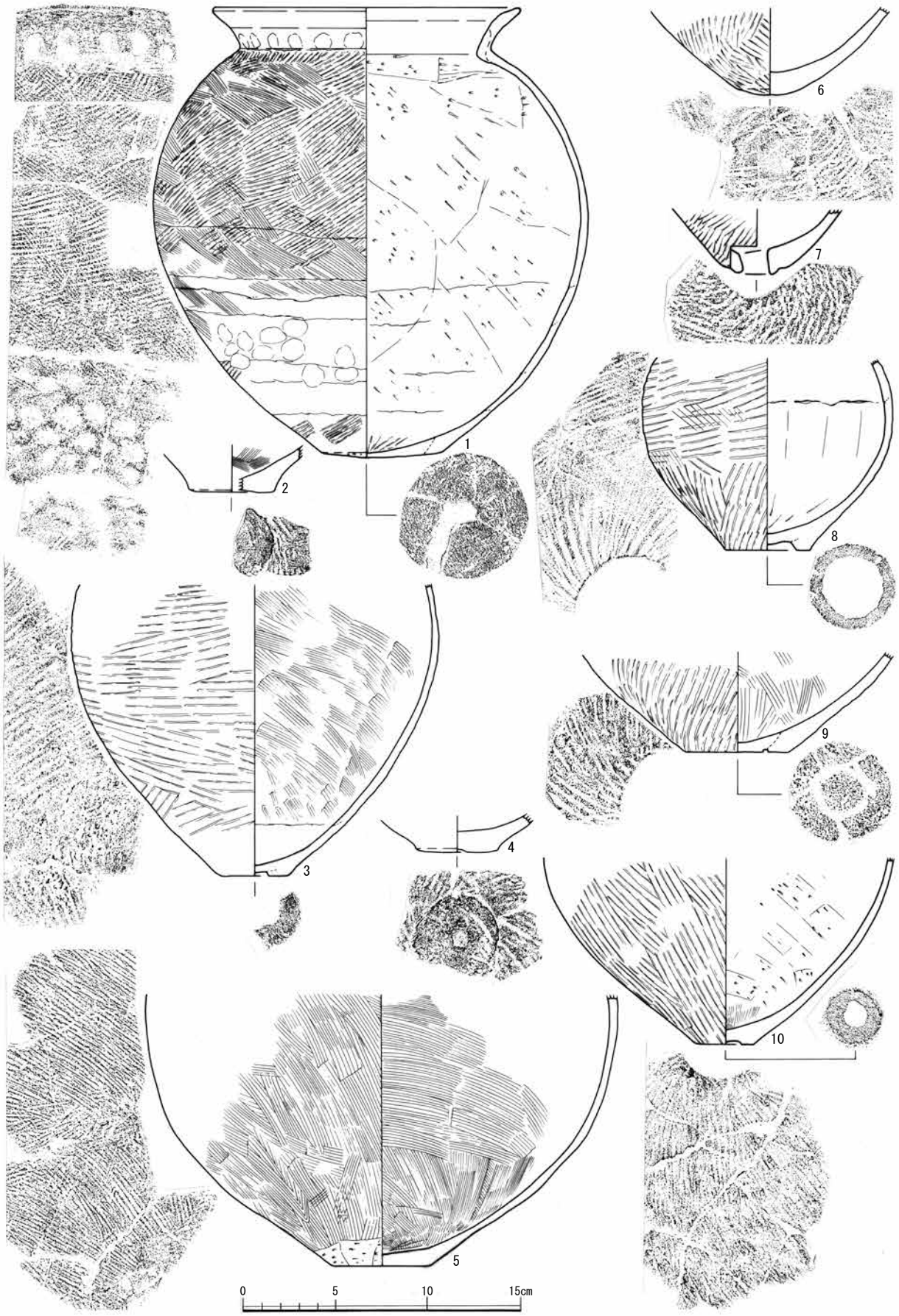
他地域の土器としてＳ字状口縁の東海系と受口状口縁の近江系の甕があるが、いずれも胎土などの特

徴から搬入品ではなく、在地での模倣、もしくは他の地域で製作されたものである。Ｓ字状口縁の甕は３点ある。脚台を欠くが、東海系の特徴の一つである脚台との接合部の胴底部と胴中央部と胴肩部から口縁部の３つに分かれて図化できたもの（第55図１）は、最大径が上にありながら丸味のある胴部で口縁部の摘まみ出しも後者のものよりやや弱い。同じく脚台は欠くものの脚台との接合部の胴底部から口縁部まで復元できたもの（第55図４）は、口縁が水平ではなく大きく傾き、最大径はかなり上となり肩が大きく張った器形で、口縁部のＳ字の摘まみ出しも前者のものより強いことから時期的にはやや新しい。この両者ともの調整はその本来のものである肩部に右上がりのタテハケのちヨコハケを全周に巡らせ、それ以下の胴部は左上がりのタテハケである。他に口縁部のみのものが１点（第55図３）ある。近江系は受口状口縁甕（第55図２）であるが、近江系の典型的なものより立ち上がりがゆるく頸部の屈曲もあまい。

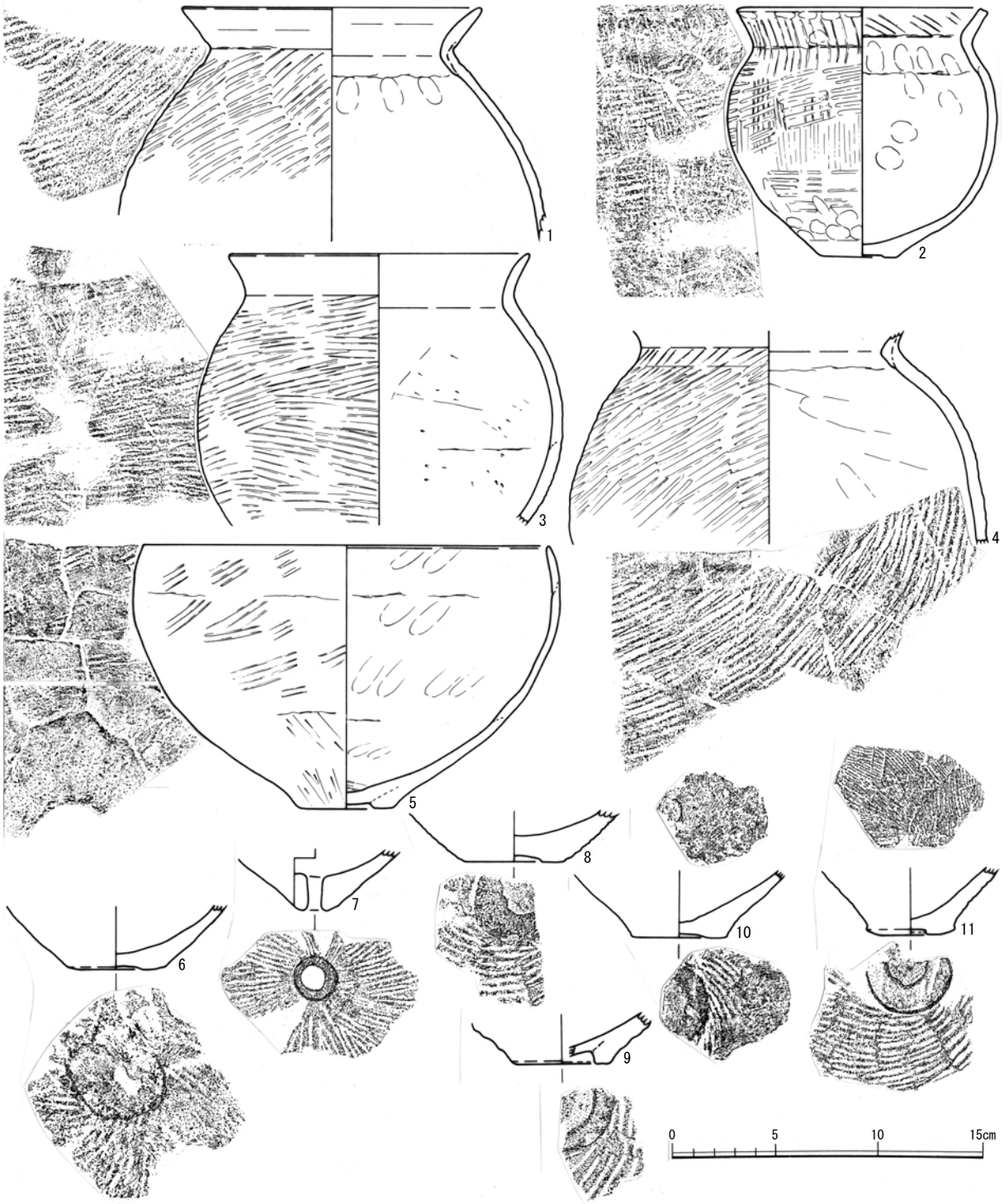
壺は胴部から開いた頸部がそのまま口縁になる単口縁のもの（第56図１・２・４・９・10、第57図４）と、有段口縁のもの（第56図５～８）、いわゆる二重口縁のもの（第57図６）が主要なものである。直立した頸部から水平に伸びた口縁の端部を小さく摘まみ上げるもの（第57図１）は瀬戸内の影響かと考えられる。いずれも胴部は丸みのある球形に近く（第56図１・２・10、第57図１～４、６～７、第61図１）、底部は突出した平底である（第56図２・３、第57図６・７、第58図１）。頸部にキザミを加えた突帯を巡らせるもの（第57図４・６）は、いずれのタイプの壺にもある。胴部の調整はハケのちタテを基本とするミガキや（第56図１・２・10、第58図１）、ハケを消すように丁寧なミガキ（第57図１～３・７）、ハケ調整のみのもの（第56図８・９、第57図４・６・８）などその違いは大きい。また底部には突出しない平底（第57図９・10）もある。壺にはこれまで述べてきた球形の胴部のもの以外に時期的に古くなる頸部が長くなるものがある。口縁部をヨコナデして直立させ、口縁部に１条の沈線を加えるもの（第58図６）、その沈線が２条のもの（第58図９）やヨコナデで内湾させるもの（第58図７）、小さく有段にしてそこに擬凹線文を加えるもの（第58図８）である。有段口縁の壺には台付のもの（第58図11）があるが、鉢の台付もあり（第58図13）、脚台（第58図12）だけでは壺に付くか鉢に付くかは不明である。壺の胴部に文様があるものは少なく、図化できたのは列点の間に円形竹管を施文したもの（第57図５）ぐらいである。受口状口縁（第58図10）は口縁部としてはやや厚手の器壁であることから、甕ではなく壺の口縁部であろう。小型の壺には指押さえの整形のみで仕上げた口径と胴部最大径が同じもの（第58図２）は、底が明確ではないが平底に近い。口縁部が胴部最大径よりも大きく開くもの（第58図５）は、１㎝ほどの小さな平底でやや上げ底となっている。

鉢には有段口縁と「く」の字の口縁の２種類がある。有段口縁には幅広の口縁帯のもの（第58図３）とその口縁がさらに大きく伸びるもの（第58図15）がある。小型の「く」の字口縁には口縁端部が小さく外反するもの（第58図４・13）があり、後者（第58図13）には水平に伸びる脚台が付く。鉢に分類したが小型の甕とも言えるもの（第 58図14）があり、口縁部を面取りするようにヨコナデすることから近江の受口状口縁の影響かとも考えられる。胴部は脚台とともにハケ調整である。また胴部中央に焼成後に開けられた直径３㎝ほどの孔がある。同じような口縁のもの（第58図16）も胴部外面はハケ調整である。この時期に典型的な鉢として有孔鉢が２点（第58図17・18）ある。略完形に図化できたもの（第58図18）は口縁部をヨコナデする。口径が30㎝近くになる大型の鉢（第58図19）は有段口縁ではなく「く」の字の口縁で、頸部外面に輪積み痕を残し、これを指押さえするやや特殊なものである。

高坏の口縁部はないが坏部が有段となる在来のもの（第59図10）は１点のみである。ほぼ直線に開く

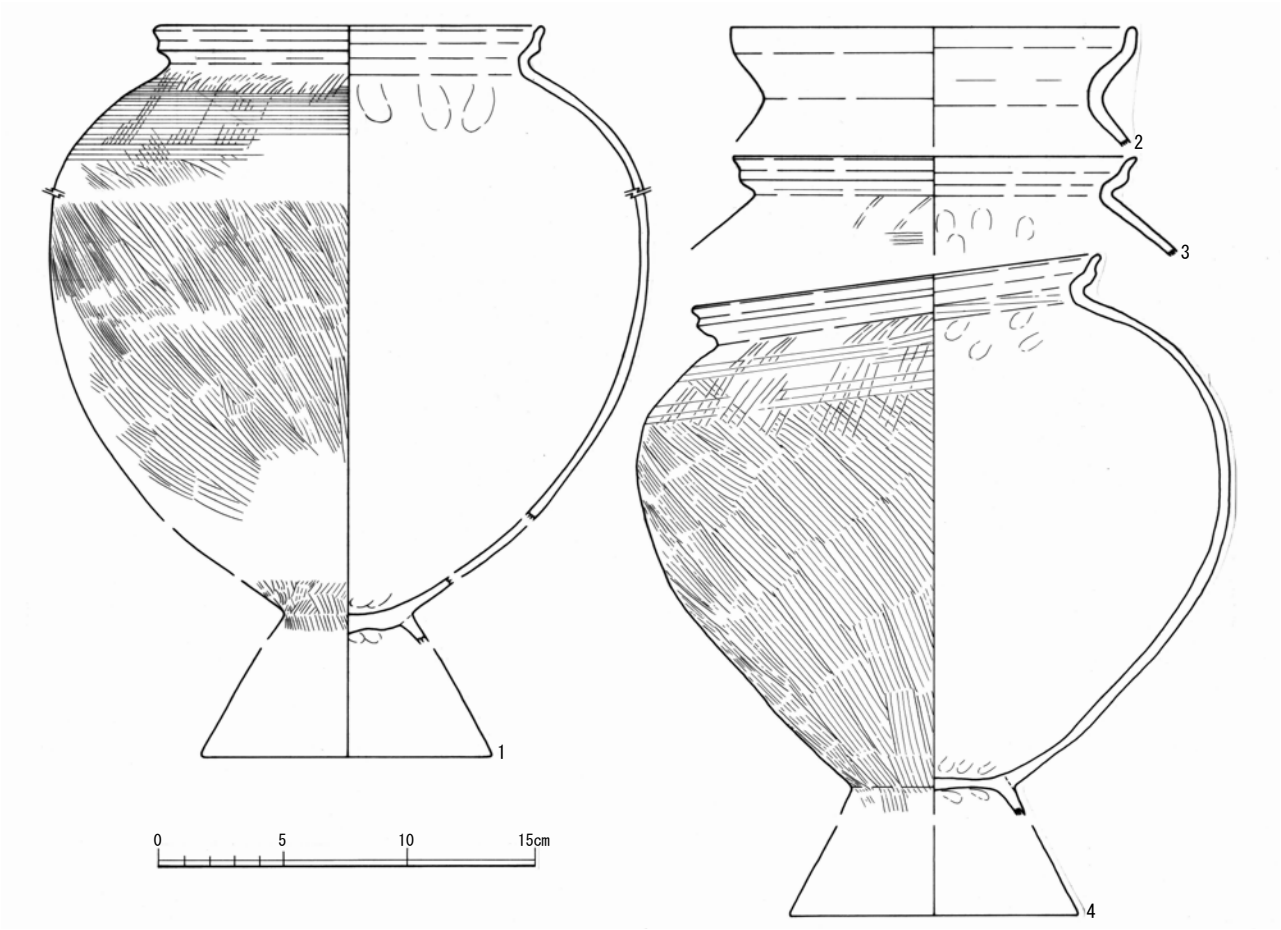


第53図　SD93・94 出土土器実測図４（縮尺 1/3）



第54図　SD93・94 出土土器実測図５（縮尺 1/3）

もの（第59図７～９・12・17）と内湾しながら開くもの（第59図13・14）があり、後者は東海系の影響とされる高坏である。図化できた器台には大型・中型のものはなく、すべて小型のものである。受部口縁を摘まみ上げるもの（第59図６）は１点だけで、４点（第59図１・３～５）は端部を丸くおさめる。摘まみ上げないで平坦面を作るもの（第59図２）もある。脚の孔は一段のもの（第59図１・３・15）と上下二段あるもの（第59図５・６）、孔がないもの（第59図２・４）の３種類がある。小型で埦の形状の高坏（第59図11）は特徴的な施文はないが東海系である。脚台が有段になるもの（第58図20～22）は鉢などのものではなく、高坏または器台の脚部である。脚部の下半が大きく屈曲して水平近く開くもの（第59図



第55図　SD93・94 出土土器実測図６（縮尺 1/3）

16）は、他の高坏などより時期が布留式に降るものである。

SD33、SD93・94 以外の溝では、 SD14から擬凹線文の有段口縁甕口縁が４点（第60図１～４）と器台受部（第60図５）、高坏の有段脚部（第60図６）が出土している。いずれも甕の口縁部には擬凹線文があり、口縁端部を丸く収める。器台は口縁部を折り返して有段とするがヨコナデ調整の無文で、端部に面を作るやや特殊な口縁形態である。有段脚には羽状の刺突列点の下に３条の沈線を巡らせる。

SD15から擬凹線文の有段口縁甕口縁（第60図８）とやや小型と考えられる甕の胴部（第60図10）、口縁部を欠く壺（第60図12）、器台受部で大きく開く口縁（第60図11）、高坏の脚部（第60図９）が出土している。甕の底部は２㎝ほどである。壺は欠失部から口縁部となる有段の鉢に近い器形と考えられる。高坏の脚部は「ハ」の字に開いたまま裾端部となる。SD16からは口縁部の立ち上がりに沈線を加えて突出させる有段口縁の鉢（第60図13）が出土している。

SD26から小型の蓋の摘まみ部分（第60図７）が出土している。

SD28から擬凹線文の有段口縁甕口縁で口径が16㎝ほどのもの（第60図14）と30㎝近くなるもの（第60図15）の２点と壺の口縁（第60図16）が出土している。甕の口縁部は先細りし、内面に連続指頭圧痕を残す。壺は太い頸部から小さく外反して端面を作る。

SD29から擬凹線文の有段口縁甕口縁（第60図19）と口縁帯が大きく開く擬凹線文を施文した壺の有段口縁（第60図20）、装飾器台の垂下帯部（第60図23）が出土している。壺には脚台が付く可能性が高い。網目状の文様がある胴部と思われる破片（第60図22）も出土している。

SD28とSD29から擬凹線文の有段口縁甕口縁部２点（第50図17・18）とヨコナデ調整の有段口縁甕口縁

部（第60図21）が出土している。

SD37から高坏の坏部底と脚部上半の部分（第60図30）と小型器種の脚台（第60図29）が出土している。前者はSD33から出土した破片と接合している。

SD38から壺の底部（第60図27）が出土している。

SD42とSD43から出土した破片が接合し、口縁部に面を作る壺（第60図31）となった。

SD43から折り返した有段口縁部に擬凹線文を施文した器台受け部（第60図25）と甕底部（第60図26）が出土している。

SD44から擬凹線文の有段口縁甕口縁（第60図24）が出土している。

SD47から壺の底部（第60図28）が出土している。

SD53から擬凹線文の有段口縁甕口縁（第61図１）が出土している。太めの擬凹線でやや古い時期を示す。

SD62から小型の鉢と考えられる底部（第61図２）が出土している。

SD70から小型器台の受部（第61図６）が出土している。

SD73から壺の蓋が２点と壺が出土している。小型の蓋（第61図４）は壺に伴うもので、つまみ部分は開かないで端部まで直立する。径が15㎝を超える蓋（第61図５）は甕に伴うもので、つまみ部分が開いて端部となる。壺（第61図７）は胴部から僅かに口縁部が立ち上がるもので、いわゆる「無頸壺」に分類される。

SD74から口径の小さな蓋（第61図３）が出土している。壺に伴うものであろう。

SD81から擬凹線文の有段口縁甕口縁３点（第62図１～３）とつまみ部分が大きく開いた蓋（第62図８）が出土している。甕の口縁は幅広く伸び擬凹線文も明瞭で、口縁端部が先細りする。

SD83から擬凹線文の有段口縁甕口縁（第62図４）と、径が10㎝に満たない壺に伴う蓋（第62図７）が出土している。

SD86から有段口縁甕が２点と高坏の脚部が出土している。甕は立ち上がった口縁部に３条の擬凹線文を巡らすもの（第62図５）とヨコナデ調整の無文で端部が丸くなるもの（第62図６）である。高坏は「ハ」の字状に開く無段の脚（第62図９）である。

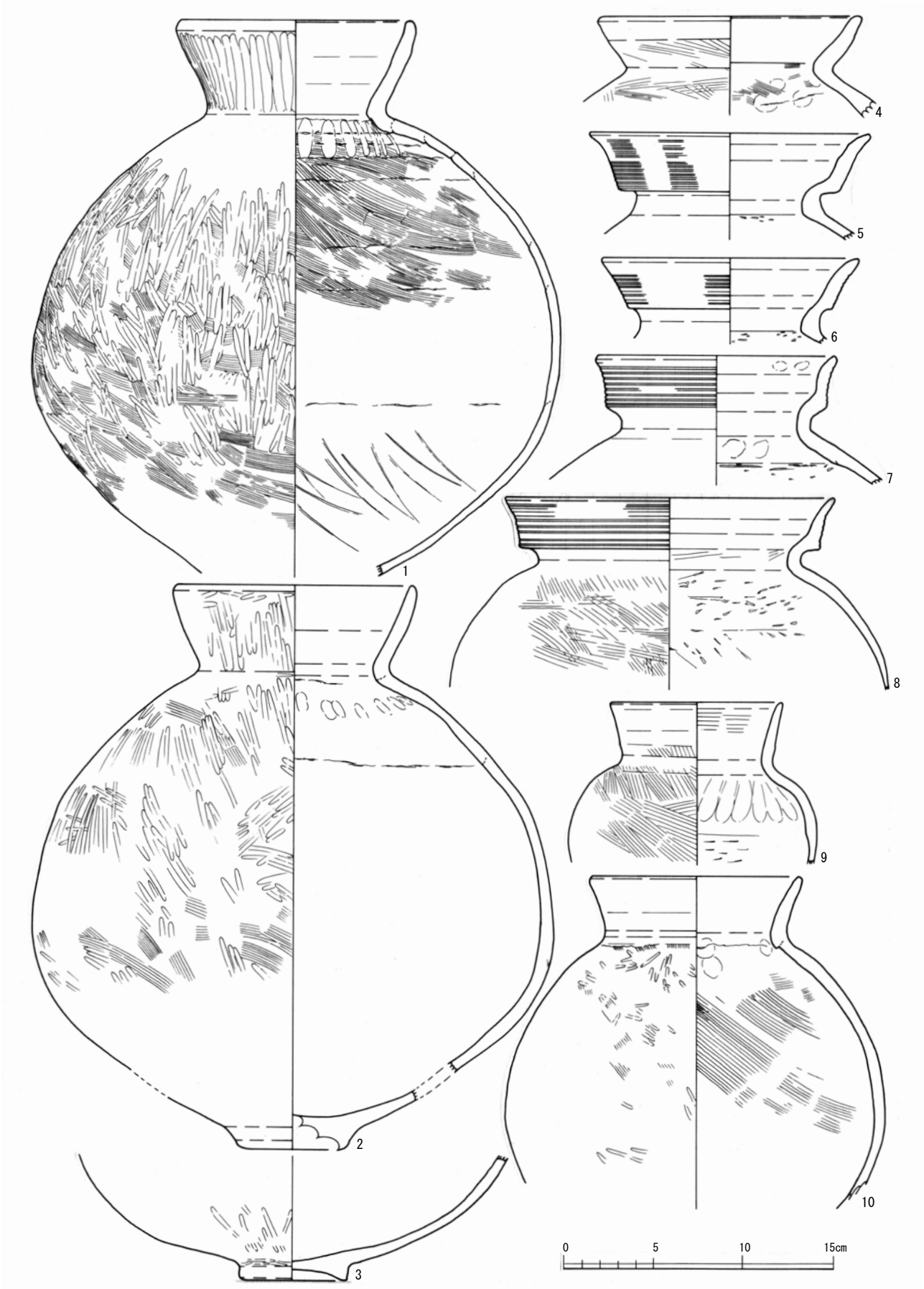
SD87・SD88から有段口縁とも二重口縁とも言い難い壺の口縁部（第62図13）が出土している。

SD90から擬凹線文が摩滅した有段口縁甕口縁（第62図16）と「く」の字甕の口縁（第62図15）、僅かに上げ底となった壺の底部（第62図14）が出土している。

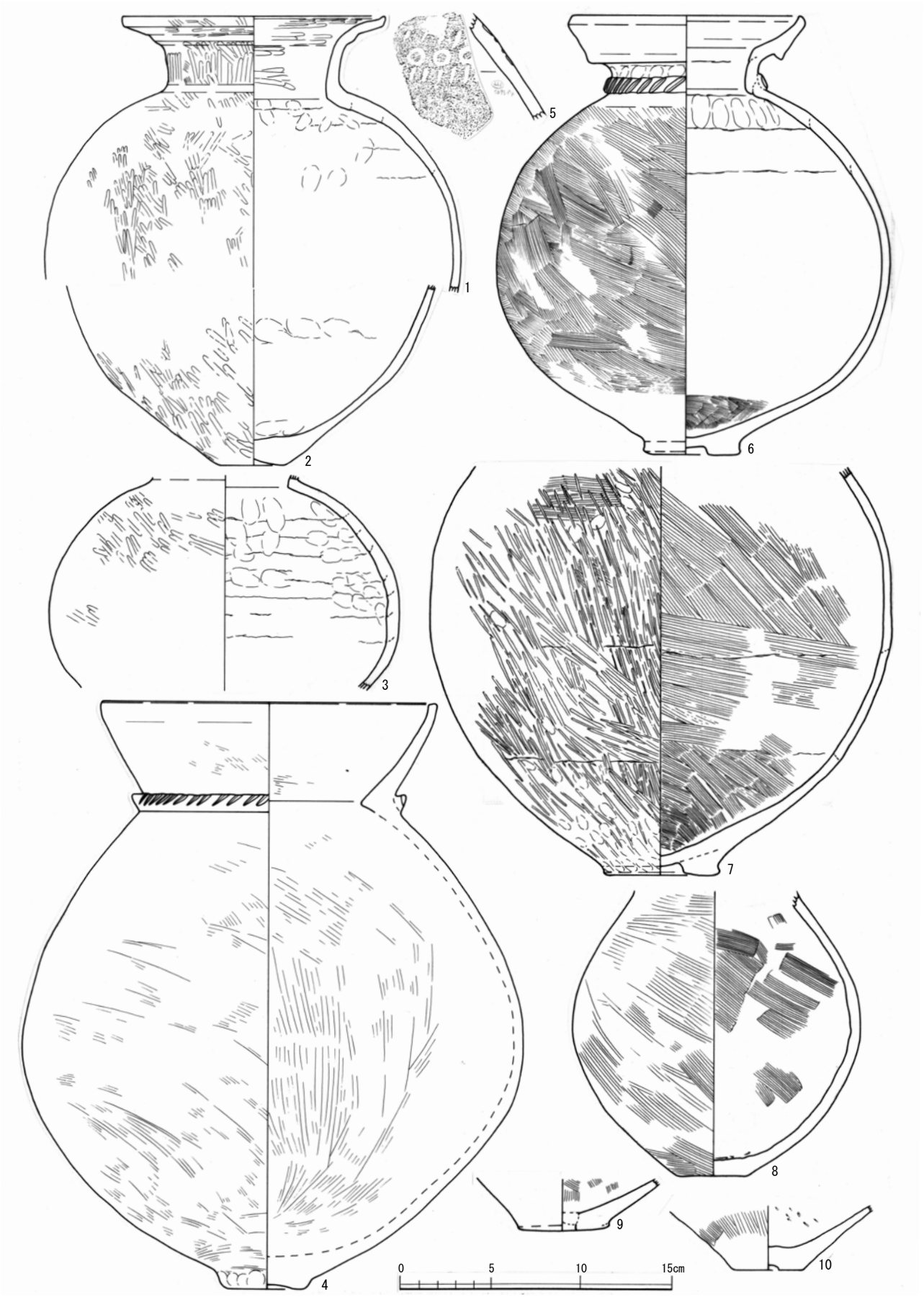
SD91から高坏３点、器台１点、小型器台３点、鉢１点が出土している。高坏は小さな底部から大きく開く坏部となるもの（第62図11）と小さな底部から内湾して立ち上がり口径が15㎝に満たない坏部が小型のもの（第62図10・12）の２種類である。器台は受部中ほどで大きく外反して開き、口縁の先端を摘まみ上げて面を作るもの（第62図21）である。これらの脚部（第62図10・11・21）はいずれも無段で大きく開き脚端部となる。小型器台は口縁端部を小さく摘まみ上げて面を作るもの（第62図19）と摘まみ上げないで面を作るもの（第62図18・20）とがある。脚部（第62図18・19）は二等辺三角形のような断面を呈する。鉢（第62図17）は丸い胴部から立ち上がった口縁部が僅かに有段状に伸びる。

NR１出土の土器（第63～71図）

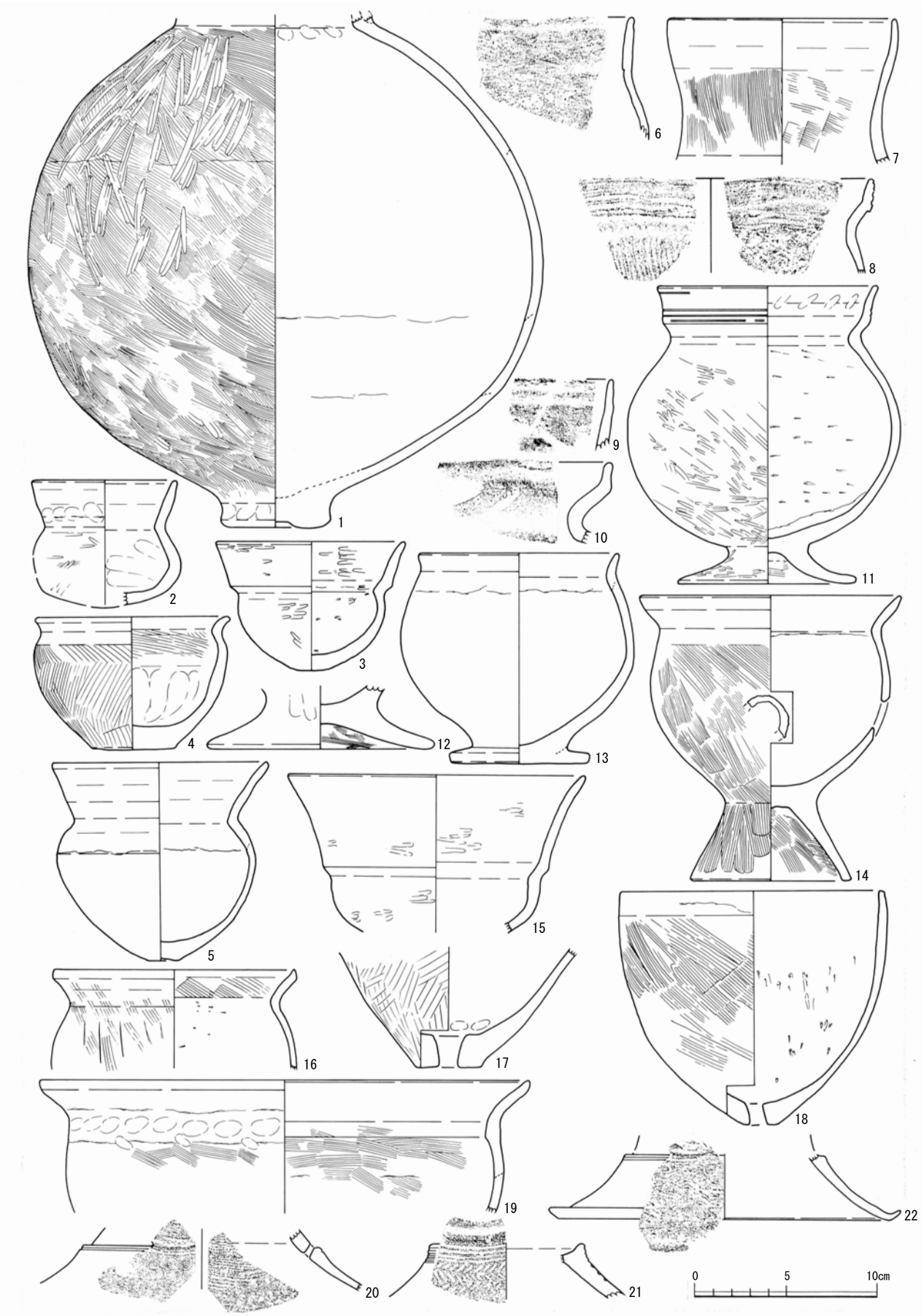
他の溝などと同じように甕は有段口縁が多い。有段口縁ではあるが端部の上への摘まみ出しが小さいもの（第63図５・６、第65図17）や口縁端部に面をつくるためのヨコナデで上下に拡張したようなもの



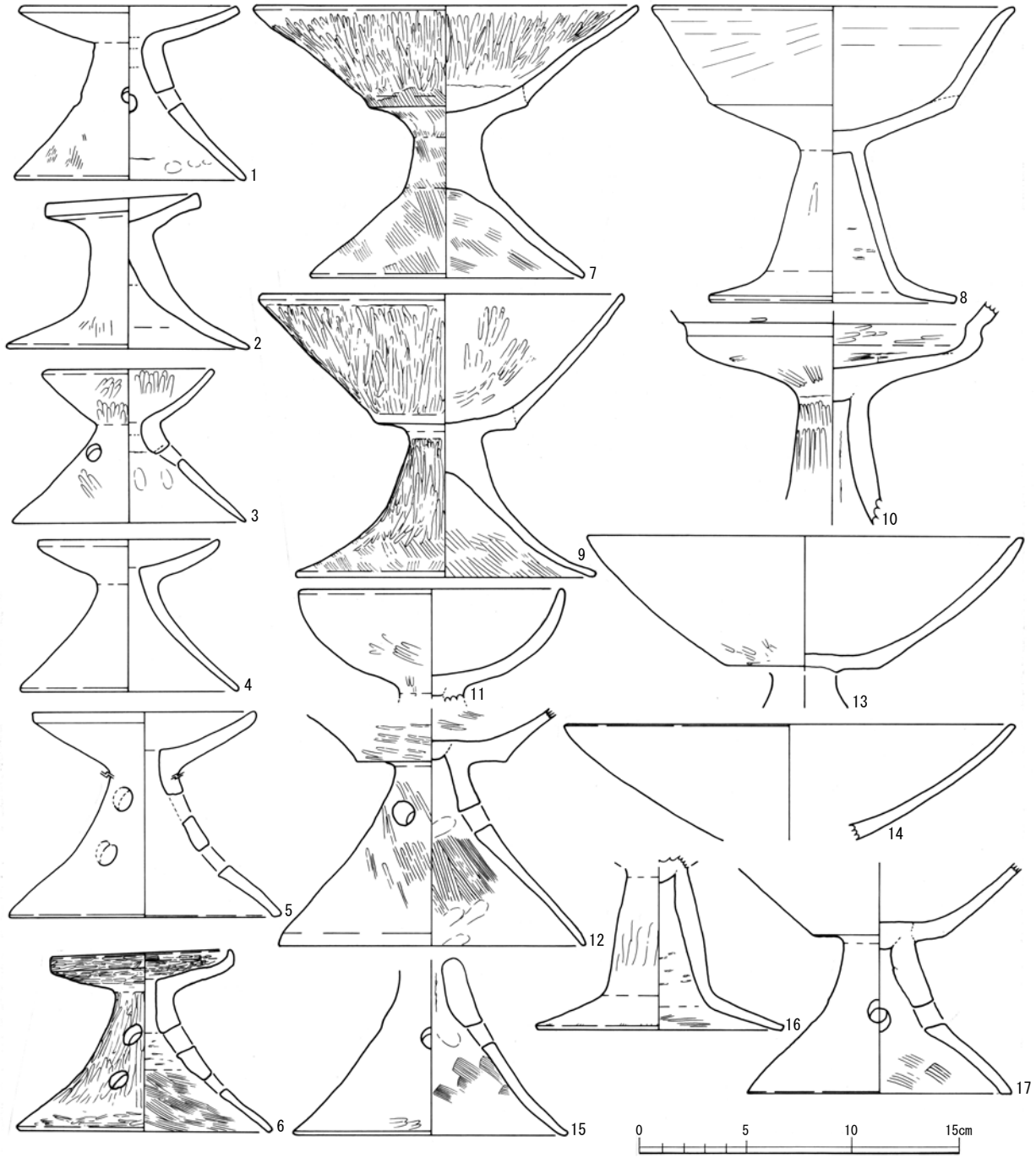
第56図　SD93・94 出土土器実測図７（縮尺 1/3）



第57図　SD93・94 出土土器実測図８（縮尺 1/ ３）

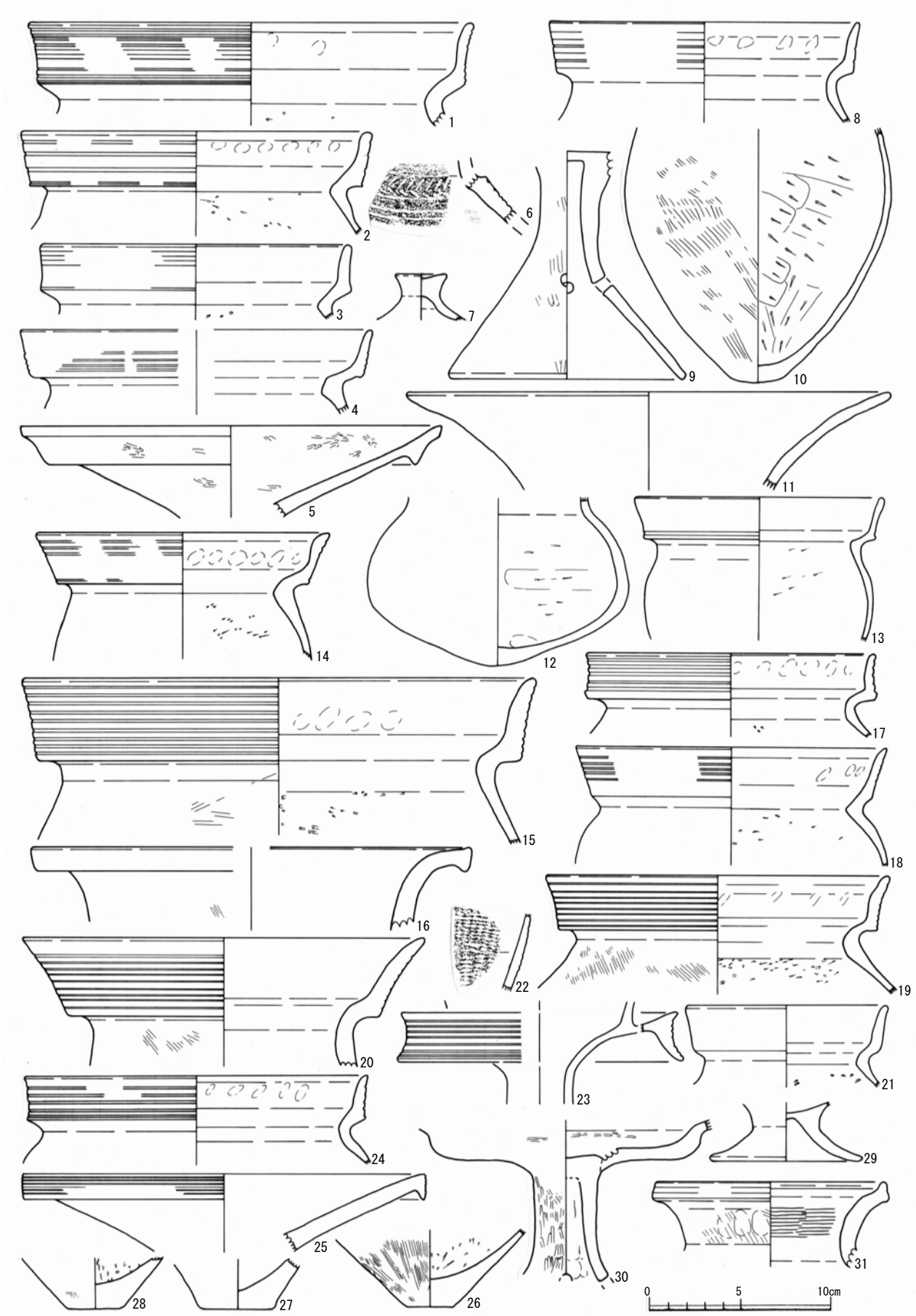


第58図　SD93・94 出土土器実測図９（縮尺 1/3）

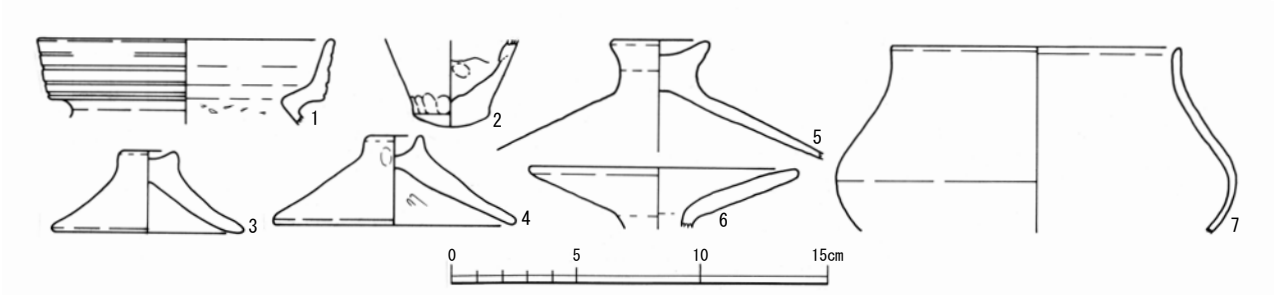


第59図　SD93・94 出土土器実測図 10（縮尺 1/3）

（第65図16･18）は他の甕よりも時期的に古いタイプである。ほぼ直立で立ち上がるもの（第63図２～４・７～14、第64図１～５）は５・６本の擬凹線を施文するものが多い。口縁の先端部も先細りするものはなく、丸くおさめるものがほとんどである。口縁部をヨコナデするのみのものは口縁が直立するものには見当たらないが、やや外反するもの（第65図20）が１点ある。また擬凹線を施文しないで口縁帯全体に櫛刺突列点を巡らすもの（第63図１）は大型の甕の１点だけである。口縁部が直線に立ち上がってから外反するもの（第64図６～８・10、第65図１～７・10～15）は先端部が急に薄くなり先細りするものが多い。さらに立ち上がりから外傾するもの（第64図９・11～19）には擬凹線文が８～10本と多条になるものが多くなる。また頸部の屈曲が平坦面を作らず「く」の字になったり（第64図11・13・14・



第60図　SD33・93・94 以外の溝出土土器実測図１（縮尺 1/3）



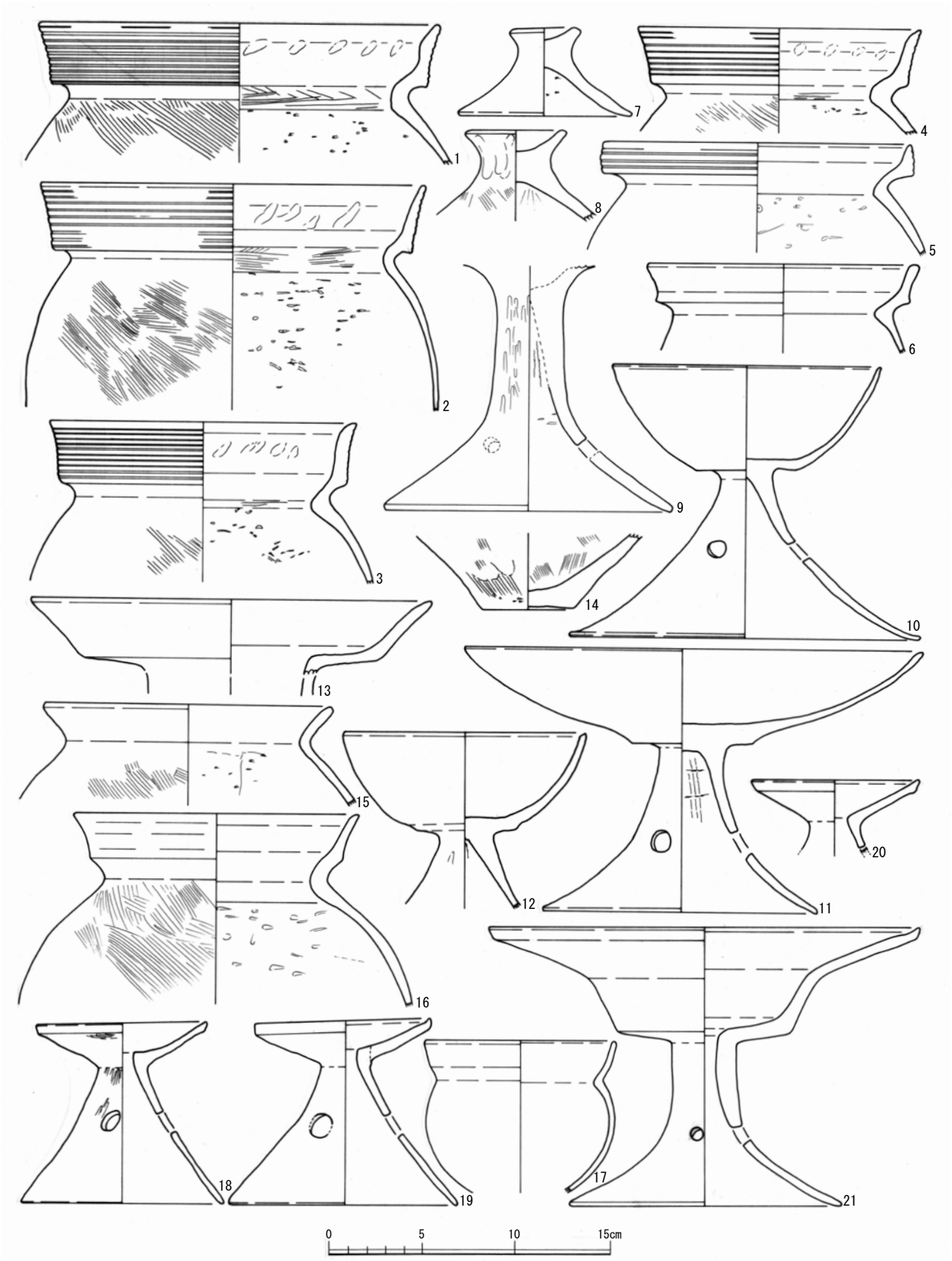
第61図　SD33・93・94以外の溝土器実測図２（縮尺1/3）

18)、内側の有段面が不明瞭になったりするもの（第64図13・14）が目立つようになる。「く」の字に屈曲した頸部から開く口縁部の先端に面を作るもの（第65図21）は少ない。有段口縁でも立ち上がりの短いもの（第65図22･23）は近江の受口状口縁の影響と考えられ､特に口縁の上端面を指押さえするもの（第65図23）は典型であろう。有段口縁甕の古いタイプによく見ることのできる肩部へ刺突列点文をめぐらすものにはヘラ刺突（第63図３、第65図28）と櫛刺突（第65図29）の２種類ある。櫛刺突でも羽状のもの（第65図27）は壺の肩部の可能性が高い。口縁部がヨコナデ調整のみのもので外傾するもの３点（第65図８・９・19）である。「く」の字甕はSD93・94よりも全体に占める点数は少なく、口縁部だけのものも含めて６点である。口縁を僅かに摘まみ上げて平坦面をつくるもの（第66図４）、僅かに面取りするもの（第66図５）、指押さえのまま仕上げとするもの（第66図６）、厚めの口縁を短く屈曲させるもの（第66図７）と個体差が大きい。丸底と考えられる底部近くまで復元できた「く」の字甕（第66図１）は口縁部をヨコナデせずに端部を調整しない。胴部外面はタタキ目を意識したような粗い左上がりのハケ調整で、口縁内面や胴部内面にも同様なハケ調整するが、輪積み痕を残しさらに胴部下半を中心にナデ仕上げとする。有段口縁の甕と比較すると倍近い器壁の厚さである。やや小型の甕（第66図13）は全体が分かるまで復元できたが、胴部外面はハケなどの痕跡を残さない丁寧なナデ仕上げで、底部は径２㎝ほどの平底である。タタキ甕は口縁部２点と底部５点を図化した。口縁部はヨコナデをしないで指押さえのまま仕上げたもの（第66図８）と、摘まみ上げて面取りするもの（第66図９）である。

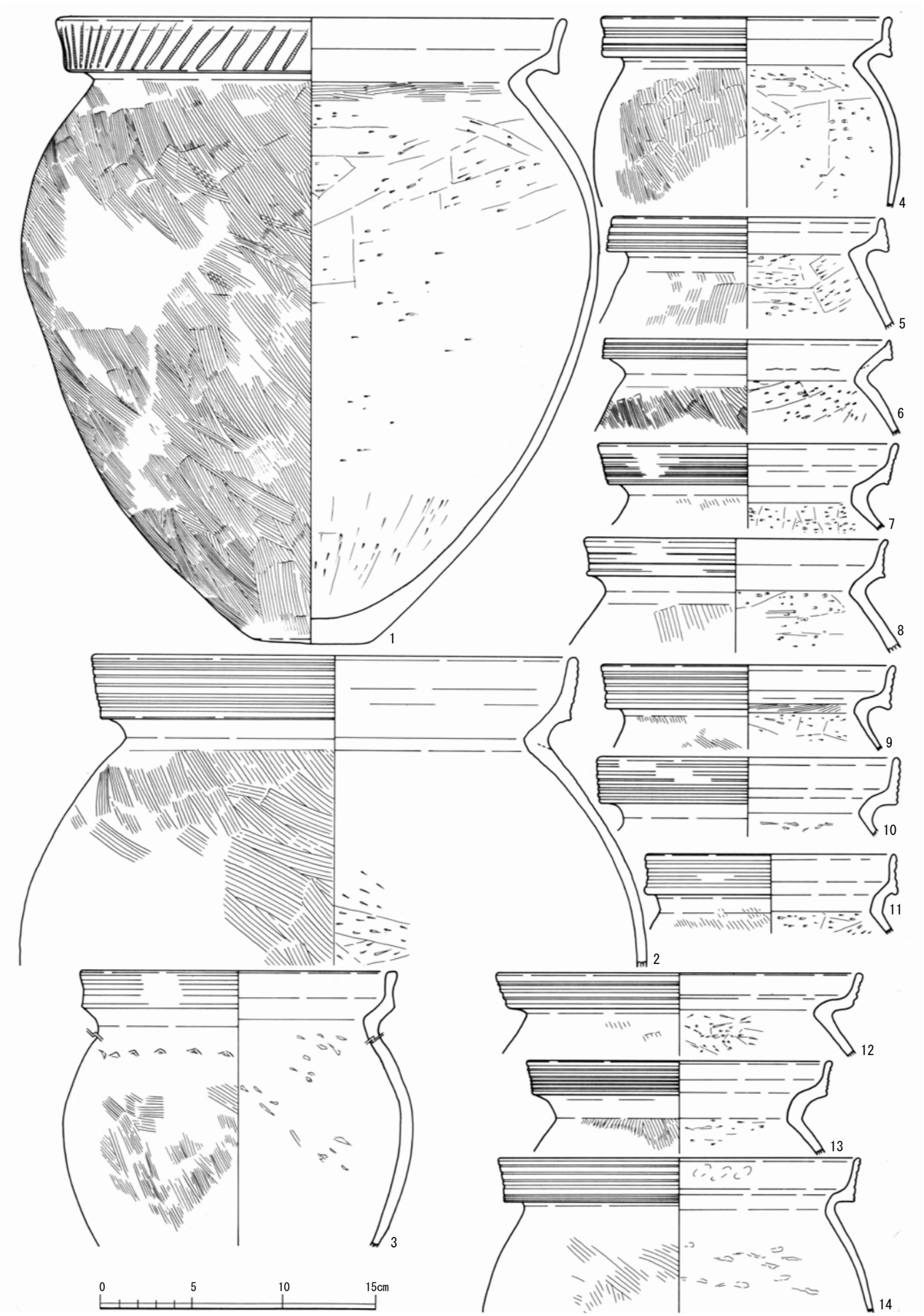
底部はSD93・94のタタキ甕と同じく輪高台状のものが４点（第71図１～４）あり、平底は１点（第71図５）のみである。NR１からは口縁の内面肥厚が明瞭な布留式甕が３点図化できた。略完形に図化できたもの（第66図３）はやや長胴で肩部のヨコハケも短い単位で、口縁内面にヨコハケを残す。肥厚も水平近くやや新しい時期の可能性がある。ほかの２点（第66図 11・12）は口縁部付近のみで、肥厚は小さい。口縁端部は肥厚しないものの口縁の中ほどが僅かに膨らみ、布留式の影響が伺える甕（第66図２・10）があり、胴部はハケ調整である。

受口状口縁の甕でヘラ刺突列点文のある破片３点（第65図24～26）はそれぞれ胎土が異なり別個体である。

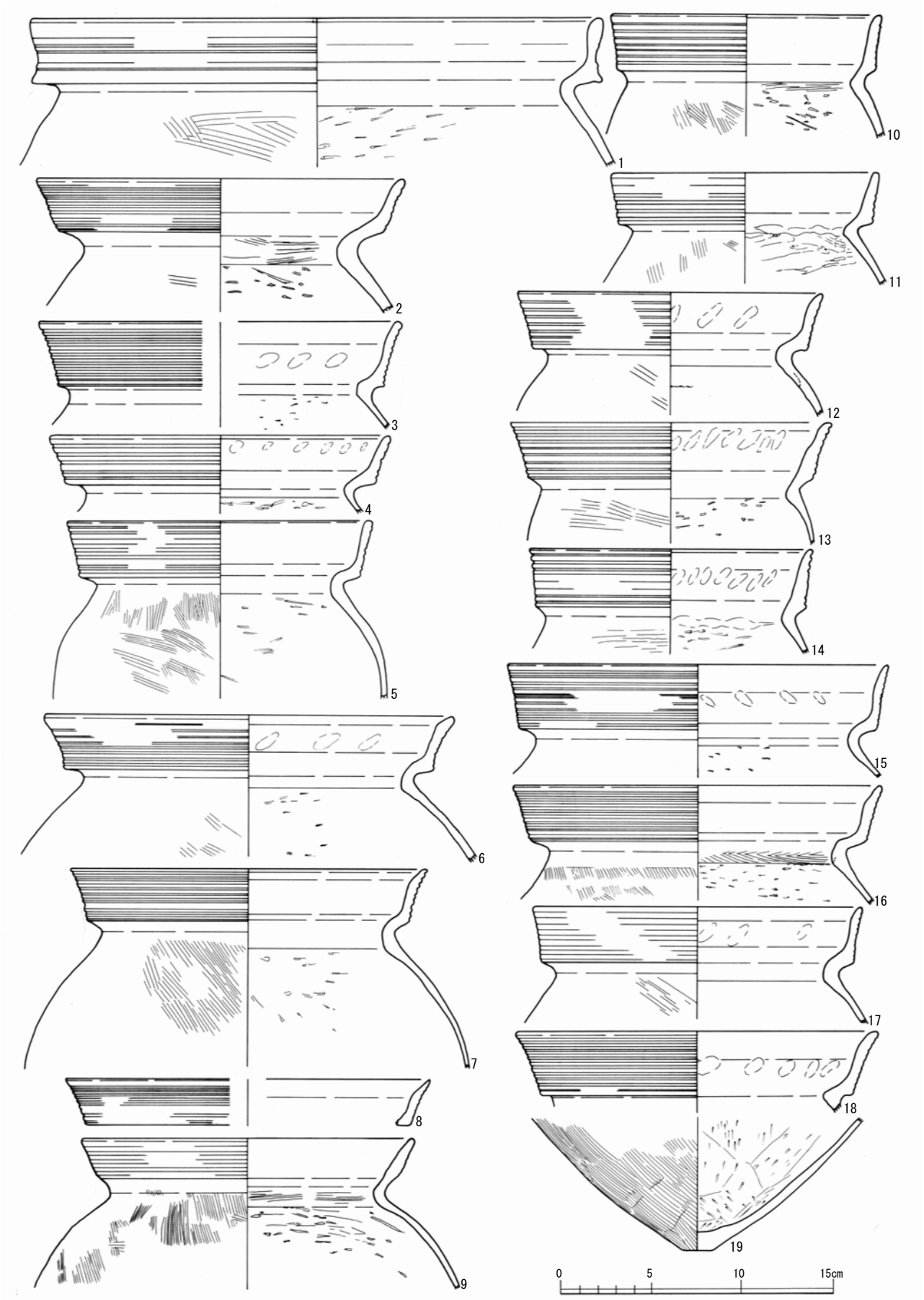
壺は有段口縁、二重口縁、単純口縁などの３種類である。有段口縁は口縁部を折り返して有段とするもの（第67図１）、擬凹線を施文するもの（第67図２・５・16)、有段部の立ち上がりは明瞭だが頸部の屈曲が不明瞭なもの（第67図６）、頸部は明瞭ながら有段部の立ち上がりが不明瞭なもの（第67図７）、有段の立ち上がりが短いもの（第67図３）など個体差が大きい。二重口縁は口縁上半を欠くもの（第67図４）の１点のみである。単純口縁も個体差が大きく、外傾する短い口縁の先端を丸くするもの（第67図８）、端部を面取りして両端を僅かに摘まみ出すもの（第67図９）、または面取りだけするもの（第67図12）や、面取りした部分に弱い沈線を巡らせるもの（第67図14)、外反した口縁部の先端を摘まみ上げ



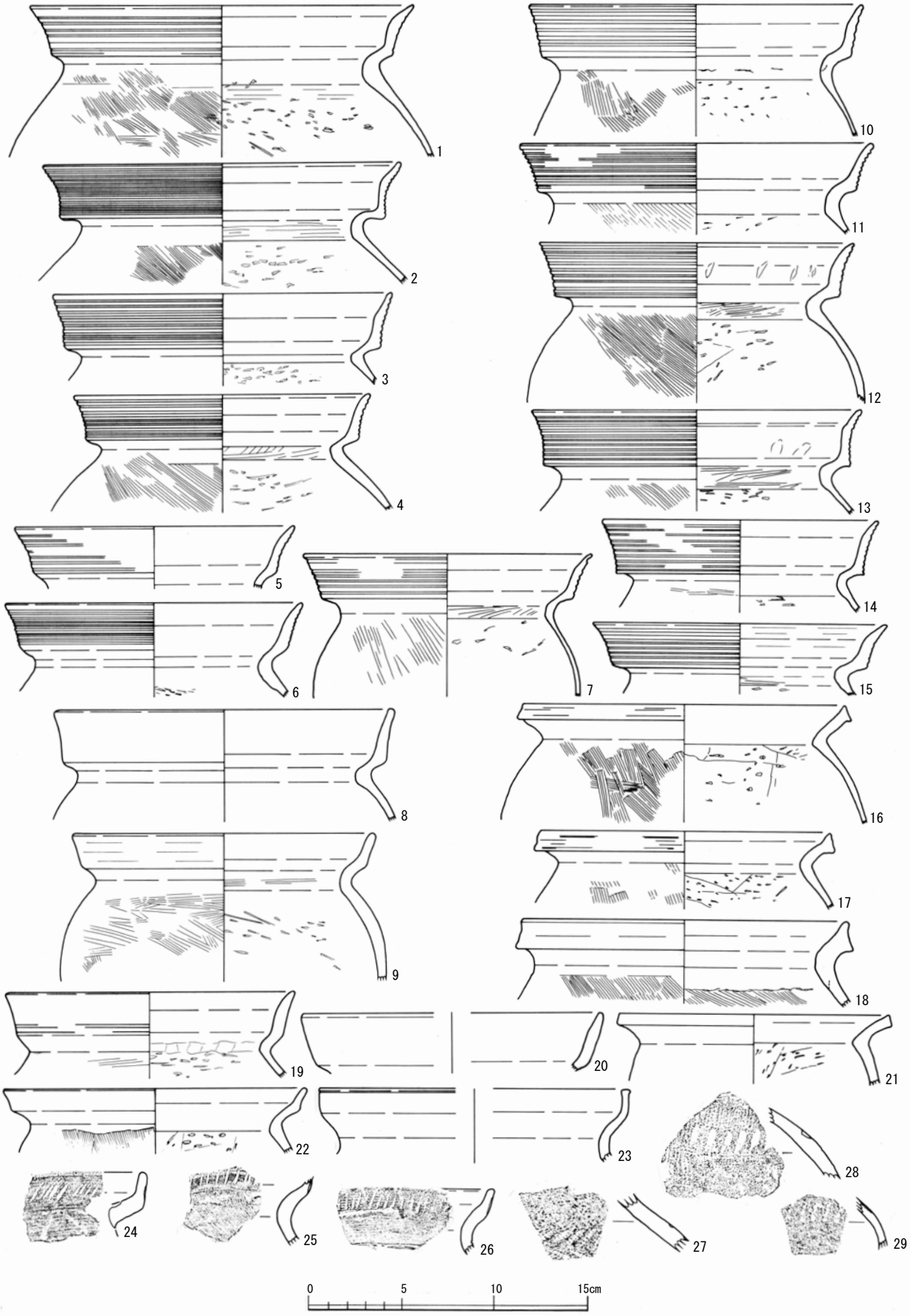
第62図　SD33・93・94 以外の溝土器実測図３（縮尺 1/3）



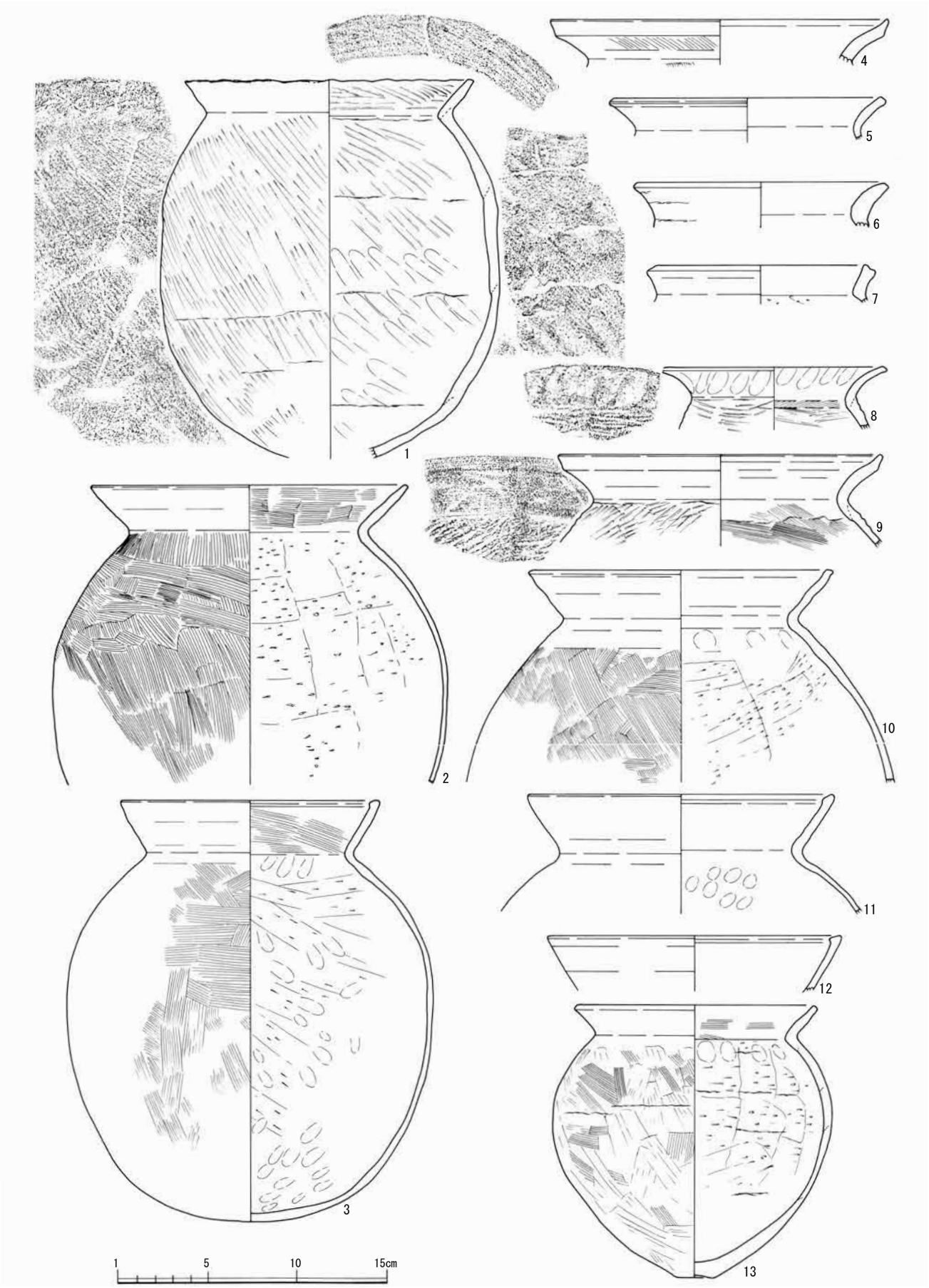
第63図　NR１出土土器実測図１（縮尺 1/3）



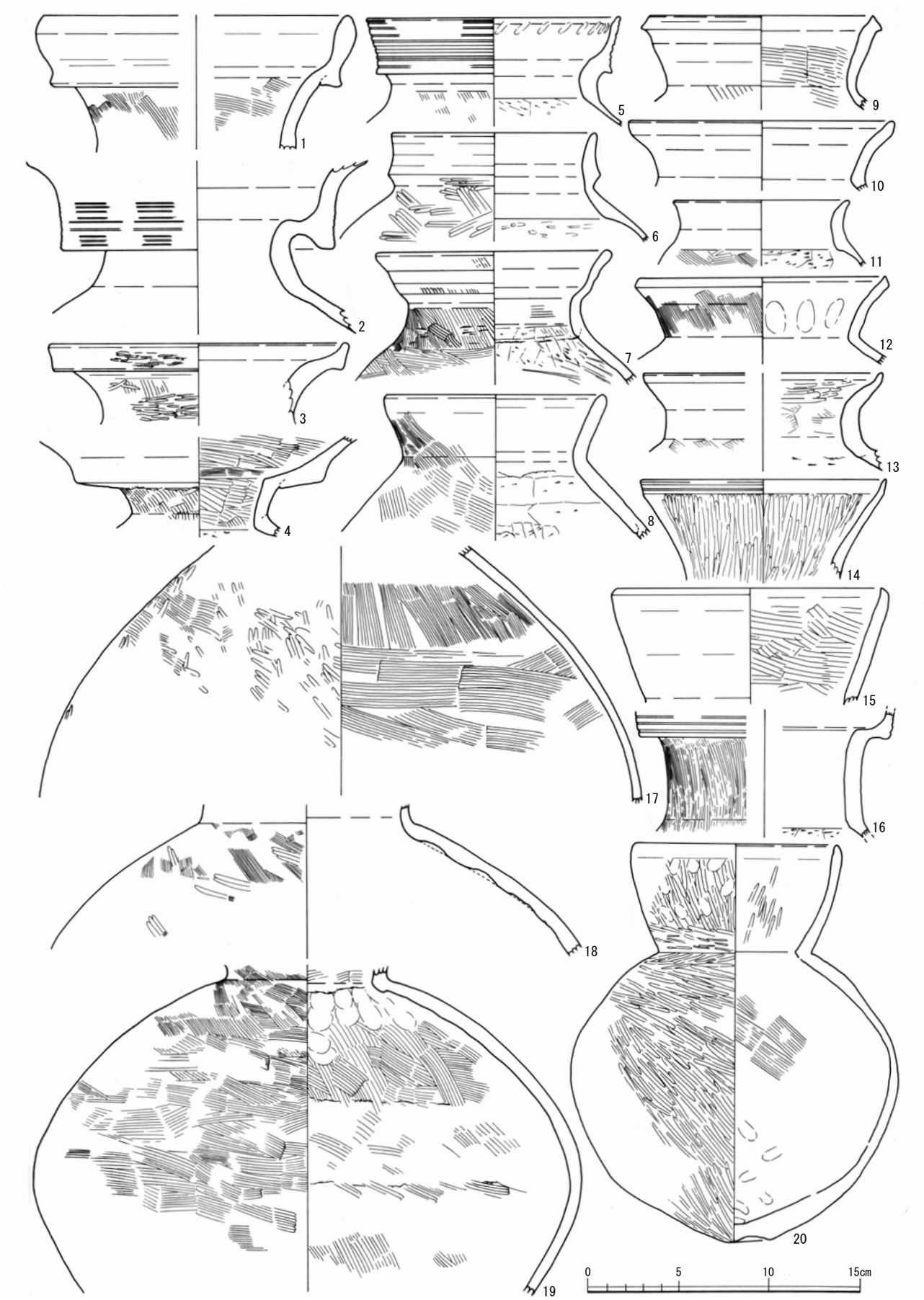
第64図　NR１出土土器実測図２（縮尺 1/3）



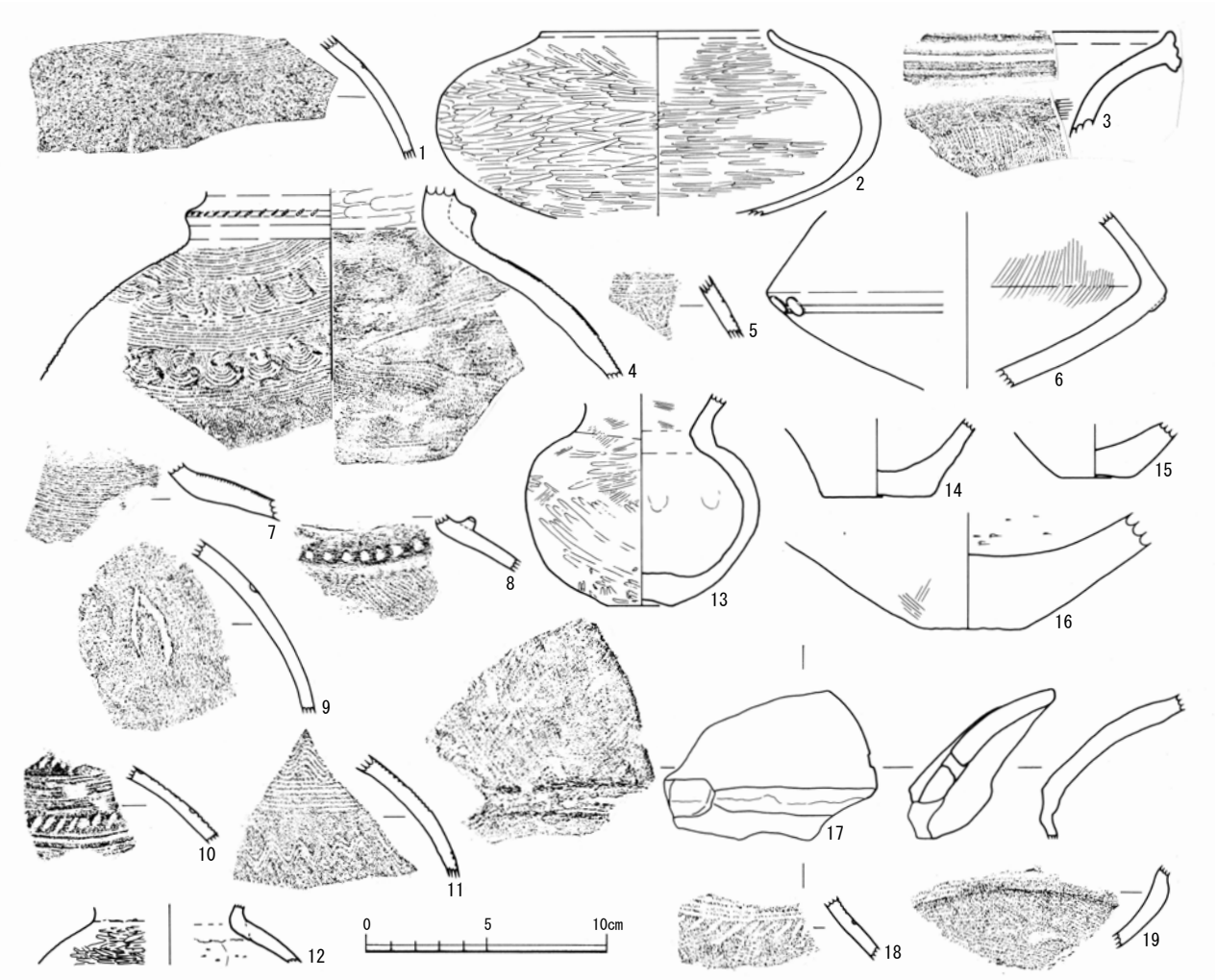
第65図　NR１出土土器実測図３（縮尺 1/3）



第66図　NR１出土土器実測図４（縮尺 1/3）



第67図　NR１出土土器実測図５（縮尺 1/3）



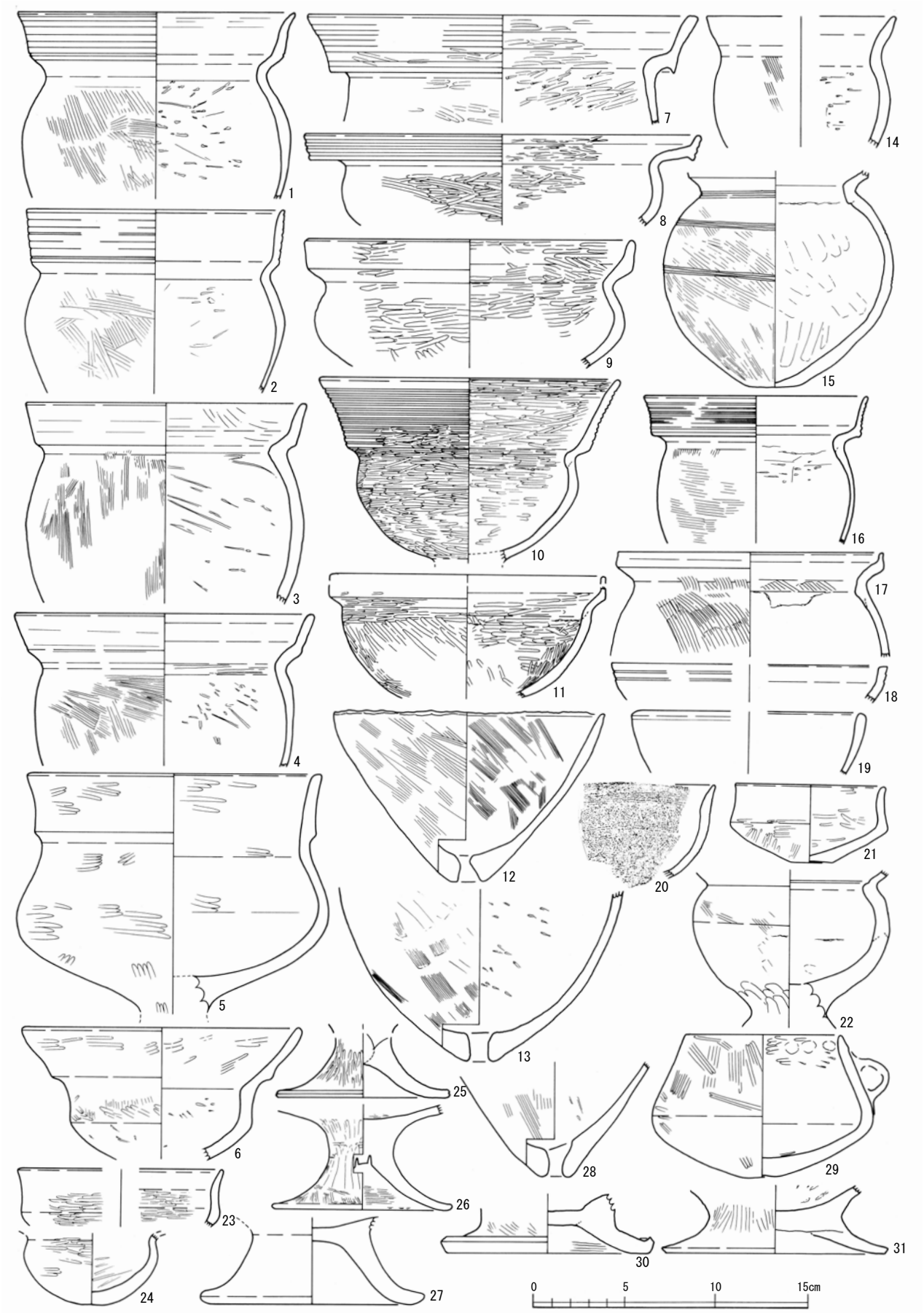
第68図　NR１出土土器実測図６（縮尺 1/3）

るもの（第67図13）、口縁の先端を僅かに内傾させるもの（第67図15・20）、先端を丸くするもの（第67図10）、短く立ち上がるだけのもの（第67図11）など様々である。胴部のみ図化したものが３点ある。内面にはハケ調整を残すが、外面は丁寧なミガキ調整のもの（第67図17）、ミガキ調整をするがその下にハケ調整を残すもの（第67図18）、ミガキ調整はなくハケ調整のままのもの（第67図19）である。略完形に図化できたもの（第67図20）は口縁部は短いが、東海の影響を受けた壺と考えられる。口縁が外反して開いたもの（第68図３）は、端部を上下に拡張して２条の沈線を加える。端部を僅かに摘まみ上げる無頸壺（第68図２）は底部の状況から脚台がつくものの可能性が高い。小型ながら径２㎝ほどの上げ底の壺（第68図 13）は口縁部を欠く。小型の壺には丁寧なミガキ調整で、赤彩とは異なり表面に赤い色調の粘土を薄く貼り付けるもの（第68図 12）もある。中央が「く」の字に屈曲する壺（第68図６）は、扁平な胴部に２条の沈線を巡らし円形浮文を２個以上貼り付ける。器壁の厚さから浮文を貼り付けている部分を下にして図化したが、上下逆の可能性もある。壺には様々な文様がある。櫛描直線文の下に櫛刺突列点文を加えるもの（第68図１）は球形の器形の肩部に当たるであろう。同じような部位で２帯の櫛描直線文の間にヘラ刺突列点文を加えるもの（第68図10）や櫛描直線文の上下に櫛描波状文を加えるもの（第68図11）やヘラ刺突列点文を加えるもの（第68図18）である。２帯の櫛描直線文の間に櫛描波状文を加えるもの（第68図５）は器壁がやや薄いことから、先の２点より小型の壺であろうか。櫛描直線文だけの部分のもの（第68図７）は頸部に接する部分であろう。壺には突帯を貼り付けるものがある。頸

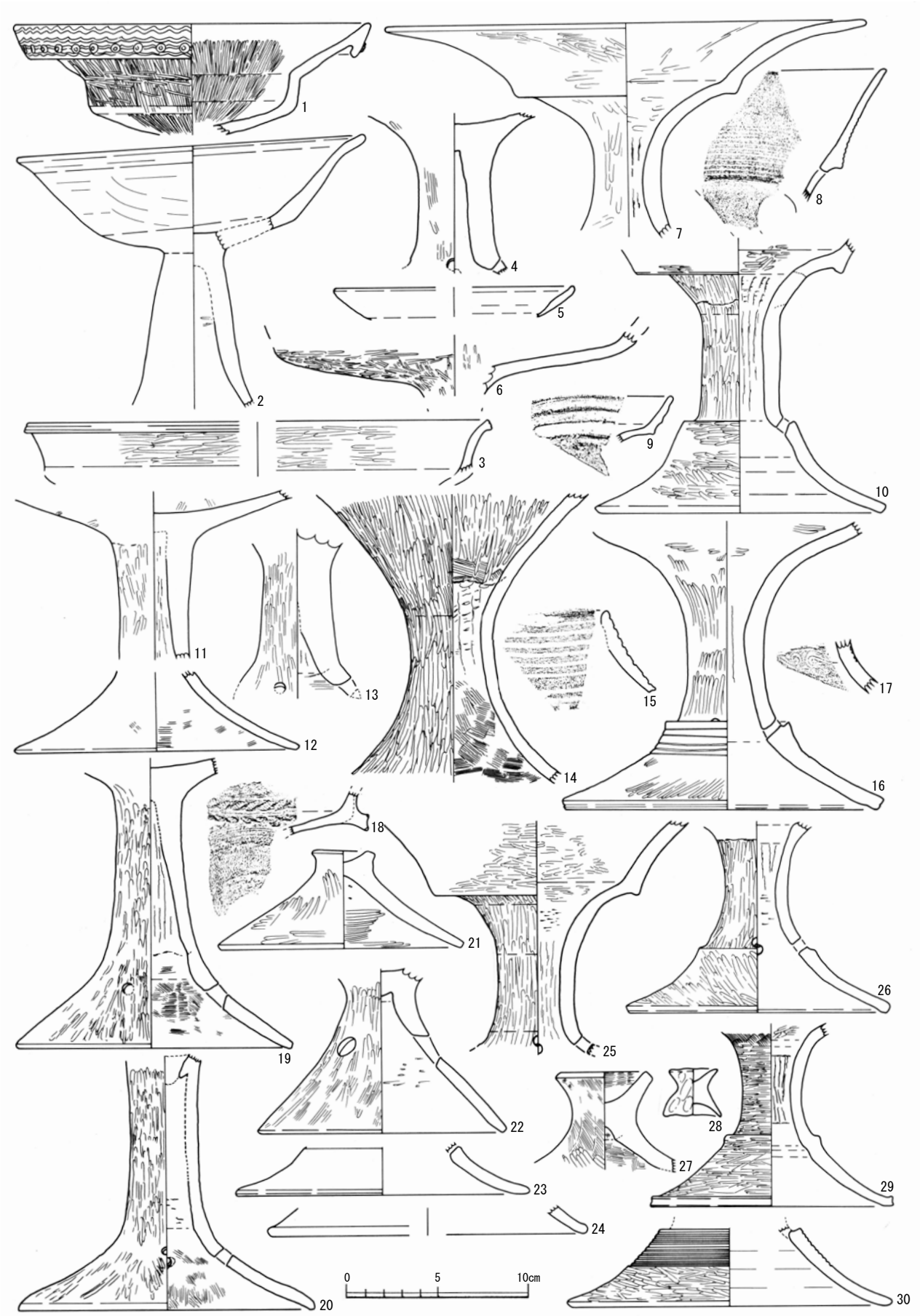
部への立ち上がりにヘラ刺突を列点として加えた太い突帯を貼り付けるもの（第68図４）は、突帯に接して３段の櫛描直線文の間に扇形文を列状に巡らせる。頸部への立ち上がりから１㎝ほど離れた位置にヘラ刺突列点を加えたもの（第68図８）は、文様はなくハケ調整が及ぶ。文様ではなく葉っぱ状の線刻があるもの（第68図９）も胴部上半であろう。底部は３点図化した。長めの胴部になると思われるもの（第68図14）に、僅かに上げ底状となるもの（第68図15）、厚手の器壁で大型の壺と思われるもの（第68図16）は、底径が５㎝ほどと小さい。

鉢には有段口縁、「く」の字口縁、そして底部に孔をあける有孔鉢などがある。有段口縁の鉢にも口径が器高と同じぐらいか大きく超えないもの（第69図１～４・16・17）、口径が器高よりも大きくなり全体に扁平な器形となるもの（第69図６～11）の２種類に分かれる。前者は有段口縁の甕と同じ調整で胴部外面をハケ調整、内面をケズリとし後者の胴部は内外面ともにミガキ調整である。また甕と同じく口縁に擬凹線文があるもの（第69図１・２・７・８・10・16）と擬凹線文がなくヨコナデ調整のもの（第69図３・４・17）、またはミガキ調整とするもの（第69図５・６・９・11）がある。口縁部内面から胴部全体を赤彩するもの（第69図５）は脚台が付く。この他にも脚台が付いていた痕跡のあるもの（第69図10）もあり、脚台部分しかできなかったもの（第69図25～27・30・31）も多い。脚台には胴部との接合部分が筒状に伸びるもの（第69図25・26）と胴部の底から直接脚部が張り出すもの（第69図27・31）の２種類ある。前者はミガキ調整で、赤彩（第69図25）と脚部下の内面に２本の刺突痕を残す（第69図26）。「く」の字口縁の鉢には屈曲した頸部から小さく開く口縁となるもの（第69図14）と屈曲した口縁部が開かないで端部を先細りさせるもの（第69図20）の２種類である。口縁部に沈線を１条（第69図19）、または２条（第66図18）巡らせるものは壺の口縁となる可能性もある。須恵器の坏のような形のものは、底部から口縁への立ち上がりの屈曲が明瞭なもの（第69図21）と不明瞭で丸みのある立ち上がりのもの（第69図23）の２種類がある。丸い胴部のものは「く」の字の口縁になると思われ脚台が付くもの（第69図22）とつかないもの（第69図24）がある。有孔鉢は外面をハケ調整、内面をケズリとするのが一般的（第69図13・28）で、内面を細かいハケ調整とするもの（第69図12）は少ない。頸部と肩部、胴部中央の３カ所に２本の櫛描直線文を巡らせるもの（第69図15）は口縁部への立ち上がりが残り、受口状口縁となるであろう。底部から直立する口縁の坏状の器形は、内外面ともにミガキ調整である。無形壺のように内傾する口縁の鉢（第69図29）には把手が貼り付いていた痕跡が残る。鉢でもその上に覆いが付く手焙形土器が２点ある。鉢部分の口縁覆いの一部が付くもの（第68図17）は、その多い部分の前面の平坦面を残す。鉢部分の口縁部への立ち上がりと考えられるもの（第68図19）も手焙形土器の可能性が高い。２点とも鉢と覆いの接合部分を強くヨコナデすることで両者を接合している。

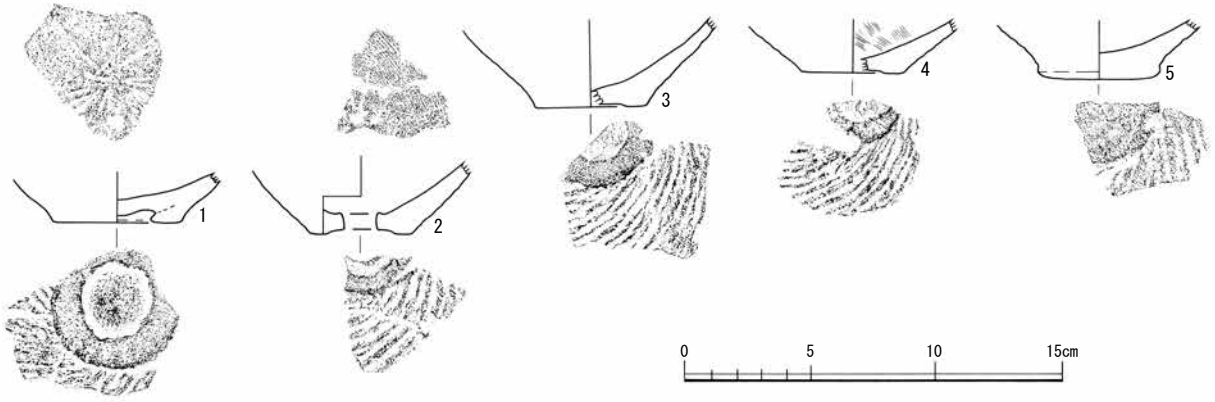
高坏と器台については坏部や受部まで、または坏部や受部そのものが図化できたものが少ない。坏部から開いた口縁を折り返すもの（第70図１）は、折り返した口縁に櫛描波状文を巡らし、円形浮文を１㎝ほどの間隔で貼り付ける装飾性の高いものである。開いた坏部がそのまま口縁部になって終わるもの（第70図２）は端部を丸くする。口縁端部に平坦面を作るもの（第70図３）は、口縁の立ち上がり部の接合面を残す。小片のため高坏かを特定できないが、立ち上がった口縁部に３条の太い沈線を巡らせるもの（第70図９）や坏部から口縁部となる立ち上がりに櫛刺突列点を加えた突帯を貼り付けるもの（第70図18）などもある。この他に高坏で坏部を図化できたのは、平坦な坏部（第70図６）と同じような坏部に棒状の脚が付くもの（第70図11）である。高坏の脚部は棒状の筒部から「ハ」の字状に脚部が開くもの（第70図12・13・19・20）と坏部との接合部からそのまま「ハ」の字状に脚が開くもの（第70図22）で



第69図　　NR１出土土器実測図７（縮尺 1/3）



第70図　NR１出土土器実測図８（縮尺 1/3）



第71図　NR１出土土器実測図９（縮尺 1/3）

ある。器台も坏部を図化できたものは、有段の受部から口縁が大きく開くもの（第70図７）で、口縁部が無いもの（第70図25）も同じ器形と考えられる。器台の脚部で図化できたのはいずれも有段のもので、上半に８条の櫛描直線文を丁寧に巡らせるもの（第70図30）、５本の沈線を雑に巡らせるもの（第70図16）、やや太めの沈線を８条巡らせるもの（第70図15）、有段部付近の孔がないもの（第70図29）のなどである。この時期に多い有段脚でも無文のもの４点（第70図10・23・26・29）ある。孔の位置と屈曲の状態から有段脚と判断できるもの（第70図４）もある。やや大きめの器台となるもの（第70図14）は上下の判断として内面にハケ調整がある方を脚部とした。この時期に類例が多いＳ字のスタンプ文様であるが、小片（第70図17）で対となる渦巻の間が離れて間延びしたＳ字である。口径が小さい口縁端部のもの（第70図５）は小型器台と考えられる。外面に赤彩があるもの（第70図24）も高坏か器台の脚端部と考えられる。蓋は全面がミガキ調整のもの（第70図21）とハケ調整を残すもの（第70図27）に口径が３㎝ほどの小型のもの（第70図28）である。

装飾器台は水滴形の透かしが入ると思われるもの（第70図８）で、大きく伸びた口縁帯の下半に11条の櫛描直線文を巡らせる。

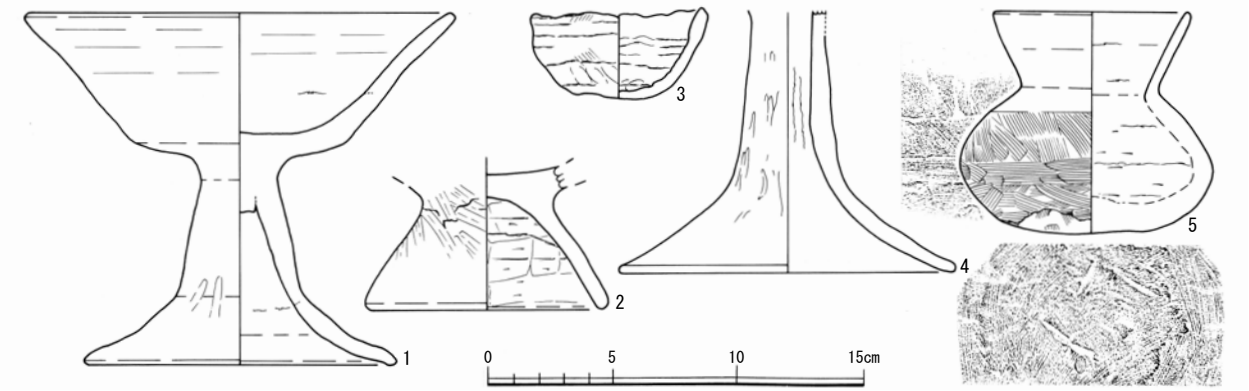
NR２出土の土器（第72図）

明らかに甕となるものは図化できなかったが、その脚台と考えられるもの（第72図２）はある。壺は小型のもの（第72図５）で口縁部が直線に開く。胴部と底部はハケ調整で底部は完全な平底ではないが平坦とする。高坏は開いた坏部がそのまま口縁部になって終わるもの（第72図１）で、端部を面取りする。棒状の筒部から「ハ」の字状に開いて脚端部となるもの（第72図４）も高坏の脚部であろう。小型の鉢（第72図３）は内外面に輪積痕を残す手捏で、底部はハケ調整で平底に近い。単純に「ハ」の字状に開く脚台（第72図２）は甕に付く場合が多い。NR２出土の土器のうち高坏の脚部の１点（第72図４）を除き、建物群や多くの土器を出土したSD33やSD94・95、さらにNR１の土器の主体となる時期より全体に新しく、特にNR１で最も新しく若干あった布留式に降る時期と考えられる。

包含層出土の土器（第73・74図）

包含層出土の土器は甕７点、壺４点、鉢９点、高坏４点、器台３点、装飾器台２点、小型土器などの脚台２点、蓋６点に容器形土器１点の合計38点を図化した。

甕の口縁はいずれも有段口縁で、擬凹線を施文するもの（第73図４～８）とヨコナデの無文のもの（第73図１）である。擬凹線は比較的明瞭に施文されている。口縁の立ち上がりが摘み上げる程度に小さいやや古いもの（第73図４）もある。図化できた甕の底部（第73図２）はこの時期には珍しく大きめであ



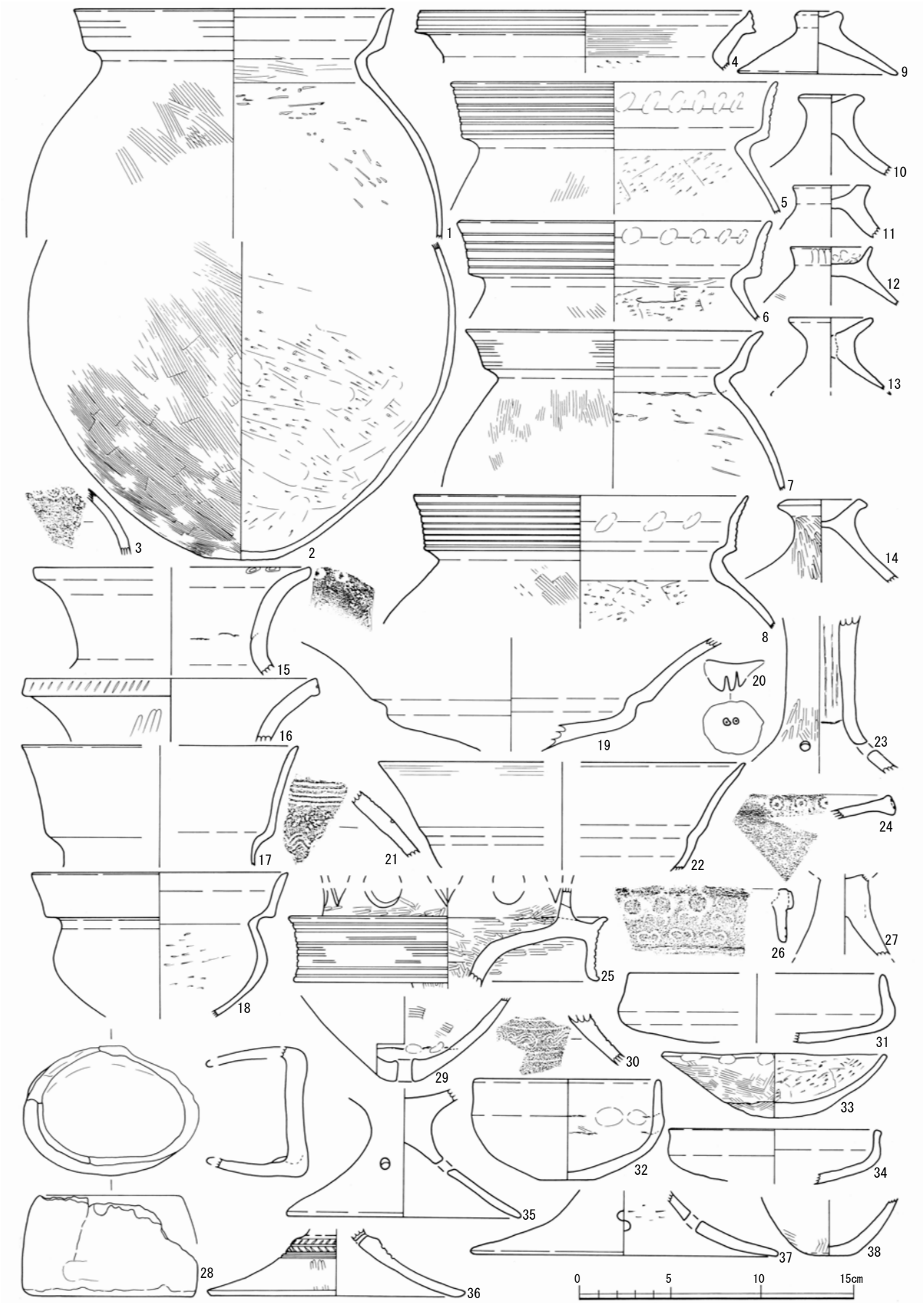
第72図　NR２出土土器実測図（縮尺 1/3）

るが、底部からの立ち上がりが不明瞭で一見すると丸底に近く、器壁も薄い。

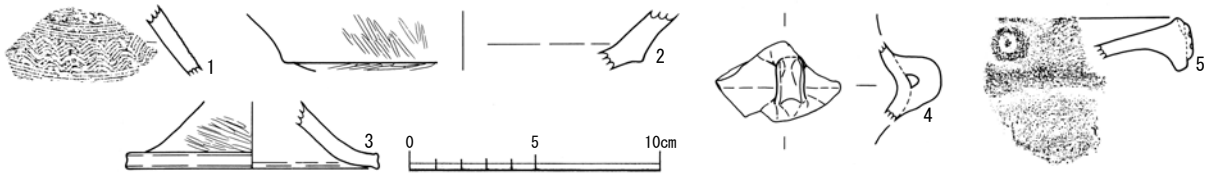
壺は口縁部が３点ある。２点（第73図15・16）はいずれも頸部から外反して開く。口縁部内面に円形の刺突を２個以上対で加えるもの（第73図15）と円形浮文を貼り付けるもの（第74図５）や平坦な口縁端部に刺突列点を加えるもの（第73図16）など若干の装飾性がある。壺の肩部と考えられる部位にＳ字のスタンプを押すもの（第73図３）は、器壁の厚さから中型の壺とすると類例は少ない。文様は肩部に施文されることが多く、櫛描直線文に櫛刺突列点文と最下段に櫛描波状文を施文するもの（第73図21）に櫛描直線文の間に櫛描波状文を加えるもの（第74図１）がある。前者は中型、後者は小型でこの時期によくある文様である。

鉢で有段口縁となるものがある。やや幅広めの口縁帯（第73図18）が一般的であるが、口縁部が大きく上に伸びるもの（第73図17）、高坏のように丸みのある坏底部から大きく開くもの（第73図22）など類例は多い。特に後者（第73図22）には脚台が付くものもあるが、この土器では確認できなかった。胴部から短く上に立ち上がった口縁となるものは、器高が高く深いもの（第73図32）、浅くて扁平な器形のものがあり、後者にはやや大きめのもの（第73図31）小さめのもの（第73図34）がある。口縁が立ち上がらないもの（第73図33）は、甕などの底部の形状に近く、ハケ調整で口縁端部を指押えでヨコナデなどを行わない。有孔鉢（第73図29）は小さく残された底部のほとんどを孔の部分が占める。

高坏は小さな丸みのある坏底部から有段となって立ち上がる口縁部が大きく開くもの（第73図19）とその坏部の底部と脚部分の間に円形の粘土痕を詰めたもの（第73図20）があり、それには、下から２カ所の刺突を加える。赤彩された破片（第74図２）は高坏受部の有段部分と考えられる。把手（第74図４）はコーヒーカップ状の鉢に付くと思われる。脚台で丁寧なミガキ調整のもの（第74図３）は小型の鉢か壺の脚台であろう。脚部は棒状の筒部から「ハ」の字に開くもの（第73図23）と坏との接合部からすぐに「ハ」の字状に開くもの（第73図27）がある。器台は３個以上の円形浮文が対となり貼り付く口縁部（第73図24）である。また底径が15㎝以下と小さく、有段脚の有段部に接して１条の沈線を挟んで刺突列点を施文するもの（第73図36）と２条の沈線２段の間にＳ字スタンプ文を巡らすもの（第73図30）がある。後者は器台の脚部と考えられる。装飾器台は２個体あり、垂下帯に擬凹線を施文するもの（第73図25）と３段にＳ字のスタンプ文を巡らせるが、一番上にはＳ字スタンプ文に代わって３個一対の円形浮文を貼り付けるもの（第73図26）である。前者は垂下帯が貼り付く脚部から上に立ち上がる口縁部の一部が残り、水滴形の透かしが上下逆になりながら12箇所以上確認できる。後者の垂下帯に円形浮文は類例がほとんどなく、装飾器台として古手のものの可能性がある。蓋はいずれもつまみ部で、上端部が大きく横に開いて摘まみやすいもの（第73図10・11・13・14）と上に短く直立するもの（第73図12）、ほ



第73図　包含層出土土器実測図１（縮尺 1/3）



第74図　包含層出土土器実測図２（縮尺 1/3）

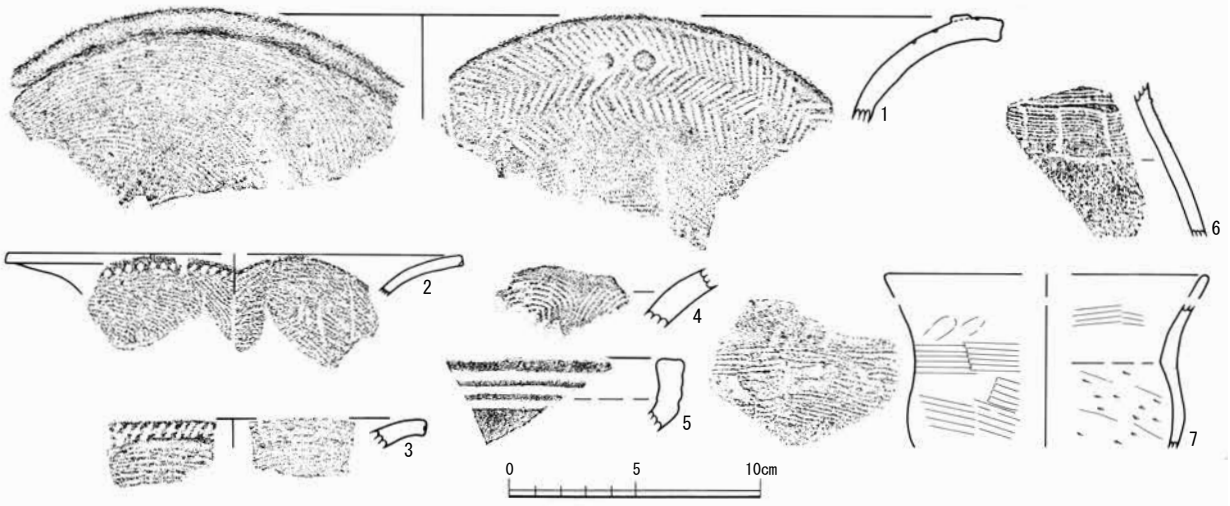
とんど伸びないボタン状のつまみ部のもの（第73図９）である。脚台は「ハ」の字状に大きく開くもの（第73図35・37）で小型の鉢などのものであろう。小さなやや平らな丸底（第73図38）は小型の鉢と考えられる。特殊なものとして容器形土器（第73図28）がある。口縁端部は欠失しているが、立ち上がった側面がそのまま口縁となるもので文様などはないが木製の桶などを模したものであろう。容器型土器としては小さい事例である。

弥生時代中期の土器（第75図）

建物群の時期より古い方形周溝墓（ST１）と同じか若干前後する弥生時代の土器は、自然流路や遺構の主体となる時期より遡る中期の弥生土器を７点図化した。

甕は口縁端部の下端にヘラ刺突を加えるもの（第75図２）は、口縁内面をヨコハケ、外面はタテハケとするいわゆる「ハケ甕」と呼ばれるものである。口縁端部に平坦面を作り櫛の刺突列点を加えるもの（第75図３）は条痕系の甕と考えられる。13本の櫛による簾状文のある破片（第75図６）は、甕の胴部上半と考えられる。

壺は大きく開いた口縁部内面に櫛刺突列点を３段重ねて羽状にし、１段目と２段目の境に円形浮文を２個１対貼り付けるもの（第75図１）、同じように大きく開く口縁内面に扇形文を巡らせるもの（第75図４）、立ち上がる口縁外面に３条の凹線を巡らせるもの（第75図５）の、３点である。小型の甕とするよりも鉢と考えられるもの（第75図７）は、頸部とやや離れた胴部最大径部分にハケ調整と同じ工具で、櫛描直線文を巡らせる。



第75図　弥生土器実測図（縮尺 1/3）

第３表　弥生土器・古式土師器観察表

図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量 (cm) 口径	器高	底径	口縁残存 (/12)	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
36-1	壺	口縁～胴部	A25	ST1		8.4	(16.4)	–	12/12	良	外）灰黄褐色 内）にぶい黄橙色	③	外）口縁帯上下端：交互の刺突　口～頸：タテミガキ　胴上半：櫛描直線文４条４段の間に櫛描簾状文４条３段　胴下半：タテミガキ 内）口～頸：ヨコハケ　胴：指押さえが不明瞭	
36-2	甕	口縁～胴上半	A25	ST1		(17.0)	(4.7)	–	3/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線２条　頸：ヨコナデ　胴：ナデ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
36-3	甕	口縁～胴上半	A25	ST1		(17.8)	(4.2)	–	2/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線２条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	
36-4	壺	胴～底部	A24	ST1 ST2		–	(5.8)	(5.8)	–	良	外）褐灰色 内）橙色	③	外）胴：調整不明　底：指押さえ 内）調整不明	
37-1	甕	口縁～頸部	B5	SI1		(16.0)	(3.5)	–	1/12	良	外）灰色 内）灰白色	①	外）口：擬回線６条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
37-2	壺	口縁部	A･B6	SI2		(19.1)	(3.6)	–	1/12	良	外）内）灰黄色	③	外）内）摩滅の為調整不明	
37-3	甕	口縁～胴上半	A･B5	SI2		(13.4)	(4.4)	–	4/12	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄色	③ ④	外）口～頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　胴：指押さえ　ナデか	外）一部煤付着
37-4	装飾器台	垂下帯	A･B5	SI2		–	–	–	–	良	外）内）灰白色	①	外）調整不明　内）ナデ	外内）赤彩　　雲母を含む
37-5	高坏か 器台か	脚端部	A･B5	SI2		–	–	–	–	良	外）にぶい赤褐色 内）灰黄色	②	外）脚裾：櫛描波状文 内）ナデか	
37-6	甕	口縁～頸部	A･B5	SI2		(17.8)	(3.6)	–	1/12 以下	良	外）内）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	
37-7	甕	口縁～頸部	A･B5	SI2		(13.0)	(4.5)	–	3/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線５条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
37-8	甕	口縁～頸部	A･B5	SI2		(16.0)	(3.2)	–	1/12	良	外）内）灰白色	③	外）口端：指押さえか　口～頸：調整不明 内）口：ハケが不明瞭　胴：ケズリ	
37-9	甕	口縁～頸部	A･B5	SI2		(16.0)	(3.2)	–	1/12	良	外）内）灰白色	③	外）調整不明　内）頸：ハケが不明瞭　胴：ケズリ	
37-10	甕	口縁～頸部	A6	SI2		–	(4.2)	–	1/12 以下	良	外）黒褐色 内）灰黄色	①	外）口上半：ヨコナデ　口下半：擬回線条数不明 内）口～頸：ナデ	外）煤付着
37-11	甕	口縁～頸部	A･B6	SI2		–	(3.5)	–	1/12 以下	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線５～６条　頸：ヨコナデ 内）調整不明	
37-12	甕	口縁部	A･B6	SI2		–	(2.8)	–	1/12 以下	良	外）淡黄色 内）灰白色	③	外）口：擬回線８条以上 内）調整不明	
37-13	甕	口縁～頸部	A･B5	SI2		–	(2.9)	–	1/12 以下	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口：擬回線５条以上　頸：調整不明　内）調整不明	
37-14	鉢	口縁～体部	B7	SK10		(5.0)	(3.5)	–	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）　内）調整不明	
37-15	壺	口縁～頸部	B3･4	SK17	２層	18.2	(5.5)	–	12/12	良	外）内）浅黄色	③	外）口～頸：ハケ後ナデ　内）口～頸：調整不明	
37-16	鉢	口縁～底部		SK31		(11.8)	(4.7)	3.4	2/12	良	外）浅黄橙色 内）黄橙色	②	外）内）調整不明	
37-17	鉢	口縁～底部		SK31		(15.4)	6.6	2.6	10/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）調整不明	
37-18	器台	受部～脚部	B16	SK38	包含層	(19.0)	(13.1)	–	3/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：ヨコミガキ　脚：タテミガキ 内）受：ヨコミガキ　脚上半：ケズリ	脚）４孔か
37-19	器台	脚部		SK35		–	(9.5)	14.3	–	良	外）内）にぶい橙色	③	外）脚上半：タテミガキ　有段：沈線３条　脚裾：タテミガキ 内）脚：調整不明	
37-20	蓋	つまみ～ 口縁部		SK23		10.4	4.2	–	10/12	良	外）灰白色 内）浅黄橙色	②	外）内）調整不明	
37-21	鉢	口縁～底部		SK23		8.8	6.0	3.8	7/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）調整不明　内）ケズリか	
37-22	甕	口縁～胴上半	B19	SK44		(30.0)	(7.2)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	④	外）口：擬回線４条か　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～胴：調整不明	
37-23	甕	口縁部	B19	SK44		–	(3.0)	–	1/12 以下	良	外）内）にぶい橙色	①	外）口：擬回線６条 内）口：摩滅の為調整不明	
37-24	甕	口縁～頸部	B19	SK44		–	(3.3)	–	1/12 以下	良	外）内）にぶい橙色	①	外）口：擬回線８条　頸～胴：調整不明 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
38-1	甕	口縁～胴上半	B7	SI1 SP154		–	(6.2)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線６条か 頸：ヨコナデ　胴 内）口：ヨコナデ　指頭圧痕　胴：ケズリ	
38-2	器台	受部	B7	SI1 SP153		(10.4)	(1.7)	–	4/12	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	②	外）内）調整不明	
38-3	甕	口縁部	B7	SI1 SP154		–	(3.7)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線６～７条か 内）口：ヨコナデ　指頭圧痕	雲母を含む
38-4	甕	底部	B7	SI1 SP154		–	(3.2)	3.0	–	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）胴：タテハケ　底：ナデ内）胴～底：ケズリ	外）煤付着
38-5	甕	底部	B7	SI1 SP154		–	(2.0)	2.0	–	良	外）黄灰色 内）灰黄褐色	②	外）内）調整不明	
38-6	器台	脚部	B7	SI1 SP154		–	(8.0)	–	–	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）脚：タテミガキ　有段：擬回線条数不明 内）脚：しぼり痕　他は調整不明	脚）１孔残存　孔不明
38-7	高坏	坏部	B6	SI1 SP151		–	(7.6)	–	–	良	外）にぶい橙色 内）橙色	①	外）内）調整不明	
38-8	甕	口縁～頸部	B5	SI2 SP404		–	(4.2)	–	1/12	良	外）内）灰白色	②	外）口：擬回線 13 条　頸：ヨコナデ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ後ナデか	
38-9	甕	口縁～頸部	A6	SI2 SP351		(14.0)	(3.6)	–	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線条数不明　頸：ヨコナデ 内）口：ヨコナデ　連続指頭圧痕　頸：調整不明	外）煤付着
38-10	甕	底部	A8	SI2 SP240		–	(3.3)	(3.0)	–	良	外）褐灰色 内）浅黄橙色	④	外）胴～底：タテハケ 内）底：ケズリ	
38-11	甕	口縁～胴上半	B5	SI2 SP404		(14.0)	(4.5)	–	1/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口：擬回線条数不明　頸：ヨコナデ 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	外）煤付着
38-12	壺	口縁部	A8	SI2 SP240		(13.0)	(3.7)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	
38-13	甕	口縁部	A6	SI2 SP426		–	(3.0)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）黒色	②	外）口：擬回線７条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕	外）煤付着
38-14	甕	口縁～頸部	B8	SB4 SP42		–	(4.2)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線条数不明 内）口～頸：ナデ　口：指頭圧痕	雲母を含む
38-15	甕	口縁部	B8	SB4 SP48		–	(4.2)	–	1/12 以下	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線６条 内）口：調整不明	
38-16	蓋	つまみ	A8	SB3 SP123		–	(2.7)	–	–	良	外）浅黄橙色 内）灰白色	②	外）内）調整不明	
38-17	短頸壺	口縁～頸部	A8	SB3 SP122		(6.0)	(1.9)	–	1/12	良	外）浅黄橙色 内）橙色	②	外）内）調整不明	
38-18	甕	口縁部	A7	SB3 SP126		–	(3.4)	–	1/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③	外）口：擬回線 13 条 内）口：調整不明	外）煤付着
38-19	甕	口縁部	A8	SB3 SP123		–	(3.5)	–	1/12 以下	良	外）浅黄橙色 内）黄橙色	③	外）内）ヨコナデ	
38-20	甕	口縁～胴上半	A8	SB5 SP245		(16.2)	(7.9)	–	4/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：大きな櫛描波状文 10 条　頸：ヨコナデ 胴：ハケ後ナデ後大きな櫛描波状文 10 条 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
38-21	甕	胴部	A8	SB5 SP241		–	–	–	–	良	外）橙色 内）にぶい橙色	③	外）胴：櫛描直線文　櫛刺突列点文 内）ナデ	
38-22	壺	胴部	A8	SB5 SP234		–	–	–	–	良	外）内）灰白色	①	外）胴：沈線２条以外は不明 内）胴：ヨコナデ	
38-23	甕	口縁～胴上半	A8	SB5 SP202		(18.0)	(5.5)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	④	外）口：擬回線 11 条か　頸～胴：調整不明 内）口：調整不明　指頭圧痕　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	内）頸以下：煤付着
38-24	甕	口縁～頸部	A8	SB5 SP139		(18.0)	(2.8)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線条数不明 内）口～頸：調整不明	
38-25	壺	口縁部	A8	SB5 SP241		(11.0)	(1.4)	–	1/12 以下	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線２条　ナデ 内）ナデ	
38-26	甕	口縁部	A8	SB5 SP202		–	(3.5)	–	1/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線７～８条か 内）口：摩滅の為調整不明	
38-27	甕	口縁～胴上半	A8	SB5 SP202		–	(4.7)	–	1/12 以下	良	外）浅黄橙色 内）黄灰色	③	外）口：擬回線条数不明　口～胴：調整不明 内）口～胴：調整不明	雲母を含む
38-28	甕	口縁～胴上半	A7	SB5 SP224		–	(5.1)	–	1/12 以下	良	外）にぶい黄橙色 内）褐灰色	②	外）口：擬回線９条　頸：ヨコナデ　胴：ハケ 内）口～胴：調整不明　口：指頭圧痕	
38-29	甕	口縁～頸部	A8	SB5 SP234		–	(3.6)	–	1/12 以下	良	外）内）灰白色	②	外）口：擬回線６条以上　頸：ヨコナデ　内）口～頸：調整不明	
38-30	甕	口縁～胴上半	A7	SB5 SP224		–	(5.2)	–	1/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口：調整不明　頸：ヨコナデ 内）口～頸：調整不明　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	
38-31	甕	口縁～頸部	B5	SB6 SP425		(18.3)	(3.5)	–	2/12	良	外）にぶい赤褐色 内）にぶい橙色	⑤	外）口：擬回線６条　頸：ナデ 内）口～頸：調整不明	
38-32	鉢	口縁～底部	B5	SP367 SB6 SP425		(8.7)	3.5	2.3	5/12	良	外）内）浅黄橙色	②	外）口～体上半：調整不明　体下半：ミガキ　底：ハケ 内）口～体上半：調整不明　体下半～底：ミガキ	
38-33	鉢	口縁～底部	B5	SB6 SP376		(13.0)	7.1	3.0	2/12	良	外）内）にぶい黄色	③	外）口：ナデか　頸～底：工具によるナデか 内）口～頸：ナデ　体上半：ケズリか工具によるナデ　体下半～底：指押さえ	外）底：黒斑

図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量 (cm) 口径	器高	底径	口縁残存 (/12)	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
38-34	鉢	口縁～体下部	B6	SB6 SP425		(12.0)	(5.7)	-	1/12	良	外）内）黒褐色	③	外）口：擬凹線８条　頸：ヨコナデ　体：多方向のハケ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	外）内）黒斑か
38-35	甕	口縁～頸部	B6	SB7 SP171		(19.0)	(3.6)	-	1/12	良	外）黄灰褐色 内）明黄褐色	③	外）内）調整不明	
38-36	蓋	つまみ～覆部	B7	SB7 SP177		-	(4.0)	-	-	良	外）橙色 内）浅黄橙色	①	外）内）調整不明	
38-37	鉢	口縁～底部	B5	SB9 SP380		(11.0)	(4.9)	-	1/12	良	外）内）浅黄橙色	②	外）内）調整不明	
38-38	甕	底部	B5	SB9 SP304		-	(3.8)	(1.6)	-	良	外）内）灰黄褐色	③	外）胴：タテハケ　底：調整不明　内）調整不明	外）煤付着
38-39	甕	口縁～胴上半	B5	SB9 SP390	遺構面	(15.8)	(8.3)	-	3/12	良	外）内）浅黄色	③ ④	外）口～頸：ヨコナデ　胴上半：不明　胴：タテハケ後ヨコハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：指押さえ　調整不明	外）煤付着
39-1	甕	口縁～底部	B5	SB6 SP372		17.0	26.3	2.7	12/12	良	外）内）にぶい橙色	④	外）口：擬凹線８～９条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）煤付着 内）底：炭化物付着
39-2	甕	口縁～底部	B5	SB6 SP372		(14.0)	(14.6)	-	4/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線３条　頸：ヨコナデ　胴上半：ヨコハケ　胴下半：ナナメハケ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
39-3	甕	口縁～胴上半	B5	SB6 SP372		13.8	(5.0)	-	12/12	良	外）にぶい褐色 内）浅黄橙色	③	外）口：擬凹線９条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
39-4	甕	口縁～胴上半	B5	SB6 SP372		(15.1)	(6.7)	-	4/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ　ヨコハケ 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
39-5	甕	口縁～胴上半	B5	SB6 SP372		(16.1)	(7.2)	-	3/12	良	外）内）にぶい橙色	④	外）口～胴：調整不明 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリが不明瞭	
39-6	甕	口縁～胴上半	B5	SB6 SP372		(16.6)	(7.5)	-	2/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）一部煤付着
39-7	甕	口縁～胴上半	B5	SB6 SP372		(20.0)	(4.8)	-	1/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ　胴調整不明 内）口：ヨコナデ　頸：調整不明　胴：ケズリ	
39-8	甕	口縁～胴上半	B5	SB6 SP372		(17.8)	(5.8)	-	2/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線７条か　頸～胴：摩滅の為調整不明 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ　指押さえ	
39-9	甕	口縁～胴上半	B5	SB6 SP372		16.4	(10.5)	-	10/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬凹線２条か　頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケが不明瞭 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	外）口～頸：煤付着
39-10	蓋	つまみ～ 口縁部	B5	SB6 SP372		(13.5)	4.5	-	9/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）つまみ：調整不明　覆上半：指ナデ　覆下半～口縁：調整不明 内）覆～口：タテハケが不明瞭	
39-11	甕	口縁～胴上半		SB6 SP372		(16.7)	(4.8)	-	3/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口：擬凹線５条　頸～胴：調整不明　内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	外）煤付着
39-12	甕	頸～胴上半	B5	SB6 SP372		-	(6.4)	-	-	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	③ ④	外）頸：ナデか　胴：ハケが不明瞭 内）頸：調整不明　胴：ケズリ	
39-13	甕	口縁部～底部	B5	SB6 SP372		(14.0)	(18.0)	1.6	2/12	良	外）内）にぶい褐色	③	外）口：擬凹線５条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ　ナナメハケ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	外・内底）煤付着
39-14	甕	胴下半～底部	B5	SP367 SB6 SP372		-	(7.7)	(2.7)	-	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）胴：タテハケ 内）胴：ケズリ	外内）煤付着
39-15	甕	底部	B5	SB6 SP372 SP425		-	(6.4)	2.5	-	良	外）浅黄橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）胴：タテハケ 内）粗いケズリ	外）煤付着
39-16	甕	底部	B5	SB6 SP372		-	(2.3)	(3.2)	1.3	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）底：ハケ 内）底：ケズリ　指押さえ	外）煤付着
39-17	甕	口縁～頸部	B5	SB6 SP372		(17.2)	(4.0)	-	4/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬凹線４条か　頸：調整不明 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
39-18	甕	口縁～底部	B5	SB6 SP372		13.8	24.4	4.5	3/12	良	外）内）浅黄色	④	外）口～頸：タテハケ　胴上半：ヨコハケ　胴下半：ナナメハケ　タテハケ 内）口～頸: ヨコハケ　胴上半: 輪積痕　指押さえ　胴下半～底: ナナメハケ	外）煤付着
40-1	鉢	口縁～体下部	B5	SB6 SP372		(12.0)	(8.0)	-	4/12	良	外）内）浅黄色	③	外）口～体：ナナメハケが不明瞭 内）口～頸：ヨコハケ　体：ケズリ	外）口～頸：煤付着 内）黒斑
40-2	壺	口縁～底部	A4･B5	SB6 SP372		(16.4)	(22.6)	4.8	2/12	良	外）内）浅黄橙色	③ ④	外）口～頸：ナデ　胴上半：タテハケ　胴下半：ヨコハケ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	外）口・底：煤付着
40-3	器台	受～脚部	B4･5	SB6 SP372		(28.0)	(17.9)	-	5/12	良	外）内）浅黄色	③	外）受：ヨコミガキ　脚：タテミガキ　脚有段：調整不明 内）受：ヨコミガキ　脚：調整不明	脚：５孔
40-4	甕	底部	B5	SB6 SP372		-	(3.2)	2.0	-	良	外）内）褐灰色	②	外）胴：調整不明 内）ケズリ	外）煤付着
40-5	器台	受～脚部	B5	SB6 SP372		-	(14.5)	13.6	-	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）受：ヨコミガキが不明瞭　脚：タテミガキ 脚有段～底：多方向のミガキが不明瞭 内）受：調整不明　脚上半：しぼり痕　脚下半：ヨコナデ	脚：３孔
41-1	高坏	口縁部		SB10 SP567		(21.0)	(1.1)	-	1/12	良	外）内）灰白色	①	外）口：ミガキ　内）口端：ミガキ　以下：調整不明	
41-2	高坏	坏部		SB10 SP441		(25.0)	(4.0)	-	1/12以下	良	外）明赤褐色 内）橙色	④	外）口：ナデ　坏：調整不明 内）口～坏：調整不明	
41-3	壺	口縁～頸部		SB10 SP443		(18.0)	(5.2)	-	1/12	良	外）内）にぶい褐色	④	外）口：擬凹線13条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
41-4	甕	口縁～頸部		SB10 SP443		(14.0)	(3.6)	-	1/12	良	外）橙色 内）明赤褐色	④	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ	
41-5	高坏	脚部		SB10 SP567		-	-	-	-	良	外）内）灰白色	①	外）脚有段：沈線３条の下にＳ字スタンプ文１段を２回　更に沈線か 内）脚：摩滅の為調整不明	
41-6	甕	口縁～胴上半		SB10 SP469		(16.0)	(4.9)	-	2/12	良	外）内）にぶい黄橙色	④	外）口：擬凹線７条　頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
41-7	器台	脚部		SB10 SP466		-	(9.9)	13.2	-	良	外）内）灰白色	③	外）脚：タテミガキ 内）脚：摩滅の為調整不明	
41-8	装飾器台	受～垂下帯		SB10 SP466		-	(3.7)	-	-	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）調整不明	
41-9	壺	口縁部	A18	SB10 SP443		-	(4.0)	-	1/12以下	良	外）内）浅黄橙色	①	外）口：擬凹線10条 内）口：ヨコナデ　指頭圧痕	
41-10	蓋	略完形		SB10 SP443		13.3	5.9	-	8/12	良	外）内）橙色	③	外）つまみ：ナデ　指押さえ　覆：タテミガキ 内）覆上半：ケズリ　覆下半：ヨコミガキか	
41-11	甕	口縁～胴上半		SB10 SP443		(20.0)	(5.7)	-	1/12以下	良	外）内）にぶい橙色	④	外）口：擬凹線７条　頸：ヨコナデ　胴：ハケが不明瞭 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
41-12	甕	口縁～胴上半		SB10 SP443		(24.0)	(5.5)	-	1/12以下	良	外）内）にぶい褐色	①	外）口：擬凹線11本以上　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　頸：ケズリ	
41-13	甕	口縁～胴上半		SB10 SP443		(16.0)	(5.5)	-	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）黒褐色	④	外）口：擬凹線10条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	外）煤付着
41-14	甕	口縁～頸部		SB10 SP443		(14.0)	(4.2)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口：ヨコハケ　頸：ナデ 内）口：ナデ　連続指頭圧痕　頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
41-15	甕	口縁～胴上半		SB10 SP443		(16.0)	(4.6)	-	2/12	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	④	外）口：擬凹線12条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ハケ後ヨコナデか　胴：ケズリ	外）煤付着か
41-16	甕	口縁～胴上半		SB11 SP579		(20.0)	(4.1)	-	1/12	やや不良	外）内）浅黄橙色	② ③	外）口：擬凹線６条　頸～胴：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
41-17	甕	口縁部		SB11 SP523		(16.0)	(2.2)	-	2/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬凹線６条　内）口：調整不明	
41-18	甕	口縁～胴上半		SB11 SP579		(13.2)	(4.9)	-	2/12	やや不良	外）灰白色 内）にぶい橙色	②	外）口：擬凹線６条　頸～胴：ナデ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	
41-19	壺	口縁部		SB11 SP507		(12.0)	(3.1)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）口～頸：ナデ	
41-20	壺	口縁～頸部		SB12 SP580		(12.0)	(2.5)	-	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰黄褐色	③	外）口：擬凹線３条　頸：調整不明 内）口～頸：ナデ	
41-21	甕	口縁～胴上半		SB12 SP621		(12.0)	(5.6)	-	3/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口：ヨコミガキ　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	外）口：一部煤付着
41-22	甕	口縁～頸部		SB12 SP513		(12.0)	(3.4)	-	1/12	良	外）橙色 内）にぶい橙色	①	外）内）口～胴：ヨコナデ	
41-23	甕	口縁～頸部		SB12 SP621		(11.0)	(3.3)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
41-24	甕	口縁～頸部		SB11 SP523		-	(3.9)	-	1/12以下	良	外）内）浅黄橙色	④	外）口：擬凹線６条　頸：調整不明 内）口～頸：調整不明	
41-25	壺	口縁～頸部		SB11 SP579		(14.0)	(3.7)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口：ヨコナデ　内）口端：深いナデ　口：ナデ	
41-26	壺	底部		SB12 SP587		-	(3.0)	(4.0)	-	良	外）オリーブ黒色 内）にぶい橙色	③	外）胴～底：ハケ 内）胴～底：ケズリ後ナデ	
41-27	有孔鉢	底部		SB12 SP485		-	(3.9)	1.8	-	良	外）橙色 内）にぶい橙色	④	外）内）調整不明	
41-28	台付鉢	略完形		SB12 SP620		(8.3)	6.0	8.4	2/12	良	外）内）橙色	③	外）内）調整不	
41-29	台付壺	胴底～脚部		SB12 SP484		-	(4.6)	10.8	-	良	外）灰白色 内）浅黄橙色	③	外）脚上半：調整不明　工具痕か　脚下半：ミガキ 内）胴底：ケズリ　脚：調整不明	雲母を含む
41-30	高坏	口縁部		SB11 SP564		(21.0)	(2.5)	-	1/12	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	①	外）内）摩滅の為ミガキが不明瞭	
41-31	壺	口縁～頸部		SB11 SP523		(20.0)	(5.3)	-	1/12以下	良	外）内）灰白色	②	外）内）調整不明	
41-32	甕	口縁～胴上半		SB12 SP509		(16.0)	(4.4)	-	1/12	良	外）内）灰白色	②③	外）擬凹線が不明瞭　内）調整不明	
41-33	高坏	坏部		SB12 SP485		(27.0)	(3.3)	-	1/12以下	良	外）内）明褐色	②	外）坏上半：ヨコナデ　坏下半：調整不明 内）調整不明	
41-34	高坏	坏部		SB12 SP548		(20.0)	(4.8)	-	2/12	良	外）内）灰白色	③	外）口：擬凹線条数不明　坏上半：ヨコナデ　坏下半：調整不明 内）口～坏：調整不明	
41-35	壺	口縁～頸部		SB12 SP621		(18.8)	(4.9)	-	2/12	良	外）内）灰白色	②	外）口：ナデが不明瞭　頸：タテハケ　内）口～頸：ヨコナデ	

図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量（cm）			口縁残存（/12）	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
						口径	器高	底径						
42-1	甕	口縁部		SB14 SP545		(29.0)	(2.1)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬凹線３条　頸：ヨコナデ内）調整不明	
42-2	甕	口縁部		SB14 SP545		-	(1.9)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	①③	外）口：擬凹線８条　内）口：ヨコナデ	外）煤付着
42-3	甕	口縁～頸部		SB14 SP545		-	(3.2)	-	1/12	良	外）内）灰白色	②	外）口：擬凹線４条　頸：調整不明　内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
42-4	甕	口縁部		SB14 SP542		(17.0)	(2.1)	-	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）口：擬凹線２条　頸：ヨコナデ　内）調整不明	外）煤付着
42-5	器台	受部		SB19 SP540		-	(3.9)	-	-	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	②	外）内）調整不明	極小の金雲母を含む
42-6	甕	口縁部		SB19 SP594		-	(3.2)	-	1/12	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	②	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：調整不明　口：連続指頭圧痕	外）煤付着
42-7	装飾器台	受部		SB19 SP594		-	-	-	-	良	外）内）浅黄橙色	①	外）内）調整不明	たちあがり）水滴型透かし孔数不明
42-8	壺	口縁部		SB22 SP494		(12.0)	(2.1)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）内）調整不明	
42-9	壺	口縁～頸部		SB20 SP591		(11.0)	(3.0)	-	2/12	良	外）内）橙色	③	外）内）調整不明	
42-10	甕	口縁～頸部		SB24 SP498		(17.0)	(2.3)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）調整不明 内）口～頸：ミガキが不明瞭	
42-11	甕	口縁～頸部		SB24 SP531		-	(4.4)	-	1/12以下	良	外）黒色 内）にぶい黄橙色	① ③	外）口：擬凹線８条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
42-12	甕	口縁部		SB24 SP531		-	(2.9)	-	1/12以下	良	外）内）にぶい橙色	① ③	外）口：擬凹線５条　頸：ナデ 内）口～頸：ヨコナデ	外）一部煤付着
42-13	壺	口縁～頸部		SB24 SP498		-	(4.5)	-	1/12以下	良	外）黄灰色 内）黒褐色	① ③	外）口：ミガキ　頸：タテミガキ 内）口～頸：ミガキ	
42-14	甕	口縁～頸部		SB23 SP527		(18.0)	(3.7)	-	-	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	① ③	外）口：擬凹線６条　頸：調整不明 内）口～頸：調整不明	
42-15	壺	口縁部		SB23 SP522		(16.0)	(1.6)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	①	外）口：擬凹線３条　頸：調整不明 内）調整不明	
42-16	甕	口縁～頸部		SB23 SP527		(18.0)	(2.4)	-	1/12	良	外）内）橙色	③	外）口：調整不明　頸：ヨコナデ　内）調整不明	外）煤付着
42-17	鉢	口縁～体部	B6	SB13 SP385		-	(3.6)	-	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）黒褐色	②	外）口端：沈線１条　貼付け突帯　体：ミガキ 内）口～体：調整不明	
42-18	甕	口縁～頸部		SB17 SP526		-	(3.6)	-	1/12以下	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	① ③	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：調整不明　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	外）煤付着
42-19	甕	口縁～頸部		SB23 SP522		-	(4.0)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	① ③	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	外）煤付着
45-1	壺	口縁～底部	B7	SP82		(11.4)	9.2	(1.8)	11/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③	外）口：擬凹線８条か　頸：ヨコナデ　胴～底：調整不 内）口：ナデ　指頭圧痕　胴：調整不明	外）口～体上部：煤付着
45-2	甕	口縁～胴上半	B6	SP201		(21.4)	(4.7)	-	2/12	良	外）内）浅黄色	③	外）口：擬凹線６条か　頸：ヨコナデ　胴：為調整不明 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	
45-3	壺	口縁～頸部	A8	SP246		(16.0)	(3.5)	-	1/12以下	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口縁帯下端：刺突列点　頸：ハケ 内）口～頸：ナデ　頸：ハケか	
45-4	鉢	口縁～体上半	B5	SP367		(11.8)	(6.3)	-	2/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：ヨコナデ　指押さえ　頸：ヨコナデ　体：ハケか 内）口～頸：ナデ　体：ケズリ	外）煤付着
45-5	壺	底部	A7	SP192		-	(4.7)	(7.0)	-	良	外）にぶい黄橙色 内）灰黄色	③	外）胴下部：タテハケ　底：ケズリか 内）工具によるナデか	外）煤付着 雲母片含む
45-6	壺	口縁～頸部	B6	SP281		-	(3.1)	-	1/12以下	良	外）内）灰白色	③	外）口：ヨコハケか　頸：ヨコナデ 内）口縁有段：ミガキ　口～頸：調整不明	
45-7	甕	口縁部	B5	SP324		-	(3.1)	-	1/12以下	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ　内）口～頸：ヨコナデ	
45-8	壺か	口縁部	B5	SP278		-	(3.5)	-	1/12以下	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口端：ヨコハケ　口：擬凹線４条か　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：指頭圧痕	
45-9	甕	口縁～胴上半	B5	SP276		-	(4.4)	-	1/12以下	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線５条以上　頸：ヨコナデ 内）頸：ヨコナデ　口・胴：調整不明	外）一部煤付着
45-10	甕	口縁～胴上半	B5	SP278		(16.0)	(4.9)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	④	外）口：擬凹線６条　頸：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
45-11	甕	口縁～胴上半	A6	SP230		(16.0)	(5.7)	-	1/12以下	良	外）内）浅黄橙色	④	外）口～頸：ヨコナデ　口：沈線１条　胴：ナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
45-12	甕	口縁～頸部	B6	SP238		(16.0)	(3.3)	-	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	④	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ	
45-13	甕	口縁～胴上半	B6	SP272		(16.0)	(4.7)	-	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：擬凹線５条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口：煤付着
45-14	甕	口縁～頸部		SP574		-	(4.4)	-	1/12以下	良	外）内）にぶい橙色	① ③	外）口：擬凹線７条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	
45-15	器台	受部	A19	SP673		(20.0)	(2.5)	-	1/12以下	良	外）明褐灰色 内）にぶい橙色	①	外）口縁帯：ヨコナデ　受：ヨコナデ後タテミガキ 内）口端：ヨコナデ　受：ミガキ	
45-16	器台	口縁部	B6	SP272		(19.0)	(2.6)	-	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	④	外）口：擬凹線２条 内）口：ヨコナデ	
45-17	脚台	脚部	A5	SP395		-	(1.5)	φ 14	1/12	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	③	外）脚裾：櫛描波状文状数不明　タテミガキか 内）ナデ	
45-18	壺	頸部～胴上半	A5	SP320		-	(4.0)	-	-	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	③	外）頸：貼付け突帯に刺突列点　突帯上下：ヨコナデ　胴上半：沈線３条 内）頸：ナデ　胴上半：指押さえ	
45-19	壺	胴部	B5	SP413		-	(9.4)	-	-	良	外）にぶい黄橙色 内）黄灰色	②	外）胴：調整不明 内）胴：指押さえ	
45-20	甕か鉢か	口縁～胴上半	B5	SP292		(16.0)	(5.5)	-	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰黄褐色	③	外）口：擬凹線５条　頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
45-21	壺か	口縁部	B5	SP359		(20.0)	(4.4)	-	1/12	良	外）灰黄褐色 内）にぶい黄橙色	③	外）内）調整不明	
45-22	鉢	口縁～体部	B5	SP416		(13.7)	(3.4)	-	1/12	良	外）内）明褐灰色	①	外）内）口～体：ナデ	
45-23	甕	口縁～頸部	A19	SP673		(15.0)	(3.4)	-	1/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③	外）口：擬凹線８条　頸：ナデ 内）口：ナデ　頸：ケズリ後ナデ	
45-24	器台	脚部	A19	SP673		-	(9.1)	-	-	良	外）内）浅黄橙色	③	外）脚：タテミガキ　内）脚：しぼり痕後ナデ	脚）３孔
45-25	甕	口縁～頸部		SP574		-	(4.9)	-	1/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	② ③	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	外）煤付着
45-26	甕	底部		SP465		-	(4.6)	(1.6)	-	良	外）黒褐色 内）灰白色	②	外）内）調整不明	
45-27	甕	口縁～頸部		SP577		-	(3.5)	-	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	① ③	外）口：擬凹線５条か　頸：ヨコナデ 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
45-28	高坏	脚部		SP463		-	(11.8)	(15.0)	-	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）坏下部：ヨコミガキ　脚上半：タテミガキ 脚下半：調整不明 内）坏～脚：調整不明	脚有段）４孔
45-29	壺か高坏か	口縁～頸部		SP593		(21.1)	(5.2)	-	4/12	良	外）内）灰白色	①	外）内）口～頸：丁寧なヨコナデ	
45-30	甕	口縁～胴上半		SP465		(18.0)	(5.2)	-	2/12	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄色	④	外）口：擬凹線７条　頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為調整不明	
45-31	短頸壺	口縁～胴部		SP593		(5.2)	(5.0)	-	3/12	良	外）浅黄色 内）灰白色	①	外）内）口～胴：ヨコナデ	外）赤彩
45-32	鉢	口縁～体部		SP593		(13.1)	(4.9)	-	2/12	良	外）内）灰白色	②	外）内）口～体：丁寧なヨコナデ	
45-33	壺	胴下部～底部		SP599		-	(6.2)	4.8	-	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）調整不明　内）胴～底：ケズリ	外）底：黒斑
46-1	甕	口縁～胴上半		SP608		(11.7)	(5.2)	-	3/12	良	外）淡赤橙色 内）淡赤橙色	②	外）口：擬凹線６条　頸～胴：摩滅の為調整不明 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	外）煤付着
46-2	小型鉢	把手		SP605		-	-	-	-	良	外）浅黄橙色	④	外）指押さえ　ナデ	
46-3	甕	口縁～胴上半		SP623		(15.8)	(4.4)	-	3/12	良	外）灰黄褐色 内）にぶい黄橙色	②	外）口：擬凹線条数不明　頸：調整不明 内）口：指頭圧痕　口～胴：調整不明	
46-4	甕	口縁～胴上半		SP635		(17.0)	(4.1)	-	1/12以下	良	外）浅黄橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線６条　頸：ナデ 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
46-5	甕	口縁～胴上半		SP635		(18.0)	(4.0)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬凹線６条　頸：ナデ 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	外）煤付着
46-6	甕	口縁～頸部		SP612		(13.1)	(3.5)	-	4/12	良	外）橙色　内）淡橙色	②	外）内）口～頸：ヨコナデ	
46-7	鉢	口縁～体部		SP643		(11.5)	((8.4)	-	2/12	良	外）灰白色 内）にぶい橙色	②	外）口：ヨコナデ　体：ヨコハケ後ナデ 内）口～頸：ヨコナデ　体下部：指ナデ	外）一部煤付着
46-8	壺	口縁～胴上半		SP618		(14.0)	(5.9)	-	1/12	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	②	外）調整不明　内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
46-9	壺	口縁～胴上半	A19	SP668		(15.8)	(5.9)	-	2/12	良	外）内）にぶい橙色	② ④	外）口：擬凹線２条以上　頸：ナデ　胴：ハケ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	
46-10	甕	口縁～胴上半	A19	SP668		(28.0)	(5.9)	-	1/12	良	外）内）灰白色	②	外）口～頸：調整不明　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
46-11	高坏	坏部	A19	SP668		(22.8)	(4.8)	-	2/12	良	外）内）灰白色	①	外）内）坏：ミガキ	
46-12	壺	口縁～胴上半	A19	SP668		(15.0)	(6.8)	-	1/12	良	外）灰白色　内）橙色	③	外）口：ナデ　頸：ヨコナデ　胴：ナデ　内）口～胴：ナデ	外）赤彩
46-13	甕	口縁～頸部	A19	SP668		(23.0)	(5.2)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬凹線８条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
46-14	甕	口縁～胴上半	A19	SP668		(23.6)	(5.9)	-	2/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口：擬凹線７条　頸：ナデ　内）口：ナデ　頸：指押さえ	
46-15	台付鉢	口縁～底部	A19	SP668		(8.7)	7.8	(7.0)	5/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）調整不明	
46-16	甕	口縁～頸部	A19	SP668		(20.0)	(5.6)	-	1/12以下	良	外）明褐灰色 内）灰褐色	④	外）口：擬凹線９条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	

図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量 (cm) 口径	器高	底径	口縁残存 (/12)	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
46-17	甕	口縁～胴上半	A19	SP668		(17.0)	(5.3)	-	1/12	良	外）内）浅黄橙色	④	外）口：擬回線８条　頸～胴：調整不明 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　胴：調整不明	
46-18	甕	口縁～胴上半	A19	SP668		(16.6)	(7.1)	-	1/12 以下	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線８条以上　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
46-19	ミニチュア土器　鉢	口縁～胴部	A18	SP681		(5.0)	(4.0)	-	2/12	良	外）内）灰褐色	①	外）口端：ナデ　口～胴：ナデ　指押さえ　内）口～胴：指ナデ	
46-20	甕	口縁～胴上半	A19	SP668		(15.0)	(4.1)	-	1/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい黄橙色	①	外）口～胴：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：調整不明	
46-21	甕	口縁～頸部	A19	SP668		(23.0)	(4.8)	-	1/12	良	外）内）浅黄橙色	④	外）口：擬回線６条以上　頸：調整不明 内）口～頸：調整不明	
46-23	甕	底部	A19	SP668		-	(2.8)	3.1	-	良	外）灰色 内）にぶい橙色	②	外）胴：調整不明　底：ナデ 内）底：ケズリ　指ナデ	
46-24	有孔鉢	底部	A19	SP669		-	(2.8)	1.5	-	良	外）橙色 内）にぶい橙色	④	外）内）調整不明	
46-25	壺	胴上半部	A19	SP675		-	(9.2)	-	-	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	②	外）胴：タテハケ　胴上半：歪みのある櫛描直線文４条が２段 ２条目の櫛描直線文下に貼付け角状突起 内）胴：ナナメハケ	外）把手１個のみ残　２個か
46-26	壺	胴～底部	A19	SP675		-	(12.9)	(6.6)	-	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	③	外）胴：ナナメハケ　タテハケ 内）胴：ヨコハケ　ナナメハケ	外）煤付着
46-27	甕	口縁部	A18	SP681			(3.1)				外）内）にぶい黄橙色	①	外）口：擬回線５条　ナデ 内）口～頸：ナデ	
47-1	甕	口縁部～頸部	B4	SD33 他		(34.0)	(6.7)	-	1/12	良	外）内）灰白色	③	外）口：擬回線が不明瞭　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	外）煤付着
47-2	甕	口縁～胴上半	B4	SD33 他	５区 ６区	(20.8)	(5.3)	-	2/12	良	外）内）灰白色	④	外）口：擬回線４条か　頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケか 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ　工具痕か	
47-3	甕	口縁～胴上半	B4	SD33 他		(23.1)	(4.8)	-	2/12	良	外）内）灰白色	④	外）口：擬回線６条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	
47-4	甕	口縁～胴上半	B4	SD33 他		17.7	(10.5)	-	11/12	良	外）内）にぶい橙色	③	内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
47-5	甕	口縁～胴上半	A4	SD33 他		(17.9)	(5.3)	-	2/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰黄色	③	外）口：擬回線５条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
47-6	甕	口縁～胴上半	B4	SD33 他		(16.8)	(4.5)	-	2/12	良	外）内）浅黄橙色	④	外）口：擬回線７条か　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
47-7	甕	口縁～頸部	B4	SD33 他	１区	(18.1)	(3.2)	-	1/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　内）口～頸：ヨコナデ　頸：ケズリ	
47-8	甕	口縁～胴上半	A5	SD33 他		(15.1)	(4.3)	-	6/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口～胴：調整不明　内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
47-9	甕	口縁～頸部	A5	SD33 他		(18.0)	(4.8)	-	3/12	良	外）淡赤橙色 内）橙色	④	外）口：擬回線条数不明　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケ	
47-10	甕	口縁～胴上半	A4	SD33 他		(19.0)	(5.9)	-	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線１条以上　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
47-11	甕	口縁～胴上半	B4	SD33 他		(16.7)	(12.5)	-	7/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線７条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口端：連続指頭圧痕　口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）頸～胴：煤付着
47-12	甕	口縁～頸部	A5	SD33 他	６区	(15.0)	(4.2)	-	2/12	良	外）黒色 内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線７条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
47-13	甕	口縁～胴上半	A5	SD33 他		(13.7)	(7.5)	-	4/12	良	外）内）淡赤橙色	③	外）口～胴：ナナメハケ 内）口～頸：ナナメハケ　ヨコハケ　胴：タテ方向のケズリ	
47-14	甕	口縁～胴部	A5	SD33 他		(14.0)	(6.8)	-	1/12 以下	良	外）灰褐色 内）にぶい橙色	③	内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
47-15	甕	口縁～胴上半	A5	SD33 他		16.7	(14.2)	-	12/12	良	外）内）にぶい橙色	④	外）口：擬回線７条か　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
47-16	甕	口縁～胴上半	A5	SD33 他		(15.0)	(11.6)	-	7/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線７条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
47-17	甕	口縁～胴上半	B4	SD33 他		(17.0)	(8.7)	-	3/12	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	③ ④	外）口：擬回線９条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
47-18	甕	口縁～胴上半	A5	SD33 他		(14.6)	(12.4)	-	2/12	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	③ ④	外）口～頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口端：ヨコナデ　口～頸：ヨコハケ後ナナメハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
47-19	甕	口縁～胴部上	A4･5	SD33 他	３区	(14.0)	(11.6)	-	2/12	良	外）褐灰色 内）灰黄褐色	④	外）口：ナナメハケ 内）口～頸：ナナメハケ　胴上半：ヨコハケ後指押さえ　胴下半：ケズリか	外）煤付着
48-1	壺	口縁～胴上半	B4	SD33 他		(10.4)	(6.4)	-	6/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：ヨコミガキ　頸：ヨコナデ　胴：不明 内）口：ヨコミガキ　頸：ナデ　胴：調整不明	
48-2	壺	口縁～頸部	B4	SD33 他		(13.0)	(5.3)	-	3/12	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	③	外）頸：ヨコナデ　口・胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
48-3	壺	口縁～胴上半	A5	SD33 他		(11.8)	(7.4)	-	12/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：ナナメハケ　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ハケ後ナデ　頸：ヨコナデ　胴：ケズリ　指押さえ	
48-4	壺	口縁～頸部	A5	SD33 他		(15.2)	(5.7)	-	3/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	③	外）口：擬回線か不明瞭　頸：ヨコナデ 内）口：ヨコナデ　頸：ハケ　胴：ケズリ	
48-5	壺	口縁～頸部	B4	SD33 他		(8.8)	(2.8)	-	2/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい橙色	①	外）口：ヨコミガキ　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ	外）赤彩
48-6	壺	口縁部	A5	SD33 他	３区	-	(3.4)	-	1/12 以下	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：調整不明　頸：中心に２個の刺突を施した円形浮文を貼付け 内）調整不明	
48-7	壺	口縁部	A5	SD33 他		(18.6)	(4.7)	-	2/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）調整不明	
48-8	壺	口縁部	A5	SD33 他		(21.2)	(5.0)	-	3/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口縁帯：擬回線 12 ～ 13 条の上に２個１対のヘラ刺突を施した棒状浮文を貼付け　口縁帯以下：調整不明 内）口：調整不明	外）棒状浮文対数不明
48-9	壺	胴上半	B4	SD33 他		-	(8.0)	-	-	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）頸：貼付け突帯上端にキザミ　胴：多方向のナデ　内）胴：ケズリ	
48-10	壺	胴下半～底部	A4･5	SD33 他	４区	-	(10.2)	-	-	良	外）灰褐色 内）にぶい黄橙色	③	外）胴：タテハケ 内）胴：ケズリ	外）煤付着
48-11	壺	胴下半～底部	A5	SD33 他		-	(14.4)	2.5	-	良	外）灰黄褐色 内）にぶい黄橙色	③	外）胴：タテハケ　底：ハケ 内）胴：ケズリ	外）煤付着
48-12	小型壺	胴部	B4	SD33 他		-	-	-	-	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	③	外）胴：タテハケ　ナデを施した突帯を貼付け　内）胴：ナデ	外）煤付着
48-13	小型壺	胴部	B4	SD33 他		-	-	-	-	良	外）内）にぶい橙色	③	外）頸：ヨコナデ　胴：タテハケ　貼付け突帯痕有　内）頸～体：ナデ	外）煤付着
48-14	壺	底部		SD33	４トレ	-	(2.7)	2.8	-	良	外）内）黒色	①	外）胴：タテハケ内）胴～底：調整不明	外内）煤付着
48-15	壺	底部	B4	SD33 他		-	(4.7)	5.3	-	良	外）灰白色 内）黄灰色	③	外）胴：タテハケか不明瞭 内）胴～底：調整不明	
48-16	壺	胴部	B4	SD33 他	６区	-	(10.9)	-	-	良	外）オリーブ黒色 内）にぶい橙色	③	外）頸～胴上半：ヨコハケ　胴下半：ナナメハケ 内）頸～胴：ケズリ	
48-17	壺	胴下半～底部	A･B4	SD33 他		-	(15.0)	5.8	-	良	外）浅黄橙色 内）黄灰色	③	外）胴：ナナメハケ 内）胴：ヨコハケ　底：多方向のナデ	底）貼付け
49-1	高坏	坏部	A･B4	SD33 他	６区	(26.0)	(6.0)	-	1/12	良	外）橙色 内）にぶい橙色	①	外）内）摩滅の為調整不明	
49-2	高坏	坏部	A4	SD33･34	３区	(26.0)	(5.1)	-	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	①	外）内）摩滅の為調整不明	
49-3	高坏	坏部	A1 ～ 6	SD33 他	側溝	(19.6)	(5.8)	-	2/12	良	外）褐灰色 内）にぶい橙色	①	外）内）摩滅の為調整不明	
49-4	装飾器台	たちあがり	A5	SD33 他		-	(4.1)	-	-	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口縁帯：ヨコミガキ　以下：タテミガキか 内）有段部：ヨコミガキ　以下：調整不明	たちあがり）水滴形透かし天地逆交互に　個数不明
49-5	装飾器台	受～脚上半	B1～6	SD33 他	側溝	-	(11.5)	-	-	良	外）浅黄橙色 内）淡橙色	③ ④	外）受：擬回線４条以上　垂下帯痕有　脚：タテミガキ 内）受～脚：調整不明	
49-6	器台	脚部	B4	SD33 他		-	(7.8)	-	-	良	外）内）浅黄橙色	②	外）脚上半：タテミガキ　脚下半：調整不明 内）脚上半：ヨコケズリ　脚下半：ナデか	脚）１孔残存　孔不明
49-7	高坏	脚部	A5	SD33 他		-	-	-	-	良	外）黒色 内）褐灰色	③	外）脚有段：ヘラ刺突列点を羽状３段に配し間に沈線１条ずつ 内）調整不明	
49-8	器台	脚部	B4	SD33 他		-	(9.0)	-	-	良	外）内）浅黄橙色	③	外）脚上半：タテミガキ　脚有段：ヨコミガキ 内）脚上半：ナデか　脚下半：細かいハケか	
49-9	器台	脚部	A･B4	SD33 他		-	(8.6)	(12.8)	-	良	外）にぶい 内）にぶい黄橙色	①	外）脚：タテミガキ　脚裾：ナデ 内）脚：ナデ　脚上半：しぼり痕	脚：４孔
49-10	脚台	脚部	A4･5	SD33 他		-	(3.6)	11.2	-	良	外）内）灰白色	②	外）脚：タテミガキ　内）調整不明	
49-11	鉢	口縁～底部	A4	SD33 他		(8.6)	5.0	3.2	3/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：ナデ　体：ハケ後タテミガキ 内）体上半：ナデ　体下半：ケズリ	外）一部被熱
49-12	小型土器鉢	口縁～底部	A4	SD33 他		(6.0)	9.2	1.7	4/12	良	外）内）浅黄色	③	外）内）ナデ	
49-13	鉢	口縁～体上半	A4	SD33 他		-	(8.5)	-	-	良	外）内）にぶい橙色	②	外）内）摩滅の為調整不明	
49-14	台付鉢	体底～脚部	A4	SD33 他		-	(3.9)	(10.5)	-	良	外）灰白色 内）淡黄色	④	外）体：ハケが不明瞭　脚台：調整不明 内）体～脚台：調整不明	
49-15	鉢	口縁～体下部	B4	SD33 他		(16.0)	(3.9)	-	1/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）内）ヨコミガキ	
49-16	鉢	口縁～体下部		SD33		(8.6)	(2.6)	-	1/12	良	外）内）浅黄橙色	②	外）内）調整不明	
49-17	鉢	口縁～底部	A5	D33 他		12.8	5.8	2.1	8/12	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	③	外）口～体上半：ヨコミガキ　体下半～底：ナナメミガキ　タテミ 内）口～底：ヨコミガキ	
49-18	鉢	口縁～体部	B4	SD33 他		(11.0)	(5.6)	-	3/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線６条　頸：ヨコナデ　体：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　体：ケズリ	

図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量（cm）			口縁残存（/12）	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
						口径	器高	底径						
49-19	有孔鉢	底部	A4	SD33他		－	(4.3)	(3.4)	－	良	外）内）にぶい橙色	③	外）胴：ナナメハケ　内）胴：ケズリ	
49-20	鉢	口縁～体下部	B4	SD33他		(10.0)	4.7	－	1/12	良	外）淡黄色 内）浅黄橙色	③	外）内）口～頸：ヨコナデか　　体：調整不明	
49-21	鉢	体下半～底部	B4	SD33他		－	(4.0)	(2.0)	－	良	外）内）灰白色	③	外）内）調整不明	
49-22	鉢	体下半～底部	B4	SD33他		－	(5.8)	(2.0)	－	良	外）にぶい黄橙色 内）褐灰色	②	外）内）調整不明	
50-1	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(28.0)	(10.0)	－	2/12	良	外）にぶい黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：擬凹線10条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ヨコナデ　連続指頭圧痕　頸：ハケ後ナデ　胴：ケズリ	
50-2	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		－	(7.8)	－	－	良	外）内）にぶい橙色	③ ④	外）口：擬凹線条数不明　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
50-3	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(20.5)	(8.2)	－	1/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬凹線５条　頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為調整不明 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
50-4	甕	口縁～胴上半	B21	SD93		(22.0)	(4.8)	－	2/12	良	外 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線２条　頸：ヨコナデ　胴：ナデ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
50-5	甕	口縁～胴上半	A20	SD93		(25.0)	(6.9)	－	1/12	良	外）にぶい橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線９条　頸：ヨコナデ　胴：ハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコナデ　ヨコハケ　胴：ケズリ	
50-6	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(20.4)	(9.0)	－	1/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬凹線９～10条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
50-7	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(16.8)	(6.9)	－	6/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為ナナメハケが不明瞭 内）摩滅の為調整不明	
50-8	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(16.0)	(11.5)	－	8/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：多方向のハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
50-9	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(15.0)	(5.1)	－	5/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	外）煤付着
50-10	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(13.5)	(10.0)	－	8/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線13条　頸：ヨコナデ　胴上半：タテハケ 胴上半：タテハケ後ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	外）煤付着
50-11	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(16.0)	(6.3)	－	4/12	良	外）内）灰白色	③	外）口：擬凹線７条　頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為調整不明 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
50-12	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(16.8)	(6.0)	－	3/12	良	外）内）浅黄橙色	④	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ　胴：ハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
50-13	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		16.0	(8.1)	－	11/12	良	外）灰黄褐色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線９～10条　頸～胴上半：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口～頸：ヨコナデ　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	
50-14	甕	口縁～胴上半	A20	SD93		(20.0)	(5.6)	－	2/12	良	外）内）浅黄色	③	外）口：擬凹線５条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	
50-15	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(18.4)	(9.6)	－	9/12	良	外）内）橙色	③	外）口：擬凹線９条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ後指ナデ	外）煤付着
50-16	甕	胴下半～底部	A20	SD93･94		－	(16.2)	2.4	－	良	外）にぶい黄色 内）灰黄色	②	外）胴：ナナメハケ　底：ナデ 内）胴～底：ケズリ後指ナデ	外内）煤付着
51-1	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(13.9)	(9.3)	－	8/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③	外）口：擬凹線８条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口～頸：ナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
51-2	甕	口縁～胴上半	B21	SD93		(14.2)	(5.6)	－	2/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬凹線７条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
51-3	甕	口縁～底部	A20	SD93･94		(16.0)	21.3	2.0	4/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ　胴～底：タテハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　胴～底：ケズリ	
51-4	甕	口縁～底部	A20	SD93･94		17.1	23.0	3.0	9/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬凹線６条か　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ヨコナデ　指頭圧痕　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
51-5	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(15.8)	(7.7)	－	6/12	良	外）内）浅黄色	③	外）口：擬凹線７条か　頸：ヨコナデ　胴上半：タテハケ　胴上半：タテハケ後ヨコハケ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	外）煤付着
51-6	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(13.0)	(5.3)	－	4/12	良	外）浅黄色 内）灰白色	③	外）口：擬凹線６条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口：煤付着
51-7	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		－	(5.2)	－	1/12以下	良	外）黒褐色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線９条　頸～胴：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ハケ後ヨコナデ	
51-8	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(12.0)	(6.0)	－	3/12	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線５条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
51-9	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(14.3)	(8.8)	－	2/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口～胴上半：調整不明　胴：粗いハケか 内）口～頸：ナデ　　胴：調整不明	
51-10	甕	口縁～胴上半	A20	SD93		(15.2)	(12.1)	－	2/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口～頸：ナデか　胴：ナナメハケ 内）口～胴：調整不明	
51-11	甕	口縁～底部	A20	SD93･94		(17.6)	27.0	(1.4)	9/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬凹線５条　頸：ナデ　胴～底：タテハケ 内）口～頸：ハケ後ナデ　胴～底：ケズリ	外）煤付着 内）黒斑か
52-1	甕	口縁～底部 胴部一部欠	A20	SD93･94		(15.4)	(15.8)	2.8	3/12	良	外）浅黄橙色 内）浅黄橙色	③	外）口端：つまみナデ　口～頸：ナデ　胴上半：太いタテハケ　ヨコハケ 胴下半：細いタテハケ　底：ケズリ 内）口～頸：細いヨコハケ　胴上半：太いヨコハケ　胴下半：太いハケ 底：ケズリ	外）煤付着
52-2	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(17.2)	(4.2)	－	2/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい橙色	③ ④	外）口～頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデが不明瞭　胴：調整不明	外）煤付着
52-3	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(17.0)	(3.9)	－	3/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口～胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデか　胴：指押さえ　調整不明	
52-4	甕	口縁～胴部	A20	SD93･94		(16.4)	(24.5)	－	2/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：ナナメハケ　頸：ハケ後ケズリ　胴：ナナメハケ　タテハケ 内）口：ヨコハケ　頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケ	
52-5	甕	口縁～底部	A20	SD93･94		13.8	15.8	1.7	9/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴上半：ナナメハケ　胴下半：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴～底：ケズリ	外）一部煤付着
52-6	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(14.0)	(5.2)	－	3/12	良	外）内）灰白色	④	外）口端：沈線１条　口～頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ	
52-7	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(12.0)	(6.6)	－	4/12	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	③	外）口～頸：ナデ　胴：ハケか 内）口～頸：ナデ　胴上半：指押さえ　胴：ナデ	外）煤付着
52-8	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(15.0)	(6.8)	－	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ　指押さえ	
52-9	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(17.8)	(6.0)	－	3/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口～頸：ナデ　指押さえ　胴：ヨコハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：タテハケ	外）一部煤付着
52-10	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(16.0)	(7.9)	－	10/12	良	外）内）浅黄橙色	③ ④	外）口～頸：ヨコナデ　指押さえ　胴：ナナメハケ 内）口～頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
52-11	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(17.0)	(5.2)	－	3/12	良	外）内）褐灰色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為ハケが不明瞭 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
52-12	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(15.0)	(13.8)	－	2/12	良	外）内）にぶい橙色	③ ④	外）口～頸：タテハケ　胴：ナデ 内）口～頸：タテハケ　胴：指押さえ　ナデ	外）一部煤付着
53-1	甕	口縁～底部	A20	SD93･94		16.2	24.1	6.6	12/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　頸：連続した指押さえ　胴上半：ナナメハケ後タタキ 胴下半：ナデ　指押さえ　一部にナナメハケ　タタキ　底：ケズリか 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ　底：工具によるナデ	外）煤付着
53-2	甕	底部	A20	SD93･94		－	(2.5)	(4.6)	－	良	外）内）にぶい橙色	③	外）胴：タタキ後ナデ　底：ナデ 内）底：ハケ	
53-3	甕	胴下半～底部	A20	SD93･94		－	(15.7)	(3.8)	－	良	外）明褐灰色 内）にぶい褐色	③	外）胴：ヨコのタタキ　底：ナデ 内）胴：ナナメハケ	外）一部煤付着 内）底：焦痕か
53-4	甕	底部	A20	SD93･94		－	(2.0)	(4.4)	－	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③	外）胴：タタキ　底：ナデ 内）底：調整不明	
53-5	甕	胴下半～底部	A20	SD93･94		－	(14.5)	(5.2)	－	良	外）黒褐色 内）橙色	③	外）胴下半：ナナメハケ　底：ケズリ 内）胴～底：ヨコハケ　タテハケ	外）煤付着
53-6	甕	底部	A20	SD93･94		－	(4.7)	3.6	－	良	外）灰褐色 内）にぶい橙色	③ ④	外）胴～底：タタキ 内）胴～底：ナデ	内）底：焦痕か
53-7	甕	体～底部	A20	SD93･94		－	(3.5)	2.2	－	良	外）にぶい橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）胴～底：タタキ 内）胴～底：調整不明	
53-8	甕	胴下半～底部	A20	SD93･94		－	(13.3)	4.6	－	良	外）にぶい黄橙色 内）灰褐色	③	外）胴上半：ヨコのタタキ　胴下半：タテのタタキ　底：ナデ 内）胴～底：工具によるナデか	外）一部煤付着
53-9	甕	胴下部～底部	A20	SD93･94		－	(5.4)	5.4	－	良	外）褐灰色 内）にぶい橙色	③	外）胴：タタキ　底：ナデ 内）胴～底：タテハケ	外）一部煤付着 内）焦痕か
53-10	甕	胴下半～底部	A20	SD93･94		－	(10.0)	3.0	－	良	外）内）灰褐色	③ ④	外）胴：タタキ　底：ナデ 内）胴：ケズリ　底：ハケ	外）一部煤付着
54-1	甕	口縁～胴上半	A20	SD93･94		(14.2)	(11.1)	－	7/12	良	外）内）にぶい橙色	③ ④	外）口～頸：ヨコナデ　胴：タタキ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ナデ　指押さえ	外）口：煤付着 外）被熱痕
54-2	甕	口縁～底部	A20	SD93･94		11.4	11.9	3.4	9/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③ ④	外）口端：つまみナデ　口～頸：タテのタタキ　胴上半：タテのタタキ 後ヨコのタタキ　胴下半：ヨコタタキ後一部指ナデ　指押さえ 内）口～頸：タタキ　指押さえ　胴：ナデ　指押さえ	外）一部煤付着
54-3	甕	口縁～胴部	A20	SD93･94		(14.2)	(13.0)	－	1/12以下	良	外）内）にぶい橙色	③ ④	外）口～頸：摩滅の為調整不明　胴：タタキ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリか	外）一部煤付着
54-4	甕	頸部～胴上半	A20	SD93･94		－	10.2	－	－	良	外）浅黄橙色 内）明褐灰色	③ ④	外）頸：タタキ後ヨコナデ　胴：タタキ 内）頸：ヨコナデ　胴：ナデ　指ナデ	
54-5	鉢	口縁～底部	A20	SD93･94		(19.4)	(12.5)	4.4	1/12以下	良	外）内）橙色	③	外）口～体上半：摩滅の為タタキが不明瞭　体下半：板ナデ 内）口～体：指押さえ	外）煤付着
54-6	甕	底部	A20	SD93･94		－	(3.0)	(4.6)	－	良	外）内）橙色	③	外）胴：タタキ　底：摩滅の為調整不明 内）底：摩滅の為調整不明	

図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量（cm）			口縁残存（/12）	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
						口径	器高	底径						
54-7	甕	底部	A20	SD93		–	(2.9)	(2.0)	–	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	④	外）胴：タタキ 内）底：ナデ	外）煤付着
54-8	甕	底部	A20	SD93		–	(2.4)	(4.8)	–	良	外）赤黒色 内）明赤褐色	④	外）胴：タタキ　底：ナデ 内）底：ハケ	外）煤付着
54-9	甕	底部	A20	SD93		–	(2.4)	(4.2)	–	良	外）内）灰白色	④	外）胴：タタキ　底：ナデ　内）底：ハケ	
54-10	甕	底部	A20	SD93・94		–	(5.2)	(4.6)	–	良	外）内）橙色	③	外）胴：ナデ　タタキ　底：ナデ　内）底：ハケ	
54-11	甕	底部	A20	SD93		–	(3.2)	(4.2)	–	良	外）内）灰白色	④	外）胴：タタキ　底：ナデ　内）底：ハケ	外）煤付着
55-1	Ｓ字甕	口縁～脚上半	A20	SD93・94		(15.0)	(29.0)	–	3/12	良	外）褐灰色 内）浅黄橙色	③	外）口～頸：ナデ　胴上半：タテハケ後ヨコハケ　胴下半～脚上部：タテハケ 内）口～頸：ナデ　胴上半：指ナデ　胴：ナデ　底：指押さえ　脚：指ナデ	外）煤付着 内）黒斑か
55-2	甕	口縁～胴上半	A20	SD93		(16.0)	(4.7)	–	8/12	良	外）内）橙色	④	外）口・胴：摩滅の為調整不明　頸：摩滅の為ヨコナデが不明瞭 内）口：摩滅の為ナデが不明瞭　頸～胴：摩滅の為調整不明	
55-3	Ｓ字甕	口縁～胴上半	A20	SD93・94		(16.0)	(3.9)	–	4/12	やや不良	外）内）灰白色	②	外）口～頸：ナデ　胴：摩滅の為ハケが不明瞭 内）口～頸：ナデ　胴：指押さえ	
55-4	Ｓ字甕	口縁～胴上半	A20	SD93・94		16.3	(22.2)	–	10/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰黄褐色	③	外）口～頸：ナデ　胴上半：タテハケ後ヨコハケ　胴～脚：ナナメハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　胴上半：指押さえ　胴：ナデ 底・脚：指押さえ	外）煤付着
56-1	壺	口縁～胴下半	A20	SD93・94		12.6	(30.7)	–	9/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口端：ヨコナデ　口～頸：太いタテミガキ　胴：ハケ後タテミガキ 内）口：ヨコナデ　胴上半：指押さえ　胴：ナナメハケ 胴下部：工具によるナデか	外）一部煤付着
56-2	壺	口縁～底部	A20	SD93・94		(13.4)	(31.1)	(6.0)	6/12	良	外）浅黄色 内）暗灰黄色	②	外）口端：ヨコナデ　口～頸：タテミガキ　胴上半：ハケ後タテミガキ 胴下半：摩滅の為調整不明 内）口：ナデ　胴上半：指押さえ　胴～底：ナデ	外）口：煤付着 脚）３孔
56-3	壺	胴下半～底部	A20	SD93・94 SD93		–	(6.9)	5.9	–	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	③	外）胴下部：摩滅の為タテミガキが不明瞭　底：ケズリか 内）胴～底：ナデ	外）煤付着
56-4	壺	口縁～胴上半	A20	SD93・94		14.2	(5.6)	–	10/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：ヨコナデ　頸：ハケ後ナデか　胴：ヨコハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：指押さえ後ハケ	外）煤付着
56-5	壺	口縁～胴上半	A20	SD93・94		15.3	5.8	–	9/12	良	外）内）浅黄橙色	②	外）口：擬回線条数不明　頸：ナデ 内）口～頸：摩滅の為調整不明　胴：ケズリ	
56-6	壺	口縁～頸部	A20	SD93・94		(14.0)	(4.7)	–	5/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）口：擬回線８～９条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
56-7	壺	口縁～胴上半	A20	SD93		(13.0)	(7.0)	–	6/12	良	外）内）にぶい褐色	③	外）口：擬回線９条　頸～胴：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口端：指押さえ　胴：指押さえ　ケズリ	
56-8	壺	口縁～胴上半	A20	SD93・94		(18.0)	(10.5)	–	4/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線９条　頸：ヨコナデ　胴：多方向のハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
56-9	壺	口縁～胴上半	B21	SD93		9.4	(8.9)	–	12/12	良	外）内）橙色	②	外）口：ナデ　頸～胴：ハケ後ナデ 内）口：ヨコハケ　頸：ナデ　胴：指ナデ　ケズリ	
56-10	壺	口縁～胴部	A20	SD93・94		(11.4)	(18.2)	–	4/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい橙色	③ ④	外）口～頸：ヨコナデ　胴：ハケ後ミガキ 内）口～頸：ナデ　胴：指押さえ　ナナメハケ	外）煤付着
57-1	壺	口縁～胴部	A20	SD93・94		(14.4)	(15.1)	–	4/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：ヨコミガキ　頸：ハケ後タテミガキか　胴：タテミガキ 内）口～頸：ヨコミガキ　胴上半：指ナデ　指押さえ	外）煤付着
57-2	壺	胴部～底部	A20	SD93・94		–	(9.8)	3.4	–	良	外）内）にぶい橙色	③	外）胴～底：ミガキ　内）胴下半～底：ナデ	外）煤付着
57-3	壺	頸～胴部	A20	SD93・94		–	(11.8)	–	–	良	外）灰白色 内）にぶい橙色	②	外）胴：ミガキ 内）胴：指押さえ	外）煤付着
57-4	壺	口縁～底部	A20	SD93・94		(18.2)	32.2	4.4	6/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：ハケ後ナデ　頸：貼付け突帯上端にキザミ　胴：ナナメハケ 底：指押さえ 内）口：ハケ後ナデ　胴上半：ナナメハケ　胴下半～底：タテハケ	
57-5	壺	胴部	A20	SD93・94		–	–	–	–	良	外）灰白色 内）赤褐色	①	外）胴：ヘラ刺突列点文２段の間に竹管文を施す 内）胴：ナデ	外）煤付着
57-6	壺	口縁～底部	A20	SD93・94		(12.5)	24.0	4.9	12/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：ヨコナデ　頸：指押さえ　頸部の下半にキザミを施した貼付け突帯 突帯下：ナデ　胴：ナナメハケ　胴下部：工具によるナ 内）口～頸：ヨコナデ　胴上半：指押さえ　胴：ナデ　底：ハケ	外）一部煤付着 外）被熱痕
57-7	壺	胴部～底部	A20	SD93・94		–	(22.4)	(6.0)	–	良	外）灰黄色 内）にぶい橙色	②	外）胴上半：ハケ後タテミガキ　胴下半：指押さえ後タテミガキ　底：ナデ 内）胴～底：ナナメハケ　ヨコハケ	外内）煤付着
57-8	壺	頸～底部	A20 A21	SD93・94	包含層	–	(15.7)	3.6	–	良	外）橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）胴：太いナナメハケ　底：ケズリ 内）胴：細いナナメハケ　底：ケズリ	
57-9	壺	底部		SD93・94		–	(2.8)	5.1	–	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）胴：ナデ内）胴～底：ハケ	外内）煤付着
57-10	壺	底部	A20	SD93・94		–	(3.5)	(3.8)	–	良	外）浅黄橙色 内）淡橙色	③	外）胴：タテハケ　底：ナデ 内）胴～底：ケズリ	外）一部煤付着
58-1	壺	頸～底部	A20	SD93・94		–	(27.7)	(6.0)	–	良	外）橙色 内）橙褐灰色	③	外）胴：ナナメハケ後タテミガキ　底：指押さえ　ナデ 内）頸：指押さえ　胴～底：ナデ	外）一部煤付着 外）黒斑
58-2	小型壺	口縁～底部	A21 B21	SD93		7.9	(6.8)	–	8/12	良	外）にぶい黄橙色 内）橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　頸：指押さえ　胴：ハケ後ミガキか　底：ケズリ 内）口～頸：ヨコナデ　胴～底：指ナデ	
58-3	鉢	口縁～底部	A20	SD93・94		10.2	7.0	1.7	12/12	良	外）浅黄橙色 内）橙色	③	外）口：ヨコミガキ　頸：ヨコナデ　体～底：ミガキ 内）口～頸：ヨコミガキ　体～底：摩滅の為ケズリ後ミガキが不明瞭	
58-4	鉢	口縁～底部	B21	SD93		(10.4)	7.2	4.6	3/12	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）口～頸：ヨコナデ　体：ナナメハケ　底：ナデ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　体～底：工具によるナデ	
58-5	壺	口縁～底部	A20	SD93・94		11.6	10.7	1.3	9/12	良	外）内）にぶい褐色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴～底：摩滅の為調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　胴～底：ナデ	外）一部煤付着
58-6	壺	口縁～胴部	A20	SD93		–	(6.8)	–	1/12	良	外）浅黄橙色 内）灰白色	① ④	外）口端：沈線１条　口～頸：ミガキ 内）口～頸：指押さえ後ミガキ	
58-7	壺	口縁～頸部	A20	SD93		(12.4)	(7.8)	–	3/12	良	外）にぶい黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：ヨコナデ　頸：タテハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ナナメハケ	
58-8	壺	口縁～胴部	A20	SD93・94		–	(5.1)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）黒色	① ④	外）口：擬回線５条　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
58-9	壺	口縁部	A20	SD93		–	(3.9)	–	1/12以下	良	外）褐灰色 内）にぶい褐色	③	外）口：ヨコナデ　口端：沈線２条 内）口：ヨコナデ	
58-10	壺	口縁～胴上半	A20	SD93		–	(4.4)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為調整不明 内）口～胴：ヨコナデ	
58-11	台付壺	口縁～脚部	A20	SD93・94		(11.6)	(16.1)	9.5	5/12	良	外）内）橙色	③ ④	外）口：擬回線４条か　頸：ヨコナデ　胴～脚：ハケ後ミガキ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ　脚：ヨコハケ	
58-12	脚台	脚部	A20	SD93		–	(3.4)	(12.0)	–	良	外）にぶい黄橙色 内）褐灰色	③	外）脚：工具によるナデか 内）胴底：摩滅の為調整不明　脚：ハケ	
58-13	台付鉢	口縁～底部	A20	SD93・94		10.8	11.4	7.4	12/12	良	外）内）橙色	②	外　内）摩滅の為調整不明	
58-14	台付鉢	口縁～脚部	A20	SD93・94		(14.0)	(15.4)	8.4	4/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴～脚：タテハケ 内）口～胴底：ナデ　脚：タテハケ	胴）焼成後の可能性が高い穿孔
58-15	鉢	口縁～体部	A20	SD93・94		(16.0)	(8.5)	–	4/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）内）摩滅の為ヨコミガキが不明瞭	
58-16	鉢	口縁～体上半	A20	SD93・94		(13.0)	(5.4)	–	2/12	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	③ ④	外）口端：ヨコナデ　口～頸：タテハケ後ナデか 体：タテハケ　一定間隔のタテの複数の線刻 内）口端：ヨコナデ　口～頸：ナナメハケ　体：摩滅の為ケズリが不明瞭	
58-17	有孔鉢	胴部～底部	A20	SD93・94		–	(6.5)	3.4	–	良	外）内）にぶい黄橙色	③ ④	外）胴～底：多方向のハケ 内）胴～底：ナデ　底：指押さえ	
58-18	有孔鉢	口縁～底部	A20	SD93・94		(14.0)	12.7	2.1	5/12	良	外）明赤褐色 内）橙色	③	外）口：ナデ　体：ナナメハケ　体下部：摩滅の為調整不明 内）口：摩滅の為調整不明　体：ケズリ	
58-19	鉢	口縁～体上半	A20	SD93・94		(26.4)	(7.2)	–	4/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：ナデ　頸：指押さえ　体：ヨコハケ 内）口～頸：ナデ　体：ヨコハケ	外）煤付着
58-20	脚台	脚部	A20	SD93・94		–	–	–	–	良	外）内）にぶい橙色	①	外）有段：ナデ　沈線１条の下にＳ字スタンプ文　ミガキ後ナデ 内）ヨコハケ	脚）１孔のみ残　孔数不明
58-21	脚台	脚部	A20	SD93・94		–	–	–	–	良	外）内）灰白色	①	外）有段：ナデ　沈線４条の下にヘラ刺突列点を羽状に３段 内）ナデ	
58-22	脚台	脚部	A20	SD93・94		–	(3.5)	(18.0)	–	良	外）内）灰白色	①	外）脚有段：沈線１条の下にＳ字スタンプ文　脚下半：ナデ 内）ナデ	
59-1	器台	受～脚部	A20	SD93・94		10.0	8.1	(10.7)	12/12	良	外）浅黄橙色 内）灰白色	①	外）受～脚上半：摩滅の為調整不明　脚下半：タテミガキ 内）受～脚上半：摩滅の為調整不明　脚下半：指押さえ	脚）４孔
59-2	器台	受～脚部	A20	SD93・94		(7.1)	(7.3)	(11.3)	12/12	良	外）浅黄橙色 内）灰白色	④	外）受～脚上半：摩滅の為調整不明　脚下半：タテミガキ 内）受～脚上半：摩滅の為調整不明　脚下半：ハケ後ナデ	
59-3	器台	受～脚部	A20	SD93・94		(7.8)	7.2	(10.8)	10/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）受～脚：摩滅の為タテミガキが不明瞭 内）受：タテミガキ　脚：指押さえ	脚）３孔
59-4	器台	受～脚部	A20	SD93 SD93・94		(8.4)	(7.1)	(10.0)	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③ ④	外）内）摩滅の為調整不明	
59-5	器台	受～脚部	A20	SD93 SD93・94		(10.2)	(9.6)	(12.6)	2/12	良	外）内）橙色	③	外）内）摩滅の為調整不明	脚）３孔が２段
59-6	器台	受～脚部	A20	SD93・94		8.4	8.5	12.0	12/12	良	外）橙色 内）にぶい橙色	③	外）受：ヨコミガキ　脚：タテミガキ　脚端：ヨコミガキ 内）受：ヨコミガキ　脚上半：ナデ　ケズリ　脚下半：ヨコハケ	脚）３孔が２段
59-7	高坏	坏～脚部	A20	SD93・94		17.8	12.7	12.7	12/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）坏：タテミガキ　坏下部：ハケ後ミガキか　脚：ナナメハケ 内）坏：タテミガキ　坏底：摩滅の為調整不明　脚：ナナメハケ	外）脚：黒斑
59-8	高坏	坏～脚部	A21 B21	SD93		(17.0)	(13.8)	(11.4)	4/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）坏：ナデ　脚：ナデ後ミガキか 内）坏：ヨコナデ　脚：ケズリ　脚裾：ハケ後ナデ	外内）黒斑
59-9	高坏	坏～脚部	A20	SD93・94		16.8	13.2	14.0	12/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）坏：タテミガキ　脚上半：タテミガキ　脚裾：ナナメハケ 内）坏：タテミガキ　脚上半：ナデ　脚裾：ナナメハケ	
59-10	高坏	坏～脚部	A20	SD93		–	(10.5)	–	–	良	外）にぶい黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）坏：ヨコミガキ　脚：タテミガキ 内）坏：ヨコミガキ　脚：しぼり痕	

図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量（cm）			口縁残存（/12）	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
						口径	器高	底径						
59-11	高坏	坏部	A20	SD93･94		12.3	(5.1)	－	10/12	良	外）にぶい橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）坏：ヨコミガキ 内）坏：摩滅の為調整不明	
59-12	高坏	坏～脚部	A20	SD93･94		－	(11.1)	(14.2)	－	良	外）内）浅黄橙色	③	外）坏：ヨコミガキ　脚：タテミガキ　脚端：ナデ 内）坏：ヨコミガキ　脚上半：ナデ　脚下半：タテハケ後指ナデ	脚）３孔
59-13	高坏	坏部	A20	SD93･94		(20.4)	(6.3)	－	4/12	良	外）内）灰白色	②	外）内）調整不明	
59-14	高坏	坏部	A20	SD93･94		(21.2)	(5.4)	－	3/12	良	外）灰黄褐色 内）にぶい黄橙色	③	外）内）調整不明	外）煤付着
59-15	器台	脚部	A20	SD93･94		－	(8.2)	12.6	－	良	外）浅黄橙色 内）にぶい橙色	④	外）脚：摩滅の為調整不明　脚裾：ヨコミガキ 内）脚上半：しぼり痕　脚下半：ナナメハケ　脚裾：ヨコナデ	脚）３孔　４孔の配置で１孔開いてない
59-16	高坏	脚部	A20	SD93		－	(8.1)	(11.5)	－	良	外）内）にぶい橙色	③	外）脚上半：タテミガキ　脚裾：調整不明 内）脚下半：ケズリ　脚裾：ハケ後ナデ	
59-17	高坏	坏～脚部	A20	SD93･94		－	(10.8)	12.4	－	良	外）内）にぶい橙色	③	外）調整不明　内）坏：調整不明　脚上半：ナデ　脚下半：ハケが不明瞭	脚）４孔　外）坏：一部煤付着
60-1	甕	口縁～頸部	B6	SD14		(24.1)	(5.6)	－	1/12	良	外）内）灰白色	④	外）口：擬回線 11 条か　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	
60-2	甕	口縁～胴上半	A6	SD14		(18.9)	(5.6)	－	2/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線４条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
60-3	甕	口縁～頸部	A6	SD14		(16.7)	(4.0)	－	2/12	良	外）内）浅黄橙色	④	外）口：擬回線条数不明　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
60-4	甕	口縁～頸部	A6	SD14		(19.0)	(4.6)	－	1/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線４条か　頸：調整不明 内）口～頸：調整不明	
60-5	器台	受部	A6	SD14		(23.0)	(5.0)	－	2/12	良	外）内）浅黄色	③	外）内）ヨコミガキ	
60-6	高坏	脚部	B6	SD14		－	－	－	－	良	外）灰白色 内）褐灰色	③	外）脚有段：ヘラ刺突列点を羽状にその下に沈線３条 内）脚：指押さえ	
60-7	蓋	つまみ	A6	SD26		－	(2.5)	－	－	良	外）内）浅黄橙色	①	外）内）ナデが不明瞭	
60-8	甕	口縁～胴上半	A6	SD15		(16.8)	(5.4)	－	2/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線６条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
60-9	高坏	脚部	A6	SD15		－	(12.5)	(12.6)	－	良	外）内）浅黄色	②	外）脚：タテミガキ　内）調整不明	
60-10	甕	胴～底部	A6	SD15		－	(13.9)	2.0	－	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）胴：タテハケ　内）胴：ケズリ	外）煤付着
60-11	器台	受部	A6	SD15		(26.0)	(5.3)	－	3/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）内）調整不明	
60-12	壺	頸～底部	A6	SD15		－	(9.1)	1.6	－	良	外）内）にぶい黄橙色	③④	外）調整不明　内）胴：ケズリ　指ナデ	外）黒斑か
60-13	鉢	口縁～体上半	B6	SD16		(13.6)	(7.8)	－	4/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線条数不明　頸：ヨコナデ　体：調整不明 内）口～頸：ナデ　体：ケズリ	
60-14	甕	口縁～胴上半	A6	SD28		(15.9)	(6.9)	－	2/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線条数不明　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
60-15	甕	口縁～胴上半	A6	SD28		(27.7)	(9.0)	－	1/12	良	外）内）灰白色	④	外）口：擬回線９条か　頸：ヨコナデ　胴：ハケ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
60-16	壺	口縁～頸部	A6	SD28		(24.0)	(4.6)	－	1/12	良	外）灰黄褐色 内）褐灰色	④	外）口：ヨコナデ　頸：ハケ 内）口～頸：ヨコナデ	
60-17	甕	口縁～胴上半	A6	SD28･29		(15.6)	(4.5)	－	4/12	良	外）内）にぶい黄橙色	④	外）口：擬回線５条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
60-18	甕	口縁～胴上半	A6	SD28･29		(16.9)	(6.4)	－	3/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい橙色	①	外）口：擬回線４～５条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：ナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
60-19	甕	口縁～胴上半	A6	SD29		(18.7)	(6.3)	－	3/12	良	外）内）淡黄色	③	外）口：擬回線８条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
60-20	壺	口縁～頸部	A6	SD29		(21.9)	(7.0)	－	2/12	良	外）灰白色 内）淡黄色	③	外）口：擬回線９条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口～胴：調整不明	
60-21	甕	口縁～頸部	A6	SD28･29		(10.9)	(4.4)	－	5/12	良	外）内）橙色	④	外）口～頸：摩滅によりヨコナデが不明瞭 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
60-22	器種不明	胴部	A6	SD29		－	－	－	－	良	外）明褐灰色 内）灰褐色	③	外）胴：網目状文 内）胴：調整不明	
60-23	装飾器台	垂下帯	A6	SD29		－	(2.7)	－	－	良	外）内）橙色	②	外）垂下帯：擬回線７条　内）調整不明	
60-24	甕	口縁～胴上半	B1	SD44		(18.6)	(4.8)	－	5/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線５条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口：ナデ　連続指頭圧痕　頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
60-25	器台	受部	B5	SD43		(21.9)	(4.2)	－	2/12	良	外）浅黄橙色 内）灰白色	①	外）口：擬回線８条か　受：調整不明 内）調整不明	
60-26	甕	底部	B5	SD43		－	(4.2)	2.5	－	良	外）浅黄橙色 内）褐灰色	③	外）胴：タテハケ 内）胴～底：ケズリ	
60-27	壺	底部	B1	SD38		－	(2.7)	3.9	－	良	外）橙色 内）浅黄色	③	外内）調整不明	
60-28	壺	底部	B6	SD47		－	(2.8)	2.8	－	良	外）灰白色 内）浅黄橙色	③	外）胴：ハケが不明瞭 内）胴～底：ケズリ	
60-29	脚台	胴底～脚部	B3	SD37		－	(3.2)	(8.0)	－	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	
60-30	高坏	坏底～脚上半	A4	SD33･37		－	(8.8)	－	－	良	外）内）橙色	③	外）坏：ヨコミガキが不明瞭　脚：タテミガキ 内）坏：ヨコミガキ　脚：指押さえ	
60-31	壺	口縁～頸部	B5	SD42･43		(12.4)	(4.7)	－	2/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：ヨコナデ　頸：指押さえ後ナナメハケ 内）口～頸：ナデ　頸上半：ヨコハケ	
61-1	甕	口縁～頸部	A5	SD53	3区	(11.7)	(3.3)	－	3/12	良	外）黒色 内）褐灰色	③	外）口：擬回線４条か　頸：ヨコナデ 内）口：ヨコナデ　頸：ケズリ	
61-2	小型土器鉢	体～底部	A6	SD62		－	3.4	3.0	－	良	外）にぶい黄橙色 内）黄灰色	②	外）体～底：摩滅の為調整不明　体下部：指押さえ 内）調整不明	
61-3	蓋	つまみ～ 口縁部		SD74		7.4	3.2	－	3/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	
61-4	蓋	つまみ～ 口縁部		SD73		9.5	3.5	－	5/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	
61-5	蓋	つまみ～覆部		SD73		－	(4.6)	－	－	良	外）浅黄橙色 内）灰白色	③	外）内）調整不明	
61-6	器台	受部	B5	SD70		10.5	(2.4)	－	12/12	良	外）内）橙色	③	外）内）調整不明	
61-7	無頸壺	口縁～胴部		SD73		(11.4)	(7.3)	－	5/12	良	外）浅黄橙色 内）灰白色	①	外）内）調整不明	
62-1	甕	口縁～胴上半		SD81		(21.1)	(7.3)	－	4/12	良	外）内）灰白色	④	外）口：擬回線 10 条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口：ヨコナデ　連続指頭圧痕　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
62-2	甕	口縁～胴上半		SD81		(20.3)	(11.9)	－	4/12	良	外）内）灰白色	③	外）口：擬回線９条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口：ヨコナデ　連続指頭圧痕　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
62-3	甕	口縁～胴上半	A･B18	SD81	包含層	(16.2)	(8.4)	－	8/12	良	外）浅黄橙色 内）灰白色	③	外）口：擬回線 10 条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口：ヨコナデ　連続指頭圧痕　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
62-4	甕	口縁～胴上半		SD83		(15.0)	(5.5)	－	2/12	良	外）内）にぶい橙色	①	外）口：擬回線８条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口：ヨコナデ　連続指頭圧痕　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
62-5	甕	口縁～胴上半	A25	SD86		(16.0)	(5.9)	－	8/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線３条　頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
62-6	甕	口縁～胴上半	A25	SD86		(14.2)	(4.7)	－	2/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	③	外）ヨコナデが不明瞭　内）調整不明	
62-7	蓋	つまみ～ 口縁部		SD83		9.1	4.7	－	9/12	良	外）内）浅黄橙色	④	外）調整不明　内）脚：ケズリが不明瞭	
62-8	蓋	つまみ～覆部		SD81		－	4.8	－	－	良	外）内）灰白色	②	外）つまみ：工具によるナデ　覆：タテハケ 内）工具によるナデか	外）黒斑
62-9	高坏	脚部	A25	SD86		－	(13.0)	(15.0)	－	良	外）内）にぶい黄橙色	①	外）脚：タテミガキ 内）脚上半：しぼり痕　脚下半：ケズリ	
62-10	高坏	坏～脚部	A23	SD91		(14.1)	14.4	18.4	9/12	良	外）内）橙色	③	外）内）調整不明	脚）３孔
62-11	高坏	坏～脚部	A23	SD91		(24.4)	13.9	(14.6)	1/12	良	外）内）橙色	③	外）坏～脚：調整不明 内）坏：調整不明　脚上半：しぼり痕　脚下半：調整不明	
62-12	高坏	坏～脚上半	A23	SD91		(12.7)	(9.3)	－	4/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）摩滅の為調整不明	脚）１孔のみ残　孔数不明
62-13	壺	口縁～頸部	A24	SD87 SD88		(21.2)	(3.9)	－	4/12	良	外）黄橙色 内）浅黄橙色	④	外）内）摩滅の為調整不明	
62-14	壺	胴下部～底部	B23	SD90		－	(4.0)	4.8	－	良	外）灰黄褐色 内）浅黄橙色	③	外）胴：ケズリ後タテハケ　指押さえ　底：摩滅の為調整不明 内）胴～底：摩滅の為タテハケが不明瞭	
62-15	甕	口縁～胴上半	B23	SD90		(15.2)	(5.3)	－	3/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ　内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	
62-16	甕	口縁～胴上半	B23	SD90		(15.0)	(10.1)	－	2/12	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線条数不明　頸：ヨコナデ　胴：多方向のハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
62-17	鉢	口縁～体部	A23	SD91		(10.0)	(8.0)	－	9/12	良	外）内）橙色	③④	外）内）摩滅の為調整不明	外）黒斑
62-18	器台	受～脚部	A23	SD91		8.9	9.5	10.8	12/12	良	外）内）橙色	③	外）受：摩滅の為ヨコミガキが不明瞭　脚：摩滅の為タテミガキが不明瞭 内）受～脚：摩滅の為調整不明	脚）３孔
62-19	小型器台	受～脚部	A23	SD91		9.3	9.9	11.9	12/12	良	外）内）橙色	③	外）内）摩滅の為調整不明	脚）３孔
62-20	小型器台	受～脚上半	A23	SD91		8.8	(3.8)	－	9/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）摩滅の為調整不明	脚）１孔のみ残　孔数不明
62-21	小型器台	受～脚部	A23	SD91		(22.8)	14.7	(14.2)	8/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）内）摩滅の為調整不明	脚）３孔

図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量 (cm) 口径	器高	底径	口縁残存 (/12)	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
63-1	甕	口縁～底部	A14	NR1		(27.0)	34.0	6.4	3/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口端：ヨコナデ　口：ヨコナデ後櫛刺突列点　胴：ナナメハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）煤付着 内）底：微かな焦痕か
63-2	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		26.0	(18.5)	–	10/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線７条　頸：ナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	外）一部煤付着
63-3	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(17.0)	(14.9)	–	2/12	良	外）内）灰白色	③ ④	外）口：擬回線６条　頸：ヨコナデ　胴上半：ヘラ刺突列点　胴：タテハケ 内）口：ナデ　胴：ケズリ	外）胴：煤付着
63-4	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(15.6)	(10.3)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線４条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口～胴：煤付着
63-5	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(14.4)	(6.0)	–	3/12	良	外）黒色 内）黄褐色	③	外）口：擬回線４条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
63-6	甕	口縁～胴上半	A13	NR1		(15.4)	(5.1)	–	3/12	良	外）内）にぶい褐色	③	外）口：擬回線３条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口：一部煤付着
63-7	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(16.2)	(4.6)	–	2/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線８条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口～胴：一部煤付着
63-8	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(16.2)	(6.1)	–	2/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線４～５条　頸：ヨコナデ　胴：太いナナメハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
63-9	甕	口縁～胴上半	B14	NR1		(15.8)	(4.6)	–	3/12	良	外）黒色 内）灰黄色	③	外）口：擬回線５条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
63-10	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(16.0)	(4.3)	–	3/12	良	外）黒色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線６条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
63-11	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(13.4)	(4.3)	–	2/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線４条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口～胴：一部煤付着
63-12	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(19.7)	(4.6)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線３～４条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケが不明瞭 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口～胴：一部煤付着
63-13	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(16.5)	(5.0)	–	2/12	良	外）　内）明黄褐色	③	外）口：擬回線６～７条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口縁一部：煤付着
63-14	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(19.4)	(8.4)	–	2/12	良	外）橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線７条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口：指頭圧痕　口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
64-1	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(31.0)	(8.2)	–	2/12	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線５条　頸：ヨコナデ　胴：多方向のハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
64-2	甕	口縁～胴上半	B12	NR1		(20.0)	(7.3)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰黄橙色	②	外）口：擬回線11条　頸：ナデ　胴：ヨコハケが不明瞭 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外内）口：煤付着
64-3	甕	口縁～胴上半		NR1		φ20	(5.8)	–	1/12	良	外）にぶい褐色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線10条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口：調整不明　連続指頭圧痕　頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
64-4	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(18.6)	(4.3)	–	3/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③	外）口：擬回線５条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
64-5	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(16.6)	(9.8)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線８条　頸：ナデ　胴：タテハケ　ヨコハケ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	外）胴：煤付着
64-6	甕	口縁～胴上半		NR1		(22.2)	(8.0)	–	2/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線８条か　頸：ヨコナデ　胴：ハケが不明瞭 内）口～頸：ナデ　口：指頭圧痕　胴：ケズリ	
64-7	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(19.4)	(11.0)	–	2/12	良	外）内）明黄褐色	③	外）口：擬回線９条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ後ナデ　胴：ケズリ	外）被熱
64-8	甕	口縁～頸部		NR1		(20.0)	(2.5)	–	1/12以下	良	外）浅黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線９条　頸～胴：調整不明 内）口～頸：調整不明	外）口：煤付着
64-9	甕	口縁～胴上半	B12	NR1		(18.0)	(8.3)	–	3/12	良	外）内）にぶい褐色	③ ④	外）口：擬回線８条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
64-10	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(14.6)	(6.7)	–	3/12	良	外）灰白色 内）灰白色	③	外）口：擬回線７条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）口：煤付着
64-11	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(14.4)	(6.2)	–	3/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③ ④	外）口：擬回線５～６条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ヨコナデ　頸：指押さえ　胴：ケズリ	
64-12	甕	口縁～胴上半		NR1		(16.6)	(6.7)	–	1/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線６条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：調整不明　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
64-13	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(17.4)	(6.7)	–	2/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③	外）口：擬回線８条　頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	外）煤付着
64-14	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(15.4)	(5.7)	–	3/12	良	外）灰褐色 内）にぶい褐色	②	外）口：擬回線８条　頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	外）煤付着
64-15	甕	口縁～胴上半		NR1		(20.8)	(6.2)	–	2/12	良	外）にぶい橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線10条　頸：ヨコナデ　胴：調整不明 内）口～頸：調整不明　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
64-16	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(20.0)	(6.4)	–	6/12	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	②	外）口：擬回線10条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ナナメハケ後上半をヨコナデ　胴：ケズリ	外）口：煤付着
64-17	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(17.8)	(6.4)	–	9/12	良	外）内）浅黄橙色	②	外）口：擬回線９～10条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：連続指頭圧痕　口～胴：調整不明	
64-18	甕	口縁～頸部		NR1		(19.6)	(4.4)	–	2/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線10条　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕	外）一部煤付着
64-19	甕	胴～底部	A14	NR1		–	(7.3)	(1.6)	–	良	外）浅黄橙色 内）灰黄色	③ ④	外）胴：タテハケ　底：ナデ 内）胴～底：ケズリ	
65-1	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(20.4)	(8.1)	–	3/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線７条　頸：ナデ　胴：タテハケ 内）口：ナデ　頸：ケズリ後ナデ　胴：ケズリ	外）口・胴：黒斑 外）一部煤付着
65-2	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(19.0)	(6.5)	–	4/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線13条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
65-3	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(18.0)	(4.9)	–	2/12	良	外）灰白色 内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線９条　頸：ナデ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
65-4	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(15.8)	(6.3)	–	2/12	良	外）内）浅黄色	③	外）口：擬回線９条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ナデ　頸：ハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
65-5	甕	口縁～頸部		NR1		(15.0)	(3.3)	–	1/12	良	外）灰白色 内）淡黄色	③	外）口：擬回線７条か　頸：ナデ 内）口～頸：ナデ	
65-6	甕	口縁～胴上半		NR1		(16.0)	(5.0)	–	1/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線６条　頸：ヨコナデ　胴：摩滅の為調整不明 内）口～頸：摩滅の為調整不明　胴：ケズリ	外）口：煤付着
65-7	甕	口縁～胴部上半	A14	NR1		(15.2)	(7.7)	–	3/12	良	外）内）浅黄色	③	外）口：擬回線６～７条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ナデ　頸：ハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
65-8	甕	口縁～胴上半		NR1		(18.2)	(5.8)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）内）摩滅の為調整不明	
65-9	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(16.0)	(7.9)	–	5/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③	外）口：ナデ　頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
65-10	甕	口縁～胴上半		NR1		(18.0)	(7.0)	–	3/12	良	外）内）浅黄色	③	外）口：擬回線６条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）一部煤付着
65-11	甕	口縁～胴上半		NR1		(19.0)	(4.9)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線９条　頸：調整不明　胴：タテハケ 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
65-12	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(16.8)	(8.6)	–	3/12	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	③	外）口：擬回線９条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ナデ　連続指頭圧痕　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）一部煤付着
65-13	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(17.4)	(5.6)	–	3/12	良	外）明褐灰色 内）にぶい橙色	③	外）口：擬回線11条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口：ナデ　連続する指頭圧痕か　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
65-14	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(14.6)	(5.0)	–	7/12	良	外）内）にぶい黄橙色	①	外）口：擬回線10条　頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケ 内）口：ヨコナデ　頸：工具痕後ナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
65-15	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(15.6)	(3.8)	–	2/12	良	外）にぶい橙色 内）橙色	③	外）口：擬回線９条　頸：ヨコナデ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ後ナデ　胴：ケズリ	外）一部煤付着
65-16	甕	口縁～胴上半	A13	NR1		(17.2)	(6.3)	–	1/12	良	外）橙色 内）にぶい橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口：一部煤付着
65-17	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(15.6)	(4.1)	–	1/12	良	外）内）浅黄色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口～胴：一部煤付着
65-18	甕	口縁～頸部	A14	NR1		(17.4)	(4.6)	–	2/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）口～頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ	
65-19	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(15.4)	(4.6)	–	4/12	良	外）黒色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬回線３～４条か　頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ後指押さえ　胴：ケズリ	外）煤付着
65-20	甕	口縁部		NR1		(16.0)	(3.2)	–	1/12	良	外）内）灰白色	③	外）内）調整不明	
65-21	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(14.6)	(3.7)	–	1/12	良	外）灰黄褐色 内）にぶい黄橙色	③	外）口～胴：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
65-22	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(16.2)	(3.5)	–	1/12	良	外）黒褐色 内）灰黄褐色	③	外）口～頸：剥離の為調整不明　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）煤付着
65-23	甕	口縁～頸部	A14	NR1		(16.0)	(3.9)	–	1/12	良	外）褐灰色 内）黒褐色	③	外）内）口～頸：ヨコナデ	内）煤付着か
65-24	甕	口縁～頸部	A14	NR1		–	(3.0)	–	1/12以下	良	外）にぶい黄橙色 内）明黄褐色	③	外）口：ヨコナデ後ヘラ刺突列点　頸：ヨコハケ 内）口：ヨコナデ　頸：指ナデ後ナデ	
65-25	甕	口縁～頸部	A14	NR1		–	–	–	–	良	外）橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：ヨコナデ後ヘラ刺突列点　頸：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ	
65-26	甕	口縁～頸部	A14	NR1		–	(3.5)	–	1/12以下	良	外）にぶい黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：ヨコナデ後ヘラ刺突列点　頸：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ	
65-27	壺	胴部	A13	NR1		–	–	–	–	良	外）内）にぶい橙色	③	外）胴：ハケ後ナデ　ナデ後櫛刺突列点を羽状に配す　内）胴：ナデ	
65-28	甕	胴部	A13	NR1		–	–	–	–	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）胴：タテハケ後ヘラ刺突列点　ヨコハケ　内）胴：ケズリ	外）煤付着
65-29	甕	胴部	A14	NR1		–	–	–	–	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）胴：ハケ後櫛刺突列点　内）胴：ナデ	外）煤付着
66-1	甕	口縁～底部	A14	NR1		(15.4)	(20.9)	–	5/12	良	外）褐灰色 内）にぶい黄橙色	③	外）口端：ナデ　口～頸：タタキの様な粗いハケ後ナデ　胴：タタキ 内）口～胴上半：タタキ後ナデ　胴下半：指ナデ	外）煤厚めに付着

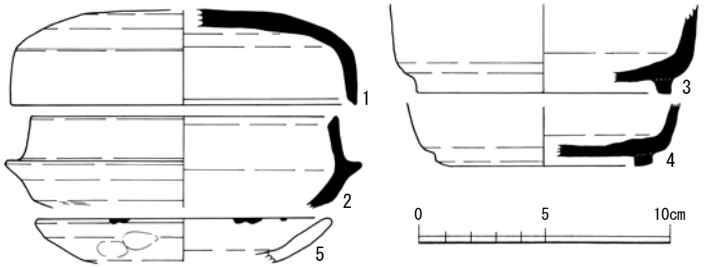
図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量（cm）			口縁残存（/12）	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
						口径	器高	底径						
66-2	甕	口縁～胴上半	B12	NR1		(17.2)	(16.6)	–	5/12	良	外）褐灰色 内）灰黄褐色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：タテハケ　タテハケ後ヨコハケ 内）口～頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	外）煤付着
66-3	甕	口縁～底部	A20 A21	SD93･94 NR2		(14.2)	(23.2)	(6.0)	6/12	良	外）内）にぶい褐色	②	外）口～頸：ナデ　胴～底：多方向のハケ 内）口端：ナデ　口～頸：ナナメハケ　胴：ケズリ後指押さえ	
66-4	甕	口縁～頸部	A14	NR1		(18.6)	(2.6)	–	2/12	良	外）浅黄橙色 内）黄橙色	②	外）口端：ヨコナデ　頸：ナナメハケ後ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ	
66-5	甕	口縁部	A14	NR1		(14.8)	2.4	–	2/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）口～頸：ヨコナデ	
66-6	甕	口縁～頸部		NR1		(13.8)	(2.5)	–	1/12	良	外）内）灰白色	③	外）内）ナデ	
66-7	甕	口縁～頸部	A14	NR1		(11.8)	(2.1)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口端：ナデ　口～頸：ヨコナデ　内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	
66-8	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(12.0)	(3.4)	–	2/12	良	外）内）褐灰色	④	外）口端：ナデ　口：指押さえ　頸：タテハケ後指押さえ　胴：タタキ 内）口：指押さえ　頸：ヨコハケ後指押さえ　胴：板ナデか	外）口：煤付着
66-9	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(17.8)	(5.1)	–	2/12	良	外）黒色 内）にぶい黄橙色	③	外）口端：ヨコナデ　口～頸：タタキ後ヨコナデ　胴：タタキ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ヨコハケ	外）煤付着
66-10	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(17.0)	(11.7)	–	3/12	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	③ ④	外）口～頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：指押さえ　ケズリ	
66-11	甕	口縁～胴上半	A14	NR1		(16.8)	(6.6)	–	2/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）頸：ナデ　口・胴：調整不明 内）口端：ナデ　口～頸：調整不明　胴：指押さえ	外）口：煤付着
66-12	甕	口縁部	A12	NR1		(16.2)	(3.1)	–	2/12	良	外）灰黄色 内）黄灰色	②	外）ヨコナデ 内）ヨコナデ	外）煤付着
66-13	甕	口縁～底部	A14	NR1		13.2	15.1	2.1	11/12	良	外）明黄褐色 内）にぶい黄橙色	③ ④	外）口～頸：ヨコナデ　胴：タテハケ後丁寧なナデ 内）口～頸：ヨコハケ後ヨコナデ　胴上半：ケズリ　胴下半：ナデ	外）被熱
67-1	壺	口縁～頸部	A12	NR1		(16.0)	(7.3)	–	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）口：ヨコナデ　頸：ナナメハケ	
67-2	壺	口縁～胴上半	A12 B12	NR1		–	(9.5)	–	–	良	外）内）にぶい黄橙色	③ ④	外）口：ヨコナデ　擬凹線９条以上　頸～胴：ヨコナデ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：調整不明	
67-3	壺	口縁～頸部	B12	NR1		(16.2)	(4.5)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：細いヨコミガキ　頸：ヨコナデ　ハケ後ヨコミガキか 内）口～頸：調整不明	
67-4	壺	口縁～頸部	A12	NR1		–	(5.5)	–	–	良	外）内）橙色	③	外）口：ヨコナデ　頸：タテハケ後ナデ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ	
67-5	壺	口縁～胴上半	A14	NR1		(13.8)	(5.9)	–	4/12	良	外）浅黄色 内）灰白色	③	外）口：擬凹線８条か　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ後ナデ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
67-6	壺	口縁～胴上半	A14	NR1		(11.0)	(5.9)	–	4/12	良	外）内）橙色	③ ④	外）口：ヨコナデ　頸～胴：多方向のミガキ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	外）口：煤付着
67-7	壺	口縁～胴上半	A14	NR1		(12.8)	(7.3)	–	4/12	良	外）橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：ハケ後沈線２条かの後にヨコナデ　頸：ヨコナデ 胴：タテハケ　ヨコハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ後ナデ　胴：ケズリ	
67-8	壺	口縁～胴上半	A13	NR1		(12.0)	(7.9)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口端：ナデ　口～胴：ナナメハケ　内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	
67-9	壺	口縁～頸部	A14	NR1		(12.2)	(5.1)	–	5/12	良	外）内）浅黄橙色	①	外）口～頸：ヨコナデ　胴：ハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ後ナデ	
67-10	壺	口縁～頸部	A14	NR1		(14.4)	(3.8)	–	1/12	良	外）灰白色 内）褐灰色	③	外）口～頸：ヨコナデ 内）調整不明	
67-11	壺	口縁～胴上半	A14	NR1		(9.4)	(3.6)	–	3/12	良	外）橙色 内）にぶい橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口～頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
67-12	壺	口縁～胴上半	A14	NR1		(13.4)	(4.8)	–	4/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口端：ヨコナデ　口～頸：タテハケ　胴：調整不明 内）口～頸：ヨコナデ　口：弱い連続指頭圧痕　胴：調整不明	
67-13	壺	口縁～頸部	A14	NR1		(13.0)	(5.4)	–	1/12以下	良	外）黄灰色 内）橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　胴：ハケ後ナデ 内）口：ヨコミガキ　頸：ヨコハケ後ヨコナデ　胴：ナデ	
67-14	壺	口縁部	A14	NR1		(13.4)	(5.7)	–	2/12	良	外）内）灰白色	③	外）口端：沈線３条　口：タテミガキ 内）口端：ナデ　口：タテミガキ	
67-15	壺	口縁部	A14	NR1		(14.4)	(6.5)	–	2/12	良	外）内）橙色	③	外）口：ヨコナデ 内）口端：ヨコナデ　口：ヨコハケ	
67-16	壺	口縁～頸部	A14	NR1		–	(6.9)	–	–	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬凹線３条か　頸～胴：タテハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ナデ　胴：ケズリ	
67-17	壺	胴部	A14	NR1		–	(13.8)	–	–	良	外）にぶい橙色 内）明褐灰色	③	外）胴：ハケ後ミガキ 内）胴：タテハケ　ヨコハケ	
67-18	壺	頸～胴上半	A14	NR1		–	–	–	–	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）胴：タテハケ後ミガキ 内）胴：調整不明	
67-19	壺	頸～胴部	B12	NR1		–	(18.0)	–	–	良	外）にぶい黄橙色 内）灰黄褐色	③	外）頸：ナナメハケ　胴：ヨコハケ 内）頸：ヨコハケ　胴上半：指押さえ　胴：多方向のハケ	外）煤付着
67-20	壺	略完形	A14	NR1		(11.0)	21.7	2.2	7/12	良	外）内）橙色	③	外）口端：ナデ　口：タテミガキ後指押さえ　頸：ヨコミガキ 胴：タテミガキ　底：ナデ 内）口上半：ナデ　口下半：タテミガキ　胴：ナナメハケ　底：指ナデ	
68-1	壺	胴部	B12	NR1		–	–	–	–	良	外）褐灰色 内）橙色	③	外）胴：櫛描直線文　櫛刺突列点文　ミガキ 内）胴：ハケ後指ナデ	
68-2	短頸壺	口縁～胴部	A14	NR1		(9.4)	(7.6)	–	1/12以下	良	外）内）橙色	③	外）内）口～胴：ヨコミガキ	
68-3	壺	口縁部	A14	NR1		–	(4.3)	–	1/12	良	外）にぶい黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口：沈線２条　頸：ヨコハケ　タテハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ	
68-4	壺	頸～胴上半	A14	NR1		–	(8.0)	–	–	良	外）黒色 内）にぶい黄橙色	③	外）頸：ヨコナデ　貼付け突帯にキザミ　胴上半：櫛描直線文 11 条 ３段の間に大小 180°に向い合せた櫛描扇状文を配す　胴下部：ミガキ 内）頸：ヨコミガキ　胴上半：指押さえ後 胴下部：指押さえ後ヨコハケ	
68-5	壺	胴部	A14	NR1		—	–	–	–	良	外）褐灰色 内）明赤褐色	③	外）胴：櫛描直線文５条と櫛描直線文３条の間に櫛描波状文 内）胴：調整不明	
68-6	壺	胴部	A14	NR1		–	(7.3)	–	–	良	外）内）明褐色	③	外）胴：調整不明　胴下半：沈線２条の上に円形浮文２個貼付け 内）胴上半：タテハケ　胴下半：調整不明	円形浮文個数不明
68-7	壺	胴部	A14	NR1		–	–	–	–	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	③	外）胴：櫛描直線文 17 条と９条以上 内）胴：ナデ	
68-8	壺	頸～胴上半	A14	NR1		–	–	–	–	良	外）にぶい橙色 内）灰白色	③	外）頸：貼付け突帯にヘラ刺突列点　突帯上下：ナデ　胴：タテハケ 内）胴：ナデ　ハケ	
68-9	壺	胴部	B1･2		２層	–	–	–	–	良	外）にぶい黄橙色 内）黒色	③	外）胴：調整不明 内）胴：ハケ後指押さえ	胴）葉の様な線刻
68-10	壺	胴部	B4		２層	–	–	–	–	良	外）内）灰白色	③	外）胴：ヘラ刺突列点文の下に櫛描直線文８条　ヘラ刺突列点文の下に 櫛描直線文６条以上 内）胴：ハケ	
68-11	壺	胴部	A13	NR1		–	–	–	–	良	外）にぶい橙色 内）にぶい黄橙色	③ ④	外）胴：櫛描直線文と櫛描直線文８条の間に櫛描波状文８条 ハケ後部分的に櫛描波状文３条 内）胴：ケズリ	
68-12	壺	頸～胴上半	A14	NR1		–	(2.5)	–	–	良	外）内）明赤褐色	①	外）頸：ヨコナデ　胴：ヨコミガキ　内）頸：ヨコナデ　胴：ケズリ	
68-13	壺	口縁下半～底部	A14	NR1		–	(8.3)	2.1	–	良	外）内）淡黄色	③	外）口：ヨコミガキ　頸：ナデ　胴上半：ハケ後ミガキ　胴下半：ケズリ 内）口～頸：ヨコミガキ　胴：ケズリ	
68-14	壺	底部	A14	NR1		–	(3.2)	(4.4)	–	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）内）摩滅の為調整不明	
68-15	壺	底部		NR1		–	(2.3)	(3.2)	–	良	外）にぶい橙色 内）灰黄褐色	③	外）内）調整不明	
68-16	壺	底部		NR1		–	(4.8)	(4.4)	–	良	外）にぶい黄橙色 内）灰白色	③	外）胴：ハケ内）胴～底：ケズリ	
68-17	手焙型土器	覆部	A14	NR1		–	–	–	–	良	外）内）浅黄橙色	③	外）内）覆：ヨコナデ	
68-18	壺	胴部	A14	NR1		–	–	–	–	良	外）にぶい黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）胴：櫛描直線文４条の下にヘラ刺突列点文　ハケが不明瞭 内）胴：ナデ	
68-19	手焙型土器	鉢部	A12	NR1		–	–	–	–	良	外）にぶい黄橙色 内）灰黄褐色	① ③	外）頸：ヨコナデ　体：ハケ 内）頸～体：ヨコナデ	
69-1	鉢	口縁～体上半	A14	NR1		(15.0)	(10.1)	–	3/12	良	外）明褐灰色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線７条　頸：ヨコナデ　体：タテハケ 内）口～頸：ナデ　体：ケズリ	
69-2	鉢	口縁～体上半	A14	NR1		(13.8)	(10.0)	–	3/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：擬凹線７条　頸：ヨコナデ　体：多方向のハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　体：ケズリ	
69-3	鉢	口縁～体上半	B12	NR1		(15.0)	(11.9)	–	1/12	良	外）灰黄色 内）灰白色	③ ④	外）口～頸：ヨコナデ　体：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　体：ケズリ	
69-4	鉢	口縁～体上半	A14	NR1		(16.0)	(8.3)	–	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　体：ヨコハケ　ナナメハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　体：ケズリ	外）煤付着
69-5	台付鉢	口縁～体部	A14	NR1		(15.7)	(13.0)	–	1/12	良	外）浅黄橙色 内）赤橙色	②	外）内）口～体：ヨコミガキ	外）赤彩 内）口～頸：赤彩
69-6	鉢	口縁～体部	A14	NR1		(15.0)	(7.2)	–	3/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：ヨコミガキ　頸：ナデ　体上半：ハケ後ミガキ　体下半：ケズリ 内）口～頸：ヨコミガキ　体：ケズリ	
69-7	鉢	口縁～体上半	A14	NR1		(21.0)	(5.8)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：ミガキ後擬凹線８条　頸：ナデ　体：ミガキ 内）口～頸：ヨコミガキ　体：ケズリ後ミガキ	
69-8	鉢	口縁～体部	A14	NR1		(21.4)	(4.9)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）口：擬凹線３条　頸：ヨコナデ　体：ナナメハケ後ヨコミガキ 内）口～体：ヨコミガキ	
69-9	鉢	口縁～体部	A14	NR1		(17.6)	(6.9)	–	3/12	良	外）内）橙色	③	外）内）口～体：ヨコミガキ	
69-10	台付鉢	口縁～体部	A14	NR1		16.2	(10.0)	–	10/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線 11 ～ 12 条　頸～体下部：ヨコミガキ 内）口～体底：ヨコミガキ	
69-11	鉢	口縁～体部	A13	NR1		–	(6.0)	–	–	良	外）内）灰白色	③	外）口～頸：ヨコミガキ　体：ナナメミガキ 内）口～体上半：ヨコミガキ　体下半：タテミガキ	外）黒斑

図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量（cm）			口縁残存（/12）	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
						口径	器高	底径						
69-12	有孔鉢	口縁～底部	A14	NR1		14.6	9.3	1.9	10/12	良	外）灰白色 内）浅黄橙色	③	外）口：つまみナデ　体：ナナメハケ 内）体：ナナメハケ	
69-13	有孔鉢	体～底部	A14	NR1		－	(9.4)	1.5	－	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）体～底：タテハケ　内）体～底：ケズリ	
69-14	鉢	口縁～体上半	A14	NR1		(10.0)	(7.1)	－	1/12	良	外）内）明褐灰色	③	外）口～頸：ヨコナデ　体：摩滅の為タテハケが不明瞭 内）口～頸：ヨコナデ　体：ケズリ	
69-15	鉢	頸～底部	A14	NR1		－	(11.8)	2.4	－	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）頸：櫛描直線文２条　体上半：ナナメハケ　肩・体張出：沈線２条ずつ 体下半：タテハケ 内）頸：ヨコナデ　体上半：指ナデ　体下半：工具によるナデ	
69-16	鉢	口縁～体上半	A14	NR1		(12.0)	(8.0)	－	2/12	良	外）浅黄橙色 内）灰白色	③	外）口：擬凹線７～８条　頸：ヨコナデ　体：タテハケ　ヨコハケ 内）口～頸：ヨコナデ　体：ケズリ	外）煤付着
69-17	鉢	口縁～体上半	A14	NR1		(14.4)	(5.6)	－	1/12	良	外）浅黄橙色 内）にぶい橙色	③	外）口～頸：ヨコナデ　体：タテハケ 内）口：ヨコナデ　頸：ナナメミガキ　体：摩滅の為ナデが不明瞭	外）一部煤付着
69-18	鉢	口縁部	A14	NR1		(15.0)	(2.0)	－	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	①	外）口：ヨコナデ　沈線２条 内）口：ヨコナデ	
69-19	鉢	口縁～体部	A14	NR1		(12.0)	(3.4)	－	1/12以下	良	外）灰白色 内）明赤褐色	①	外）口～体：ナデ　口端：沈線１条 内）口～体：ナデ	外）赤彩
69-20	鉢	口縁～体部	A14	NR1		－	(5.1)	－	1/12以下	良	外）内）明赤褐色	③ ④	外）口端：ヨコナデ　体：櫛描直線文６～７条下に波状文５条を２段 体下部：ミガキか 内）口：指押さえ　体：ナデ	
69-21	鉢	口縁～底部	A14	NR1		8.0	4.2	2.2	9/12	良	外）内）浅黄色	③	外）口～体上半：ヨコナデ　体下半～底：ヨコミガキ　タテミガキ 内）口～底：ヨコミガキ	
69-22	台付鉢	頸～脚上半	A14	NR1		－	(8.5)	－	－	良	外）内）にぶい黄橙色	④	外）体上半：ヨコハケか　体下半～脚：工具によるナデか 内）頸～底：ナデ	
69-23	鉢	口縁～体部	A14	NR1		(11.0)	(3.1)	－	1/12以下	良	外）赤黄橙色 内）橙色	①	外）内）口：摩滅の為調整不明　体：ヨコミガキ	
69-24	鉢	頸～底部	A14	NR1		－	(3.9)	1.3	－	良	外）内）浅黄橙色	③	外）体：ヨコミガキ　内）体：ケズリ	
69-25	脚台	脚部	A14	NR1		－	(3.3)	9.2	－	良	外）灰白色 内）橙色	③	外）脚：タテミガキ　脚端：沈線１条 内）脚：ナデ	外）赤彩
69-26	脚台	体底～脚部	A14	NR1		－	(5.7)	9.5	12/12	良	外）内）にぶい橙色	②	外）坏～脚：タテミガキ　脚裾：タテハケ後細いヨコミガキ 内）坏底：ミガキ　充塡部：刺突痕２本　脚：ナデ後ハケ後ケズリ	外）黒斑か
69-27	台付壺	胴底～脚部		NR1		－	(4.8)	12.2	－	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外　内）ナデ	
69-28	有孔鉢	体～底部	A14	NR1		－	(6.2)	1.6	－	良	外）内）浅黄橙色	③	外）体：タテハケ　内）体：ケズリ	
69-29	把手付鉢	口縁～底部	A14	NR1		8.3	7.7	1.7	12/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口～底：ミガキ 内）口：ミガキ　ケズリ　指押さえ　体：摩滅の為ミガキが不明瞭	外）底：煤付着
69-30	台付壺	胴底～脚部	A14	NR1		－	(3.2)	(11.0)	－	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）脚：ハケ　脚端：ナデ　内）胴底：ケズリ　脚：ヨコハケ　ナデ	
69-31	台付壺	胴底～脚部	A14	NR1		－	(3.7)	(11.8)	－	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）脚：タテハケ　脚端：ヨコナデ　内）胴底：ケズリ　脚：ナデ	
70-1	高坏	坏部	A12	NR1		(19.2)	(6.0)	－	2/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口縁帯：ヘラ描波状文８条　下部波状４条の上に竹管文付小型円形 浮文貼付け　坏：タテミガキ 内）坏：タテミガキ	
70-2	高坏	坏～脚部	B14	NR1		(18.8)	(14.3)	－	7/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外　内）坏：ヨコナデ　脚：調整不明	
70-3	高坏	口縁部	A14	NR1		(25.0)	(3.0)	－	1/12	良	外）内）橙色	③	外）口端：擬凹線２条　坏：ヨコミガキ　内）坏：ヨコミガキ	
70-4	高坏	脚部	A14	NR1		－	(8.7)	－	－	良	外）内）灰白色	①	外）坏～脚：タテハケ後ミガキ　内）調整不明	脚）４孔
70-5	小型器台	受部	A14	NR1		(13.0)	(1.6)	－	1/12	良	外）内）明黄褐色	②	外　内）ナデ	
70-6	高坏	坏部	A14	NR1		－	(3.3)	－	－	良	外）内）にぶい橙色	③	外）坏：ハケ後ミガキ　内）坏：ミガキ	
70-7	器台	受～脚上半		NR1		(26.2)	(11.6)	－	1/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）受：ヨコミガキ　脚：タテミガキ 内）受：多方向ミガキ　脚：しぼり痕	
70-8	装飾器台	口縁～ たちあがり	A14 B14	NR1		－	(7.1)	－	1/12以下	良	外）内）橙色	③	外）口縁帯上半：ヨコミガキ　口縁帯下半：擬凹線11条　たちあがり：ミガキ 内）口～たちあがり：ヨコミガキ	たちあがり）水滴形透かし天地逆交互に孔数不明
70-9	高坏	口縁～坏部	A14	NR1		－	(2.5)	－	1/12以下	良	外）内）灰白色	③	外）口：擬凹線３条　口縁帯端：回っていないキザミ　口～坏：ミガキか 内）口～坏：ミガキか	
70-10	器台	受下部～脚部	A14	NR1		－	(14.9)	(15.4)	－	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）受下部：ヨコミガキ　脚上半：タテミガキ　有段～脚裾：ヨコミガキ 内）受下部：ヨコミガキ　脚上半：ケズリ　しぼり痕　有段：ナデ 脚裾：ヨコナデ	脚）４孔
70-11	高坏	坏～脚部	A14	NR1		－	(9.1)	－	－	良	外）内）にぶい黄橙色	①	外）坏：ミガキ　脚：タテミガキ　内）坏底：ミガキ　脚：しぼり痕	
70-12	脚台	脚部		NR1		－	(4.3)	(15.2)	－	良	外）内）浅黄橙色	②	外）摩滅の為調整不明　内）脚：ヨコハケ	
70-13	高坏	脚部	A13	NR1		－	(9.3)	－	－	良	外）内）灰黄色	②	外）脚：タテミガキ　内）脚上半：しぼり痕　脚下半：ヨコハケ	脚）３孔
70-14	器台	受～脚部	A14	NR1		－	(15.7)	－	－	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）受～脚：タテミガキ 内）受：タテミガキ　脚上半：ヨコハケ　ケズリ 脚下半：ナナメハケ　ヨコハケ	
70-15	器台	脚部	B14	NR1		－	－	－	1/12以下	良	外）内）黄橙色	③	外）脚：沈線８条　内）脚：ヨコナデ	
70-16	器台	受部～脚部	A14	NR1		－	(15.7)	16.9	－	良	外）にぶい黄橙色 内）橙色	②	外）受：ヨコミガキ　脚上部：タテミガキ　有段：ヘラ描沈線５条 脚裾：ナナメミガキ 内）受：ヨコミガキ　脚上半：しぼり痕　脚下半：ヨコナデ	脚）３孔
70-17	器台	脚部	A12	NR1		－	－	－	－	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	③	外）脚有段：沈線１条　Ｓ字スタンプ文　ミガキか 内）脚：ヨコナデ	
70-18	高坏	坏部	A14	NR1		－	－	－	－	良	外）橙色 内）にぶい橙色	③	外）坏：ヨコナデ　貼付け突帯に櫛刺突列点　坏底：ハケ後ナデ 内）坏：ケズリ	
70-19	高坏	脚部	A13	NR1		－	(15.7)	14.9	11/12	良	外）浅黄橙色 内）灰白色	①	外）脚：タテミガキ　脚端：ナデ 内）坏底：ミガキ　脚上半：しぼり痕　脚下半：ヨコハケ　脚端：ヨコナデ	脚）３孔
70-20	高坏	脚部	A14	NR1		－	(13.8)	(16.0)	－	良	外）淡黄色 内）脚下半：ケズリ	①	外）脚：タテミガキ 内）脚下半：ケズリ　脚裾：ナナメハケ	脚）４孔
70-21	蓋	つまみ～ 口縁部	B12	NR1		(13.0)	5.4	－	4/12	良	外）にぶい橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）つまみ：ヨコナデ　覆：タテミガキ　覆下端：ヨコミガキ 内）覆上半：ケズリ　覆下半：ヨコミガキ	
70-22	高坏	脚部	A14	NR1		－	(8.9)	13.2	－	良	外）浅黄橙色 内）にぶい黄橙色	①	外）脚：タテミガキ　脚裾：タテハケ後ミガキ 内）坏底：ミガキ　脚上半：ケズリ　脚下半：ヨコナデ	脚）３孔　雲母片含む
70-23	器台	脚部		NR1		－	(2.6)	(16.0)	－	良	外）浅黄橙色 内）浅黄橙色	②	外）ナデ 内）ナデ	脚）１孔のみ残　孔数不明
70-24	脚台	脚部	A12	NR1		－	(1.5)	φ 17	－	良	外）にぶい黄橙色 内）明赤褐色	②	外）脚裾：摩滅の為調整不明 内）脚裾：ヨコハケ	外）赤彩
70-25	器台	受部～脚部	A14	NR1		－	(12.7)	－	－	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）受：ヨコミガキ　脚：タテミガキ 内）受：ヨコミガキ　脚上半：ケズリ　しぼり痕	脚）４孔
70-26	器台	脚部	A14	NR1		－	(10.4)	14.0	－	良	外）内）浅黄橙色	②	外）脚上半：タテミガキ　有段～脚裾：ナナメミガキ 内）脚上半：しぼり痕　ケズリ　脚下半：ヨコナデ	脚）４孔
70-27	蓋	つまみ～覆部	A13	NR1		－	(5.3)	－	－	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）つまみ端：ナデ　指押さえ　つまみ：タテハケ　面取するようにタテ 方向のナデ　覆：ハケ後ミガキ 内）つまみ上半：ヨコハケ　つまみ下半：ナデ　覆：ナデ　ヨコハケ	雲母片含む
70-28	手捏ね土器 蓋	つまみ～ 口縁部	A14	NR1		(3.0)	2.6	－	10/12	良	外）内）橙色	①	外）つまみ～口：ナデ　指押さえ 内）つまみ・覆～口：ナデ	
70-29	器台	受下部～脚部	B14	NR1		－	(10.0)	13.2	－	良	外）赤橙色 内）にぶい橙色	①	外）受下部：ハケ　脚上半～脚裾：細いヨコミガキ 内）受下部：ミガキ　脚上半：しぼり痕　脚下半：ヨコナデ	
70-30	器台	脚部	A14	NR1		－	(4.3)	(17.0)	－	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）脚有段：沈線９条　脚裾：ヨコミガキ　内）脚：ヨコナデ	脚）１孔のみ残　孔数不明
71-1	甕	底部	A14	NR2		－	(2.0)	(5.0)	－	良	外）内）にぶい橙色	③	外）胴：タタキ　底：ナデ　内）底：放射状の工具痕	
71-2	甕	底部	A14	NR1		－	(2.9)	(4.0)	－	良	外）にぶい橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）胴：タタキ　底：ナデ 内）底：ハケ	
71-3	甕	底部	A14	NR1		－	(3.4)	(4.4)	－	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）胴：タタキ　底：ナデ　内）底：煤の為調整不明	内外）煤付着
71-4	甕	底部	A14	NR1		－	(2.1)	(4.0)	－	良	外）にぶい黄橙色 内）褐灰色	②	外）胴：タタキ　底：ナデ 内）底：ハケ	外）煤付着
71-5	甕	底部	A14	NR1		－	(2.3)	(4.8)	－	良	外）内）明赤褐色	③	外）胴：タタキ　底：ナデ　内）底：煤の為調整不明	内）煤付着
72-1	高坏	坏～脚部	A23	NR2		(16.6)	(13.8)	(11.8)	4/12	良	外）内）にぶい褐色	②	外）坏：ヨコナデ　脚：ナデ後タテミガキか 内）坏：ヨコナデ　脚：調整不明　脚裾：ナデ	外）坏・脚裾：被熱
72-2	台付甕	胴底～脚部	A23	NR2		－	(5.6)	9.1	－	良	外）にぶい橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）脚：工具によるナデ　脚裾：調整不明 内）脚：ケズリ後指押さえ	雲母片
72-3	手捏ね土器 鉢	略完形	A23	NR2		6.5	3.6	2.8	12/12	良	外）内）にぶい橙色	①	外）口～底：ハケ後指押さえ　指ナデ　輪積の痕が残る 内）口～底：雑な指ナデで輪積の痕が残る	
72-4	器台	脚部	A21	NR2		－	(10.3)	(13.2)	－	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）脚：タテミガキ　内）脚上半：しぼり痕　脚裾：ナデ	
72-5	小型壺	口縁～底部	B21 A20	SD93　NR2		(7.6)	8.8	4.7	3/12	良	外）内）橙色	③	外）口～頸：ナデ　胴上半：タテハケ　胴下半：ヨコハケ　底：ハケ 内）口～頸：ナデ　胴：ケズリ	
73-1	甕	口縁～胴上半	A5			(17.4)	(12.5)	－	3/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）口：ヨコナデ　頸：ナデ　胴：ナナメハケ 内）口：ナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
73-2	甕	胴下部～底部	A5･A7			－	(17.3)	3.9	－	良	外）にぶい橙色 内）にぶい黄橙色	③ ④	外）胴：タテハケ　底：指押さえ 内）胴～底：ケズリ	
73-3	壺	胴部	A4			－	－	－	－	良	外）内）褐灰色	③	外）胴：Ｓ字スタンプ文　内）胴：ケズリ	
73-4	甕	口縁～頸部	B25		包含層	(18.0)	(3.3)	－	2/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線３条　頸：ヨコナデ 内）口：ヨコナデ　頸：ヨコハケ　胴：ケズリ	
73-5	甕	口縁～胴上半	B1～6			(17.8)	(7.2)	－	2/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）口：擬凹線７条　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	

図版番号	器種	部位	地区	遺構	層位	法量（cm）			口縁残存（/12）	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
						口径	器高	底径						
73-7	甕	口縁～胴上半	A21		包含層	(16.0)	(8.6)	–	3/12	良	外）にぶい黄橙色 内）橙色	④	外）口：擬凹線８条か　頸：ヨコナデ　胴：タテハケ 内）口～頸：調整不明　胴：ケズリ	
73-8	甕	口縁～胴上半	A6			(18.2)	(7.2)	–	1/12	良	外）内）淡黄色	③	外）口：擬凹線８条　頸：ヨコナデ　胴：ナナメハケ 内）口～頸：ヨコナデ　口：連続指頭圧痕　胴：ケズリ	
73-9	蓋	つまみ～口縁部				(8.6)	(3.4)	–	2/12	良	外）内）にぶい橙色	③	外）内）調整不明	
73-10	蓋	つまみ～覆部	B4			–	(4.4)	–	–	良	外）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	
73-11	蓋	つまみ～覆部	A6		表土	–	(2.8)	–	–	良	外）内）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	
73-12	蓋	つまみ～覆部	A4		２層	–	(3.2)	–	–	良	外）内）灰白色	③ ④	外）つまみ：指押さえ　覆：調整不明 内）つまみ内：指押さえ　覆：調整不明	
73-13	蓋	つまみ～覆部	B4			–	(3.8)	–	–	良	外）内）浅黄橙色	①	外　内）調整不明	
73-14	蓋	つまみ～覆部	B1～6			–	(4.5)	–	–	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）つまみ：ヨコナデ　覆：タテミガキ 内）調整不明	
73-15	壺	口縁～頸部	A4			(16.0)	(5.9)	–	1/12以下	良	外）浅黄橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）口～頸：調整不明 内）口端：竹管文２個１対　口～頸：調整不明	
73-16	壺	口縁部	A18		包含層	(15.8)	(3.5)	–	2/12	良	外）内）浅黄橙色	①	外）口縁帯：刺突列点　口：タテミガキ 内）調整不明	
73-17	鉢	口縁～頸部	A･B6			(15.0)	(6.6)	–	1/12以下	良	外）内）橙色	①	外）内）調整不明	
73-18	鉢	口縁～体部	A15		包含層	(14.0)	(8.4)	–	3/12	良	外）内）浅黄橙色	③	外）調整不明 内）口～頸：ナデ　体：ケズリ	
73-19	高坏	坏部	A6			–	6.1	–	–	良	外）にぶい黄橙色 内）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	
73-20	高坏	充填部	B1･2		２層	–	–	–	–	良	外）内）にぶい黄橙色	①	外）内）調整不明	内）脚部側：２か所の刺突
73-21	壺	胴部	A･B10			–	–	–	–	良	外）内）にぶい橙色	③	外）櫛描直線文　櫛刺突列点文　櫛描波状文 内）調整不明	
73-22	鉢	口縁～体部	B5		遺構面	(20.0)	(5.8)	–	1/12以下	良	外）内）浅黄色	①	外）内）ミガキが不明瞭	
73-23	高坏	脚部	A4		２層	–	(8.5)	–	–	良	外）内）浅黄橙色	②	外）脚：ミガキ 内）脚：しぼり痕　脚裾：調整不明	脚）３孔
73-24	器台	口縁部	B4			–	(1.3)	–	1/12以下	良	外）褐灰色 内）にぶい黄橙色	①	外）口端：竹管文３個か　口：調整不明 内）口：調整不明	
73-25	装飾器台	受部	A6			–	(5.4)	–	–	良	外）内）浅黄橙色	②	外）たちあがり：ヨコミガキ　垂下帯：擬凹線９条か　脚：タテミガキ 内）受：ヨコミガキ　垂下帯：ヨコミガキ	水滴形透かし天地逆交互に 12 個以上
73-26	装飾器台	口縁部	A15		包含層	–	(2.9)	–	1/12以下	良	外）内）灰白色	①	外）口端：貼付け円形浮文３個か　口縁帯：不鮮明なＳ字スタンプ文２ないし３段 内）口：調整不明	外）Ｓ字スタンプは浮文の有る箇所は２段　無い箇所は３段
73-27	高坏	脚上半	B1～6			–	(4.4)	–	–	良	外）にぶい黄橙色 内）明黄褐色	③	外　内）摩滅の為調整不明	
73-28	容器型土器	体部～底部				–	(5.4)	大 9.6 小 7.0	–	良	外）浅黄橙色 内）にぶい黄橙色	③	外）指押さえ 内）指ナデ	
73-29	有孔鉢	体～底部	B4			–	(4.6)	1.8	–	良	外）灰色 内）にぶい橙色	③	外）体：調整不明 内）体ハケが不明瞭　底：輪積痕　指押さえ	
73-30	器台	脚部	A･B4		表土	–	–	–	–	良	外）灰褐色 内）褐灰色	③	外）脚有段：沈線２条　Ｓ字スタンプ文　沈線２条 内）脚：調整不明	
73-31	鉢	口縁～底部	B4		２層	(14.0)	(3.8)	–	1/12以下	良	外）内）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	
73-32	鉢	口縁～底部	B17		包含層	(10.0)	5.5	(2.9)	1/2	良	外）内）にぶい黄橙色	②	外）調整不明　内）口～頸・底：調整不明　体：指押さえ　ハケが不明瞭	
73-33	鉢	口縁～底部	A5			(12.0)	3.6	2.6	5/12	良	外）にぶい橙色 内）浅黄橙色	③	外）口端：指押さえ　口～体：ナナメハケ　底：ナデ 内）口～底：ケズリ	外）一部煤付着
73-34	鉢	口縁～底部	A･B6		遺構面	(11.0)	(2.9)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	①	外）内）調整不明	外）赤彩
73-35	脚台	脚部	B18		包含層	–	(7.0)	(12.8)	–	良	外）内）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	脚）３孔
73-36	器台	脚部	A4		２層	–	(3.6)	(13.6)	–	良	外）内）にぶい橙色	③	外）脚有段：刺突列点文の間に沈線１条　下に沈線２条　脚裾：タテミガキ 内）脚：調整不明	脚）１孔のみ残　孔数不明
73-37	脚台	脚部	A18		包含層	–	(3.5)	(16.8)	–	良	外）灰白色 内）浅黄橙色	③	外）内）調整不明	脚）４孔
73-38	鉢	体～底部	A･B7		遺構面	–	(3.2)	2.8	–	良	外）内）にぶい黄橙色	①	外）体：ハケが不明瞭 内）体～底：ナデ	
74-1	壺	胴部	A18		包含層	–	–	–	–	良	外）オリーブ黒色 内）橙色	③	外）胴：櫛描直線文の間に櫛描波状文 内）胴：調整不明	
74-2	高坏	坏下部	A20		包含層	–	(2.3)	–	–	良	外）内）赤色	②	外）坏：ミガキ 内）坏：調整不明	外内）赤彩
74-3	台付壺	脚部	A1～6			–	(2.6)	(9.9)	–	良	外）にぶい黄橙色 内）灰黄褐色	①	外）脚：ヨコミガキ　脚端：ナデ 内）脚：ナデ	外）黒斑
74-4	把手付鉢	把手	A16		包含層	–	–	–	–	良	外）浅黄橙色 内）橙色	①	外）内）調整不明	
74-5	壺	口縁部	A14		包含層	–	(2.1)	–	1/12以下	良	外）内）橙色	①	外）口：竹管文付円形浮文を貼付け　ナデ 内）坏：ナデ	
75-1	壺	口縁～頸部	A14	NR1		–	(4.2)	–	1/12	良	外）内）にぶい黄橙色	③ ④	外）口端：ヨコナデ　口～頸：ナナメハケ 内）口：櫛刺突列点を羽状３段配した上に円形浮文２個１対貼付け　頸：ハケ	内）円形浮文　対数不明
75-2	甕	口縁部	A20	SD93		(17.8)	(1.6)	–	2/12	良	外）内）にぶい黄橙色	①	外）口端：ナデ　口縁帯下端：ヘラ刺突列点　口縁帯以下：タテハケ 内）口：ヨコハケ	
75-3	甕	口縁部	A14	NR1		–	(1.1)	–	1/12	良	外）灰白色 内）にぶい黄橙色	① ③	外）口縁帯：櫛刺突列点　口：ヨコハケ 内）口：ヨコハケ	
75-4	壺	口縁部	A14	NR1		–	–	–	–	良	外）内）にぶい黄橙色	③	外）ナデ 内）櫛描扇状文	
75-5	壺	口縁部	A14	NR1		–	(2.8)	–	1/12以下	良	外）内）浅黄橙色	③	外）口：ナデ　凹線３条 内）口：ナデ	
75-6	甕	胴部	A9	SK6		–	–	–	–	良	外）内）灰白色	① ④	外）胴：櫛描直線文　櫛描簾状文 13 条　タテナデ　ヨコナデ 内）胴：調整不明	
75-7	鉢	頸～体部	B5	SP367		–	(5.6)	–	–	良	外）黒褐色 内）灰黄褐色	③	外）頸：指ナデ　櫛描直線文　胴：ヨコハケ 内）頸：ヨコハケ後ナデ　胴：ケズリ	外）煤付着

古代・中世の土器（第76図）

その他に点数は極端に少ないが、包含層などから須恵器も出土している。MR１から須恵器の有蓋坏身（第76図２）が出土している。口径とその形状から陶邑編年のMT15もしくはその前後と考えられる。包含層からもこれとほぼ同じ時期と考えられる坏蓋（第76図１）が出土している。この時期の敦賀を除く越前では一般的な集落から須恵器が出土するのは限られ、古墳への副葬品としての出土に限られることが多い。本調査では確認できなかったが、周辺にこの時期の古墳があったか、自然流路から出土していることからまだ貴重品であった須恵器を所有できた有力者の居住地があった可能性が高い。また須恵器の胎土や色調が良く知られている陶邑のものとは明らかに異なり、比較的良好な胎土と焼成であり、陶邑以外の畿内からの搬入品か、もしくは北陸ではまだ確認されている事例が少ない須恵器窯が近くにあった可能性も否定できない。高台坏（第76図３・４）は古代のもので、最も出土例が多い種類である。この他に図化できなかった須恵器の破片はいずれも古代の坏や甕の胴部片である。



第76図　古代・中世の土器実測図（縮尺 1/3）

土師質土器（第76図５）は口径12cmほどの中世後半によくあるものである。口縁縁に僅かながら煤の付着が見られる。

第４表　古代・中世の土器観察表

図版番号	器種	部位	遺構	地区	層位	法量（cm）			口縁残存率（ /12）	焼成	色調	胎土	調整技法・文様	備考
						口径	器高	底径						
76-1	須恵器 坏蓋	口縁～天井部	NR2	A23		(13.6)	(3.7)	-	1/12	良	外）内）灰白色	①	外）回転ナデ　天井：回転ヘラケズリ　回転ヘラ切り後ナデ 内）回転ナデ	
76-2	須恵器 有蓋坏	坏部	NR1	A14		(12.0)	(3.6)	-	1/12	良	外）内）灰色	①	外）回転ナデ　底：回転ヘラケズリ 内）回転ナデ	
76-3	須恵器 高台坏	体～底部		B3	２層	-	(3.5)	(10.0)	-	良	外）内）灰白色	①	外）回転ナデ　底：回転ヘラ切り後ナデ 内）回転ナデ	
76-4	須恵器 高台坏	体～底部		A3･4	２層	-	(2.3)	(8.4)	-	良	外）内）灰色	①	外）回転ナデ　底：回転ヘラ切り後ナデ 内）回転ナデ	
76-5	土師質皿	口縁～体部		A･B9		(11.6)	(1.7)	-	1/12	良	外）内）灰白色	①	外）ナデ　指押さえ 内）ナデ	外内）タール痕

縄文土器（第77図）

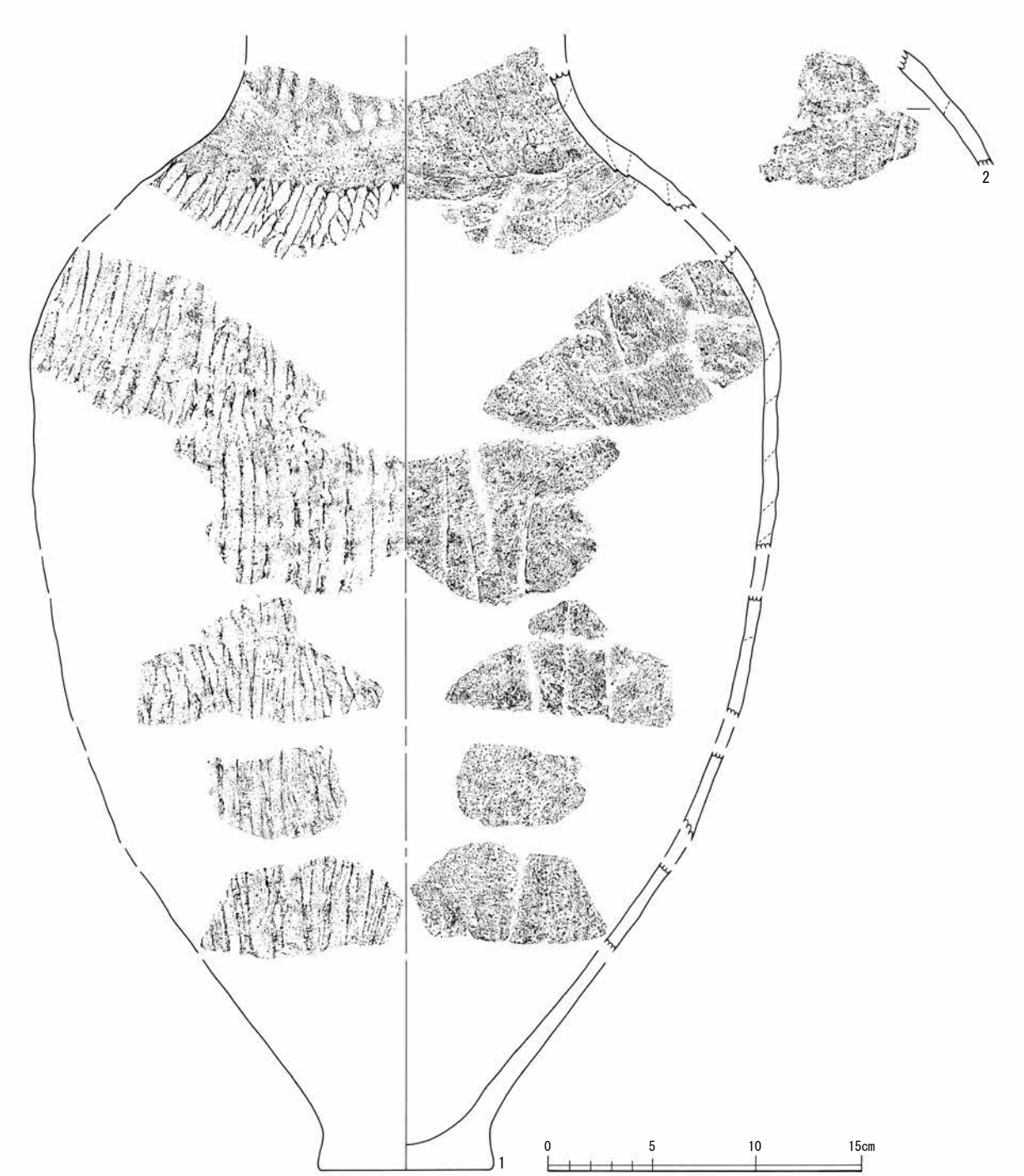
縄文土器は破片で50片以上出土しているが、いずれの破片も胎土や色調が似るもので、同一個体ではないにしろほぼ同じような土器であろう。ここで図化したもの（第77図１）は同一個体の可能性が高く、接合した破片も含めて６点である。底部と口縁部がなく頸部への立ち上がり部分までである。頸部の立ち上がり部分をヨコナデ調整で無文帯とするほかは、全面にタテの条痕調整である。その無文帯の上にはその条痕が僅かに残る。胴部の内面には輪積痕を残さず丁寧にナデ消されるが、頸部の立ち上がり部分のみに輪積痕が残る。時期は晩期後葉である。推定される器高が40cm前後と大型の壺と考えられ、壺棺として想定される出土状況のものが多い。

２　金属器（第79図）

SD15から銅鏃（第79図１）が出土している。先端部を欠失している。鏃の稜線が茎から続くようである。長さは3.1cm残り、幅0.9cm、厚み0.3cmと小ぶりながら、重さは2.58gを測る。

３　石器・石製品（第78図）

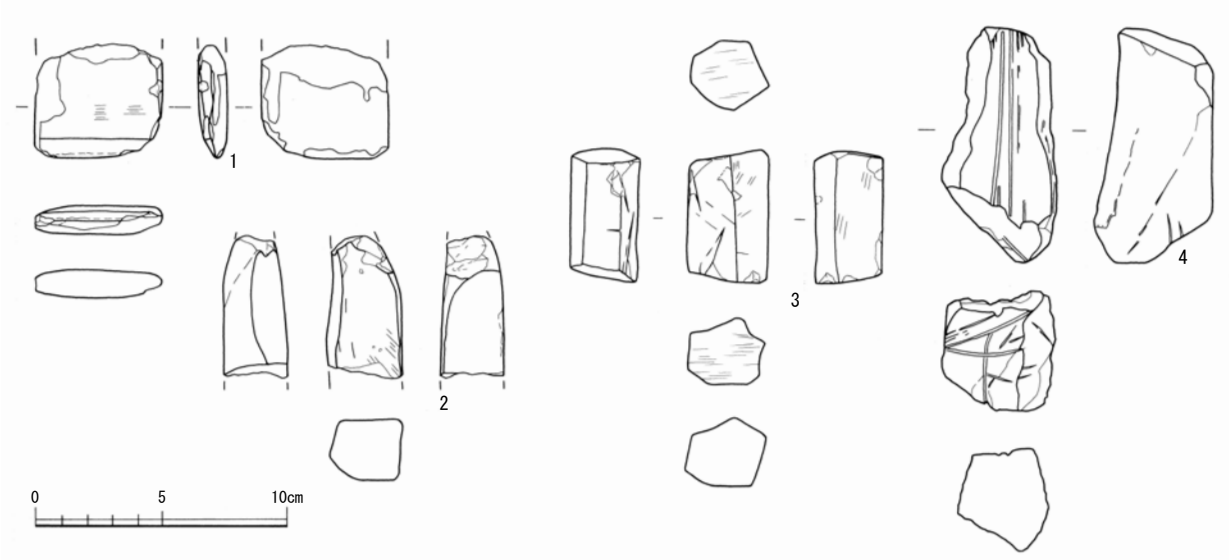
磨製石器である扁平片刃石斧（第78図１）がNR１から出土している。基部に近い方を欠損しているの



第77図　縄文土器実測図（縮尺 1/3）

で、本来の大きさは不明である。刃部の一端が欠け、片減りしている。残存長4.4㎝、最大幅5.0㎝、最も厚い部分で1.1㎝、重さ43.57ｇを測る。灰色が混じった薄い緑色で細粒砂岩か。

砥石は使用が明確なもの３点を図化した。そのうち２点の使用面は非常に平滑で形状は柱状に近い。柱状の水平断面がほぼ四角形のもの（第78図２）は両短辺を使用せずに割れたままの状態を残す。長辺の１カ所だけ角が取れたように使用している。長さ5.6㎝、最大幅3.0㎝、重さ52.3ｇを測る。白色の凝灰岩である。柱状の水平断面が不均等な六角形のもの（第78図３）は長辺の六面に加えて、短辺の両面とも使用する。つまり八面全面を使用している。長さ5.2㎝、最大幅3.2㎝、重さ67.22ｇを測る。白色の凝灰岩である。SP359から出土した。残るもう１点はいわゆる「筋砥石」（第78図４）である。バチ状



第78図　石器･石製品実測図（縮尺 1/3）

に１方向が開く柱状の形状で、長辺１面のみに長さ7.0㎝と6.5㎝の溝が残る。短辺の片方は良く使用されたと思われ平滑で、反対側の短辺には長短３本の溝が残る。長さ9.2㎝、最大幅4.7㎝、重さ196.5ｇを測る。僅かに赤みがかった灰色の砂岩である。SP673から出土した。

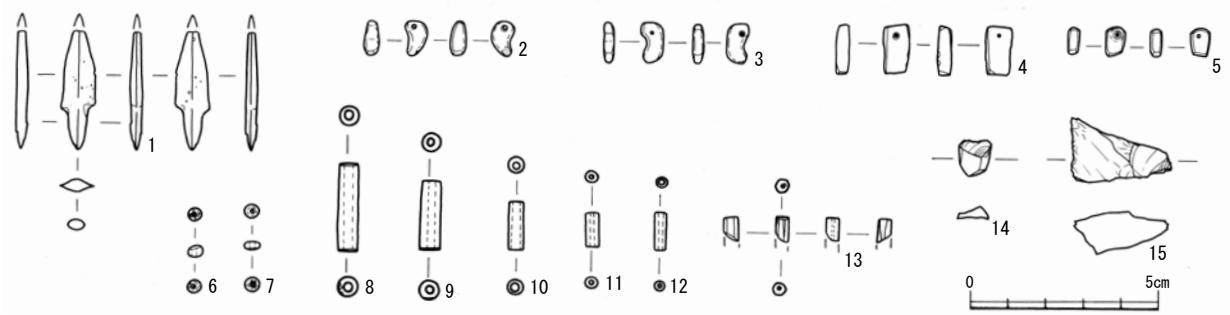
４　玉類・玉作り関連遺物（第79図）

勾玉は２点ある。SI２内の西側上層から出土したもの（第79図２）と、同じくSI２の北側上層から出土したもの（第79図３）でともに蛇紋岩である。

角玉は２点ある。平面形が長方形で、その四方の隅が角張ったもの（第79図４）はNR１から出土している。片面からの穿孔であるが､その先端は0.5㎜にも満たなく小さい。薄い緑色の蛇紋岩と考えられる。平面形が長方形であるが、その四方の隅が丸くなったもの（第79図５）はSI２内の北側上層から出土している。部分的に緑色を残すが、全体に白色に近い蛇紋岩、または翡翠と考えられる。

ガラス小玉は２点出土している。SK19から出土したもの（第79図６）は、明るいスカイブルーである。SI２内の北側上層から出土したもの（第79図７）は濃い紫色である。

管玉は６点出土しており、うち１点は一端が欠失したものである。大きめのものはSP466(第79図８）とSP466(第79図９）から出土している。両者とも深みのある濃い緑色凝灰岩である。小さめのものは３点（第79図10～12）いずれもSI２から出土している。第79図10・11の２点は深みのある緑色凝灰岩である。第79図12は薄く青味がかった軟質の緑色凝灰岩を呈する。一端が欠失したもの（第79図13）はSP526から出土し、深みのある濃い緑色凝灰岩である。この他に小片２点（第79図14・15）を図化した。



第79図　銅鏃　玉作り関係遺物実測図（縮尺 1/2）

第５表　石器・石製品・玉類等観察表

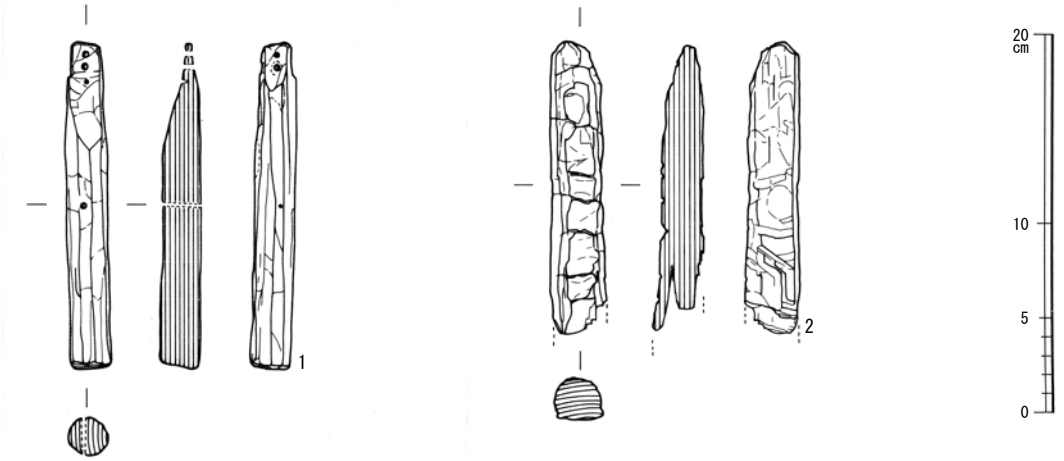
図版番号	器　種	地　区	遺　構	石　質	法量				備　考
					長さ　cm	幅　cm	厚さ　cm	重さ　g	
78 － 1	扁平片刃石斧	A14	NR1	細粒砂岩	(4.4)	5.0	1.1	43.57	
78 － 2	砥石		遺構面	白色凝灰岩	(5.6)	3.0	2.5	52.30	
78 － 3	砥石	B5	SP359	白色凝灰岩	5.2	3.2	2.7	67.22	
78 － 4	砥石	A19	SP673	白色砂岩	(9.2)	(4.5)	(4.7)	196.5	長辺に7cmと6.5cmの溝
79 － 2	勾玉	A5･6	SI2	緑色蛇紋岩	0.93	0.61	0.38	0.29	
79 － 3	勾玉	A･B5	SI2	蛇紋岩	1.06	0.55	0.26	0.33	
79 － 4	角玉		NR1	淡緑色蛇紋岩	1.25	0.67	0.35	0.73	
79 － 5	角玉	A･B5	SI2	緑色凝灰岩	0.75	0.50	0.25	0.24	
79 － 6	小玉	B5	SK19	ガラス	0.36	0.33	0.26	0.04	
79 － 7	小玉	A･B5	SI2	ガラス	0.39	0.37	0.19	0.04	
79 － 8	管玉		SP466	緑色凝灰岩	2.30	0.55	0.50	1.13	
79 － 9	管玉		SP539	緑色凝灰岩	1.80	0.56	0.50	0.94	
79 － 10	管玉	A･B5	SI2	緑色凝灰岩	1.25	0.39	0.39	0.32	
79 － 11	管玉	B5･6	SI2	緑色凝灰岩	0.96	0.37	0.37	0.22	
79 － 12	管玉	A･B5	SI2	緑色凝灰岩	1.02	0.30	0.30	0.09	
79 － 13	管玉		SP526	緑色凝灰岩	(0.63)	0.37	0.40	0.12	
79 － 14	剥片	A18	SP681	緑色凝灰岩	0.85	0.90	0.40	0.26	
79 － 15	剥片		SD93	緑色凝灰岩	2.70	1.70	1.10	3.72	

５　木製品（第80～83図）

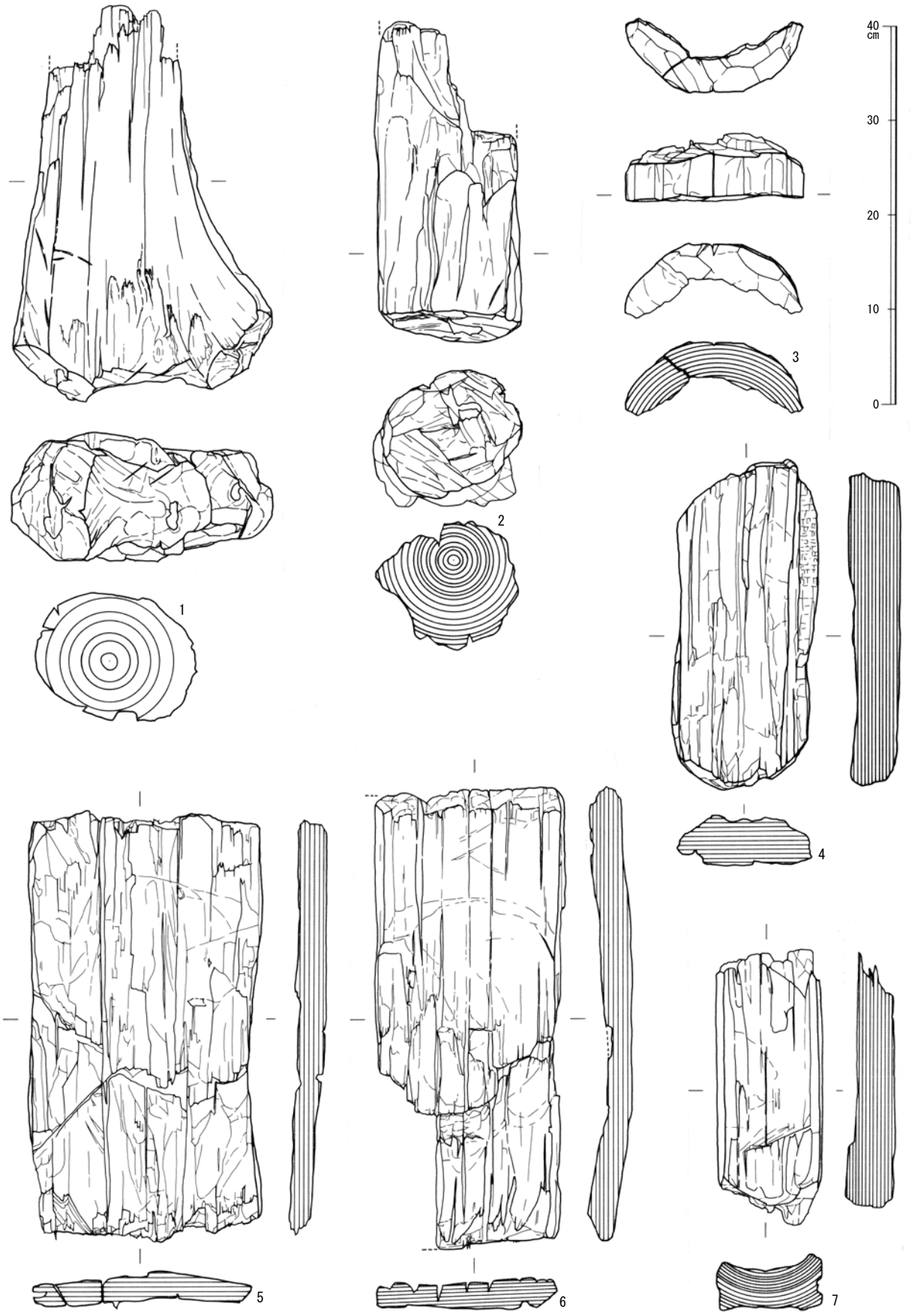
木製品は、明らかに人工の加工痕を残すものでも、何らかの用途が推測できそうなものを主体に図化した。なお、遺構図にピット内の柱根や礎板と考えられる木製品が図示されているものもあるが、全てが遺物実測の図化に耐えるものではない。

円柱状の一端を薄くし縦に孔を２つ開けるもの（第80図１）は、完結した状態で出土し、何らかの製品の一部である可能性が高い。直径が２㎝を超える円柱の棒状の一端は水平に切断されているが、もう一端は次第に薄くなるように削り落とされ、先端に近い方に縦に２つの孔を開ける。長さが17.3㎝を測る長辺のほぼ中央にも１カ所だけ孔を開ける。板目の側面片側を除く残された３方向の面が炭化した、断面が長方形で長さが15.5㎝の棒状もの（第80図２）は、一端は折れた状態であるが、反対側はきれいではないが人工的に切断されたようである。炭化した一面は梯子のように横に窪むが、人工によるものかの判断はつかない。この２点ともSP372から出土した。

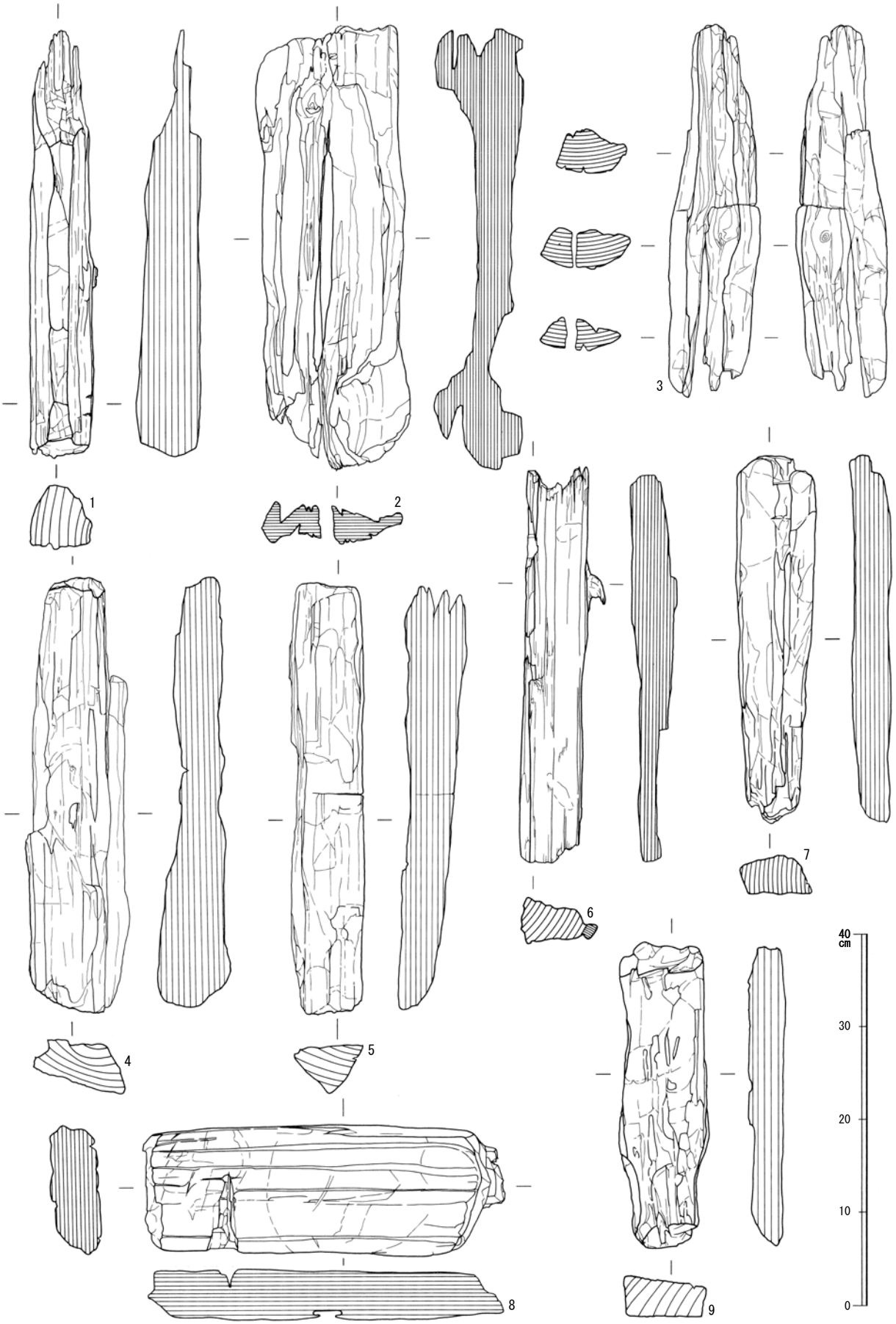
明らかに柱根と考えられるものを３点図化した。SP382から出土したもの（第81図１）は枝の分かれる部分もしくは根の分岐に近い部分を利用したものであろう。根または枝の分岐で太くなった断面に切断時の刃の痕跡が残る。その反対側の地表面に近い方は、工具による切断痕はない。部分的に炭化した樹皮のようなものが残る。SP322・323から出土したもの（第81図２）はほぼ円形の断面である。一方向のみ



第80図　木製品実測図１（縮尺 1/4）



第81図　木製品実測図２（縮尺 1/6）



第82図　木製品実測図３（縮尺 1/6）

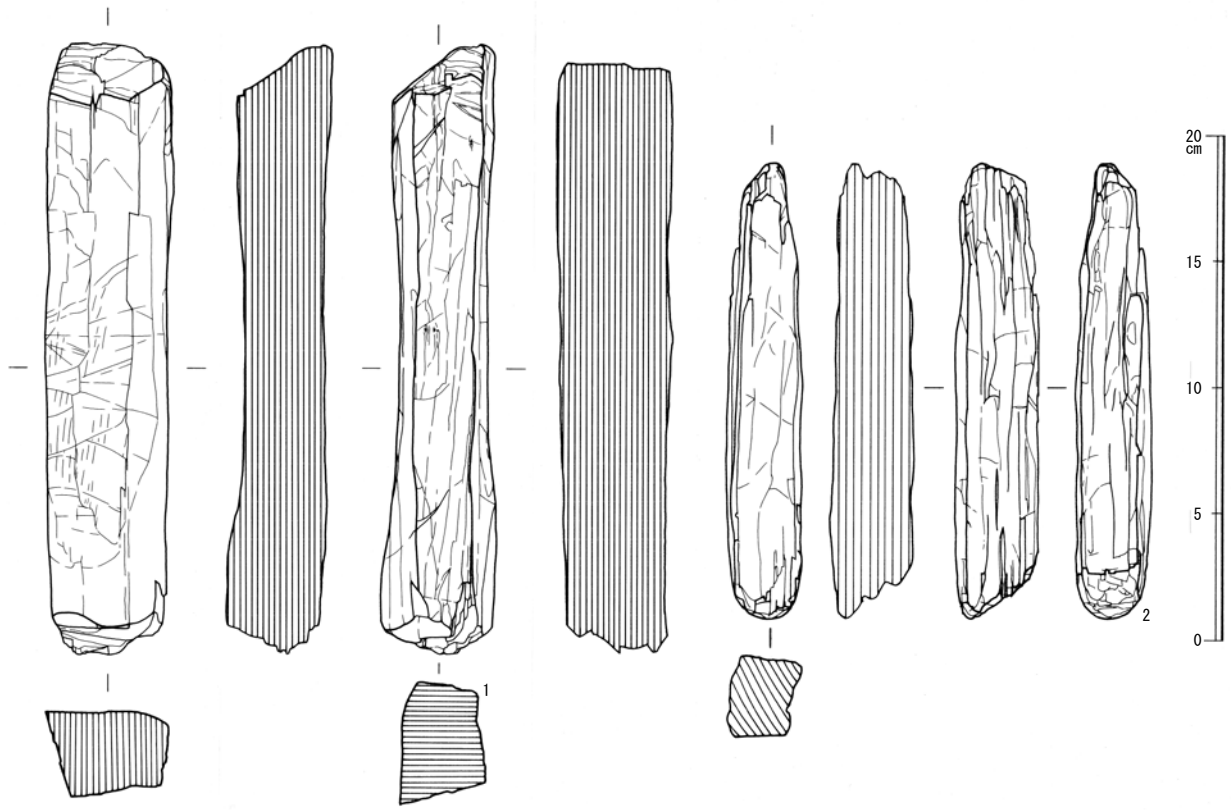
に切断の痕跡が残る。刃の痕跡が木の中心部を取り囲むように残され、外側から少しずつ切断された状況がよくわかる。木の中ほどが空洞になり、地表に近くなる上側はこの空洞の周囲の３カ所で切断、または折れている。やや細い２ヵ所は人為的に切断された状況であるが、太い一ヵ所は木目がバラバラで、切断途中に折れたか、人為的に折られたかであろう。水平の断面形が三ケ月状の木製品（第81図３）も柱根の一部と考えられる。柱として水平に据えるためにか、下の面には切断の痕跡をいくつか確認することができる。反対の上は切断痕が斜めになり、一部は大きく階段状にもなる。側面の外側は平滑な面が作られるが、内側は剥ぎ取られた様に柾目が凹凸に残る。SP326からの出土である。

典型的な礎板の形状のものは２点ある。長辺が49.3㎝と最も長いもの（第81図６）は、短辺が20.4㎝の長方形の板状を呈し、厚さは3.6㎝を測る。SP278からの出土である。長辺が45.4㎝のもの（第81図５）は短辺が24.8㎝の長方形の板状のもので、厚さは3.3㎝を測る。SP309・420からの出土である。前者には直径が20㎝ほどの直径の柱根跡（アタリ）が、押圧されたように残る。後者にも20㎝前後と推定される直径の柱根跡が残る。この２点とも厚みが全体に均一である。以下の４点は明確な礎板とは言えないが、やや厚手の長方形の板状のものがある。円弧状に段が作られたもの（第81図７）は長辺の中央が窪み、この円弧状の段が柱のずれを防いだものではないであろうか。SP414からの出土である。同様の形状のもの（第81図４）は、長辺のほぼ中央が全体的に僅かではあるが窪んでいる。SP309・420からの出土である。短辺に寄った位置に柱がおかれていたと思われる柱根跡があるもの（第82図８）は、厚さが5.5㎝あるが、全体に均一の厚さで板材としては最も適したものと思える。短辺に寄った反対側に切断を中止した痕が残る。木目の僅かな窪み具合から20㎝弱の柱の太さが想定できる。SP414からの出土である。同じピットから２本の棒状に近い板材（第82図４・５）が出土しており、一方に柱の柱根跡が残る。この２本の長さが47.2㎝（第82図４）と、47.5㎝（第82図５）とほぼ同じもので、同じ木と考えられるが接合面は確認できない。前者の長軸のほぼ中央に20㎝ほどの僅かな窪みが残されているが、もう一方の後者にもやや小さめの16㎝前後の窪みが僅かに観察できる。板状ではないが、長辺の中ほどを中心に大きく窪みがあるもの（第82図２）も、礎板として利用されたものと考えられる。その窪みの長軸の長さは30㎝前後もある。

フォーク状に二股に分かれるもの（第82図３）は、いずれの箇所も不整形な断面を呈している。明らかな加工痕が残る。断面が三角形に近い棒状のもの（第82図１）は、全体に明確な加工痕が残されるが、短辺の一方が折れたためか、製作途中であったと考えられる。扁平な長方形の板材（第82図９）は短辺も含むすべての面に炭化面を残す。これも製作途中での廃棄されたものである可能性がある。今回出土した加工痕が残る木製品で最も長く48.9㎝を測るもの（第83図１）は、短辺に近い部分から長軸の中央に向かって削り取られ、槽などの容器の内側、もしくは底面の脚を作り出すことを意図した可能性もある。

このほかにも加工痕は明確にありながらも、枝の基部をのこしたもの（第82図６）や、切断面が長方形となるまで加工がなされたもの（第82図７、第83図２）などがある。紡織具の可能性があるもの（第80図１）の他は、建物の柱根と考えられるもの３点（第81図１～３）や礎板に再利用された板材２点（第81図５・６）、礎板に再利用された何らかの製品６点（第81図４・７、第82図２・４・５・８）のように居住に関するものが多い。このように転用されたもの以外には、明確な加工痕が残りながら未成品でもなく、自然木ではないものが６点と目立つ。長方形の柱状の加工木に柱の置かれた痕跡らしきものが幾つか確認することができて、これらを礎板として用いたものと判断した。

ちなみに今回図化した木製品については樹種の同定は行っていない。断面や木目の状況から２点（第



第83図　木製品実測図４（縮尺 1/6）

82図７・９）だけが広葉樹と推察され、残る18点は針葉樹と考えられる。

今回の調査区で木器を製作した痕跡ではなく、木器製作の場所でいらなくなった板材などを何らかに再利用するために持ち込んでいたものと考えられる。

第６表　木製品観察表

図版番号	器種	地区	遺構	法量　(cm)			備　考
				長さ	幅	厚さ	
80-1		B5	SP372	17.3	2.2	2.1	
80-2		B5	SP372	15.5	2.9	2.3	
81-1	柱根	B5	SP382	42.3	27.3	13.7	
81-2	柱根		SP322 SP323	34.3	15.3	14.6	
81-3		B5	SP326	19.0	(7.1)	(5.2)	
81-4		B5	SP309 SP420	34.4	5.0	5.5	
81-5	礎板	B5	SP309 SP420	45.4	24.8	3.3	
81-6	礎板	B5	SP278	49.3	20.4	3.6	
81-7		B5	SP414	29.5	11.4	5.6	
82-1		A6	SP240	46.6	7.3	6.9	
82-2		A6	SP426	47.7	15.4	9.2	
82-3		B5	SP326	40.5	9.9	4.5	
82-4		B5	SP326	47.2	(8.0)	(6.5)	
82-5		B5	SP326	47.5	(10.7)	(7.9)	
82-6		A6	SP240	43.3	8.6	5.0	
82-7		A6	SP240	40.1	8.6	4.2	広葉樹
82-8		B5	SP338	39.4	14.1	5.5	
82-9		A6	SP240	36.5	5.9	6.6	広葉樹、炭化面あり
83-1		B5	SP383 SP305	48.9	9.1	10.3	
83-2		A6	SP240	33.4	9.8	4.4	

第５章　自然科学分析

銅鏃の鉛同位体比分析

１　概要

福井県福井市の上河北江原町遺跡から出土した弥生時代後期末から古墳時代初頭と推定される銅鏃１点に関して自然科学的な鉛同位体比の測定の依頼を株式会社吉田生物研究所から受けた。本資料に関して鉛同位体比法を用いた測定から材料産地の推定を行い、資料の意義を推定する。

銅鏃には目立った緑色の錆はなく、黒っぽい錆で覆われ、小孔があちこちに開いている。この小孔はおそらく鋳造時の鬆であろう(図版第14)。

２　鉛同位体比法

鉛同位体比法の原理の説明は他の文献に譲る(※３～※６)。

鉛同位体比の測定方法

本資料である福井県福井市の上河北江原町遺跡から出土した銅鏃の材料産地を推定するために鉛同位体比法を利用する。鉛同位体比を測定する方法として、表面電離型質量分析法、二重収束型 ICP 質量分析法などあるが、本研究では表面電離型質量分析法を用いる。この方法で鉛同位体比を測定するためには資料本体に含まれる鉛を使用する。このために資料本体の錆を含む一部を採取する。表面電離型質量分析計で鉛同位体比を測定するときに鉛の純度が高ければ高いほど精度が上がる故、採取資料の中から鉛を化学的な方法で単離する。測定用に採取した微少量(～10mg)の試料に次のような化学操作を行って鉛を分離する。

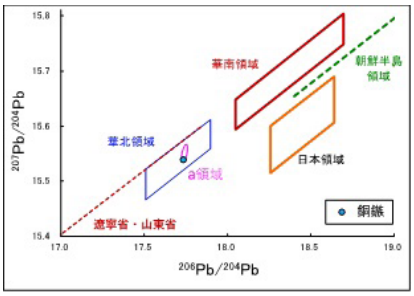
試料を石英製ビーカーに入れ、硝酸 0.3mlを加え、１日放置して試料を溶解する。試料が溶解した後、蒸留水で５－10mlに希釈し、電極に白金板を利用し、直流電圧２Ｖで５～６時間、電気分解する。鉛は酸化され、二酸化鉛として陽極の白金電極上に析出するので、この白金電極を取り出して硝酸と過酸化水素水で鉛を還元溶解する。この溶液の鉛濃度を ICP 法で測定し、0.2μgの鉛を分取する。この分取した鉛にリン酸とシリカゲルを加えてレニウムフィラメント上に載せ、加熱固化する。以上のように準備したフィラメントを日鉄テクノロジー社に設置されている質量分析計（Finnigan MAT262）の中にセットし、測定諸条件を整え、フィラメント温度1200℃で鉛同位体比を測定する。測定値は同一条件で測定した標準鉛試料NBS-SRM-981で規格化する(※７)。

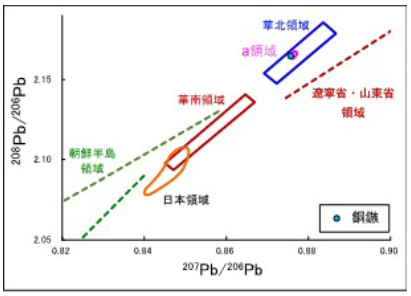
３　鉛同位体比測定の結果

福井市の上河北江原町遺跡から出土した銅鏃の材料産地を推定するために鉛同位体比値を測定した。結果を第７表で示し、第84図で図示する。

第７表　上河北江原町遺跡出土銅鏃の鉛同位体比値

資料名	206Pb/204Pb	207Pb/204Pb	208Pb/204Pb	207Pb/206Pb	208Pb/206Pb	資料番号
銅鏃	17.74	15.538	38.401	0.8758	2.1646	NS1LC25
誤差（±）	0.01	0.01	0.03	0.0003	0.0006	





第84図　上河北江原町遺跡出土銅鏃の鉛同位体比分布図　左（Ａ領域）　右（Ｂ領域）

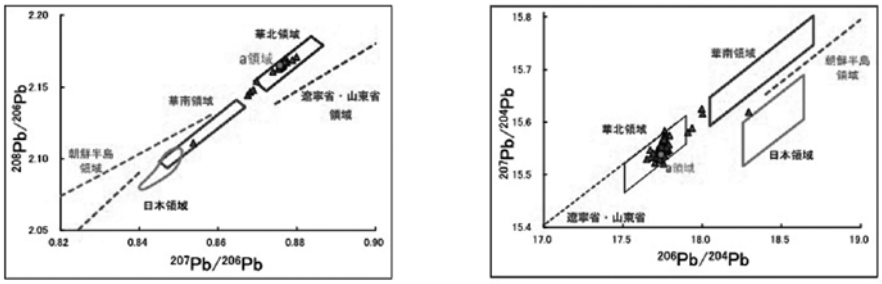
注　銅鏃資料は両図でａ領域にふくまれた。このことから資料は弥生時代後期に後期銅鐸や広型銅矛などに利用された材料と同一と考えられる。

４　結果と考察

福井県福井市上河北江原町遺跡から出土した銅鏃は『a 領域』に含まれた。『a 領域』は弥生時代後期に広がった

近畿三遠式銅鐸や広型銅矛の製作に用いられた青銅材料で、弥生時代後期には典型的な材料であったと考えることができる。

そこで、弥生時代後期の銅鏃にどの様な材料が利用されていたかを調べてみると第85図となる[※8]。



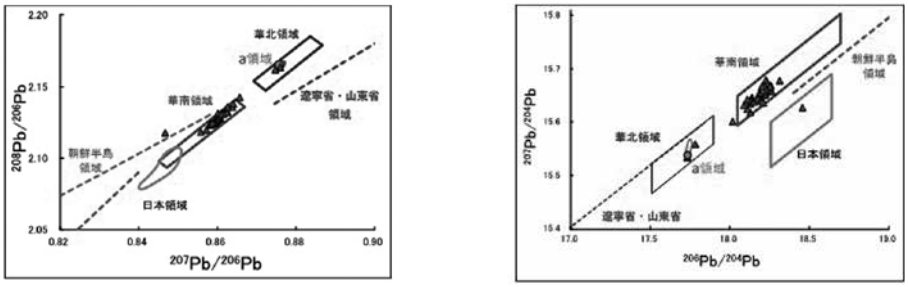
第85図　弥生時代後期の銅鏃が分布する領域　左（Ａ式図）　右（Ｂ式図）

注）　第85図では弥生時代後期に用いられた銅鏃の鉛同位体比分布を示す。●は上河北江原町遺跡出土銅鏃、▲は今までに測定された弥生時代の銅鏃[※9]。

ほとんどの弥生時代銅鏃は「a 領域」を中心としてその付近に分布している。弥生時代の一般的な材料（銅鐸、銅矛、銅鋤先、巴型銅器）などとしては華北領域の材料が用いられており、弥生時代後期の材料は華北領域の中でも「a 領域」の材料が利用されている。ただし、銅鏡に関しては弥生時代前・中期には華北産材料だったが、後期になると、華南産材料になってくる。それゆえ、銅鏡が壊れたなどの理由で、銅鏃などに再利用されることはあったとしても少ないと考えられる。100資料に数資料は第85図で示される様に華南産材料が混じってくるかもしれない。本遺跡である上河北江原町遺跡出土の銅鏃が「a 領域」の材料を利用していることは本遺跡が弥生時代後期の遺跡であることから、「a 領域」の材料であることは当然のことかもしれない。それだけに当然の資料であることは当時の典型的な資料であることを示唆する。

そこで、古墳時代の銅鏃と第86図で比較して見る[※9]。

これらの図から判断すると、古墳時代の銅鏃には華南産材料が主として利用されており、華北産「a 領域」に含



第86図　古墳時代の銅鏃が分布する領域　左（Ａ式図）　右（Ｂ式図）

注）　第86図では古墳時代に用いられた銅鏃の鉛同位体比分布を示す。●は上河北江原町遺跡出土銅鏃、▲は今までに測定された弥生時代の銅鏃。

まれる資料は少ない。ゼロではないが、「a 領域」に含まれる資料が弥生時代資料に比べると激減している。それゆえ、古墳時代の銅鏃の材料は華南産材料である可能性が非常に高い。これらのことから、本遺跡出土の銅鏃は典型的な弥生時代の材料であり、古墳時代の材料ではないと推定される。本資料がこの遺跡へ製品としてもたらされたか、本遺跡で鋳造されたかはわからないが、材料の流通・製作という面から、本遺跡が日本海側ルートの一つとして、重要性を持つかもしれない。

引用文献

1　福井県教育庁埋蔵文化財センター 2020「上河北江原町遺跡 現地説明会資料」
2　平尾良光 2008「鉛同位体比法の応用－歴史資料の産地推定－」『RADIOISOTOPES 』57 p709-721
3　平尾良光 1998「鉛同位体比法　青銅鏡・銅鐸・鉄剣を探る」『文化財を探る科学の眼－３』国土社 p13-19
4　平尾良光，榎本淳子 1999 古代日本青銅器の鉛同位体比，『古代青銅の流通と鋳造』鶴山堂 p29-161
5　平尾良光，鈴木浩子 1999「弥生時代青銅器と鉛同位体比」『古代青銅の流通と鋳造』鶴山堂 p163-208
6　平尾良光 2001 古代中国青銅器の自然科学的研究，『古代東アジア青銅の流通』鶴山堂（東京）p93-139
7　平尾良光，馬淵久夫 1989「表面電離型固体質量分析計 VG-Sector の規格化について」『保存科学』2817-24
8　平尾良光 2003 鉛同位体比の測定と分析，「第６巻、弥生・古墳時代、青銅・ガラス製品」『考古資料大観』小学館 p345-368
9　平尾良光，榎本淳子，鈴木浩子 2013「古墳時代青銅製品の鉛同位体比」『考古学雑誌』97 27-62

第６章　まとめ

第１節　遺構について

上河北江原町遺跡は、弥生時代後期末～古墳時代初頭の集落跡であることが明らかになった。主な遺構は、平地式住居、掘建柱建物、溝、土坑、ピットである。上河北江原町遺跡の本調査区は、自然流路(NR)に分断された３つの集落で構成されていた可能性がある。NR１は、北岸のラインは撹乱により破壊され不明であるものの、Ａ・Ｂ 10区からＡ・Ｂ 14区の幅約40mにわたる。そして、NR２は、Ａ・Ｂ 21区からＡ・Ｂ23区の幅約15mにわたる。これらの自然流路の肩部からは、古式土師器を検出している。そのため、これらの自然流路は、集落形成以前に埋没したわけでも、集落廃絶後に形成されたわけでもなく、集落の存続時期に存在していたと言える。自然流路に隔てられたそれぞれの施設（およびその使用者）がどのように関連していたのかにより、また集落の定義をどのように考えるのかにより、３単位に分割することの可否は問われるが、設明上の単位として用いることは可能であろう。

本調査区は、東西方向に延びる集落群を南北に切り取った形になる。遺物を検出しない遺構も多く、個々の遺構の帰属時期を定めることは困難である。さらに、遺跡内の土地利用の痕跡は単一時期のものではなく、複数時期の遺構の集積である。そのため、単一時間幅の遺構配置の復元は困難であり、単純化はできないものの、傾向としては以下のようになる。

Ａ・Ｂ３～９区は、住居跡３棟、掘建柱建物10棟以上で構成される居住域になる。北側は、東西方向の溝が密集して配置されている。大部分に撹乱が及んでいるとはいえ、溝以北は極端に遺構密度が落ちるため、それらの溝は集落の区画溝であった可能性が高い。出土遺物から、弥生時代後半から古墳時代初頭の遺構が密集する区域と判断できる。Ａ・Ｂ14～21区は、掘建柱建物14棟以上で構成される居住域になる。南は遺構密度が低く、方形周溝墓・溝が配置される。出土遺物から、弥生時代後半から古墳時代初頭の遺構が密集する区域と判断できる。Ａ・Ｂ23～25区は、弥生時代中期の方形周溝墓と弥生時代後期～古墳時代初頭の溝が認められる。なお、Ａ・Ｂ14～21区とＡ・Ｂ23～25区は別の集落である可能性を指摘したものの、SD84・85とSD94・95はほぼ平行することから、関連性も否定できない。

第２節　遺物について

これまで上河北江原遺跡のある福井市東部から南部にかけての沖積平野では、小稲津遺跡や今市遺跡(音楽堂建設に伴う調査の遺跡名は今市岩畑遺跡)など、弥生時代後期(一部は弥生時代中期から)から古墳時代前期にかけてと、古代の集落遺跡の発掘調査は多数行われてきた。しかしどの遺跡でも検出される集落に伴う遺構は掘立柱建物と溝がほとんどで、特に時期を示すことができる土器が出土するのが溝からである。福井平野の沖積地では地表面を掘り込む竪穴住居が確認されることは稀であって、掘立柱建物の周囲に溝を巡らせた「平地式住居」の形態で検出される場合が多い。今回の調査でも周溝の巡る内側に掘立柱建物(SI１・２)が確認されるなど、居住施設は掘立柱の建物、もしくは仮に地表面を掘り込む竪穴状の遺構であったとしても、掘立柱建物の状態での検出となると考えられる。弥生時代後期から古墳時代前期の時期の遺構出土で同時代を示す良好な一括資料となる土器が出土するのが井戸であるが、周辺での調査ではその検出事例がほとんどない。今回の調査でも井戸は検出されなかったものの、土器の点数は限られているが、ピットなどから多数の土器が出土した。一括資料と呼べる土器群が出土

したものがあり、その土器群について以下検討したい。

出土した土器の時期とその様相

今回の調査出土し図化できたものは弥生時代後期から古墳時代前期の弥生土器・古式土師器が大半を占める。そのなかでもSB06の柱穴と考えられるSP372から出土した23点と、SP443から出土した９点について一括資料と考えられるものであろう。SP372とSP443から出土した有段口縁の土器でも前者の１点(第39図２)は壺に復元でき、後者の器壁が厚手の口縁帯のもの(第41図９)は擬凹線も明瞭で丁寧に施文され、もう１点(第41図３)も筆者が「有段口縁広口壺」としているものである。これら３点を除くSP372の12点(第39図１～９・11・13・17)とSP443の６点(第41図４・11～15)の甕の口縁について比較する。有段口縁でも甕についての完成形は石川県の編年の月影Ⅱ式とされるもので、それは口縁帯内面の連続指頭圧痕と口縁端部の先細りが大きな特徴で、擬凹線文の施文率が100%に近くなることを最大の特徴と考えている。また筆者は頸部内面が「く」から「コ」の字となり、この部分の調整にヨコハケがなされることもその特徴と判断している。この視点で両者の土器を比較すると、擬凹線文の施文率はSP372では12点中の８点(第39図１～３・７・８・11・13・17)の67%(第３表)、SP443では６点すべてで100%、連続指頭圧痕は前者で12点中の僅か１点(第39図９)で８%に対して後者では６点中の４点(第41図11～14)の67%を占める。口縁部の形状も12点中11点が丸くなり、１点(第39図17)も明確に先細りとはなっていないのに対して、後者には明確に先細りとなっているものが３点(第41図４・13・14)あり、口縁帯全てが外傾するか中ほどから外反するものが２点(第41図４・14) ある。さらに頸部内面の屈曲が前者では「く」の字、もしくは丸みのある「く」の字となるものが８点、僅かでも面を有するものが４点(第39図６～８・17)で33%、後者では頸部が残されておらず判断できないもの(第41図４)を除けば100%明らかに後出する要素がすべてを占めている。この状況からSP443は石川県の月影式に相当するが、前者の土器群を月影式としていいのか、その前段階の法仏式に併行するかは、この遺跡だけの土器では判断できない。このSP372の土器群で注目されるのはほぼ完形に復元できた「く」の字甕である。この土器はこれまで北陸で出土している古墳時代初期の胴部が丸くなるもの(例えば第52図４・５、第66図１・２・10・13など)ではなく、内面がケズリ調整ではなく、当該期の当地の甕(有段口縁甕)より明らかに厚手の器壁で、平底の長胴の器形である。その平底の中央がやや上底となっている。この土器では直接に確認することができなかったが、主にSD93・94から出土しているタタキ甕の底部に、畿内の弥生時代後期の甕の成形技法とされる「底部輪台技法」につながる、底部のバリエーションを確認することができる。つまりこの甕の調整や成形技法に北陸では確認することのできない、畿内と同じものが認められる。しかし胎土や色調などは他の当地のそれと異なるものではないので、畿内からの搬入品ではなく、畿内の人間、もしくは畿内の技法を知る人間が当地で製作したものと考えられる。その時期については最大径が長胴のほぼ中位に位置し、安定した平底であるなどことから、外面がハケ調整であることを除けば畿内大和編年の大和第Ⅵ－１様式か第Ⅵ－２様式に併行するものと考えられる。一方ではこの土器群が石川県の編年の法仏式か月影式となるかは、高坏や器台などの器種が十分ではないことから決めがたいが、現段階ではその両者の境界付近に当たるものと考えている。

参考文献

都出比呂志　1974 「古墳出現前夜の集団関係－淀川水系を中心に－」『考古学研究』第20号第４巻　考古学研究会
藤田三郎・松本洋明　1989 「大和地域」『弥生土器の様式と編年』近畿地方Ⅰ　木耳社
大和弥生文化の会　2003『大和弥生遺跡　基礎資料Ⅱ　奈良県の弥生土器集成』

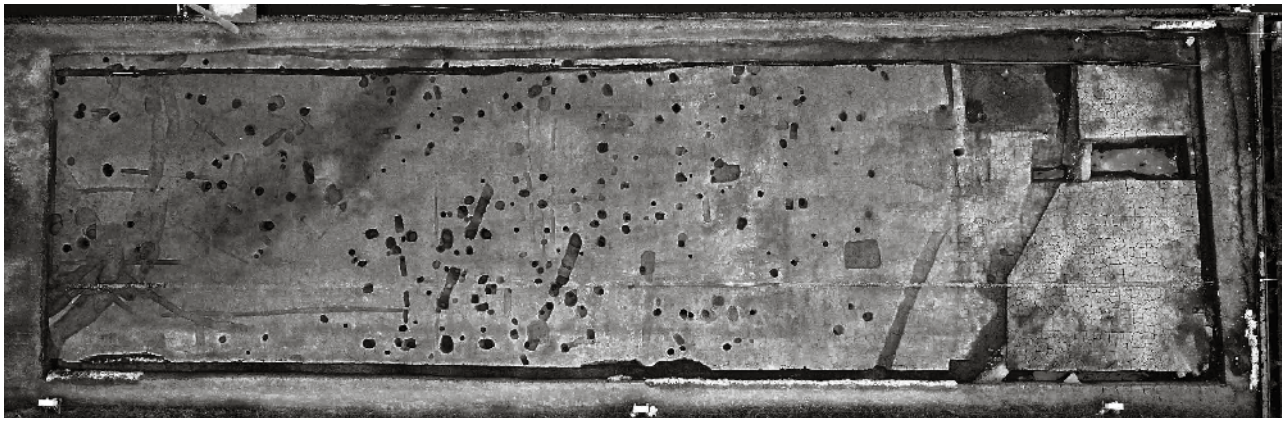
写　真　図　版

（1）　遺跡遠景（北東上空より）

（2）　遺跡遠景（南上空より）

図版第二　遺跡

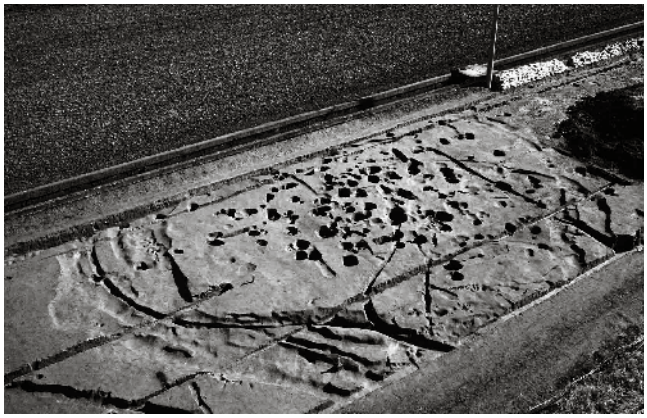
（1）Ａ・Ｂ１～６区俯瞰



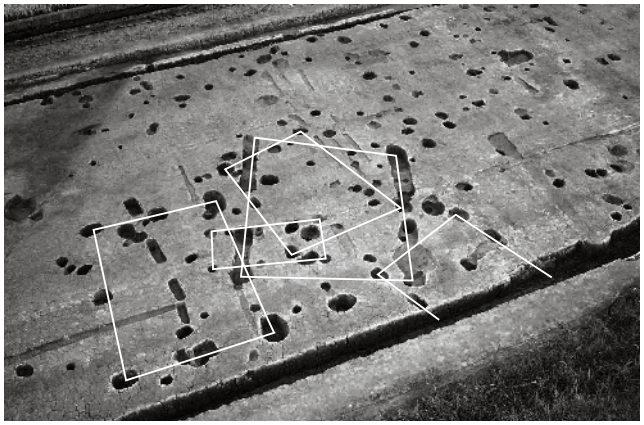
（2）Ａ・Ｂ６～11 区俯瞰

（3）Ａ・Ｂ 12～18 区俯瞰

（4）Ａ・Ｂ 19～25 区俯瞰

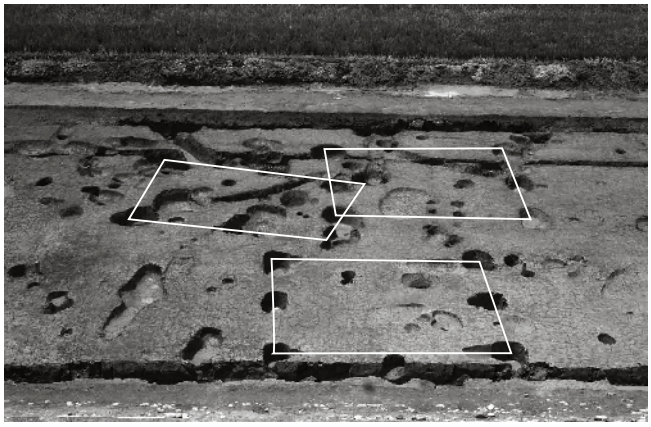


（１）Ａ・Ｂ４～６区遺構検出状況（北西より）



（２）SB３・５･25～27（西より）

（３）Ａ・Ｂ６区遺構検出状況（北より）



（４）SB10～12（東より）

（５）SB14～23（上空より）

（６）SD33～36・49・51・61・71遺物出土状況（北東より）

（７）SD93・94遺物出土状況（西より）

（８）SD93・94遺物出土状況（西より）

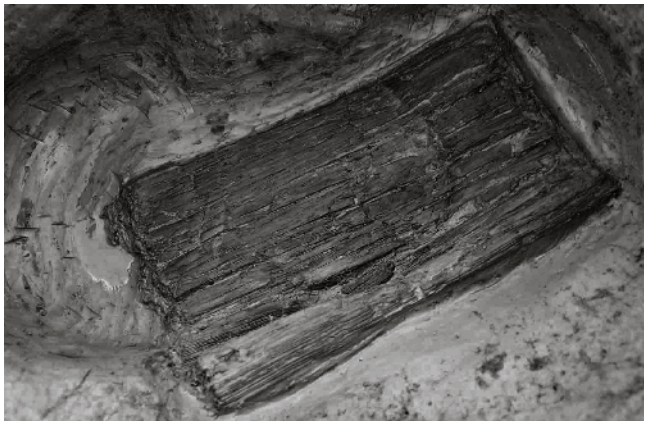
図版第四　遺構

（1）Ａ・Ｂ 23～25区遺構検出状況（西より）

（2）ST１（西より）

（3）SP372・432遺物出土状況（北より）

（4）SP390・ 391遺物出土状況（南より）



（5）SP278礎板出土状況（北より）

（6）SP619柱痕・礎板出土状況（東より）

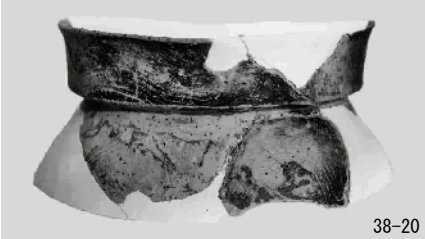
（7）ST１南溝遺物出土状況（西より）

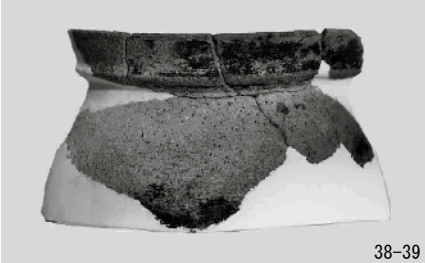
（8）SD91遺物出土状況（北より）

図版第五　遺物

36-1

37-20


38-20


38-39

39-9

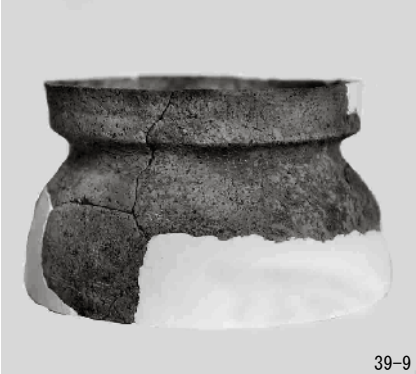
39-5

37-15

37-17

37-21

39-1

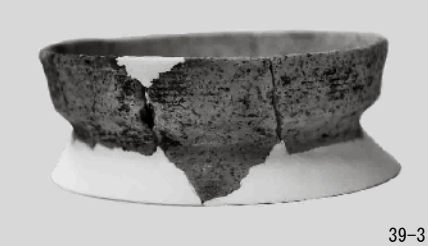

39-9

39-10

37-18

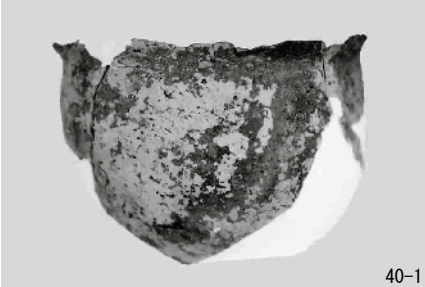
37-19

39-2


39-3

39-18

図版第六　遺物


40-1

40-2

40-3

40-5

40-10

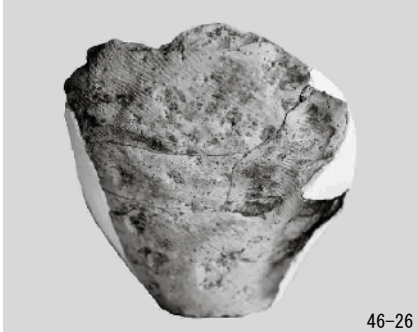
41-7

40-22

41-28

47-4

46-25


46-26

47-11

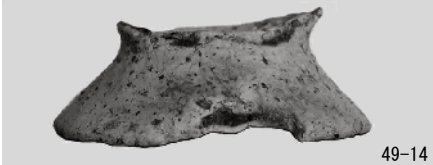
47-15

47-16

47-19

48-1

48-3


49-14

図版第七　遺物

49-9

50-7

50-8

51-4

51-11

49-12

50-10

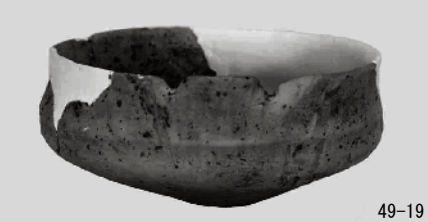
50-12

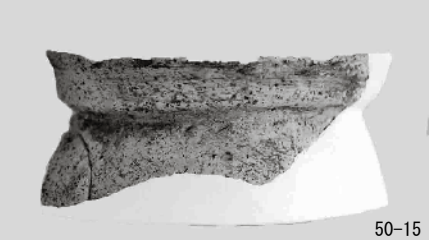
51-5

51-6

52-3

52-4

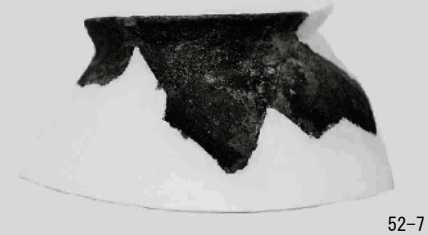

49-19


50-15

51-3

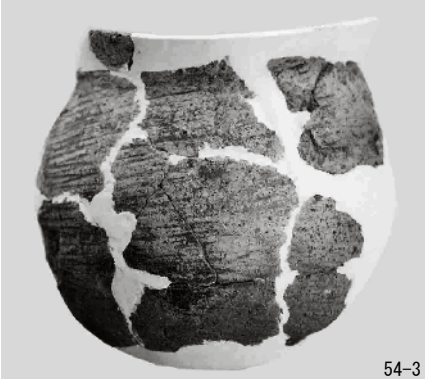
51-10

52-5


52-7

図版第八　遺物

53-1


54-3

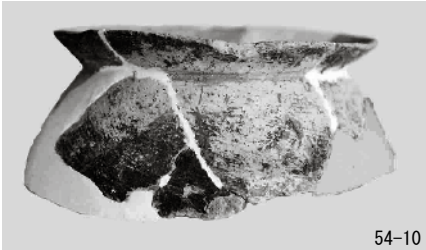
56-1

56-8

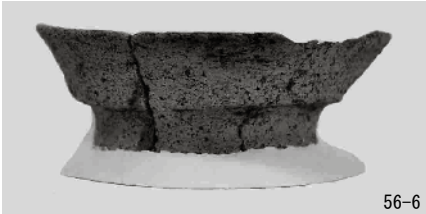
56-9

54-1

54-4

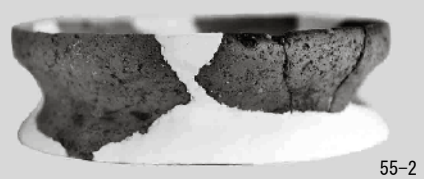

54-10

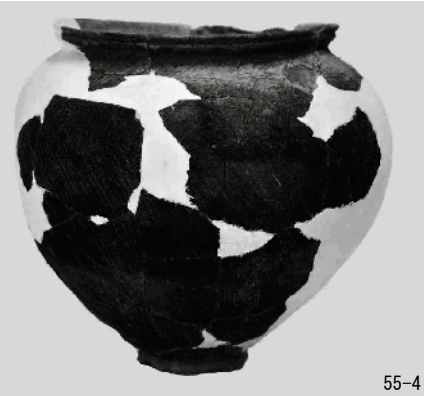
56-2

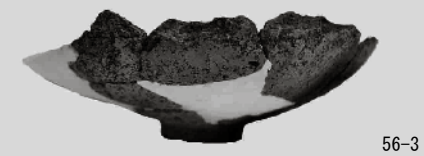

56-6

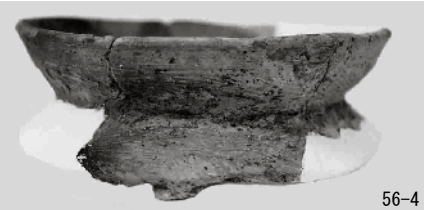
56-10

54-2


55-2


55-4


56-3


56-4

56-5

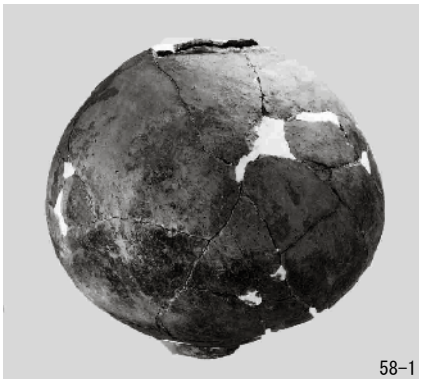
57-1

57-4

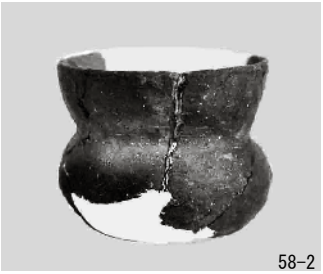
57-6

57-7

57-8

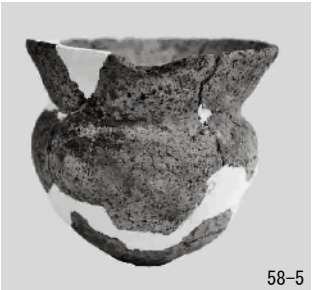

58-1

58-11


58-2

58-3

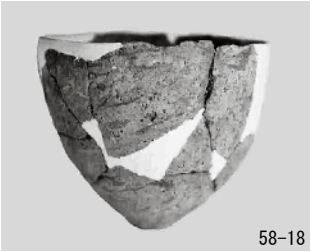
58-4


58-5

58-13

58-14

58-15


58-18

59-2

59-3

59-4

図版第一〇　遺物

59-5

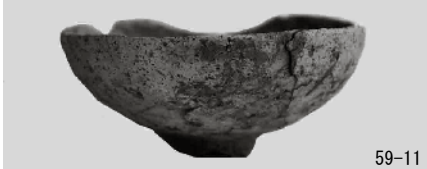
59-6

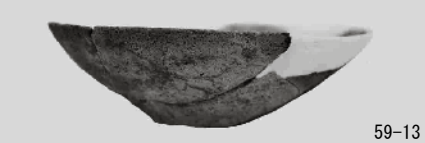
59-7

59-8

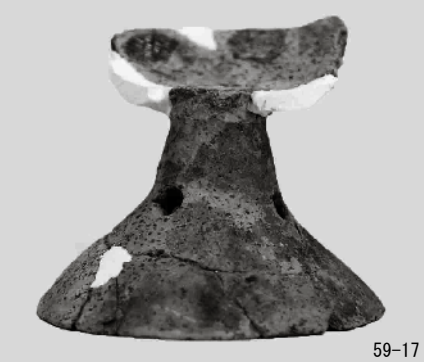
59-9

59-12

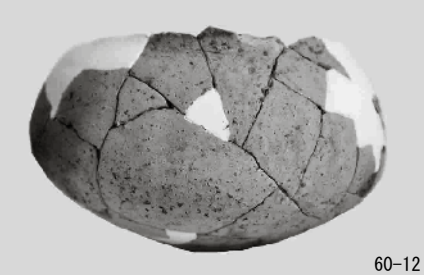

59-11


59-13

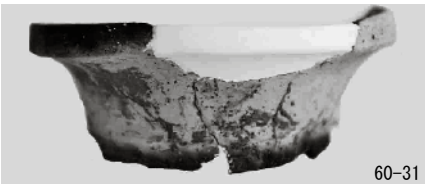
59-16


59-17

60-9

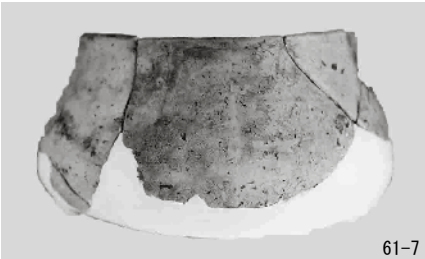

60-12

60-13


60-31

62-1

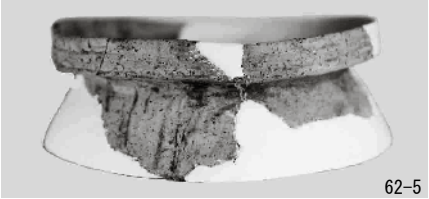
62-3


61-7

62-2

62-4

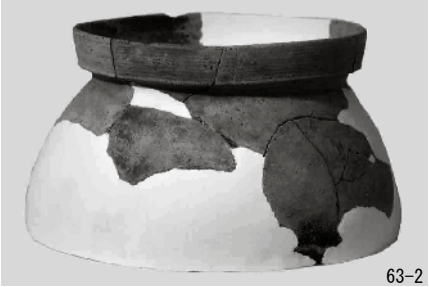
図版第一一　遺物


62-5

62-9

62-17

62-31


63-2

64-5

62-10

62-11

62-18

63-3

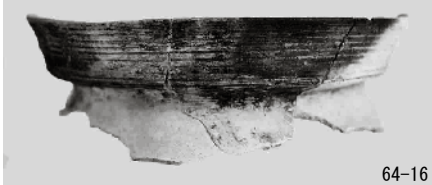
64-6

62-12

62-16

62-19

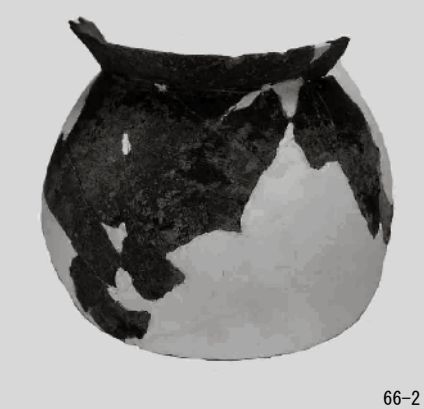
63-1


64-16

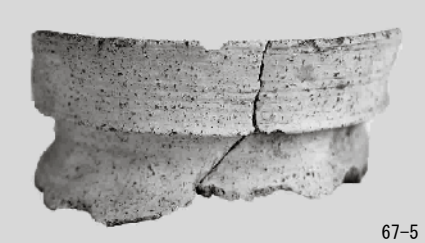
65-7

図版第一二　遺物

66-1


66-2

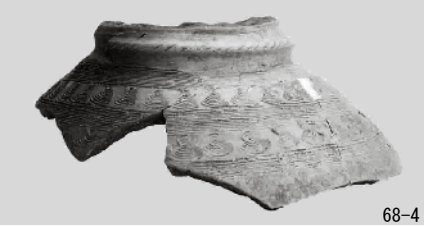
66-3

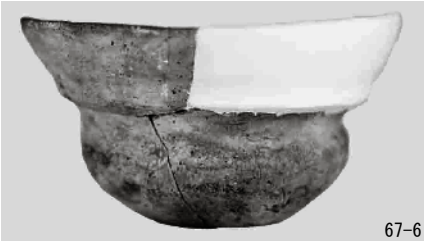

67-5

66-10

66-13

67-20


68-4


67-6

68-13

69-5

69-9

69-10

69-21

69-21

69-22

69-12

69-29

70-1

図版第一三　遺物

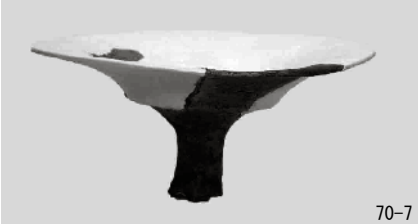
70-2

70-16

70-22

72-1

72-5


70-7

70-19

70-26

72-3

73-7

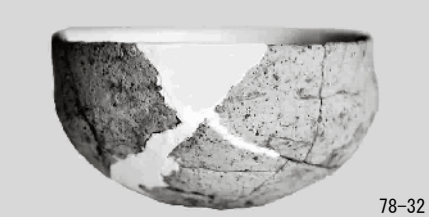
73-18

70-10

70-21

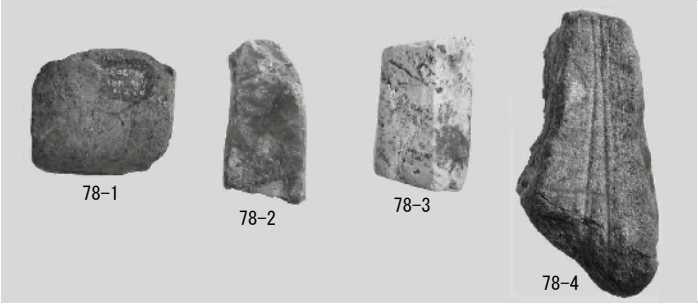
70-29

72-4


78-32

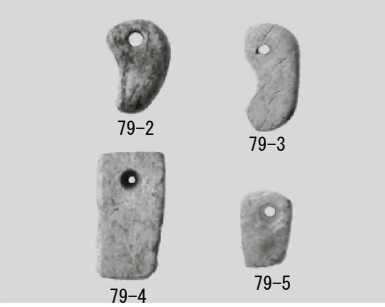
78-35

図版第一四　遺物

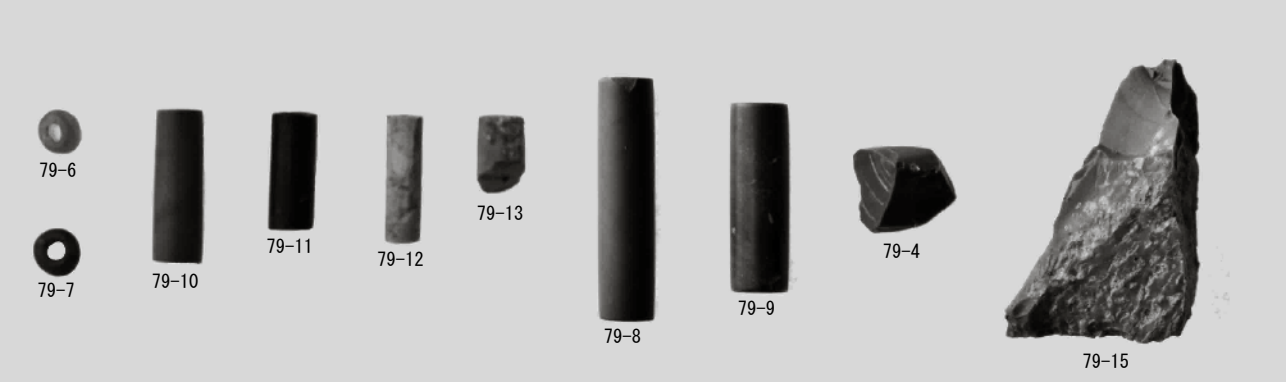


石器・石製品

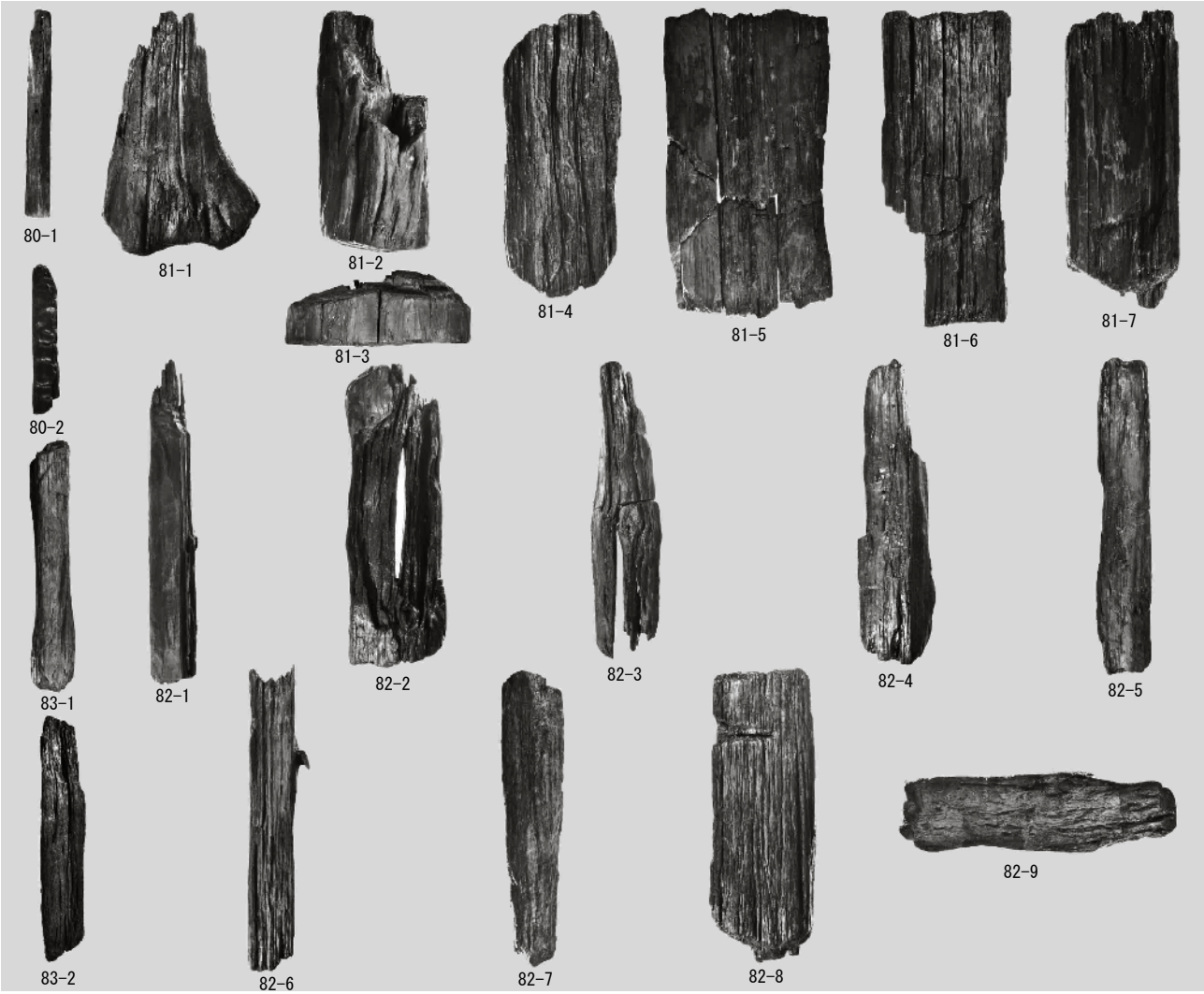
金属製品



玉類



玉類・玉作り関連遺物



木製品

報　告　書　抄　録

ふりがな	かみこぎたえはらまちいせき
書名	上河北江原町遺跡
副書名	一般県道徳光福井線道路改良工事に伴う調査２
巻次	
シリーズ名	福井県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	183
編著者名	青木隆佳（編）　白川　綾　吉田悠歩　西村謙太　赤澤徳明　（株）吉田生物研究所
編集機関	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
所在地	〒918-8226　福井県福井市大畑町97-21-３ TEL　0776-53-7977　E-mail maibun-c@pref.fukui.lg.jp
発刊年月日	西暦2023年３月10日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かみこぎたえはらまち 上河北江原町 いせき 遺跡	ふくいけん 福井県 ふくいし 福井市 かみこぎたちょう 上河北町	18201	01189	36° 00′ 51″	136° 14′ 25″	20190701 ～ 20191227 20200501 ～ 20200930	3,080㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上河北江原町 遺跡	集落	弥生時代 後期末 ～ 古墳時代 初頭	竪穴住居 平地式住居 掘立柱建物 方形周溝墓 溝 土坑 ピット	弥生土器 土師器 銅鏃 玉類	

要約	足羽川左岸の微高地上に立地する弥生時代後期末から古墳時代初頭の集落跡である。この微高地上に２本の自然流路が東西に横切り、その間に２集落が存在していた。一方の集落では竪穴式住居・平地式住居があり、玉作りを行っていた可能性が高い。もう片方の集落は、掘立柱建物主体であるが、掘立柱建物が複数重なって検出した。この集落の南に流れる自然流路を挟ん弥生時代中期の方形周溝墓を確認した。 福井県内でこのような様相を知ることのできる例は少なく貴重なものである。

福井県埋蔵文化財調査報告　第183集

上 河 北 江 原 町 遺 跡

― 一般県道徳光福井線道路改良工事に伴う調査２―

令和５年３月１日　印刷
令和５年３月10日　発行

発行　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒918-8226　福井市大畑町 97 － 21 － 3
印刷　創文堂印刷株式会社
〒918-8231　福井市問屋町１丁目７番地